

仙台市文化財調査報告書第139集

赤生津遺跡

—赤生津遺跡発掘調査報告書—

1990年3月

仙台市教育委員会

正 誤 表

ページ	行	誤	正
5	7-31	「CA←CF」・「B点の南東の区」	「BK←CE」・「C点の南東の区」
12	17	「自然堆積のもの、人為堆積のものがある。SK1・2・9はいずれも人為堆積で、長方形基礎」	「自然堆積のものだけである。SK1・2・9はいずれも、長方形基礎」
19	脚註	9-4 (23頁2)・9-8 (1)・9-14 (23頁10)・9-15 (1)・9-19 (23頁12)	9-4 (1)・9-8 (23頁6)・9-14 (1)・9-15 (23頁10)・9-19 (1)
41	-	畑IV (23頁1-3)・畑V (23頁5)・畑VI (23頁6-18)・畑VII (23頁9-20)	畑IV (23頁1-14)・畑V (23頁5-16)・畑VI (23頁17-19)・畑VII (23頁20-21)
42	#A		器形と文様の表中、文様VIのB群に (C)
42	7	(台付土器)	(台付鉢)
43	脚註	「9 (23頁8)・18 (23頁11)・12 (23頁18)」	「9 (23頁8)・18 (23頁11)・12 (23頁18)」
45	#A		浅鉢形B群の文様に「文様IV」追加
46	1	「(第32図1-3)」	「(第32図1-4)」
60-64	脚註	脚註 4)・42)・43)・44)・45)	それぞれ 4)・42)・43)・44)・45)
61	脚註	脚註 98-14)	脚註 98-13)
64	脚註	脚註 98-13)	脚註 98-14)
67	21	3) (23頁25頁2 3)	3) (23頁25頁2 3)
78	34脚	3) (23頁25頁2 3)	3) (23頁25頁2 3)
90	13	「水田地区では 3基の」	「水田地区では 3基の」
99		「第71図 SK33.34.35.36)」	「第71図 SK32.33.34.35.36)」
148	13	「SK 1-2-3-4-5-6-7-8-9-5)」	「SK 1-2-3-4-6-7-8-9-6-4)」
	18	「SK 4-6-7-8-9-4)」	「SK 1-2-3-4-6-7-8-9-6-4)」
177	脚註	「7 (23頁5)」	「7 (23頁5)」
179	脚註	「2 (23頁4)・14 (23頁6)・16 (23頁2)」	「2 (23頁4)・14 (23頁2)・16 (23頁8)」
		「10 (23頁4)・12 (23頁9)」	「10 (23頁5)・12 (23頁9)」
180	脚註	「18 (12頁1)・12 (12頁0)」	「18 (12頁1)・12 (12頁0)」
181	脚註	「2 (15頁2)」	「2 (15頁3)」
189	脚註	「(3頁1-4)・(5頁1-3)」	「(3頁1-4)・(5頁1-3)」
194	脚註	「13 (4頁3)・14 (4頁2)」	「13 (4頁2)・14 (4頁3)」

赤生津遺跡

平成2年3月

仙台市教育委員会

序 文

私達が生活している仙台市には、祖先の残した多くの文化財があります。これらの文化財は豊かな自然環境と長い歴史の中で、私達の祖先が創造し育んできたものであり、これを愛護し活用するとともに、後世の子孫に伝えていくことは、私達の重要な責務です。

現在仙台市では、地域経済の発展・交通体系の整備・住宅問題への対応のため各種の事業計画が具体的に進展しています。こうした問題に、広域的に対応できる行政体制の整備として、平成元年には政令都市となりました。また、こうした体制整備に呼応して各種の地域開発も活発になってまいりました。

仙台市教育委員会は、文化財保護のため、開発にあたっては関係機関と十分な協議を行い、調整を図っていますが、やむなく現状のまま保存することができない場合、記録保存のための発掘調査を実施しております。

当赤生津遺跡も、縄文時代・古代の遺跡として知られていましたが、七北田公園の建設地予定地となったため、関係機関と協議の結果、発掘調査を実施することとなりました。

調査の結果、縄文時代晩期の人々の生活の痕跡を確認することができ、当時の人々が使った土器や石器等が多数発見されました。また、10世紀に降下した火山灰に埋没している平安時代の水田跡を、広範囲にわたって発見することができました。特に火山灰に埋没した水田跡は保存状態も良好で、平安時代の人々の水田経営を知る上で貴重な発見となりました。

今日、市街地においては様々な開発の進展に伴い、年々往時の景観を見ることができなくなりつつあります。こうした状況の中で、本書が私ども祖先の生活の一端を振り返る貴重な資料となることを期待するとともに、多くの方々に活用され、また、文化財に対する愛護精神の高揚に資することができますれば、望外の喜びとするところです。

最後になりましたが、夏の炎天下、そして冬の寒さの中にも関わらず、調査の主旨をよくご理解いただき、献身的に発掘調査にご協力いただいた多くの方々、ならびに本報告書刊行にあたり、ご指導・ご協力をいただきましたの方々に対し、心より感謝申し上げます。

平成2年3月

仙台市教育委員会

教育長 藤 井 黎

例 言

- 1 本報告書は、七北田公園建設に伴う赤生津遺跡の発掘調査報告書であり、既に公表された現地説明会資料に優先するものである。
- 2 出土遺物・図面等の整理及び、本報告書の作成、編集は佐藤好一が行った。
- 3 本文の執筆は、II章2を熊谷幹男が担当し、V章の分析・同定をのぞいた他は佐藤好一が担当した。
- 4 発掘調査及び報告書の作成にあたり、下記の方々から指導・助言を賜った。(敬称略)
[火山灰] 東北大学 庄子貞雄・山田一郎 [地形] 山形大学 阿子島 功 [ハタネズミ] 渡辺菊治 [花粉] 斎藤報恩会自然史博物館 竹内貞子 [昆虫] 仙台市天文台 小室 信
- 5 陶器・磁器については、文化財課 佐藤 洋の教示による。

凡 例

- 1 本報告書中の土色は、「新版標準土色帳」(小山・竹原：1973)を使用した。
- 2 遺構等の断面図中の水糸レベルは海拔高を示す。
- 3 本書の第2図に使用した地形図は、国土地理院発行の2.5万分の1地形図「仙台東北部」・「仙台西北部」である。
- 4 遺構の略語として便宜的に、SB：掘立柱建物、SD：溝・河川跡、SK：土壇・焼土遺構、SS：水田跡を使用した。
- 5 水田の面積は、瞬タマヤテクニクス製のPLANIX7を使用して計測した。
- 6 本書における実測図の縮尺は、水田の実測図とSK48・49を除いた遺構実測図が1/60、遺物実測図のうち、土器・礫石器、石製品は1/3、土製品・剝片石器は2/3(一部1/2)、金属製品は1/2である。
- 7 出土遺物の登録に際しては、以下の番号を使用した。
A：縄文土器・弥生土器 C：土師器(ロクロ不使用) D：土師器(ロクロ使用)
E：須恵器 J：陶・磁器 K：石器 N：金属器 P：土製品
- 8 縄文土器の拓本断面図中、スクリーントーンを貼付したものは、繊維の混入を示している。
- 9 本調査に関わる遺物・実測図・写真等の資料は、仙台市教育委員会で一括保管しているので活用されたい。

調 査 要 項

- 1 遺 跡 名 みころづ 赤生津遺跡
- 2 遺 跡 所 在 地 仙台市泉区七北田字赤生津
- 3 調 査 期 間 発掘調査 昭和63年7月1日～平成1年1月10日
室内整理 平成1年1月11日～平成1年3月24日
平成1年12月12日～平成2年3月23日
- 4 調 査 対 象 面 積 24,000 m²
- 5 調 査 面 積 16,000 m²
- 6 調 査 主 体 者 仙台市教育委員会
- 7 調 査 担 当 仙台市教育局社会教育部文化財課 課長 早坂 春一
〃 〃 調査係 係長 佐藤 隆
〃 〃 教諭 佐藤 好一
〃 泉教育事務所社会教育課文化係 主事 熊谷 幹男

8 発掘調査参加者

森剛男・永野次郎・遠藤栄治・斎藤敏雄・小野寺庄三郎・本間春美・小野寺静子・高橋喜子・相沢美佐子・加藤 久・佐藤賢一・佐々木匡・熊谷きぬ子・口野範彦・伊東紀彦・斎藤喜恵子・日下和寿・佐藤孝夫・斎藤康博・村上光哉・神田幸司・平賀琢雄・黒田真治・石川由美子・古瀬浩子・佐藤裕美・橋本克也・石井 真・末永仁一・大宮富美子・佐藤清隆・大槻恵・岩淵恵美子・藤井香織・安蔵幹泰・渡辺善之・遠藤正啓・野崎直美・横田正治・熊谷友治・奈須野とよみ・渡辺謙治・佐藤よし子・中村典子・川村雅子・鈴木みゆき・名古圭子・熊谷キミ子・松浦せい子・五十嵐真紀子・熊谷啓子・伊藤せつ子・進藤まき子・佐々木陽子・石川恵美子・坂口幸子・岩木淑子・叶栄美子・堀籠幸子・村本茂子・佐藤和夫・渡辺まき子・小林賢子・鎌田きよ子・筒井尚美・菅原由子・佐藤 久・佐藤浩美・昆イヨ・佐藤悦子・沢田敏子・市村和子・大原のり子・須藤敬子・高橋照江・塩沢成子・南部節子・林泰子・山田節子・田中つや子・村山よし子・石川かつ子・白鳥たか子・福原けい子・塩野礼子・庄司文子・金高博子・山村よし子・小野ひさ子・二階堂よしい・二階堂幸子・佐藤つよ・野川雅子・斎藤令子・阿部聡子

9 室内整理参加者

本間春美・阿部聡子・高橋照江・村本茂子・佐藤悦子・佐々木昇子・日下和寿・近藤 悟（遺物実測）本間・阿部・日下・近藤・佐々木（トレース）本間・阿部・佐々木・近藤（拓 本）村本・佐藤・高橋・本間（土器復元）高橋・佐藤・村本・本間

本文目次

I章 調査に至る経過	1
II章 遺跡の立地と環境	1
1 自然環境	1
2 歴史的環境	1
III章 調査の経過と方法	5
1 調査の経過	5
2 調査の方法	5
(1) 野外調査の方法	5
(2) 整理の方法	6
IV章 発見された遺構と遺物	11
1 包含層地区	11
(1) 基本層位	11
(2) 遺構	12
(3) 出土遺物	12
①縄文土器 ②土製品 ③剥片石器とその素材 ④磨製石器・礫石器・石製品	
2 水田地区	67
(1) 基本層位	67
(2) 遺構と出土遺物	68
①水田跡 ②SB(掘立柱建物跡) ③SK(土壇・焼土遺構) ④SD(溝・河川跡) ⑤深掘区	
V章 分析・同定	117
1 プラント・オパール分析(古環境研究所)	117
2 テフラ組成分析(古環境研究所)	130
3 昆虫の同定(仙台市天文台 小室 信)	132
4 花粉分析(斎藤報恩会自然史博物館 竹内貞子)	133
5 出土材同定(バリノ・サーヴェイ株式会社)	139
VI章 考察	145
1 包含層地区の遺物と遺構	145
(1) 縄文土器第2群について	145
(2) 遺構の年代について	148
2 水田地区の遺構について	148
3 灰白色火山灰について	151
VII章 まとめ	151

挿 図 目 次

第1図	七北田川中流域地形区分図	3	第34図	包含層地区出土剥片石器(2)	49
第2図	七北田周辺遺跡分布図地名表	4	第35図	包含層地区出土剥片石器(3)	50
第3図	遺跡周辺現況地形図	7、8	第36図	包含層地区出土剥片石器(4)	51
第4図	赤生津遺跡現況地形図	9、10	第37図	包含層地区出土剥片石器(5)	52
第5図	包含層断面図(CA30区~CB30区東壁)	11	第38図	包含層地区出土剥片石器(6)	53
第6図	包含層地区遺構配置図	13	第39図	包含層地区出土剥片石器(7)	54
第7図	遺物包含層地区SK平・断面図(1)	14	第40図	包含層地区出土剥片石器(8)	55
第8図	遺物包含層地区SK平・断面図(2)	15	第41図	包含層地区出土剥片石器(9)	56
第9図	包含層地区第4層出土縄文土器(1)	19	第42図	包含層地区出土剥片石器(10)	57
第10図	包含層地区第4層出土縄文土器(2)	20	第43図	包含層地区出土剥片石器(11)	58
第11図	包含層地区第4層出土縄文土器(3)	21	第44図	包含層地区出土剥片石器(12)	59
第12図	包含層地区第4層出土縄文土器(4)	22	第45図	包含層地区出土剥片石器(13)	60
第13図	包含層地区第4層出土縄文土器(5)	23	第46図	包含層地区出土剥片石器(14)	61
第14図	包含層地区第3層出土縄文土器(1)	24	第47図	包含層地区出土剥片石器(15)	62
第15図	包含層地区第3層出土縄文土器(2)	25	第48図	包含層地区出土剥片石器(16)	63
第16図	包含層地区第3層出土縄文土器(3)	26	第49図	包含層地区出土剥片石器(17)	64
第17図	包含層地区第3層出土縄文土器(4)	27	第50図	包含層地区出土礫石器・磨製石器・石製品	65
第18図	包含層地区第3層出土縄文土器(5)	28	第51図	包含層地区出土礫石器	66
第19図	包含層地区第3層出土縄文土器(6)	29	第52図	水田地区遺構配置図	69、70
第20図	包含層地区第3層出土縄文土器(7)	30	第53図	水田地区東西南北ベルト断面図	71、72
第21図	包含層地区第3層出土縄文土器(8)	31	第54図	SS15 田面の凹部の状況	75
第22図	包含層地区第3層出土縄文土器(9)	32	第55図	水田間比高関係	76
第23図	包含層地区第3層出土縄文土器(10)	33	第56図	水田面堆積火山灰断面配置図	78
第24図	包含層地区第3層出土縄文土器(11)	34	第57図	水田面堆積火山灰断面図(SS11・14・15・16・17)	79、80
第25図	包含層地区第3層出土縄文土器(12)	35	第58図	水田地区西側中央平面図	81、82
第26図	包含層地区第3層出土縄文土器(13)	36	第59図	水田地区東側南平面図	83、84
第27図	包含層地区第3層出土縄文土器(14)	37	第60図	水田地区西側南平面図	85、86
第28図	包含層地区第1層出土縄文土器(15)	38	第61図	水田地区東西側北平面図	87、88
第29図	第2群土器浅鉢形土器文様模式図	43	第62図	水田地区出土遺物	89
第30図	第2群土器深鉢形土器分類図	44	第63図	SK15・16・17・18平面図	91
第31図	第2群土器浅鉢形土器分類図	45	第64図	SK21・22・23平面図	92
第32図	包含層地区出土土製品	47	第65図	SK10・20・41平面図	93
第33図	包含層地区出土剥片石器(1)	48			

第66図	SK11・14・19・24 平面図	94	第79図	水田地区深掘 I・II・IV区断面図	113, 114
第67図	SK25・42・44 平面図	95	第80図	水田地区深掘 V・VI区断面図	115, 116
第68図	SK12・13 平面図	96	第81図	試料採取地点	120
第69図	SK37・38・40 平面図	97	第82図	イネのプラント・オバールの検出状況	126
第70図	SK29・30・31・43 平面図	98	第83図	おもな植物の推定生産量と変遷(1)	127
第71図	SK33・34・35・36 平面図	99	第84図	おもな植物の推定生産量と変遷(2)	128
第72図	SK28・39 平面図	100	第85図	4層におけるイネのプラント・オバールの検出状況	129
第73図	SK26・27 平面図	101	第86図	赤生津遺跡の火山ガラス組成	131
第74図	水田地区 SD (溝・河川跡) 出土遺物	105	第87図	赤生津遺跡主要花粉ダイアグラム	136
第75図	水田地区 SD 出土剥片石器石製品	106	第88図	材出土地点図	144
第76図	水田地区深掘区出土遺物	109			
第77図	水田地区深掘IV区 SK48・49	110			
第78図	水田地区深掘区出土剥片石器	111			

挿表目次

第1表	SK (土壌・築土遺構) 一覧表	16	数(3)	123	
第2表	水田跡計測表	73	第8表	試料 1g あたりのプラント・オパール個数(4)	124
第3表	水田跡畦畔計測表	74	第9表	イネの推定生産量	125
第4表	SD (溝・河川跡) 一覧表	104	第10表	赤生津遺跡の火山ガラス組成	131
第5表	試料 1g あたりのプラント・オパール個数(1)	121	第11表	コガネムシ科 Anomala 属の昆虫	132
第6表	試料 1g あたりのプラント・オパール個数(2)	122	第12表	赤生津遺跡花粉百分率表	137, 138
第7表	試料 1g あたりのプラント・オパール個		第13表	赤生津遺跡出土材の樹種	144

写真図版目次

写真1	赤生津遺跡と周辺の遺跡	153	写真9	遺跡全景 (西側上空から)	156
写真2	調査前の状況 (北西上空から)	154	写真10	SK 1 (包含層地区)	156
写真3	調査前の状況 (南東上空から)	154	写真11	SK 2 (包含層地区)	156
写真4	包含層断面(包含層地区)CA~CB-30区	155	写真12	SK 3 (包含層地区)	156
写真5	遺物出土状況 (包含層地区)	155	写真13	水田跡検出状況	157
写真6	遺物出土状況 (包含層地区)	155	写真14	水田跡検出状況	157
写真7	SK 4 (包含層地区)	155	写真15	水田地区 (農道西側) 水田跡	158
写真8	SK47 (包含層地区)	155	写真16	水田地区 (農道東側) 水田跡検出状況	159

写真17	水田跡検出状況	160	写真52	SK31 (水田地区)	169
写真18	田面の状況(SS15 は田面門部の火山灰も除去)	160	写真53	SK29・30・31 (水田地区)	169
写真19	SS14 田面状況	161	写真54	SK32 (水田地区)	169
写真20	田面状況 (拡大)	161	写真55	SK33 (水田地区)	169
写真21	SS15 田面状況	162	写真56	SK35 (水田地区)	169
写真22	SS15 田面状況	162	写真57	SK34 (水田地区)	170
写真23	SS15 田面状況	163	写真58	SK37 (水田地区)	170
写真24	SS15 田面状況	163	写真59	SK38 (水田地区)	170
写真25	SS15 田面状況 (拡大)	164	写真60	SK39 (水田地区)	170
写真26	ハタネズミ 巣穴痕 (SS17)	164	写真61	SK40 (水田地区)	170
写真27	ハタネズミ 巣穴痕 (SS17) (拡大)	164	写真62	SK41 (水田地区)	170
写真28	遺物出土状況 (水田地区)	165	写真63	SK43 (水田地区)	170
写真29	遺物出土状況 (水田地区)	165	写真64	SK44 (水田地区)	170
写真30	遺物出土状況 (水田地区)	165	写真65	SD19 樹木出土状況 (水田地区深掘IV区)	171
写真31	遺物出土状況 (水田地区)	165	写真66	SD13 木材出土状況 (水田地区深掘V区)	171
写真32	SK10 (水田地区)	166	写真67	SD21 (水田地区深掘VI区)	171
写真33	SK10 (水田地区) 堆積状況	166	写真68	SD21 断面 (水田地区深掘VI区)	171
写真34	SK11 (水田地区)	166	写真69	水田地区深掘II区断面	172
写真35	SK13 (水田地区) 堆積状況	166	写真70	樹木出土状況 (水田地区深掘VI区)	172
写真36	SK16 (水田地区)	167	写真71	樹木出土状況 (水田地区深掘IV区)	172
写真37	SK17 (水田地区)	167	写真72	樹木出土状況 (水田地区深掘V区)	173
写真38	SK15 (水田地区)	167	写真73	水田地区深掘V区断面	173
写真39	SK19 (水田地区)	167	写真74	樹木出土状況 (水田地区深掘VI区)	173
写真40	SK19 (水田地区) 堆積状況	167	写真75	SD18 (水田地区深掘V区)	173
写真41	SK20・21・22・23 (水田地区)	167	写真76	遺物出土状況 (水田地区深掘IV区)	174
写真42	SK21 (水田地区)	168	写真77	SK49 (水田地区深掘IV区)	174
写真43	SK22 (水田地区)	168	写真78	SK48 (水田地区深掘IV区)	174
写真44	SK24 (水田地区)	168	写真79	包含層地区出土縄文土器(1)	175
写真45	SK24 (水田地区) 堆積状況	168	写真80	包含層地区出土縄文土器(2)	176
写真46	SK26 (水田地区)	168	写真81	包含層地区出土縄文土器(3)	177
写真47	SK25 (水田地区)	168	写真82	包含層地区出土縄文土器(4)	178
写真48	SK29 (水田地区)	168	写真83	包含層地区出土縄文土器(5)	179
写真49	SK28 (水田地区)	168	写真84	包含層地区出土縄文土器(6)	180
写真50	SK27 (水田地区)	168	写真85	包含層地区出土縄文土器(7)	181
写真51	SK30 (水田地区)	169			

写真86	包含層地区出土縄文土器(8)	182	写真102	水田地区出土遺物(1)	198
写真87	包含層地区出土縄文土器(9)	183	写真103	水田地区出土遺物(2)	199
写真88	包含層地区出土縄文土器(0)	184	写真104	水田地区出土遺物 (SD、SK)	200
写真89	包含層地区出土縄文土器(1)	185	写真105	水田地区出土土器 (SD、深掘区)	201
写真90	包含層地区出土縄文土器(2)	186	写真106	水田地区深掘区出土土器	202
写真91	包含層地区出土縄文土器(3)	187	写真107	水田地区出土剥片石器 (SD、深掘区)	203
写真92	包含層地区出土縄文土器(4)	188			
写真93	包含層地区出土土製品・石製品	189	写真108	弥生土器出土状況	204
写真94	包含層地区出土剥片石器(1)	190	写真109	昆虫遺体出土状況	204
写真95	包含層地区出土剥片石器(2)	191	写真110	火山灰堆積状況	204
写真96	包含層地区出土剥片石器(3)	192	写真111	プラント・オパールの顕微鏡写真(1)	205
写真97	包含層地区出土剥片石器(4)	193	写真112	プラント・オパールの顕微鏡写真(2)	206
写真98	包含層地区出土剥片石器(5)	194	写真113	樹種顕微鏡写真(1)	207
写真99	包含層地区出土剥片石器(6)	195	写真114	樹種顕微鏡写真(2)	208
写真100	包含層地区出土礫石器	196	写真115	樹種顕微鏡写真(3)	209
写真101	包含層・水田地区出土礫石器・石製品	197	写真116	樹種顕微鏡写真(4)	210



発掘調査参加者

I 章 調査に至る経過

昭和63年6月17日付で、仙台市建設局緑地部公園課より、泉区七北田に所在する赤生津遺跡の発掘通知が提出された。これによると、遺跡の略全域が盛土される計画であった。仙台市教育委員会は、事前に公園課と協議を重ねたが、最終的には記録保存を前提とする発掘調査を実施する運びとなり、63年7月1日から発掘調査を開始した。

遺物の分布状況や地形などの表面観察から、七北田川に並行してのびる最低位段丘の縁辺部を中心に遺跡が広がると予測された。トレンチ調査の結果、遺跡の西端部に縄文時代の遺物包含層が広がることがわかった。更に、当初遺跡の広がりを予測していなかった水田下に、灰白色火山灰に被われた水田跡があることが判明した。このため、調査対象とする面積が大幅に拡大したため、再度公園課との協議を行った。その結果、縄文時代晩期の遺物包含層地区については、道路掘削工事によって破壊される部分のみの調査とし、残った部分については保存することとし、水田地区については、盛土工法のため、遺構の確認と一部の調査とし、下層については埋設管等の工事によって破壊される部分のみの調査をすることとした。

II 章 遺跡の立地と環境

1 自然環境

赤生津遺跡は、仙台市泉区七北田字赤生津地内に所在する。当地は泉区役所から南西0.8 kmの地点にある。

本遺跡が所在する泉区を地形的に大別すると、北部の富谷丘陵、南部の七北田丘陵、そしてこれらの丘陵を開析する七北田川によって形成された河岸段丘からなっている。中流域では河岸段丘が中位（台ノ原段丘）・低位上段（仙台上町段丘）・低位下段（仙台中町段丘）・最低位（仙台下町段丘）の4段がみとめられる。遺跡はこの七北田川中流左岸の最低位段丘（仙台下町段丘）上に立地している。

2 歴史的環境

泉区の歴史的環境を遺跡のあり方から概観することとする。

〔旧石器時代〕

現在のところ泉区最古の遺跡は、松森の住吉遺跡（第2図30）である。昭和60年泉市教育委員会が実施した調査（泉市教委：1987）では、21点の旧石器時代前期の石器と後期の石器約200点が出土している。旧石器時代の遺跡は、他に3ヶ所知られているが調査が行われておらず明らかでない。

〔縄文時代〕

縄文時代になると、七北田川流域の河岸段丘には多くの遺跡が営まれるようになる。調査が行われた遺跡には、紫山遺跡・上烏井原遺跡・高柳遺跡・長岫遺跡・赤生津遺跡がある。紫山遺跡の調査（紫山遺跡発掘調査団：1977）では、早期～前期の土器や石器とともに3軒の竪穴住居跡と5ヶ所の集石遺構が検出されている。上烏井原遺跡では、中期の竪穴住居跡が4軒発見されている。平成元年に調査（仙台市教委：1989）が行われた、高柳遺跡（第2図8）からは良好な遺物包含層が発見され平箱で約1000箱以上にもおよぶ土器や石器が発見された。長岫遺跡（第2図27）の調査（泉市教委：1985）では、晩期の竪穴住居跡が1軒検出されている。

〔弥生時代〕

現在、弥生時代の遺跡としては本遺跡と長岫遺跡だけである。長岫遺跡からは、中・後期の土器と大型始刃石斧が出土している。

〔古墳～奈良・平安時代〕

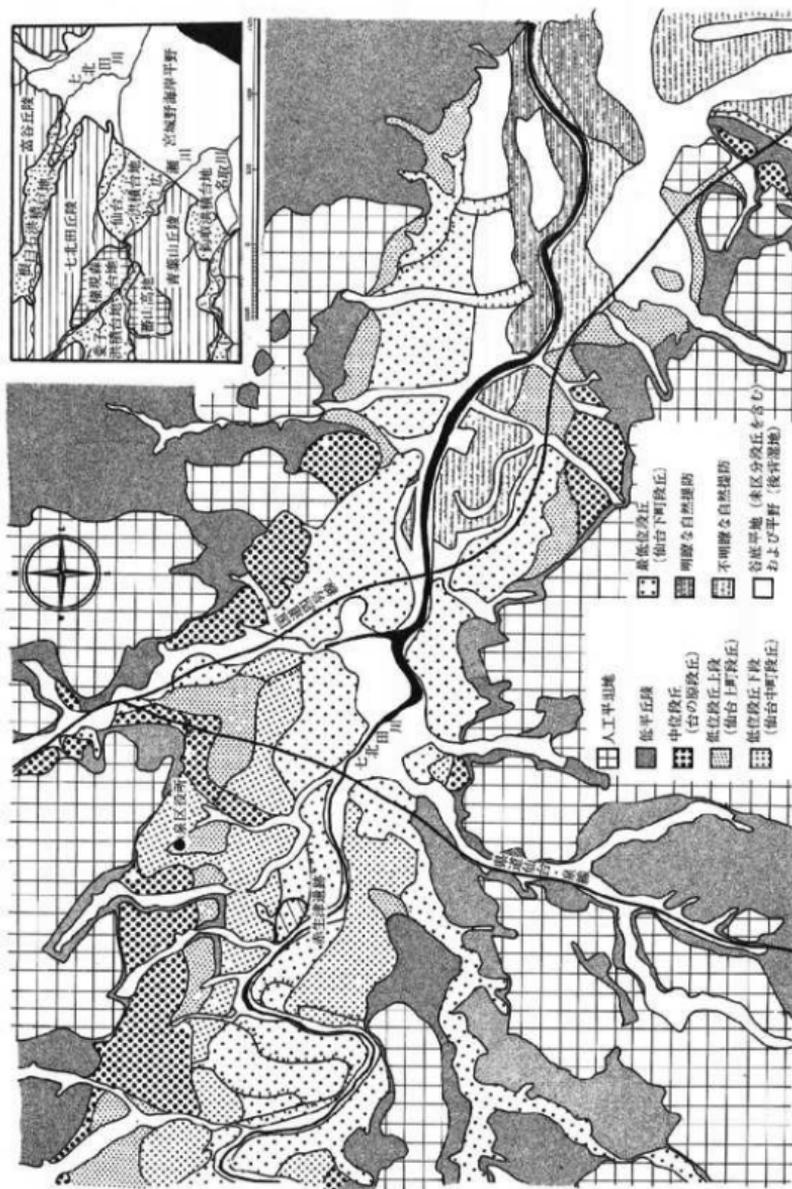
古墳時代～奈良・平安時代の遺跡は、七北田川流域の自然堤防上を中心として分布している。昭和57・58年に宮城県教育委員会が発掘調査（宮城県教委：1984）を実施した鹿島（第2図16）・竹之内遺跡（第2図20）からは、平安時代の、竪穴住居跡・掘立柱建物跡が発見されている。また、当遺跡の西方25kmにある宮下遺跡（第2図4）からも、昭和48年の調査（宮城県教委：1980A）で、平安時代の竪穴住居跡が1軒発見されている。黒川郡との郡界付近にある堂庭山には、堂庭庵寺跡と推定される寺院跡がある。昭和43年の調査（泉町教委：1968）によって、10世紀と推定される瓦積み基壇が発見されている。この基壇上からは円形に回る礎石が検出され宝塔跡と推定されている。

〔中世〕

中世の遺跡としては、館跡が12ヶ所知られている。これらの内、西田中地区の山中にある杭城館は、昭和54年の測量調査（泉市教委：1980）の結果、東西約800m、南北約400mの大規模な戦国期の館跡であることが判明した。加茂地区の長命館跡（第2図3）は、近世以来「吾妻鏡」に記載される「国府中山物見岡」の跡と伝えられてきた。昭和59～60年の泉市教育委員会の発掘調査（泉市教委：1986）の結果、13～15世紀の遺物しか出土せず、平安時代末～鎌倉時代初期には湖かのほらないことが明らかになった。戦国期には、岡分氏の家臣団に編入された長命氏の館跡と推定されている。

〔近世〕

近世の遺跡としては、昭和57年に調査（泉市教委：1984）を実施した松森箔硝蔵跡（第2図28）がある。仙台箔硝蔵の一つで、1基が保存されており現存する唯一のものである。



第1図 七北田川中流域地形区分図 中川・石田1985年「仙台市地形区分図」仙台市科学館発行を編纂



場所名	通称名	所在名	立地	時代	機能
22	東区立第一中学校	東区立第一中学校	東区立第一中学校	近代	教育施設
23	東区立第二中学校	東区立第二中学校	東区立第二中学校	近代	教育施設
24	東区立第三中学校	東区立第三中学校	東区立第三中学校	近代	教育施設
25	東区立第四中学校	東区立第四中学校	東区立第四中学校	近代	教育施設
26	東区立第五中学校	東区立第五中学校	東区立第五中学校	近代	教育施設
27	東区立第六中学校	東区立第六中学校	東区立第六中学校	近代	教育施設
28	東区立第七中学校	東区立第七中学校	東区立第七中学校	近代	教育施設
29	東区立第八中学校	東区立第八中学校	東区立第八中学校	近代	教育施設
30	東区立第九中学校	東区立第九中学校	東区立第九中学校	近代	教育施設

場所名	通称名	所在名	立地	時代	機能
11	東区立第一小学校	東区立第一小学校	東区立第一小学校	近代	教育施設
12	東区立第二小学校	東区立第二小学校	東区立第二小学校	近代	教育施設
13	東区立第三小学校	東区立第三小学校	東区立第三小学校	近代	教育施設
14	東区立第四小学校	東区立第四小学校	東区立第四小学校	近代	教育施設
15	東区立第五小学校	東区立第五小学校	東区立第五小学校	近代	教育施設
16	東区立第六小学校	東区立第六小学校	東区立第六小学校	近代	教育施設
17	東区立第七小学校	東区立第七小学校	東区立第七小学校	近代	教育施設
18	東区立第八小学校	東区立第八小学校	東区立第八小学校	近代	教育施設
19	東区立第九小学校	東区立第九小学校	東区立第九小学校	近代	教育施設
20	東区立第十小学校	東区立第十小学校	東区立第十小学校	近代	教育施設
21	東区立第十一小学校	東区立第十一小学校	東区立第十一小学校	近代	教育施設

場所名	通称名	所在名	立地	時代	機能
1	東区立第一公園	東区立第一公園	東区立第一公園	近代	公園
2	東区立第二公園	東区立第二公園	東区立第二公園	近代	公園
3	東区立第三公園	東区立第三公園	東区立第三公園	近代	公園
4	東区立第四公園	東区立第四公園	東区立第四公園	近代	公園
5	東区立第五公園	東区立第五公園	東区立第五公園	近代	公園
6	東区立第六公園	東区立第六公園	東区立第六公園	近代	公園
7	東区立第七公園	東区立第七公園	東区立第七公園	近代	公園
8	東区立第八公園	東区立第八公園	東区立第八公園	近代	公園
9	東区立第九公園	東区立第九公園	東区立第九公園	近代	公園
10	東区立第十公園	東区立第十公園	東区立第十公園	近代	公園

第2図 七北田周辺遺跡分布図・地名表

III章 調査の経過と方法

1 調査の経過

調査は、昭和63年7月1日に開始し、翌年1月10日までの6ヶ月間実施した。当初遺跡の範囲を、七北田川に並行して走る農道の南側と想定し、3m区画のグリッドを設定して調査に着手した。七北田川に向かって傾斜する地形にあわせ、幅3mのトレンチを1本おきに表土を剥ぎ、遺物・遺構の広がりをみてトレンチを拡張していく方法をとった。

その結果、西側のCA～CE-5～30区で縄文時代晩期の遺物包含層を検出した。更に、水田部分に設定したトレンチで灰白色火山灰の堆積層を確認した。この灰白色火山灰層の上面を精査したところ、略南北方向に延びる畦状の遺構を検出した。このため、農道とすでに盛土がしてある道路予定部分に閉まれた水田の表土を除去した。その結果、灰白色火山灰に埋没した水田跡が略全域に分布することが明らかになった。灰白色火山灰に埋没した水田跡が更に東側に広がる可能性が高いため、灰白色火山灰の分布範囲確認を主眼として農道の東側にも調査区を拡張し表土を除去した。しかし、灰白色火山灰は80ラインの東側には分布しないことが明らかになったため80ラインまでを精査することにした。

包含層と水田跡が検出されたため、調査の便宜上30ラインを境に西側を包含層地区、東側を水田地区に区分し水田地区を先行して調査をすすめた。調査と並行して進めた公園・建設課との協議の結果、遺跡の大部分は盛土工法のため、包含層地区は道路橋脚建設部分のみとし、水田地区は水田跡の検出と、一部水田跡の火山灰を除去した田面の精査を行うこととした。

包含層地区は11月下旬に終了した。水田地区は11月上旬に水田跡の検出と一部の精査が完了したので11月16日に航空測量を実施した。11月5日、調査の途中であったが、遺跡の性格がほぼ明らかになったので現地説明会を開催した。参加者は、約180名であった。その後、公園施設に関わる雨・汚水管建設部分について、4層下の調査を行った。1月10日発掘調査のいっさいを完了した。

2 調査の方法

(1) 野外調査の方法

① 調査区の設定

遺物の散布状況及び地形等から判断して、七北田川と農道の間の東西に細長い畑部分を遺跡の範囲と考えた。そのため、農道に略沿う任意の点A・B・Cを原点とし、これら3点を結ぶ線および、これと直交する線を基準に3m区画のグリッドを設定した。地区名は3点を結ぶ東西方向をアラビア数字、南北方向をアルファベットであらわし両者の組合わせて呼ぶこととし、B点の南東の区をCA50区、北西の区をBT49区と定めた。その後、水田下から火山灰に

被われた水田跡が検出されたため、周辺の水田部分も調査したが、3点を基準として設定した地区名を使った。3点の国家座標値は以下のようになっている。

原点A [CA10] (X=-186.682884 Y=3.825148)

原点B [CA30] (X=-186.723499 Y=3.869311)

原点C [CA50] (X=-186.764114 Y=3.913474)

② 発掘の方法

調査対象範囲内における基本的な層位および遺構の分布状況を調べるため南北に長いトレンチを設定し、遺物包含層や、遺構を検出した場合は周辺を拡張する方式をとった。検出した遺構については、例言のように種類ごと記号を使用し発見順に番号を付けた。遺物は遺物カードに出土年月日・地区名・遺構名・出土層位を記入して取り上げた。

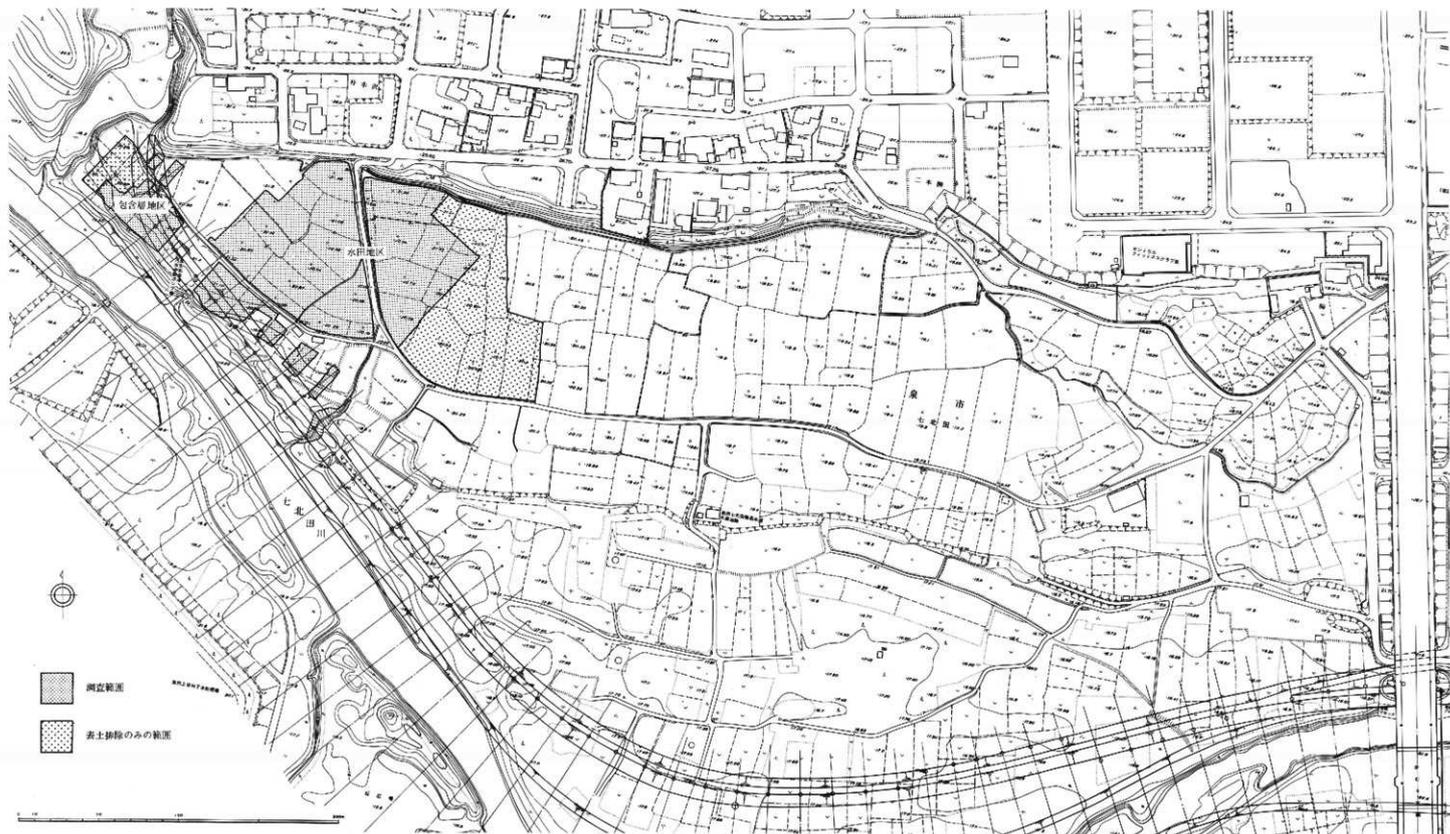
遺跡の基本層位と遺構の関係を確認するため、水田地区では東西・南北ベルトを設定して断面図を作成した。灰白色火山灰が堆積している水田跡の一部は、観察用の十字ベルトを設定し火山灰の堆積状況を観察しながら断面図を作成した。SK(土壌・焼土遺構)については、半載し断面図を作成した。SD(溝・河川跡)は、適宜断面図を作成した。平面図は、包含層地区では簡易走り方と平板測量を併用した。水田地区では、パスコ株式会社に委託して航空測量を行い、1/100の平面図を作成し一部平板測量で補足した。

(2) 整理の方法

① 遺物整理の方法

赤生津遺跡から出土した遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・その他の土製品・剥片石器とその素材・磨製石器・礫石器・石製品・金属製品等で平箱にして約30箱分である。これらの遺物を洗浄し、遺構名・地区・層位を記入し接合をおこなった。縄文土器については、水で1/2に希釈したバインダー17による強化処置をとった。その後、以下のように遺物の特性に応じた整理と記録の作成を行った。

- ①土器は、接合によって1/4以上に復元できたものは実測図を作成した。縄文・弥生土器については、口縁部・底部資料、胎土に繊維を混入・地文以外の文様・単節縄文以外の地文を持つ胴部資料については、破片実測・拓影図の作成を行って台帳に登録した。
- ②土器以外の土製品は、すべて実測図を作成し、台帳に登録した。
- ③剥片石器とその素材は、石器・二次加工のある剥片・微細な剝離痕のある剥片・石核に分類し、実測図の作成と登録を行った。
- ④礫石器・石製品は、すべて実測図を作成し、台帳に登録した。



第3図 遼陽周辺現況地形図

IV章 発見された遺構と遺物

遺跡は、七北田川に形成された最低位の河岸段丘上に立地する。縄文時代の遺物包含層は遺跡の西端部に位置し、平安時代の水田跡は東部に広がっている。遺物・遺構の内容や層の堆積状況が違いため、30ラインを境に西側を包含層地区、東側を水田地区とに分けて報告する。

1 包含層地区

(1) 基本層位

遺跡全体の西端に位置し、面積は約2,940 m²ほどである。橋脚が建設される部分1,305 m²を調査した。表土から地山まで4枚の層が認められた。以下各堆積層の状況と遺物・遺構との関係について概略を述べる。

[第1層]

第1層はシルトで構成される層で、全体的色調は暗褐色(10YR 3/4)である。包含層地区全域に広がり、出土遺物は縄文土器の小破片が多い。

[第2層]

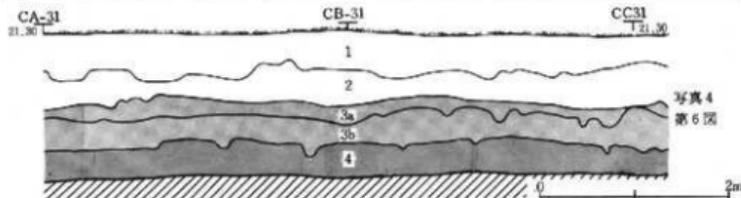
第2層は砂質シルトで構成される層で、全体的色調はにおい黄褐色(10YR 5/3)である。包含層地区の西で薄く、東が厚い。西端では第2層が無く、第1層の下が第3層のところもあった。遺物を包含しておらず、水田地区の第4層に相当する。

[第3層]

第3層は粘土質シルトで構成される層で、色調の違いから3a層(暗褐色(10YR 3/3))と、3b層(黒褐色(10YR 2/3))とに分けられる。遺物は分層せず、一括して第3層として取り上げている。調査区の全域に分布している。主に縄文時代晩期の遺物が出土している。SK(土壇・焼土遺構)の一部をこの層中で検出している。

包含層土層注記

層位	層No	土色	土性	備考
1	1	10YR2/4 暗褐色	シルト	
2	2	10YR5/3 におい黄褐色	砂質シルト	
3	3a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	粒状の黄褐色土を少量含む
3	3b	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	少量の炭化物を含む
4	4	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物と小礫を含む



第5図 包含層断面図 (CA30区～CB30区東側)

[第4層]

第4層は第3層と同じく粘土質シルトで構成される層で、全体的色調は黒褐色(10YR 2/2)である。調査区の全域に分布している。縄文時代早期・前期・中期・後期の遺物が出土している。SKの大部分は第4層下の地山面(第5層上面)で確認している。地山面は調査区の西端は急傾斜であるが、東側になだらかに傾斜している。深掘りをしていないので、第5層以下の堆積状況は不明である。

(2) 遺構

SK(土壌・焼土遺構)(第7・第8図)

包含層地区から12基のSK(土壌・焼土遺構)が発見されている。この内、堆積土に焼土を混入し、底面や壁面がやけている焼土遺構が6基(SK 5・6・7・8・45・46)あった。これらSKの概略をまとめたのが、第1表である。

[確認状況]

一部第3層上面で確認したものもあるが、大部分のものは第5層上面で確認した。

[規模と形態]

焼土遺構は円形基調のものだけだが、土壌は、円形基調と長方形基調のものがあった。

[堆積状況]

自然堆積のものと、人為堆積のものがある。SK 1・2・9はいずれも人為堆積で、長方形基調のものであり、これらは同一性格のものと考えられる。

[分布状況]

分布状況には、特に規則性等は認められなかった。

[出土遺物]

いずれのSKからも出土遺物はなかった。

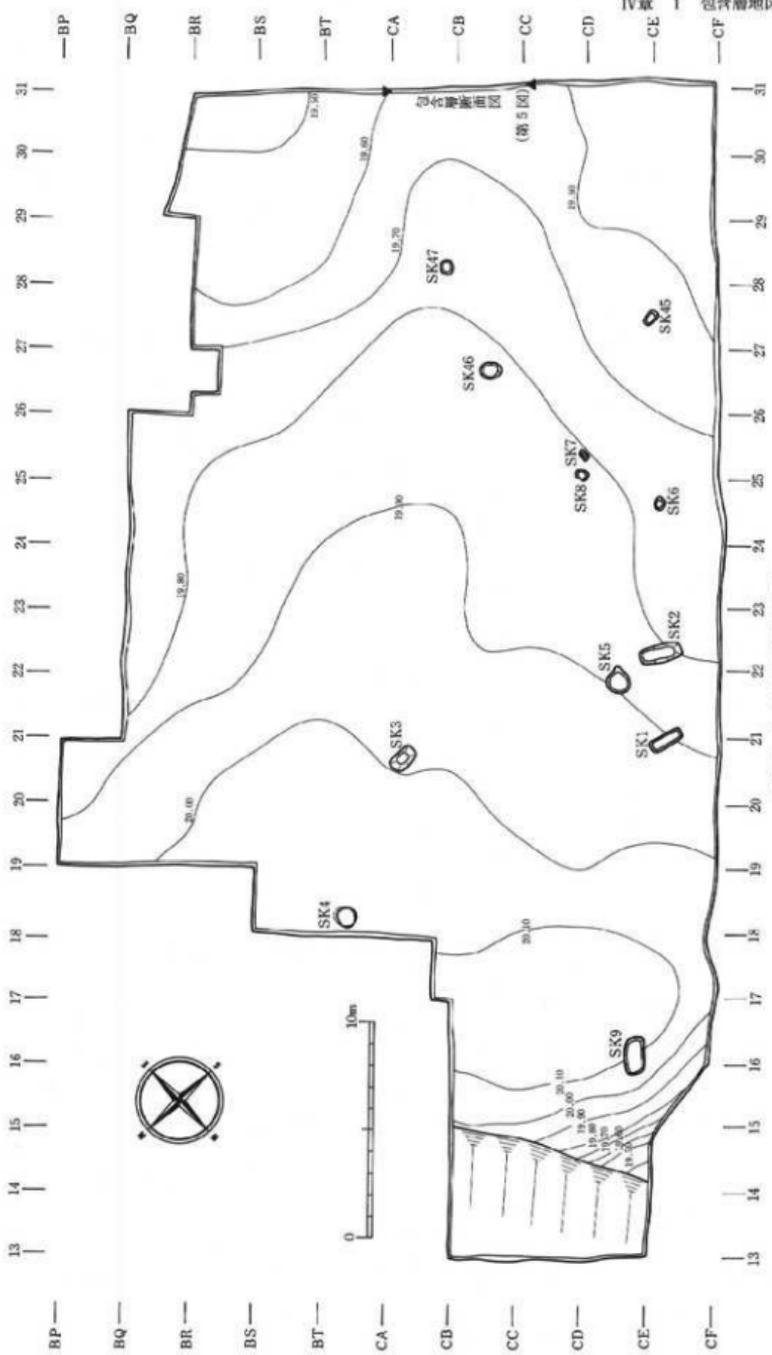
(3) 出土遺物

① 縄文土器

縄文土器はテンパコで約30箱出土している。これらは、基本層位第4層を中心に第1・3層の各層から少量出土した早・前・中・後期の土器群と、基本層位第3層を中心に出土し、層位的にまとまりを持つ晩期終末の土器群とがある。前者を第1群土器、後者を第2群土器として検討する。以下、第1群土器については、各々の特徴から、従来の研究成果に基づいた編年的位置付けを明らかにし、第2群土器については、編年的位置付けと特徴・問題点を検討することとする。

第1群土器

(第1類)(第9図1~28・第14図1)



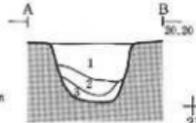
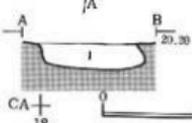
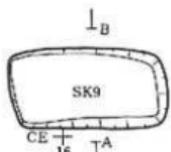
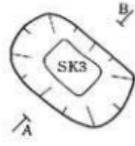
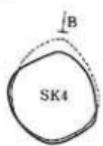
第6区 包含層地区道槽配置图

IV章 1 包含層地区

16
CD

18
BT

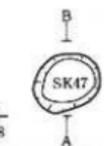
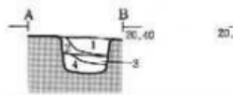
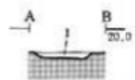
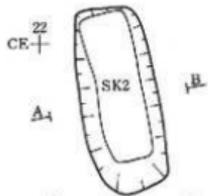
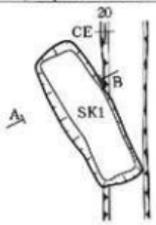
21
CA



SKNo	地区	調査所	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	遺物関係	埋没状況	備考
SK9	包含層	5階上層	長方形基壇	156×96×11			無	自然埋没	遺物無 写真なし
層位	層No	土色	土性						
①									記録あり

SKNo	地区	調査所	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	遺物関係	埋没状況	備考
SK4	包含層	5階上層	円形	98×96×37	一例外に張り出す	シムとて固い	無	自然埋没	遺物無 写真7
層位	層No	土色	土性						
①	10YR3/2 黒褐色		シルト質砂						粘土の砂粒を多く混入

SKNo	地区	調査所	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	遺物関係	埋没状況	備考
SK3	包含層	5階上層	長方形基壇	131×82×33			無	自然埋没	遺物無 写真11
層位	層No	土色	土性						
①	10YR2/3 黒褐色		シルト						
②	10YR3/2 黒褐色		シルト						10YR3/2 黒褐色シルト質粘土を多く混入
③	7.5YR2/2 暗黄褐色		シルト質粘土						



SKNo	地区	調査所	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	遺物関係	埋没状況	備考
SK1	包含層	5階上層	長方形基壇	160×60×39			無	自然埋没	遺物無 写真16
層位	層No	土色	土性						
①	10YR1/6 黄褐色		砂						
②	10YR1/2 黄褐色		シルト						
③	10YR2/6 黄褐色		砂						
④	10YR3/2 黒褐色		砂						10YR3/2 黒褐色シルトを混入している

SKNo	地区	調査所	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	遺物関係	埋没状況	備考
SK2	包含層	5階上層	長方形基壇	156×82×33			無	自然埋没	遺物無 写真11
層位	層No	土色	土性						
①	10YR2/6 黄褐色		砂						
②	10YR2/6 黄褐色		砂						10YR3/2 黒褐色シルトを混入

SKNo	地区	調査所	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	遺物関係	埋没状況	備考
SK47	包含層	5階上層	円形基壇	71×65×8			無	自然埋没	遺物無 写真8
層位	層No	土色	土性						
①	10YR2/2 黒色		粘土質シルト						壁面数ヶ所へ混入

第7図 遺物包含層地区 SK平・断面(1)

IV章 1 包含層地区

第1表 SK(土壌・焼土遺構)一覽表

SK No	地区	掘断面	平面形	掘断面×埋深×厚さ(m)	土壌関係	焼土状況	備	考	図番号
SK1	包含層地区	5層上面	長方形基調	160×60×39	無	自然堆積	遺物無		第7図
SK2	包含層地区	5層上面	長方形基調	196×82×52	無	自然堆積	遺物無		第7図
SK3	包含層地区	5層上面	長方形基調	121×82×63	無	自然堆積	遺物無		第7図
SK4	包含層地区	5層上面	円形	98×96×27	無	自然堆積	遺物無		第7図
SK5	包含層地区	3層上面	円形基調	126×102×17	無	自然堆積	遺物無 焼土遺構		第8図
SK6	包含層地区	5層上面	円形基調	60×44×6	無	自然堆積	遺物無 焼土遺構		第8図
SK7	包含層地区	5層上面	楕円形基調	44×26×6	無	自然堆積	遺物無 焼土遺構		第8図
SK8	包含層地区	5層上面	円形基調	64×60×8	無	自然堆積	遺物無 焼土遺構		第8図
SK9	包含層地区	5層上面	長方形基調	166×86×11	無	自然堆積	遺物無		第7図
SK10	水田地区	3層上面	方形	186×138×41	SS19より新	人為堆積	遺物無	北米線1点 土師器片(内裏)1点	第65図
SK11	水田地区	3層上面	円形	132×117×6	SS2より新	人為堆積	遺物無		第66図
SK12	水田地区	4層上面	円形基調	150×135×69	無	自然堆積	遺物無		第68図
SK13	水田地区	3層上面	円形基調	153×111×53	SS18より新	人為堆積	明治の硬貨		第68図
SK14	水田地区	3層上面	円形基調	135×93以上×35	SS2より新	人為堆積	遺物無		第66図
SK15	水田地区	4層上面	長方形基調	177×96×44	無	自然堆積	遺物無		第63図
SK16	水田地区	4層上面	長方形	165×63×49	無	自然堆積	遺物無		第63図
SK17	水田地区	4層上面	長方形基調	162×66×53	無	自然堆積	遺物無		第63図
SK18	水田地区	4層上面	長方形基調	201×81×33	無	自然堆積	遺物無		第63図
SK19	水田地区	3層上面	円形基調	144×129×31	SS5より新	人為堆積	遺物無		第66図
SK20	水田地区	4層上面	円形基調	162×135×57	無	人為堆積	陶器片1点(J40)		第65図
SK21	水田地区	4層上面	円形基調	96×84×51	無	人為堆積	遺物無		第64図
SK22	水田地区	4層上面	円形	165×159×75	無	自然堆積	遺物無		第64図
SK23	水田地区	4層上面	方形基調	198×144×8	SD3より新	人為堆積?	遺物無		第64図
SK24	水田地区	3層上面	円形基調	111×84×34	SS5より新	自然堆積	遺物無		第66図
SK25	水田地区	4層上面	円形基調	204×192×49	無	自然堆積	須古器片1点 土師器片1点 陶器片1点(J61)		第67図
SK26	水田地区	3層上面	円形基調	159×138×18	SS32より新	自然堆積	遺物無		第73図
SK27	水田地区	4層上面	円形基調	216以上×171×34	無	自然堆積	遺物無		第73図
SK28	水田地区	4層上面	円形基調	198×177×50	無	自然堆積	遺物無		第72図
SK29	水田地区	4層上面	円形基調	195×177×45	無	人為堆積	遺物無		第70図
SK30	水田地区	4層上面	円形基調	90×69×17	無	自然堆積	遺物無		第70図
SK31	水田地区	4層上面	円形基調	120×99×31	無	自然堆積	遺物無		第70図
SK32	水田地区	4層上面	円形基調	237×144×65	無	自然堆積	ガラス片1点 陶器器片1点(J42)		第71図
SK33	水田地区	4層上面	円形基調	159×129×21	無	自然堆積	陶磁器1点(J41)		第71図
SK34	水田地区	4層上面	円形基調	186×162×42	無	自然堆積	遺物無		第71図
SK35	水田地区	4層上面	円形基調	99×81×13	無	人為堆積	遺物無		第71図
SK36	水田地区	4層上面	円形基調	105×93×20	無	人為堆積	遺物無		第71図
SK37	水田地区	3層上面	円形基調	117×99×32	SS37より新	人為堆積	遺物無		第69図
SK38	水田地区	3層上面	円形基調	150以上×177×18	SS37より新	人為堆積	遺物無		第69図
SK39	水田地区	3層上面	円形基調	123×93×26	SS22より新	人為堆積	遺物無		第72図
SK40	水田地区	4層上面	円形	129×123×65	無	人為堆積	遺物無		第69図
SK41	水田地区	3層上面	長方形基調	138×72以上×45	SD3より古	人為堆積	遺物無		第65図
SK42	水田地区	4層上面	円形基調	72×54×12	無	自然堆積	遺物無		第67図
SK43	水田地区	4層上面	方形基調	249×186×84	無	人為堆積	遺物無		第70図
SK44	水田地区	4層上面	円形基調	99×84×19	無	自然堆積	遺物無		第67図
SK45	包含層地区	5層上面	楕円形基調	72×40×9	無	自然堆積?	遺物無 焼土遺構		第8図
SK46	包含層地区	3層上面	方形基調	98×80×14	無	自然堆積?	遺物無 焼土遺構		第8図
SK47	包含層地区	5層上面	円形基調	72×56×8	無	自然堆積?	遺物無		第7図
SK48	水田地区	8層上面	楕円形基調	176×54以上×16	無	自然堆積	遺物無		第72図
SK49	水田地区	8層上面	円形基調?	34以上×26以上	無	—	遺物無 焼土遺構		第72図

胎土に繊維を含んでいる土器が中心で早期末～前期初頭に位置付けられる。26・28は尖底であるが、27は丸底気味のものである。これら底部破片はいずれも繊維を混入していない。

(第2類) (第10図11～15)

中期初頭の大木7式に位置付けられる。11～14はいずれも複合口縁である。15は4つの突起を持つ大波状口縁で、二重の複合口縁を持ち、いずれも複合口縁下端に刻目を施文し、突起下から隆帯が垂下している。

(第3類) (第11図1～21)

渦巻文や「∩」字状文・楕円文を持つ土器群で中期後半の大木9式に位置付けられる。口縁部は2・3・5のように平口縁で内反し渦巻文を配している。口縁下は1・4のように頸部がしまり胴部が張り出す。6・12は調整した沈線文で、「∩」字状文・楕円文の一部と考えられ、渦巻文を持つ1～5の胴部破片と思われる。14の地文は摺糸文である。

(第4類) (第12図1～20)

方形区画文を持つ土器群で中期末大木10式に位置付けられる。口縁部は1～7のように平縁で外反し、肥厚している。胴部上半の文様は8などから方形区画文と考えられる。方形区画文は、調整沈線によって区画され無文の区画帯には刺突文が施文されている。

(第5類) (第13図1～4・第14図4～8)

後期中葉から末葉に位置付けられる。14図5は、瘤付土器で、16は入組文状のものである。

第2群土器

第2群土器の器形には、深鉢形土器・浅鉢形土器・壺・台付土器がある。口径/器高比が凡そ1/2以上のものを深鉢形土器、口径/器高比が凡そ1/2以下のものを浅鉢形土器として分類した。拓本だけの資料については、図化したものを参考にして分類した。口縁部破片・文様ある胴部破片はすべて登録し採拓したが、器形が凡そ判明するものを中心に図示した。

〈深鉢形土器〉

深鉢形土器は器形から以下のようにA～Fの6類に細分(第30図第2群土器深鉢形土器分類図)した。

[深鉢形土器A類] 4層(第13図15) 3層(第15図1～17、第16図1・3) 1層(第28図20・21)

胴部が内彎し、口頸部が「く」字状に屈曲して大きく外反するもの。

口縁部は小波状のもの(第15図1～10・13、第16図1・3・第28図21)、平縁のもの(第15図14)とがある。内面に一条の沈線をめぐらすもの(第15図13)もある。「く」字状に屈曲する屈曲部には、沈線を巡らすもの(第15図12・13・15)と、沈線状の段を持つもの(第13図15、第15図11・14、第16図3)、軽い段状のもの(第15図10・16)、明瞭な段がないもの(第15図17、第16図1)とがある。屈曲部から口唇部までの口縁部は、ミガキ調整による無文帯となり、胴

部には全て単節縄文を施文している。

[深鉢形土器B類] 4層 (第13図16・17・19) 3層 (第17図1～13、第18図1～18) 1層 (第28図19)

胴部がやや内彎気味に立ち上がり、口縁部が屈曲してわずかに外反するもの。

口縁部は山形突起を持つもの (第13図17、第17図1・2)、小波状もの (第13図16、第17図3～6・9～13、第18図2～4・7～12・15・19) とがある。小型のものには平縁のもの (第18図13・14) がある。内面に一条の沈線を巡らすものが多いが、二条のもの (第17図4) もある。また、口唇部に沈線を巡らすもの (第17図8) や口唇端が刻日状のもの (第28図19) もある。屈曲部には、一条の沈線を巡らすもの (第17図3・4・10～13、第18図4・16)、沈線状の段をもつもの (第17図2・6・7・9、第18図1・6)、段状になっているもの (第17図1・5・8、第18図2・3・5・7～15・17)、明瞭でないもの (第18図18) とがある。屈曲部がやや肥厚するもの (第17図4、第18図2・9・10・11) もある。屈曲部から口唇部までの口縁部はすべてミガキ調整による無文帯となっている。屈曲部の下は単節縄文が施文されているが、小型のものは無文 (第18図13～16) である。

[深鉢形土器C類] 3層 (第18図19)

胴部はやや内彎するが胴部上半から口縁部が直立し、屈曲しないもの。

口縁部は小波状で内面と口縁部に一条の沈線を巡らしており、屈曲がないことを除くとB類と近似している。口縁部沈線下は単節縄文が施文されている。

[深鉢形土器D類] 4層 (第13図6・7) 3層 (第19図1～4・6～19) 1層 (第28図8～9・11～14)

胴部が外傾して立ち上がり、そのまま口縁部も外傾するもの。

口縁部は小波状のもの (第19図7～11・13、第28図12) と平縁のもの (第13図6・7、第19図1～4・6・12・14～16、第28図8・9・11・13・14) とがある。口唇直下から単節縄文を施文するもの (第13図6・7、第19図1～4・6、第28図8・9・11・13・14) とやや下から施文するもの (第19図7～16、第28図12) とがある。

[深鉢形土器E類] 3層 (第19図5) 1層 (第28図10)

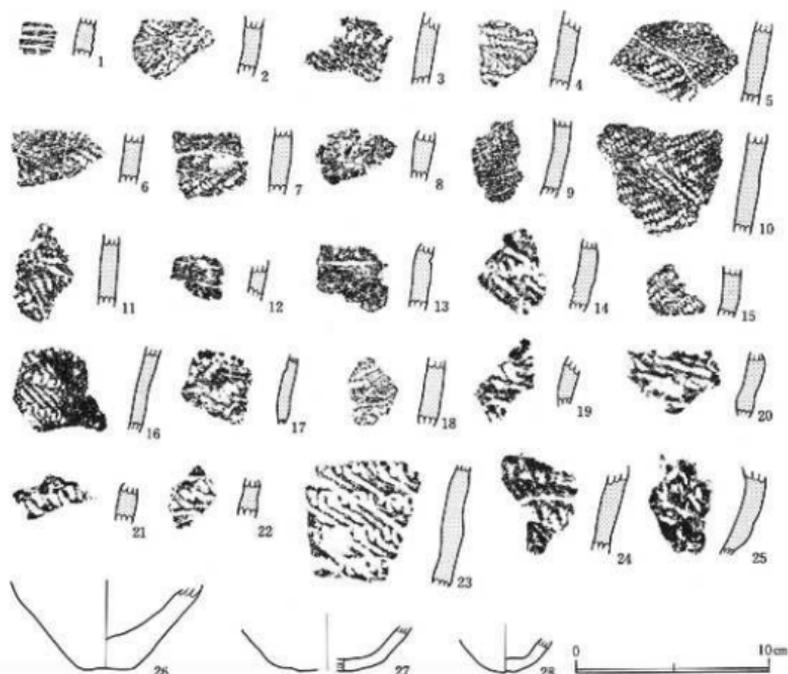
胴部はやや外傾気味に立ち上がり、口縁部がやや内彎するもの。

2点とも平縁で、口唇部直下から胴部に縄文を施文している。口縁部が内傾する点を除くと深鉢形土器D類に近似する。

[深鉢形土器F類] 3層 (第19図20)

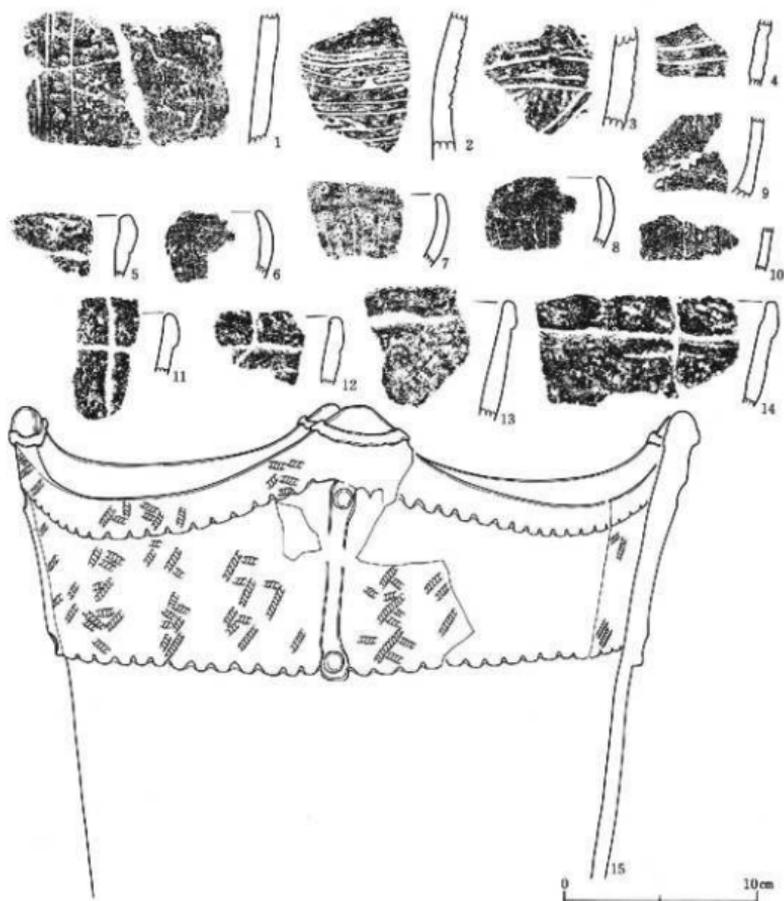
胴部はやや内彎気味に立ち上がり、口縁部がやや外傾するもの。

平縁で口縁部胴部とも無文である。



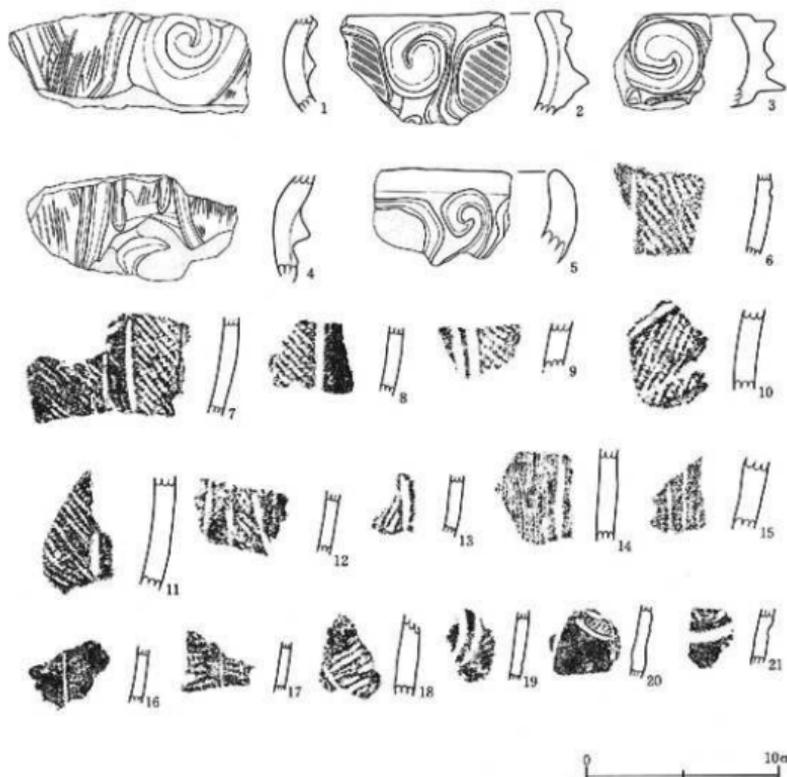
図番号	発掘番号	出土地区・層位	素材	形状と口縁形状	文様	胎文	口 径	高さ	備 考	写真掲載
9-1	A212	CE20-4	陶器-	折底	-	横点?	-	-	破断有	第1層 写真30-1
9-2	A232	CE20-4	陶器-	折底	-	LR?	-	-	破断有	写真30-4
9-3	A258	CA36-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 -
9-4	A236	CE20-4	陶器-	折底	-	LR	-	-	破断有	第1層 写真32-2
9-5	A231	CE20-4	陶器-	折底	-	RL?	-	-	破断有	第1層 写真32-3
9-6	A238	CE20-4	陶器-	折底	-	RL?	-	-	破断有	第1層 写真32-4
9-7	A240	CE20-4	陶器-	折底	-	RL?	-	-	破断有	第1層 写真32-5
9-8	A266	BE27-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 -
9-9	A238	CE20-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 写真32-7
9-10	A237	CE20-4	陶器-	折底	羽状胎文	RL-LR	-	-	破断有	第1層 写真32-8
9-11	A234	CE20-4	陶器-	折底	羽状胎文	RL-LR	-	-	破断有	第1層 写真32-9
9-12	A257	CC1-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 -
9-13	A271	CE60-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 -
9-14	A274	BT38-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 写真33-10
9-15	A272	CE20-4	陶器-	折底	-	LR	-	-	破断有	第1層 -
9-16	A227	CE15-4	陶器-	折底	-	LR	-	-	破断有	第1層 写真33-11
9-17	A239	CA19-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 -
9-18	A266	CE60-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 -
9-19	A273	CC20-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 写真33-12
9-20	A275	CC20-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 -
9-21	A268	CC20-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 写真33-13
9-22	A264	CC20-4	陶器-	折底	-	RL?	-	-	破断有	第1層 写真33-14
9-23	A236	CC20-4	陶器-	折底	-	RL-LR	-	-	破断有	第1層 写真33-15
9-24	A235	CE15-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 写真33-16
9-25	A263	CC13-4	陶器-	折底	-	?	-	-	破断有	第1層 写真33-17
9-26	A263	CA19-4	陶器-	折・底	-	胎	-	-	破断有	第1層 写真33-29
9-27	A264	BE27-4	陶器-	折・底	-	胎	-	-	破断有	第1層 写真33-30
9-28	A263	BE27-4	陶器-	折・底	-	胎	-	-	破断有	第1層 写真33-31

第9図 包含層地区第4層出土縄文土器(1)



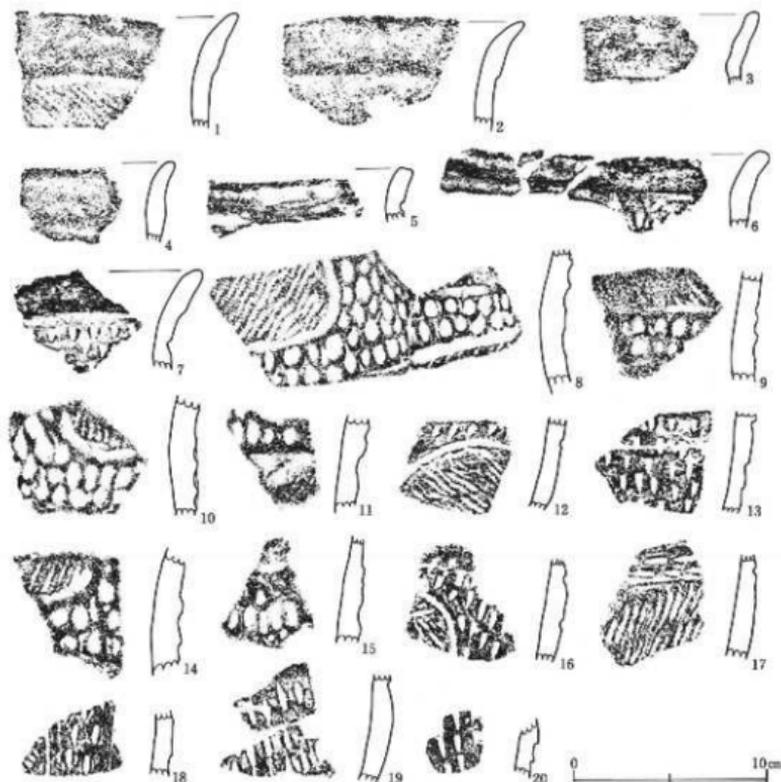
図番号	図録番号	出土地区・層位	形状	方位上口縁形状	文様	地文	口比	裏比	備考	写真回数
10-1	A196	CB13-4	筒形—	製	—	製	—	—	—	第1層 写真33-18
10-2	A198	CB13-4	筒形—	製	—	製	—	—	—	第1層 写真33-19
10-3	A243	CB13-4	筒形—	製	—	製	—	—	—	第1層 写真33-20
10-4	A239	CC20-5	筒形—	製	—	製	—	—	—	第1層 写真33-21
10-5	A409	BS23-24-4	筒形—	口平	—	製	—	—	—	—
10-6	A185	CC20-4	筒形—	口平	—	製	—	—	—	第1層 写真33-22
10-7	A177	CB30-4	筒形—	口平	—	製	—	—	—	第1層 写真33-23
10-8	A183	CC20-4	筒形—	口平	—	製	—	—	—	第1層 写真33-24
10-9	A178	CC21-4	筒形—	底	—	製	—	—	—	第1層 写真33-25
10-10	A175	CC20-4	筒形—	製	—	製	—	—	—	第1層 写真33-26
10-11	A375	BS23-24-4	筒形—	口平	—	製	—	—	聯合口縁	第1層 —
10-12	A376	BS23-24-4	筒形—	口平	—	製	—	—	聯合口縁	第1層 —
10-13	A397	CB30-4	筒形—	口平	—	製	—	—	聯合口縁	第1層 写真33-27
10-14	A398	BS23-24-4	筒形—	口平	—	製	—	—	聯合口縁	第1層 写真33-28
10-15	A406	BS23-24-4	筒形—	口人蓋状	—	?	—	—	聯合口縁	第1層 写真76-1

第10回 包含層地区第4層出土縄文土器(2)



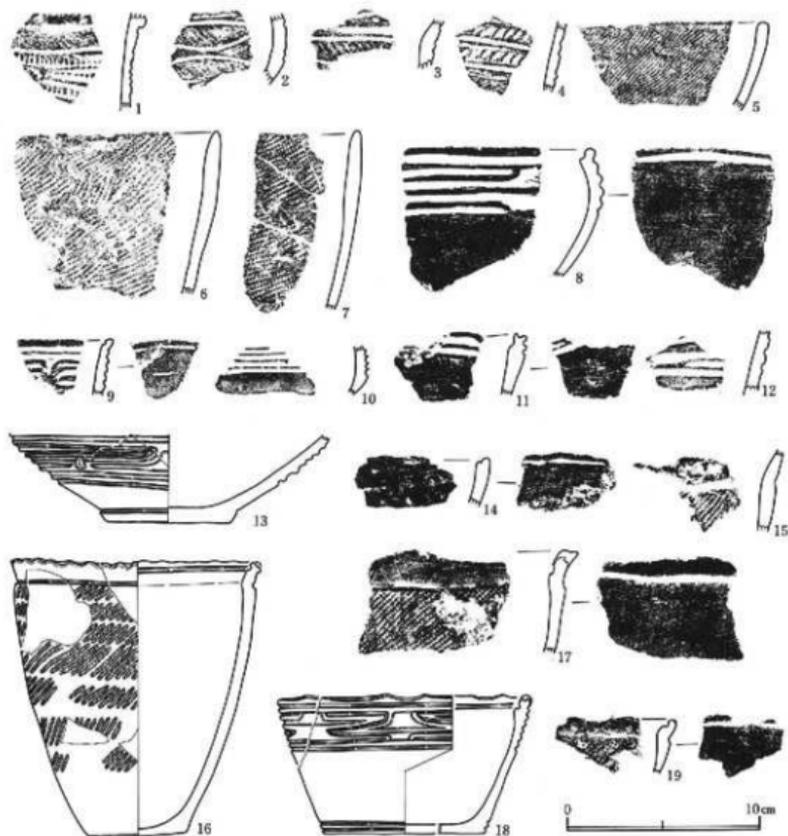
図番号	発掘番号	出土状況・層位	器形	器口上の輪郭	文様	片文	口流	底流	備考	写真番号
11-1	A419	DT19-4	深鉢-1	凹	-	条線	-	-	底1部	写真84-1
11-2	A420	OC18-4	深鉢-1	口	-	LR	-	-	底1部	写真84-2
11-3	A460	BE11-4	深鉢-1	口平	-	条	-	-	底1部	写真84-3
11-4	A471	BT18-4	深鉢-1	口平	-	条線	-	-	底1部	写真84-4
11-5	A481	DB10-4	深鉢-1	L字	-	?	-	-	底1部	写真84-5
11-6	A254	CC17-4	深鉢-1	斜	-	LRL	-	-	底1部	写真84-6
11-7	A344	DS18-1	深鉢-1	斜	-	LR	-	-	底1部	写真84-7
11-8	A251	BS18-4	深鉢-1	斜	-	LR	-	-	底1部	写真84-8
11-9	A352	BQ19-4	深鉢-1	斜	-	LR	-	-	底1部	写真84-9
11-10	A376	CK20-4	深鉢-1	斜	-	LR	-	-	底1部	-
11-11	A340	CB14-4	深鉢-1	斜	-	RL	-	-	底1部	-
11-12	A290	BQ19-4	深鉢-1	斜	-	LR	-	-	底1部	-
11-13	A328	B770-4	深鉢-1	斜	-	RL	-	-	底1部	-
11-14	A318	OC11-4	深鉢-1	斜	-	条線	-	-	底1部	写真84-10
11-15	A387	CB14-4	深鉢-1	斜	-	?	-	-	底1部	写真84-11
11-16	A250	BQ25-4	深鉢-1	斜	-	LR	-	-	底1部	写真84-12
11-17	A330	CB14-4	深鉢-1	斜	-	LR	-	-	底1部	写真84-13
11-18	A382	CB14-4	深鉢-1	凹	-	L	-	-	底1部	-
11-19	A340	BQ23-4	深鉢-1	斜	-	LR	-	-	底1部	写真84-14
11-20	A331	CB20-4	深鉢-1	凹	-	?	-	-	底1部	写真84-15
11-21	A324	CK20-4	深鉢-1	凹	-	?	-	-	底1部	写真84-16

第11图 包含層地区第4層出土縄文土器(3)



图录号	器物名称	出土地区·层位	器形	纹饰与口缘形制	纹饰	胎文	口沿	黄泥	备注	写真页码
12-1	A155	CR14-4	碗形—	口平	—	?	—	—	第1层	写真61-18
12-2	A161	CR14-4	碗形—	口平	—	?	—	—	第1层	写真64-19
12-3	A160	CR13-4	碗形—	口平	—	?	—	—	第1层	—
12-4	A165	CR14-4	碗形—	口平	—	?	—	—	第1层	—
12-5	A132	BT18-4	碗形—	口平	—	?	—	—	第1层	—
12-6	A251	CR13~14-4	碗形—	斜	—	?	—	—	第1层	写真64-20
12-7	A217	CR13-4	碗形—	口	—	?	—	—	第1层	写真64-20
12-8	A246	CR14-4	碗形—	斜	—	RL	—	—	第1层	写真64-23
12-9	A244	XX-4	碗形—	斜	—	?	—	—	第1层	写真65-1
12-10	A243	CR14-4	碗形—	斜	—	RL	—	—	第1层	写真65-2
12-11	A245	CR14-4	碗形—	斜	—	RL	—	—	第1层	写真65-3
12-12	A219	CR14-4	碗形—	斜	—	L	—	—	第1层	写真65-4
12-13	A218	CR13-4	碗形—	斜	—	?	—	—	第1层	写真65-5
12-14	A241	CR14-4	碗形—	斜	—	RL	—	—	第1层	写真65-6
12-15	A242	CR14-4	碗形—	斜	—	?	—	—	第1层	写真64-25
12-16	A222	CR14-4	碗形—	斜	—	L?	—	—	第1层	写真64-24
12-17	A215	CR14-4	碗形—	斜	—	L	—	—	第1层	写真65-7
12-18	A216	CR14-4	碗形—	斜	—	L?	—	—	第1层	写真64-17
12-19	A239	CR14-4	碗形—	斜	—	?	—	—	第1层	写真65-8
12-20	A214	CR14-4	碗形—	斜	—	?	—	—	第1层	写真64-21

第12图 包含层地区第4层出土陶文器(4)



图例号	图例编号	出土地区·层位	窑口	窑口与口缘形状	纹样	胎文	口沿	备注	参考	写真图号	
13-1	A262	BT24-4	窑B-	斜	-	斜	-	-	窑B群	写真85-19	
13-2	A262	BS22-4	窑B-	斜	-	EL	-	-	窑B群	写真85-22	
13-3	A350	CA32-4	窑B-	斜	-	LR	-	-	窑B群	-	
13-4	A330	CR30-4	窑B-	斜	-	LR	-	-	窑B群	写真85-21	
13-5	A152	CB18-4	窑B-	口平	-	LR垂	-	-	窑B群	写真86-7	
13-6	A223	CB26-27-4	窑B-D	口平	-	LR垂	-	-	窑B群	写真86-8	
13-7	A4	CB26-27-4	窑B-D	口平	-	LR垂	-	内外面灰化物	窑B群	写真86-5	
13-8	A2	CB26-27-4	瓦碎A	口平	文斜目	斜	-	内外面灰化物	窑B群	写真86-10	
13-9	A126	CB16-4	窑B-D	口平	文斜目?	斜	-	○	窑B群	写真86-9	
13-10	A366	CR36-27-4	窑B-A	斜	文斜目	斜	?	?	窑B群	写真86-12	
13-11	A142	CB20-4	窑B-D	口平?	文斜目?	斜	○	-	窑B群	写真86-13	
13-12	A323	CE30-4	窑B-C	斜	-	斜	-	-	窑B群	写真86-11	
13-13	A467	DS19-4	窑B-C	斜比	-	斜	-	-	窑B群	写真85-4	
13-14	A120	OC20-4	窑B?	口平	-	斜	-	-	窑B群	-	
13-15	A320	BS25-26-3	窑B-A	斜	-	LR垂	-	-	窑B群	-	
13-16	A466	CR30-4	窑B-B	口小斜	-	LR垂	-	○	内外面灰化物付着	窑B群	写真82-1
13-17	A31	BS22-4	窑B-B	口小斜	-	LR垂	-	○	-	窑B群	写真86-16
13-18	A469	CB30-4	窑B-D	口宽山沟	文斜比	斜	-	○	-	窑B群	写真86-20
13-19	A34	BT24-4	窑B-B	口平?	-	LR?	-	○	-	窑B群	-

第13图 包含层地区第4层出土陶土器(5)

縄文土器観察表について

(器形) 器形は第30・31図の分類による

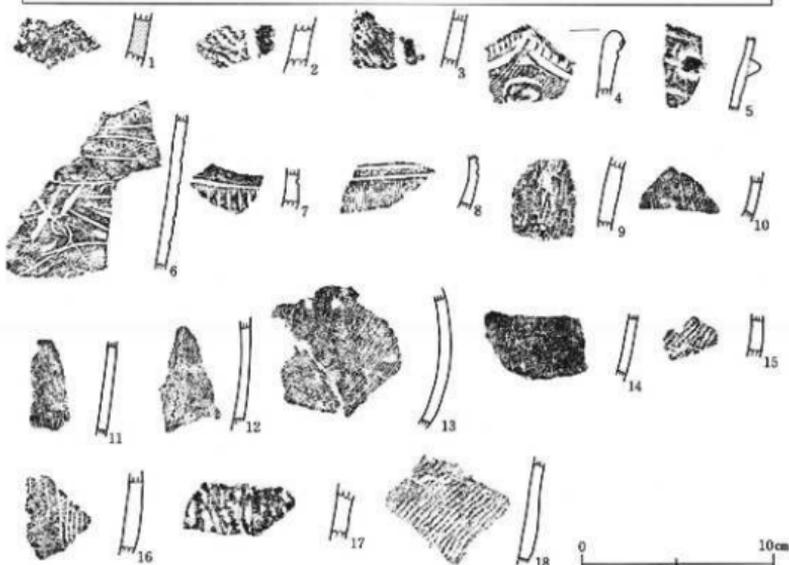
(部位と口縁部形態) 「小波」は小波状、「平」は平縁、「双山突」は双頭山形突起、「山突」は山形突起をもつもの

(文様) 文様は第29図の分類による

(地文) 「横」は横位回転、「斜」は斜位回転のもの

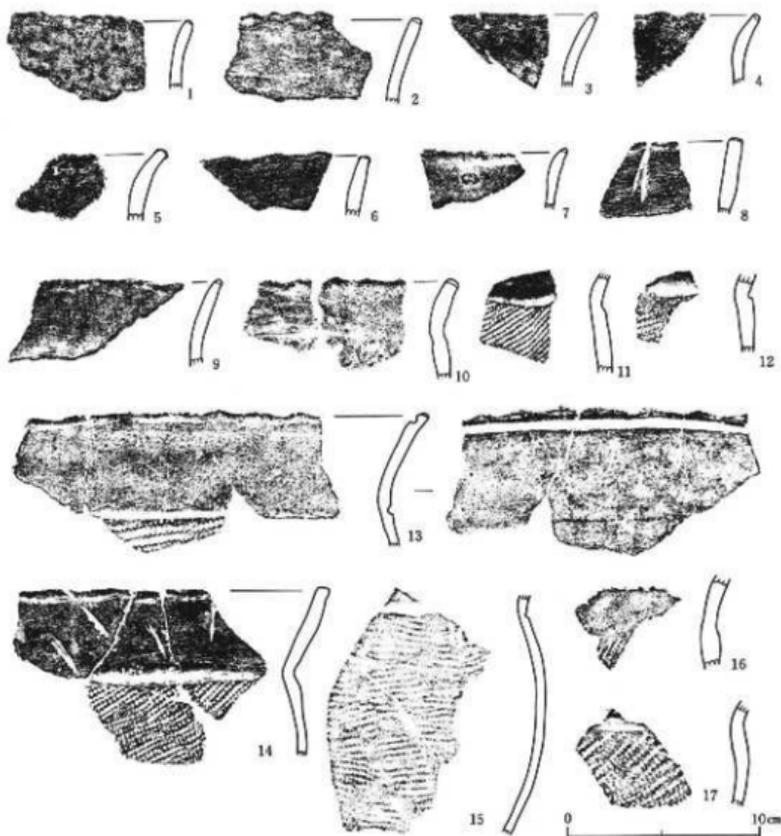
(口沈) 「○」は口唇部に沈線をもつもの

(裏沈) 「○」は内面に沈線をもつもの



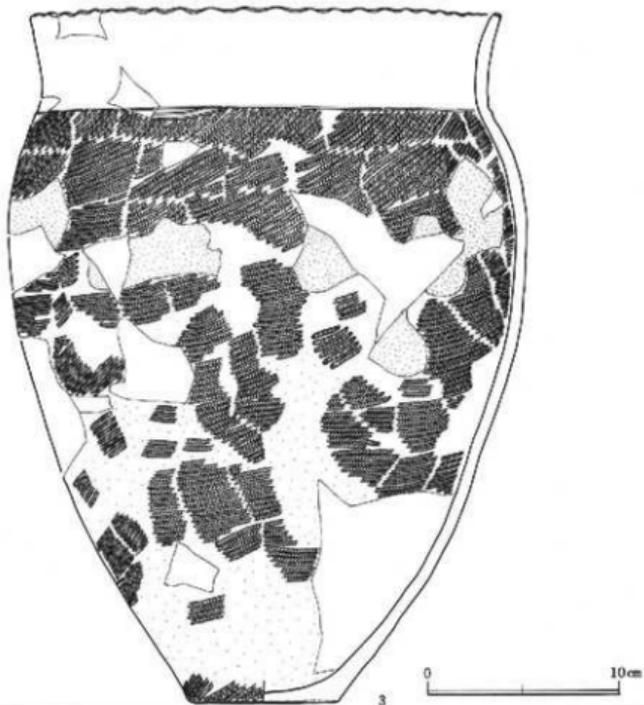
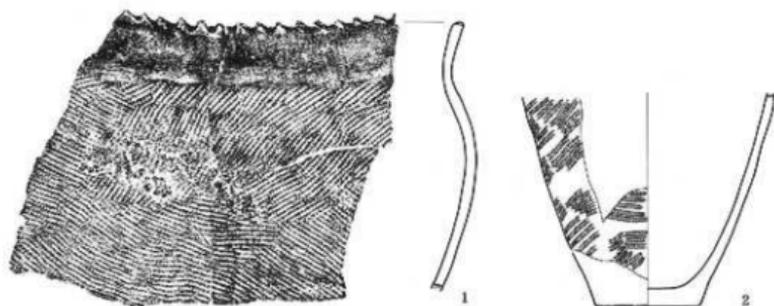
図番号	登録番号	出土地区・層位	器形	部位と口縁形態	文様	地文	口沈	裏沈	備考	写真図版
14-1	A289	CC20-3	甕鉢	折	-	?	-	-	破断部	第12図
14-2	A348	BT23-3	甕鉢	折	-	LR	-	-	第12図	-
14-3	A359	CC20-3	甕鉢	折	-	LR	-	-	第12図	-
14-4	A163	BT28-3	甕鉢	口	-	LR	-	-	第12図	写真85-9
14-5	A342	CC20-3	甕鉢	折	-	溝	-	-	第12図	写真85-10
14-6	A355	CC20-3	甕鉢	折	-	LR?	-	-	第12図	写真85-14
14-7	A328	BT27-3	甕鉢	折	-	溝	-	-	第12図	写真85-11
14-8	A195	CR26-3	甕鉢	折	-	横糸?	-	-	山形	写真85-12
14-9	A198	CR24-3	甕鉢	折	-	横糸?	-	-	山形	-
14-10	A194	CR27-3	甕鉢	折	-	横糸?	-	-	山形	-
14-11	A260	CR28-3	甕鉢	折	-	横糸?	-	-	第12図	写真85-16
14-12	A189	CR26-3	甕鉢	折	-	横糸?	-	-	第12図	写真85-17
14-13	A306	CR26-3	甕鉢	折	-	横糸?	-	-	第12図	写真85-20
14-14	A360	CR25-3	甕鉢	折	-	横糸?	-	-	第12図	写真85-15
14-15	A197	CA28-8	甕鉢	折	-	LR	-	-	第12図	写真85-13
14-16	A389	CR25-3	甕鉢	折	-	横糸?	-	-	第12図	-
14-17	A193	CC20-4	甕鉢	折	-	横糸?	-	-	第12図	-
14-18	A361	CR25-3	甕鉢	折	-	LR	-	-	第12図	写真85-18

第14図 包含層地区第3層出土縄文土器(1)



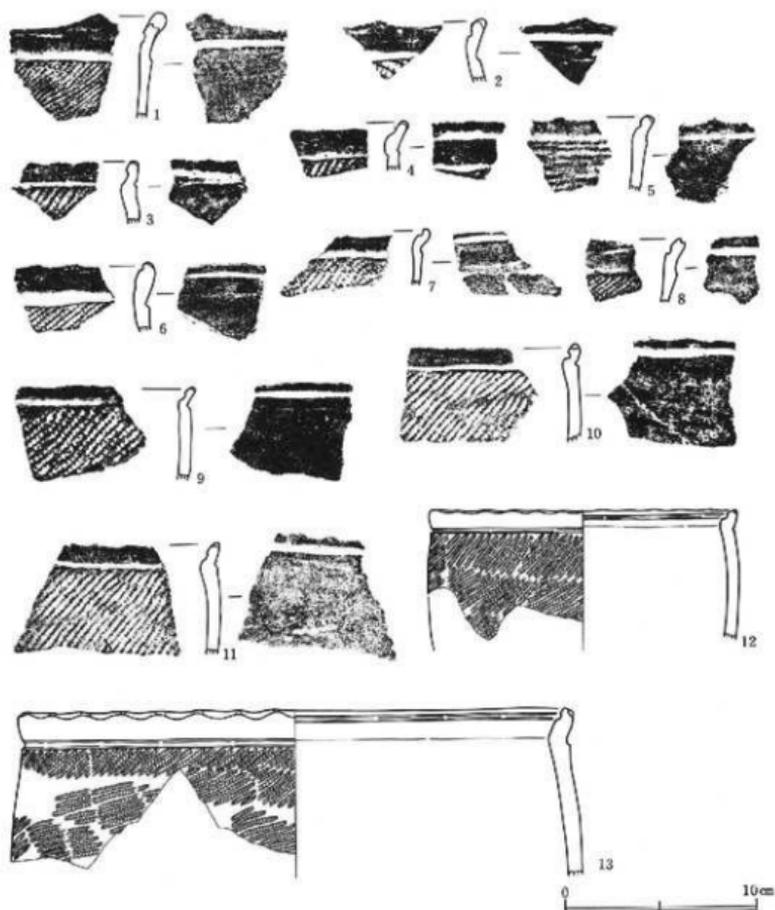
図番号	発掘層別	出土地況・形状	形状	口縁と口縁部形	文様	胎文	口流	蓋流	備考	写真掲載	
15-1	A64	CA20-3	深鉢 A	口小瓶						第2層	-
15-2	A127	BS25-3	深鉢 A	口小瓶						第2層	-
15-3	A19	CB26-3	深鉢 A	口小瓶						写真55-24	-
15-4	A24	CB26-3	深鉢 A	口小瓶						第2層	-
15-5	A72	CB26-3	深鉢 A	口小瓶						第2層	-
15-6	A72	CB25-3	深鉢 A	口小瓶						第2層	写真55-20
15-7	A126	CB25-3	深鉢 A	口小瓶						第2層	-
15-8	A83	CA25-3	深鉢 A	口小瓶						第2層	写真55-25
15-9	A124	CB26-3	深鉢 A	口小瓶						第2層	-
15-10	A26	CB26-3	深鉢 A	口小瓶		LR?				第2層	写真56-4
15-11	A107	BR25-3	深鉢 A	胴		LR 縦				第2層	写真56-6
15-12	A315	BS25-3	深鉢 A	胴		LR 縦				第2層	-
15-13	A7	BT23-3	深鉢 A	口小瓶		LR 縦		○		第2層	写真55-23
15-14	A372	CA25-3	深鉢 A	口平		LR 縦				第2層	写真56-1
15-15	A213	CB27-3	深鉢 A	胴		LR 縦				第2層	写真56-2
15-16	A214	CB26-3	深鉢 A	胴		LR 縦				第2層	写真56-3
15-17	A211	CB26-3	深鉢 A	胴		LR 縦				第2層	-

第15図 包含層地区第3層出土縄文土器(2)



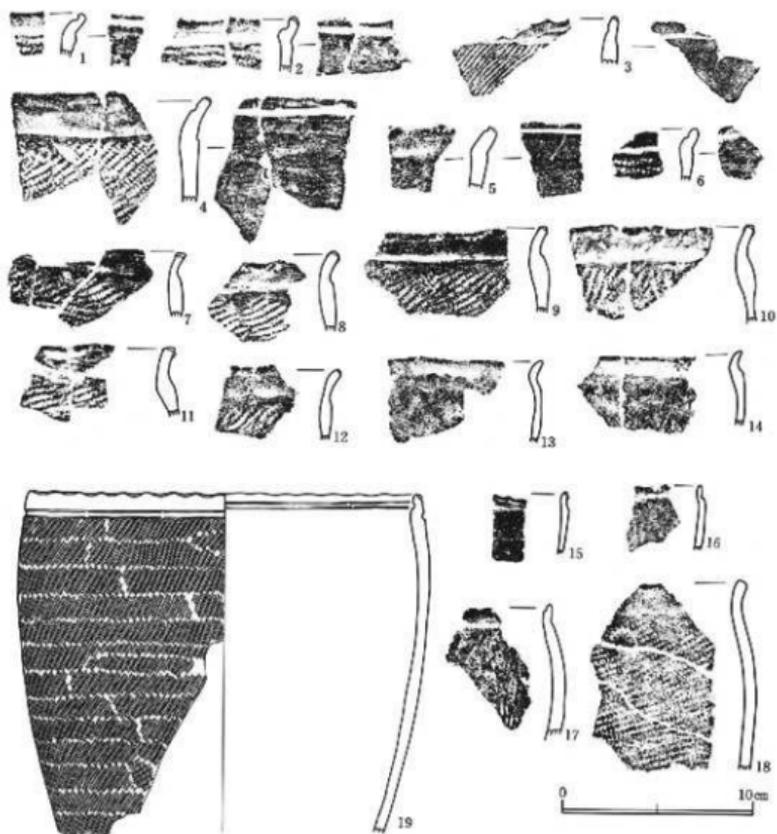
図番号	発掘番号	出土地区・層位	器形	部位と1/4縮率図	文様	施文	口径	高さ	備考	写真図版
16-1	A46	CB30-4	深鉢 A	口小波		LR 横線	-	-		第1層 写真26-17
16-2	A44	CD29-3	深鉢	口波		LR 横線	-	-		第1層 写真32-2
16-3	A47	BS2206-3	深鉢 A	口小波		LR 横線	-	-		第1層 写真30-1

第16図 包含層地区第3層出土縄文土器(3)



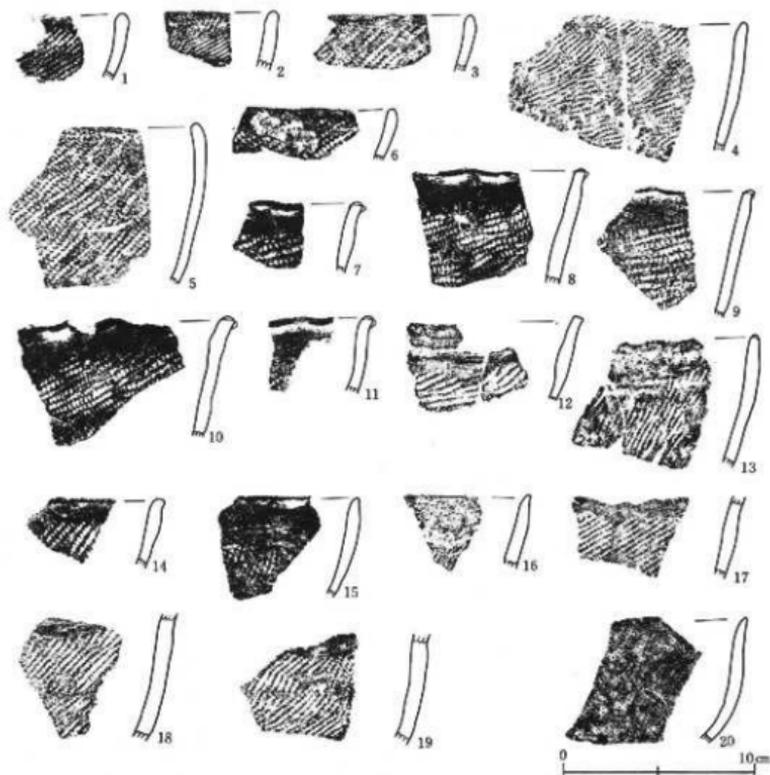
図番	発掘番号	出土地区・層位	器形	胎土・口縁材料	文様	胎文	口比	底沈	備考	写真図版
17-1	A28	BS22-3	深鉢 B	口土夾		LR縞	○	○	第2群	写真66-15
17-2	A121	CC21-3	深鉢 B	口土夾		LR縞	-	○	第2群	写真66-16
17-3	A82	BS27-3	深鉢 B	口小破		LR縞	-	-	第2群	写真67-1
17-4	A86	BT23-3	深鉢 B	口小破		LR縞	-	-	第2群	写真67-2
17-5	A57	CA29-3	深鉢 B	口小破		LR縞	-	○	第2群	写真67-3
17-6	A71	BS34-3	深鉢 B	口小破		LR縞	-	○	第2群	写真66-15
17-7	A59	BS26-3	深鉢 B	口小破?		LR縞	-	○	第2群	写真67-4
17-8	A1	BS25-3	深鉢 B	口小破?		LR縞	○	○	第2群	写真67-5
17-9	A71	CA28-3	深鉢 B	口小破		LR縞	-	○	第2群	写真66-14
17-10	A8	BS27-3	深鉢 B	口小破		LR縞	-	○	第2群	写真67-6
17-11	A13	BS26-3	深鉢 B	口小破		LR縞	-	○	第2群	写真67-7
17-12	A41	BS25-3	深鉢 B	口小破		LR縞	-	○	第2群	写真67-3
17-13	A42	BT24-3	深鉢 B	口小破		LR縞	-	○	第2群	写真67-5

第17図 包含層地区第3層出土縄文土器(4)



図番号	発掘地	出土地区・層位	陶形	口部上縁形状	文様	地文	口注	底注	番号	写真図版
18-1	A89	CA26-3	深鉢B	口平?		LR?	-	○	第227	写真27-8
18-2	A157	CA26-3	深鉢B	口小底		LR?	-	○	第227	写真27-10
18-3	A266	BS27-3	深鉢B	口小底		LR横	-	○	第227	写真27-11
18-4	A30	BR25-36-3	深鉢B	口小底		LR横	-	-	第227	写真27-12
18-5	A120	BS27-3	深鉢B	口?		LR?	-	○	第227	写真27-13
18-6	A125A	BT24-3	深鉢B	口平?		LR?	-	○	第227	写真27-9
18-7	A77	CA25-3	深鉢B	口小底		LR横	-	-	第227	写真27-14
18-8	A102	CC25-3	深鉢B	口小底		LR横	-	-	第227	写真27-15
18-9	A29	CA25-3	深鉢B	口小底		LR横	-	-	第227	写真27-17
18-10	A27	CH25-3	深鉢B	口小底		LR横	-	-	第227	写真27-18
18-11	A85	CH24-3	深鉢B	口小底		LR横	-	-	第227	写真27-19
18-12	A98	CA25-3	深鉢B	口平底		LR横	-	-	第227	写真27-16
18-13	A122	BR24-3	深鉢B	口平		無	-	-	第227	写真27-20
18-14	A71	BS21-3BR25-3	深鉢B	口平		無	-	-	第227	写真27-21
18-15	A125B	CC27-3	深鉢B	口小底		無	-	-	第227	写真27-22
18-16	A304	CH26-3	深鉢B	口平?		無	-	-	第227	写真27-23
18-17	A30	DS28-3	深鉢B	口平		?	-	○	第227	写真27-24
18-18	A95	BT24-3	深鉢B	口平		LR横	-	-	第227	写真27-25
18-19	A473	CA25-3	深鉢C	口小底		LR横	-	○	第227	写真27-2

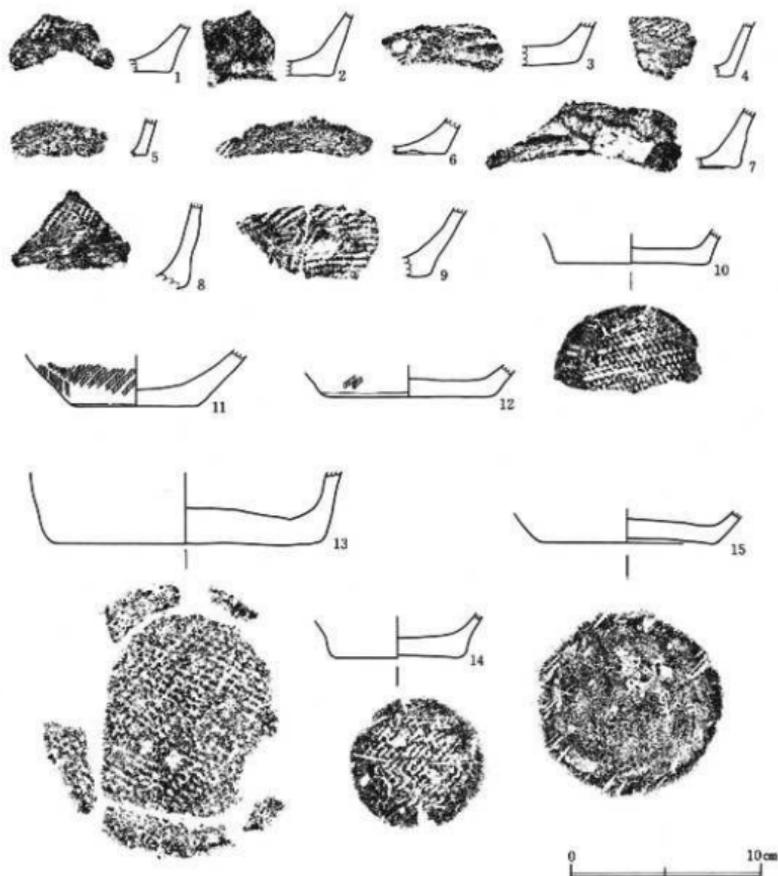
第18図 包含層地区第3層出土縄文土器(5)



調査年	発掘番号	出土地区・層位	素材	形状と口縁形	文様	地文	口	底	高さ	備考	写真掲載
19-1	A101	CA27-3	深鉢 D	口平		LR横	-	-		表27	写真27-25
19-2	A91	CB29-3	深鉢 D	口平		LR横	-	-		表27	写真27-26
19-3	A111	CA21-3	深鉢 D	口平		LR横	-	-		表27	写真27-27
19-4	A390	CB26~27-3・4	深鉢 D	口平		LR横	-	-		表27	写真27-28
19-5	A190	CA15-5	深鉢 E	口平		LR横	-	-		表28	写真28-1
19-6	A132	BT21-3	深鉢 D	口平		LR横	-	-		表27	-
19-7	A110	CC25-5	深鉢 D	口小底		LR横	-	-		表27	写真27-29
19-8	A22	CA26-3	深鉢 D	口小底		LR横	-	-		表27	写真27-30
19-9	A78	CB24-3	深鉢 D	口小底		LR横	-	-		表28	写真28-2
19-10	A33	CB25-3	深鉢 D	口小底		LR横	-	-		表27	写真28-3
19-11	A184	CB25-3	深鉢 D	口小底		LR横	-	-		表27	写真28-4
19-12	A6	CA25-3	深鉢 D	口小底		LR横	-	-		表27	写真28-7
19-13	A97	CA26-3	深鉢 D	口小底		LR横	-	-		表27	写真28-8
19-14	A160	BC~CE27~30	深鉢 D	口平		LR横	-	-		表27	写真28-5
19-15	A114	BS26-3	深鉢 D	口平		LJ0	-	-		表28	写真28-6
19-16	A125	CB27-3	深鉢 D	口平		LJ2	-	-		表28	写真28-9
19-17	A303	BS25-3	深鉢 D	底		LJ2	-	-		表27	-
19-18	A296	CB29-3	深鉢 D	底		LR横	-	-		表27	写真28-10
19-19	A289	CB29-3	深鉢 D	底		LR横	-	-		表27	写真28-11
19-20	A76	BS25-3	深鉢 F	口平		底	-	-		表27	写真28-12

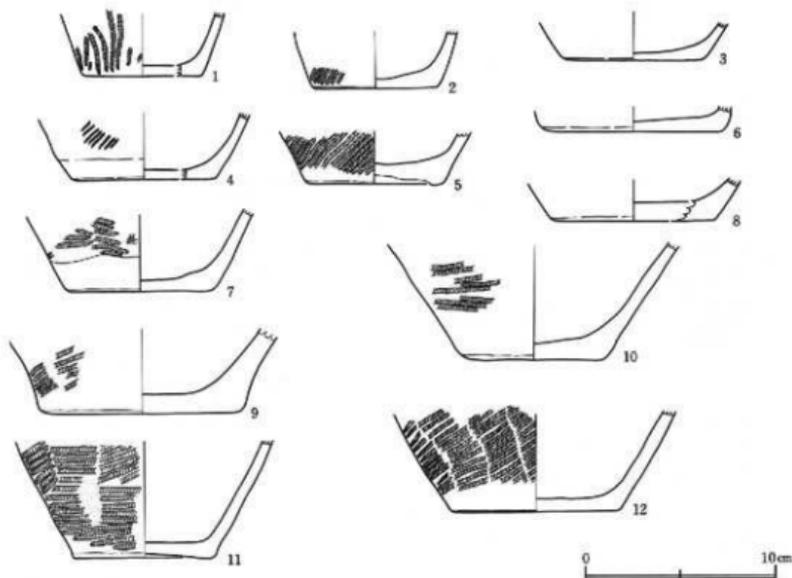
第19図 包含層地区第3層出土縄文土器(6)

IV章 1 包含層地区



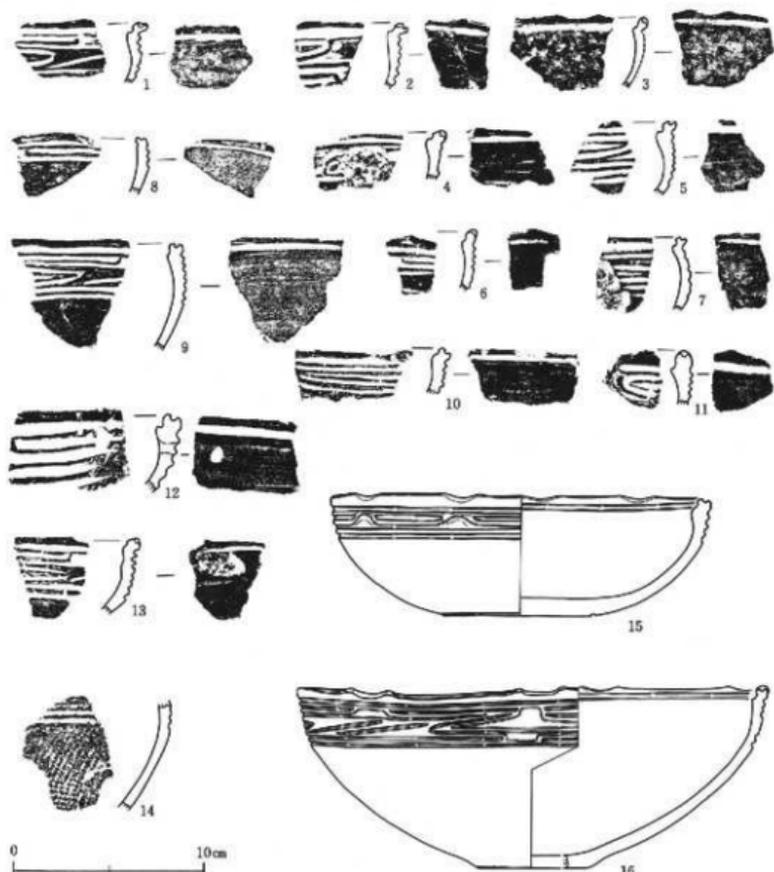
图录号	器物编号	出土地区·层位	器形	部位上/纹饰形	纹饰	铭文	口沿	高足	备注	写真位置
20-1	A413	HS24-3	圆形	制纹		LR?	-	-	制纹	-
20-2	A412	RT24-2	圆形	制纹		无	-	-	制纹	-
20-3	A373	CD2-3	圆形	制纹		无	-	-	制纹	-
20-4	A328	CE27-3	圆形	制纹		LR 横	-	-	制纹	-
20-5	A179	CC30-4	圆形	制纹		无	-	-	制纹	-
20-6	A405	HS19-4	圆形	制纹		无	-	-	制纹	-
20-7	A364	CH38-3	圆形	制纹		无	-	-	制纹	-
20-8	A365	DS22-3	圆形	制纹		LR 横	-	-	制纹	-
20-9	A411	CC21-3	圆形	制纹		LR?	-	-	制纹	-
20-10	A356	CR38-3	圆形	制纹		无	-	-	制纹	写真8-13
20-11	A445	CC18-3	圆形	制纹		LR 横	-	-	制纹	-
20-12	A439	HT22-3	圆形	制纹		LR 横	-	-	制纹	-
20-13	A358	XX	圆形	制纹		无	-	-	制纹	写真8-16
20-14	A357	CE29-3	圆形	制纹		无	-	-	制纹	写真8-14
20-15	A359	CR25-3	圆形	制纹		无	-	-	制纹	写真8-11

第20图 包含層地区第3層出土銅土器(7)



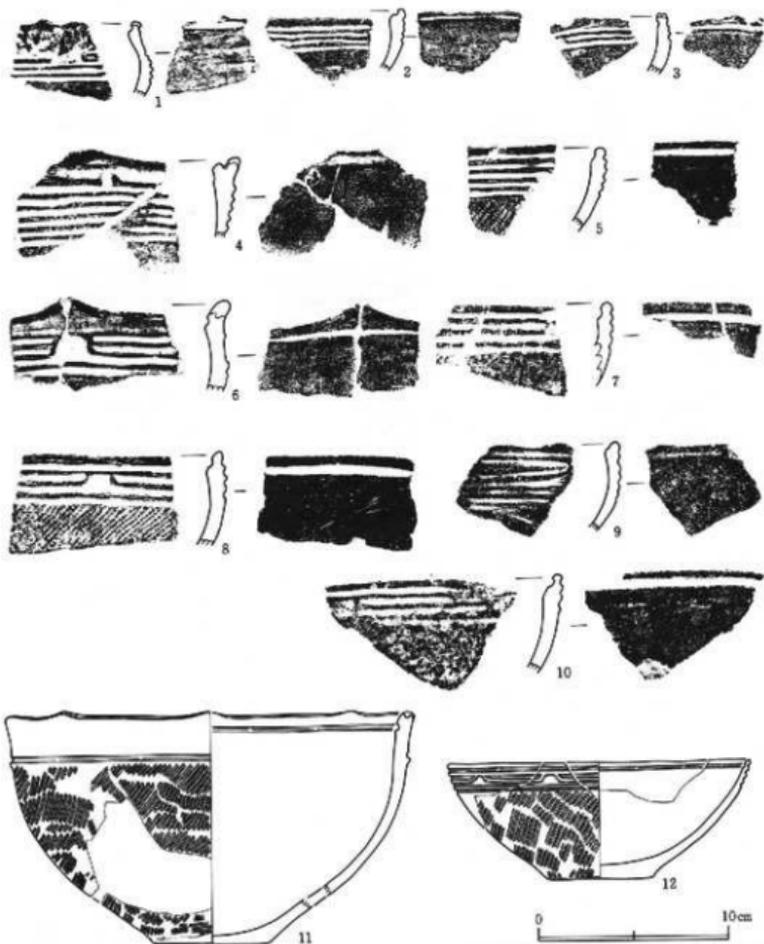
図番号	発掘番号	出土地区・層位	器名	器位と口縁形状	文様	地文	口部	素材	備考	写真図版
21-1	A34	DT24-3	伊鉢	胴底		LR柄	-		2127	-
21-2	A36	BS16-3	伊鉢	胴底		LR柄	-		2128	-
21-3	A35	CC25-3	伊鉢	胴底		点	-		2129	-
21-4	A33	CH6-3	伊鉢	胴底		LR柄	-		2130	-
21-5	A23	BR25-3	伊鉢	胴底		LR柄	-		2127	-
21-6	A32	CE24-3	伊鉢	胴底		点	-		2127	-
21-7	A24	DT27-3	伊鉢	胴底		LR柄	-		2128	-
21-8	A39	DT73-3	伊鉢	胴底		点	-		2128	-
21-9	A22	HS35-3	伊鉢	胴底		LR柄	-		2129	-
21-10	A25	HT24-3	伊鉢	胴底		LR柄	-		2127	-
21-11	A27	CA28-3	伊鉢	胴底		LR柄	-		2127	-
21-12	A37	DS21-3	伊鉢	胴底		LR柄	-		2127	-

第21図 包含層地区第3層出土縄文土器(8)



図番号	登録番号	出土地区・層位	器形	断面・口縁形状	文様	地文	口縁	底	備考	写真回数
22-1	A36	BS28-3	浅鉢 B	口取山突	文様Ⅰ	滑	○	○	第2層	写真09-1
22-2	A32	BT27-3	浅鉢 B	口取山突	文様Ⅳ	滑	○	○	第2層	写真09-2
22-3	A38	BS25-3	浅鉢 B	口取山突	?	滑	○	○	第2層	写真09-3
22-4	A34	CA25-3	浅鉢 B	口取山突	文様Ⅳ	滑	○	○	第2層	写真09-4
22-5	A35	CA24-3	浅鉢 B	口平	?	滑	○	○	第2層	写真09-5
22-6	A38	BT26-3	浅鉢 B	口取山突		滑	-	○	第2層	写真09-6
22-7	A32	BS25-3	浅鉢 B	口平	?	滑	○	○	第2層	写真09-7
22-8	A138	BT25-5	浅鉢 A	口平		滑	○	○	第2層	写真09-8
22-9	A23	BS25-3	浅鉢 A	口取山突	文様Ⅴ	滑	○	○	第2層	写真09-9
22-10	A36	BS25-3	浅鉢 A	口平	文様Ⅰ?	滑	○	○	第2層	写真09-10
22-11	A44	BT26-3	浅鉢 A	口取山突	?	滑	○	○	第2層	写真09-11
22-12	A87	CA27-3	浅鉢 A	口平	文様Ⅱ	滑	○	○	第2層	写真09-12
22-13	A81	BS26-3	浅鉢 A	口取山突	文様Ⅳ	滑	○	○	第2層	写真09-13
22-14	A35	CC28-3	浅鉢 A	口		LR 磨	-	-	第2層	写真09-14
22-15	A475	CE25-3	浅鉢 A	口取山突	文様Ⅱ	滑	○	○	第2層	写真09-2
22-16	A476	BS25-20-2	浅鉢 A	口取山突	文様Ⅴ	滑	○	○	第2層	写真09-1

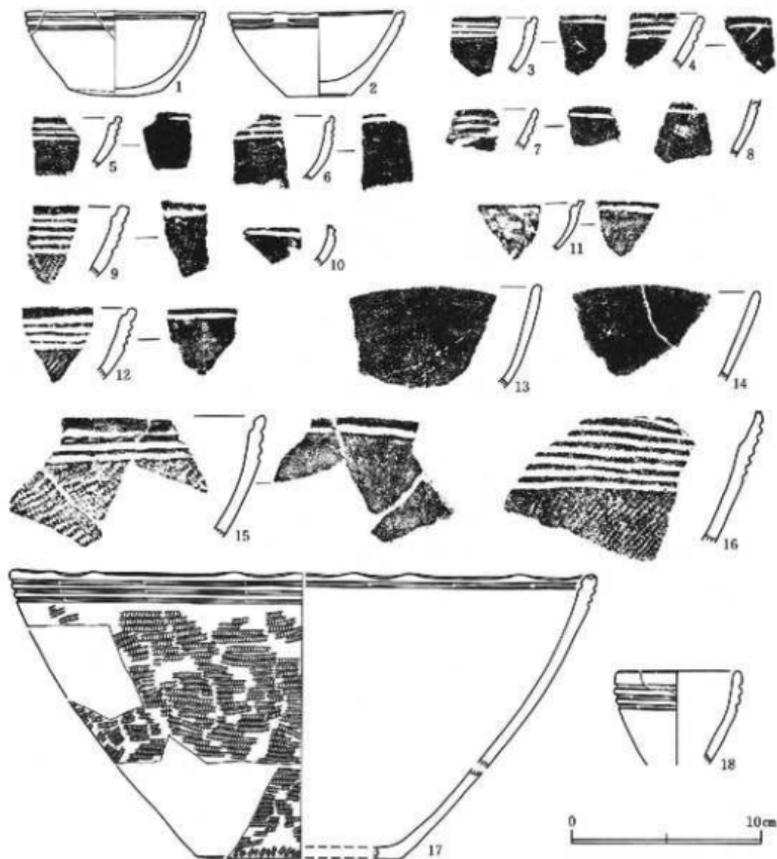
第22回 包含層地区第3層出土縄文土器(9)



图录号	发掘编号	出土地区·层位	器形	部位与纹饰	纹饰	釉文	口沿	器底	胎色	采集地点
23-1	A131	BS06-3	钵形 A	口沿(1条)	素	-	○	-	黑胎	写真09-13
23-2	A49	CR27-3	钵形 A	口平	文斜1	-	○	○	黑胎	写真09-15
23-3	A85	BT26-2	钵形 A	口沿山尖	素	○	○	○	黑胎	写真09-17
23-4	A30	GT26-3	钵形 A	口沿尖	文斜1(5条)	素	○	○	黑胎	写真09-18
23-5	A40	CA25-3	钵形 A	口平	文斜1(5条)	L.R.斜	-	○	黑胎	写真09-19
23-6	A12	BT29CR23-3	钵形 A	口山向	文斜1(4条)	素	○	○	黑胎	写真09-20
23-7	A43	BT26-3	钵形 A	口平	文斜1	素	-	○	黑胎	写真09-21
23-8	A24	BT23-3	钵形 A	口平	文斜1(2条)	L.R.斜	-	○	黑胎	写真09-22
23-9	A30	CR40-3	钵形 A	口沿山尖	素	-	○	○	黑胎	写真09-24
23-10	A19	BS25-3	钵形 A	口平	文斜1(1条)	素	-	○	黑胎	写真09-26
23-11	A47	CR15-3	钵形 A	口山尖	文斜1(1条)	L.R.斜	○	○	黑胎	写真09-27
23-12	A475	CR27-3	钵形 C	口平	文斜1	L.R.斜	-	○	黑胎	写真09-29

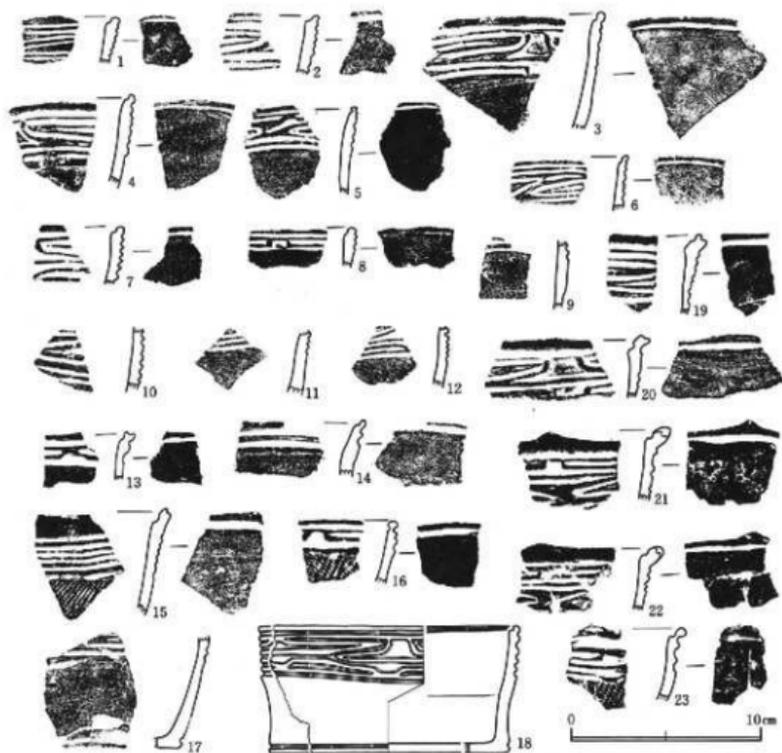
第23图 包含层地区第3层出土陶土器(10)

IV章 1 包含層地区



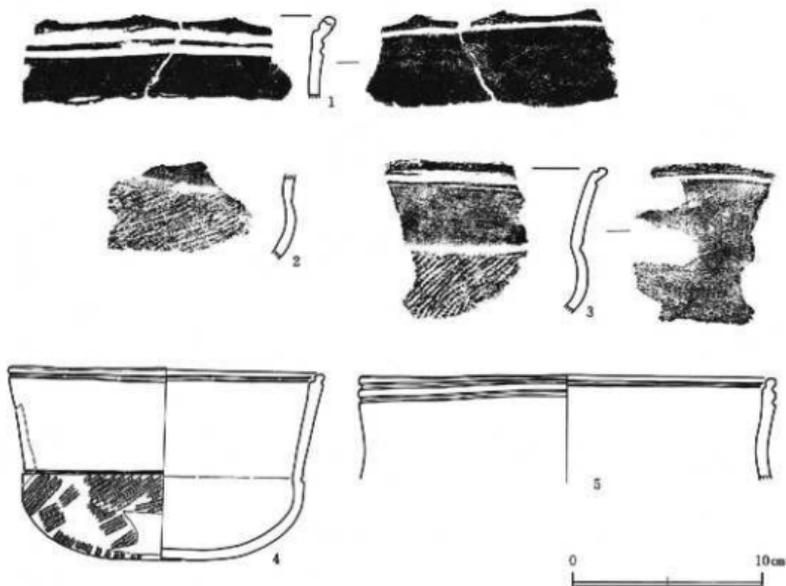
图例号	图例名称	出土地区·层位	胎形	胎体上纹饰特征	纹饰	胎文	口沿	底状	备注	写真图版
24-1	A465	B227-30-1	钵形C	口平	文饰1(白绘)	素	-	○		高田图 写真22-6
24-2	A412	CE20-3	钵形C	口偏直	文饰1	素	○	○		高田图 写真21-2
24-3	A43	CE28-3	钵形C	口平	文饰1(白绘)	素	-	○		高田图 写真28-1
24-4	A47	BS25-3	钵形C	口平	文饰1(白绘)	素	-	○		高田图 写真28-2
24-5	A155	BS06-3	钵形C	口平	文饰1	素	-	○		高田图 写真28-3
24-6	A56	BT28-3	钵形C	口平	文饰1	素	-	○		高田图 写真28-4
24-7	A149	BS25-3	钵形C	口平	?	素	-	○		高田图 写真28-5
24-8	A211	BS25-3	钵形C	口平		素	-	○		高田图 写真28-6
24-9	A149	CC23-3	钵形C	口平	文饰1	L.R.素	-	○		高田图 写真28-7
24-28	A145	BS25-3	钵形C	口平		素	-	○		高田图 写真28-8
24-11	A56	BT27-3	钵形C	口平	胎文	素	-	○		高田图 写真28-9
24-12	A143	BS25-3	钵形C	口平	文饰1	L.R.素	-	○		高田图 写真28-10
24-13	A76	CC20-3	钵形C	口平		素	-	○		高田图 写真28-11
24-14	A79	CC20-3	钵形C	口平		素	-	○		高田图 写真28-12
24-15	A8	CD06-3	钵形C	口平	文饰1(白绘)	L.R.素	-	○		高田图 写真28-13
24-16	A35	BS25-3	钵形C	口平	文饰1(白绘)	L.R.素	-	○		高田图 写真28-14
24-17	A479	CE28-30-3	钵形C	口偏直	文饰1(白绘)	L.R.素	○	○		高田图 写真28-16
24-18	A481	CE23-3	钵形土器	口平	文饰1(白绘)	素	-	○		高田图 写真28-18

第24图 包含層地区第3層出土縄文土器(11)



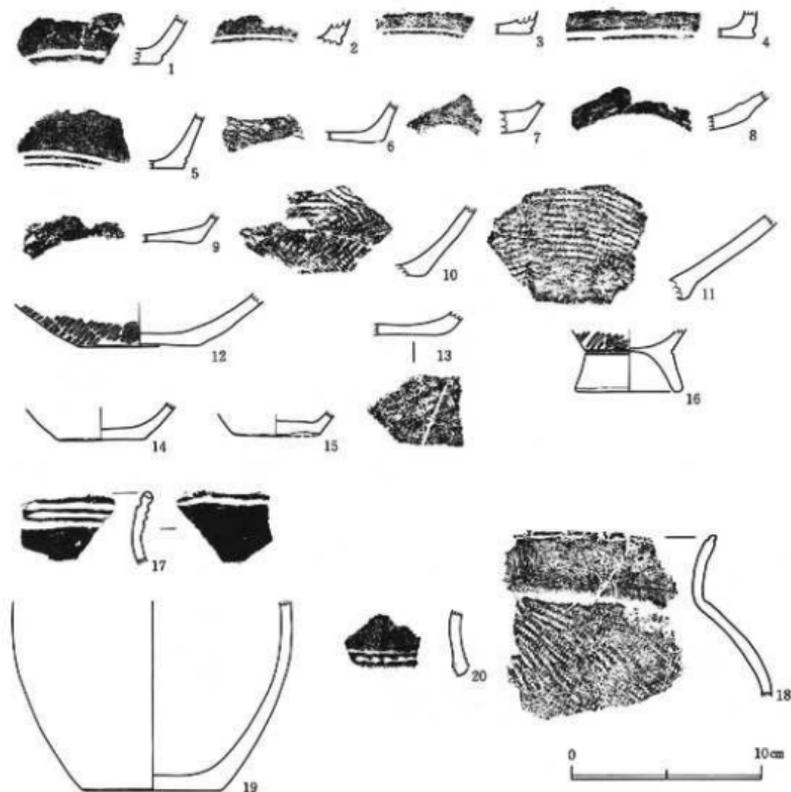
図番号	発掘番号	山・地区・層位	図形	部位・口縁形状	文様	拍文	口流	底文	備考	写真図版
25-1	A119	DT20-3	残片 D	口平	?	無	—	○		写真11-1
25-2	A18	CB24-3	残片 D	口平	?	無	—	○		写真11-2
25-3	A309	CA19-3	残片 D	口平	文様IV	無	—	○		写真11-3
25-4	A107	CA19-3	残片 D	口平	文様IV	無	—	○		写真11-4
25-5	A82	BT24-1	残片 D	口平	?	無	—	○		写真11-5
25-6	A47	BT29-3	残片 D	口平	文様V?	無	—	○		写真11-6
25-7	A131	CE26-3	残片 D	口平	文様E?	無	—	○		写真11-8
25-8	A60	CE17-3	残片 D	口山突	文様E	無	—	○		写真11-7
25-9	A284	CD26-3	残片 D	斜	?	無	—	—		写真11-9
25-10	A770	BT28-3	残片 D	斜	?	無	—	—		写真11-10
25-11	A362	BS25-3	残片 D	斜	?	無	—	—		写真11-11
25-12	A263	CE28-3	残片 D	斜	?	無	—	—		写真11-12
25-13	A11	CB26-3	残片 D	口山突?	文様E	無	○	○		写真11-13
25-14	A40	CA25-3	残片 D	口平	文様I	無	—	○		写真11-14
25-15	A15	BT22-3	残片 D	口平	文様I (拍文)	LR 拍	○	○		写真11-15
25-16	A148	BS27-3	残片 D	口平	文様E	LR 拍	—	○		写真11-16
25-17	A374	CA21-3	残片 D	口・凸	無	無	—	—		写真11-17
25-18	A481	BS24-3	残片 D	口平	文様VI	無	—	○		写真11-18
25-19	A11	CA21-3	残片 E	口平	?	無	○	○		写真11-19
25-20	A41	CR26-3	残片 E	口山突	文様V	無	○	○		写真11-20
25-21	A30	CA28-3	残片 E	口山突	文様III	無	○	○	内外側縁化粧部	写真11-21
25-22	A98	CA26-3	残片 E	口山突	文様V	無	○	○		写真11-22
25-23	A147	CA26-3	残片 E	口?	文様E	LR 拍	—	○		写真11-23

第25図 包含層地区第3層出土縄文土器 (12)



図番号	発掘番号	出土地区・層位	器形	部位・口縁形状	文様	地文	口注	鼻注	備考	写真原簿
26-1	A70	BSECA27-3	浅鉢 E	口縁	文様 I (白)	黒	○	○		第2層 写真31-25
26-2	A303	BS24-3	浅鉢 F	胴		LR 黒	-	○		第2層 写真31-24
26-3	A302	BS24-3	浅鉢 F	口縁	文様 I (白)	LR 黒	-	○		第2層 写真31-26
26-4	A402	BS25-3	浅鉢 F	口縁	文様 I (白)	LR 黒	-	○		第2層 写真31-3
26-5	A403	BT31-3	浅鉢 F	口縁	文様 I (白)	黒	-	○		第2層 写真31-7

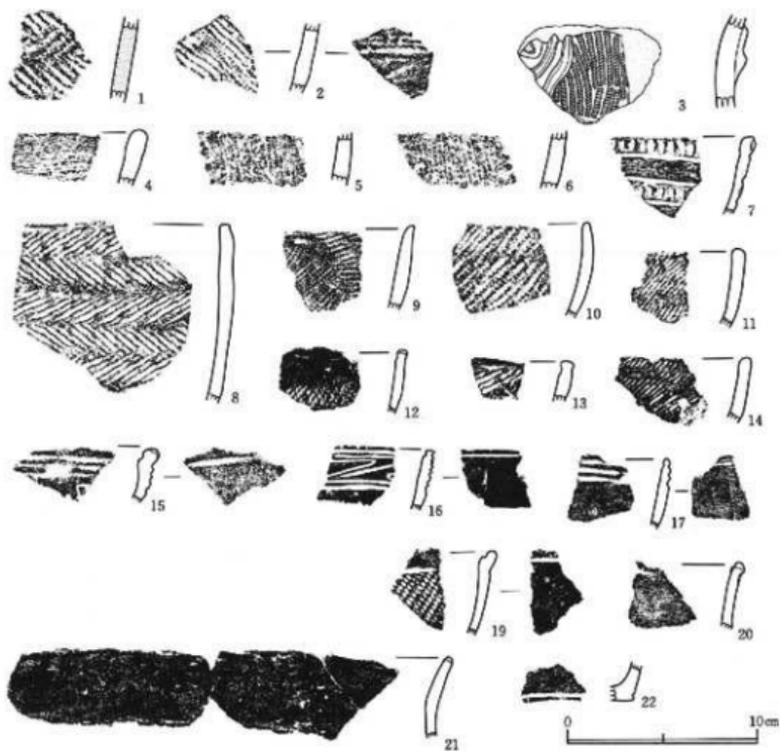
第26図 包含層地区第3層出土縄文土器 (13)



法庫号	発掘番号	出土地区・層位	器形	部位と口縁形状	文様	地文	口徑	高さ	備考	写真図版
27-1	A187	CA29-3	浅鉢	胴・底	無	無	—	—	第2群	写真91-27
27-2	A184	BT23-3	浅鉢	胴・底	無	無	—	—	第2群	—
27-3	A185	BT23-3	浅鉢	胴・底	無	無	—	—	第2群	—
27-4	A181	CR23-3	浅鉢	胴・底	無	無	—	—	第2群	写真91-36
27-5	A185	BT23-3	浅鉢	胴・底	無	無	—	—	第2群	写真91-29
27-6	A203	BS36-3	浅鉢	胴・底	—	1.原産	—	—	第2群	—
27-7	A379	CD30-3	浅鉢	胴・底	無	—	—	—	第2群	—
27-8	A388	BR25-3	浅鉢	胴・底	無	—	—	—	第2群	—
27-9	A377	CA16-3	浅鉢	胴・底	無	—	—	—	第2群	—
27-10	A158	BR~CR27-3	浅鉢	胴・底	—	1.R.赤	—	—	第2群	写真91-31
27-11	A144	BT24-3	浅鉢	胴・底	—	1.R.赤	—	—	第2群	写真91-38
27-12	A429	BT23-3	浅鉢	胴・底	—	1.R.産	—	—	第2群	—
27-13	A416	BR26-3	浅鉢	胴・底	無	—	—	—	第2群	—
27-14	A456	BT28-3	浅鉢	胴・底	無	—	—	—	第2群	—
27-15	A435	CD36-3	浅鉢?	胴・底	無	—	—	—	第2群	—
27-16	A458	CD35-3	台付鉢	胴・底	—	1.R.産	—	—	第2群	写真91-1
27-17	A46	CC36-3	壺	口・胴	文様付	無	○	○	第2群	写真91-3
27-18	A366	CD41-3	壺	口・胴	—	1.R.産	—	○	第2群	写真91-2
27-19	A484	CA26-3	壺	胴・底	無	—	—	—	第2群	写真91-4
27-20	A319	CC36-3	壺	胴	無	—	—	—	第2群	—

第27图 包含層地区第3層出土縄文土器 (14)

IV章 1 包含層地区



図番号	発掘番号	出土地・部位	器形	部位と口縁形状	文様	地文	口流	裏文	備考	写真掲載
28-1	A23	XX-1	深鉢-	内	羽状横文	黒・L赤	-	-	縁部欠入	第1層 写真22-5
28-2	A29	XX	深鉢-	内	横文条線	L赤	-	-	縁部欠入	第1層 写真22-6
28-3	A60	内鉢	深鉢-	内		L赤	-	-	第1層	写真22-7
28-4	A34	BQ-CE17-28-1	深鉢-	口平		赤線	-	-	第1層	写真22-8
28-5	A30	BQ-CE17-28-1	深鉢-	内		赤線	-	-	第1層	写真22-9
28-6	A30	BQ-CE17-28-1	深鉢-	内		赤線	-	-	第1層	写真22-10
28-7	A32	BR-CE27-2-1	深鉢-	口平		黒	-	-	第1層	写真22-11
28-8	A36	XX	深鉢D	口平	羽状横文	紅L赤	-	-	第1層	写真22-15
28-9	A105	XX-1	深鉢D	口平		L赤	-	-	第1層	写真22-12
28-10	A118	XX-1	深鉢E	口平		L赤	-	-	第1層	写真22-13
28-11	A102	XX	深鉢D	口平		L赤	-	-	第1層	写真22-14
28-12	A11	BQ-CE17-28-1	浅鉢D	口小底		L赤	-	-	第1層	写真22-16
28-13	A34	XX	深鉢D	口平		L赤	-	-	第1層	写真22-17
28-14	A114	XX	深鉢D	口平		L赤	-	-	第1層	-
28-15	A144	BQ-CE17-28-1	浅鉢E	口縁尖突	?	黒	-	○	第1層	写真22-18
28-16	A35	BR-CE17-28-1	浅鉢D	口平	?	黒	-	○	第1層	写真22-19
28-17	A48	BQ-CE17-28-1	浅鉢D	口平?	文様瓦	黒	-	○	第1層	写真22-20
28-18	欠席									
28-19	A39	BR-CE27-28-1	深鉢B	口小底?		L赤	-	○	第1層	写真22-21
28-20	A109	XX-1	深鉢A	口縁尖突?		黒	-	-	第1層	写真22-22
28-21	A31	XX	深鉢A	口小底		黒	-	-	第1層	写真22-23
28-22	A146	BR-CE27-2-1	浅鉢D	側・底		黒	-	-	第1層	-

第28图 包含層地区第1層出土陶土器(15)

[深鉢形土器底部] 3層 (第20図1～15, 第21図1～12)

第20図・21図は深鉢形土器の底部である。大半がミガキによる無文の底部であるが、網代底のもの(第20図10・13・14)もある。

<浅鉢形土器>

浅鉢形土器は、器形から以下のようにA～Fの6類に細分(第31図第2群土器浅鉢形土器分類図)した。

[浅鉢形土器A類] 4層 (第13図8・10) 3層 (第22図8～16・第23図1～11)

胴部が内彎気味に立ち上がり、口縁部が略直立するもの。

口縁部には山形突起を持つもの(第22図11、23図4・6・11)、双頭山形突起(2個一対の低平な山形突起を持つもので突起間に凹部がある。突起部が消滅し凹部のみのもものもある)を持つもの(第22図9・13・15・16、第23図1・3・4・9)、平縁のもの(第22図8・10・12、第23図2・5・7・8・10)とがある。いずれも、内面に一条の沈線を巡らしている。口唇部には、沈線を巡らすもの(第22図8～13、15・16、第23図3・4・6・11)があり、山形突起をもつものは頂部、双頭山形突起を持つものは凹部を除いて沈線を巡らしている。沈線のないもの(第23図1・2・5・7～10)もある。底部と胴部が明瞭でなく、沈線を巡らすもの(第22図15)もある。

[浅鉢形土器B類] 3層 (第22図1～7) 1層 (第28図15)

胴部が内彎気味に立ち上がり、口縁部は屈曲してわずかに外反するもの。

口縁には双頭山形突起のあるもの(第22図1～4・6、第28図15)と平縁のもの(第22図5・7)がある。いずれも内面に沈線を一条巡らし、1点(第22図6)を除いて口唇部にも沈線がある。双頭山形突起を持つものは凹部を除いて沈線が巡る。

[浅鉢形土器C類] 4層 (第13図12) 3層 (第23図12、第24図1～17)

胴部が外傾して立ち上がり、そのまま口縁部が外傾するもの。

口縁部は平縁のもの(第23図12、第24図1～16・18)が大部分であるが、双頭山形突起を持つもの(第24図17)もある。内面に沈線を一条巡らすもの(第23図12・第24図1・2・3・7・9・11・12・15・17)と無いもの(第24図13・14)とがある。双頭山形突起を持つものは凹部を除いた口唇部に沈線(第24図17)があるが他のものにはない。口縁部文様帯は、工字文を配するもの(第23図12)もあるが、大部分は2～7条の平行に巡る沈線を配している。沈線下の胴部は(第23図12、第24図9・12・15～17)のように縄文を施文するものと、無文のもの(第24図1～8・10・11・13・14)がある。

[浅鉢形土器D類] 4層 (第13図9・11・18) 3層 (第25図1～18) 1層 (第28図16・17・22)

胴部～口縁部へと略直立するもの。

口縁部は平縁のもの（第13図9、第25図1～7・14～16・18、第28図16）双頭山形突起をもつもの（第13図18、第25図8）とがあり、すべて内面に一条の沈線を持ち、口唇部に沈線を持つもの（第13図11・18、第25図13・15）もあり、双頭山形突起を持つものは凹部を除いた口唇部に沈線を持つもの（第13図18）と、沈線のないもの（第25図8）がある。

[浅鉢形土器E類] 3層（第25図19～23、第26図1）

胴部～口縁部へと略直立するが、口縁部が屈曲しわずかに外反するもの。

口縁部は山形突起を持つもの（第25図21・22、第26図1）、平縁のもの（第25図23）、双頭山形突起のもの（第25図20）とがある。1点（第25図23）を除いてすべて口唇部に沈線があり、すべて内面に一条の沈線を巡らす。

[浅鉢形土器F類] 3層（第26図2～5）

胴部は内彎し丸みをもつが大きく屈曲して口縁部が立ち上がるもの。

口縁部は平縁のものだけで、内面に一条の沈線をめぐらす、口唇部には沈線がない。胴部と口縁部の屈曲部に沈線を巡らすもの（第26図3・4）と、軽い段状のもの（第26図2）とがある。口縁部外面に沈線を巡らすもの（第26図3）もある。胴部は縄文が施文されている。

[浅鉢形土器底部] 3層（第27図1～15）

第27図1～15、浅鉢形土器の底部資料である。D・E類の底部と考えられるもの（第27図1～5）と、A・B・C類の底部と考えられるもの（第27図6～15）とがある。いずれも無文である。D・E類と考えられるもの（第27図1～5）は、胴部と底部の境界に沈線を1～2条巡らしている。

[浅鉢形土器の文様]

破片資料が多いため、全体の文様構成を知る手がかりになるものが少ない。文様構成が略判明するものを中心に文様をまとめたのが第29図である。これら、文様構成をみても、A～Eの5つの文様要素からなっている。

A 横位沈線

口縁に平行して数条横位に巡る沈線

B 沈線間彫去

数条の横位沈線間を彫去したもの。2条の沈線間を彫去したものが多く、数条にわたるものもある。反転沈線と結合するものもある。

C 台形状彫去

沈線間彫去の変形で、台形状に彫去した独立する文様要素。反転沈線と結合するものもある。

D 反転沈線

横位沈線の変形で、上・下の横位沈線が曲折して反転状に展開する独立した文様要素。間に横位沈線をはさむものもある。

E 斜行沈線

各文様要素間に配置される、斜行する沈線。

これら5種の文様要素の組み合わせから、以下のように7種類の文様が認められた。

文様要素種別	文様Ⅰ	文様Ⅱ	文様Ⅲ	文様Ⅳ	文様Ⅴ	文様Ⅵ	文様Ⅶ
A横位沈線	○	○	○	○	○	○	○
B沈線間彫去		○	○	○	○	○	○
C台形状彫去				○	○		○
D反転沈線			○	○	○	○	○
E斜行沈線					○	○	

文様Ⅰ

口縁と平行に巡る数条の横位沈線のみのも。一条のものもある。

文様Ⅱ (第29図1～9)

数条の沈線間の一部を彫去したもので、この中には二条の沈線を彫去するもの(第29図5)もある。また、反対向に一对になっているもの(第29図9)もある。この文様は数単位にわたりくりかえし展開(第29図1・6)している。

文様Ⅲ (第29図10)

沈線間彫去と反転沈線の組み合わせ(第29図10)である。

文様Ⅳ (第29図11～14)

沈線間彫去・台形状彫去・反転沈線の組み合わせ(第29図11～13)である。反転沈線間に沈線をはさむもの(第29図12・14)もある。

文様Ⅴ (第29図15～16)

反転沈線と結合する沈線間彫去・台形状彫去・斜行沈線の組み合わせである。(第29図15)

文様Ⅵ (第29図17～19)

沈線間彫去・反転沈線・斜行沈線の組み合わせである。(第29図16～18)

文様Ⅶ (第29図20～21)

反転沈線と結合する沈線間彫去・台形状彫去との組み合わせである。(第29図19・20)

[浅鉢形土器の器形と文様]

器形と文様との関係をまとめると下のようになる。

文様 器形	文様 I	文様 II	文様 III	文様 IV	文様 V	文様 VI	文様 VII
A類	○	○			○	○	
B類	?			○			
C類	○	○					
D類	○	○		○			○
E類	○		○	○		○	
F類	○						

(壺形土器) 3層 (第27図17~20)

全体の器形がわかるものはないが、口縁部が外反し(第27図17・18)、胴部がやや膨らむ(第27図19)ようである。低い突起を持ち、口唇部直下の口縁部に工字状文があり、胴部は無文のもの(第27図19・20)と縄文施文(第27図18)とがある。

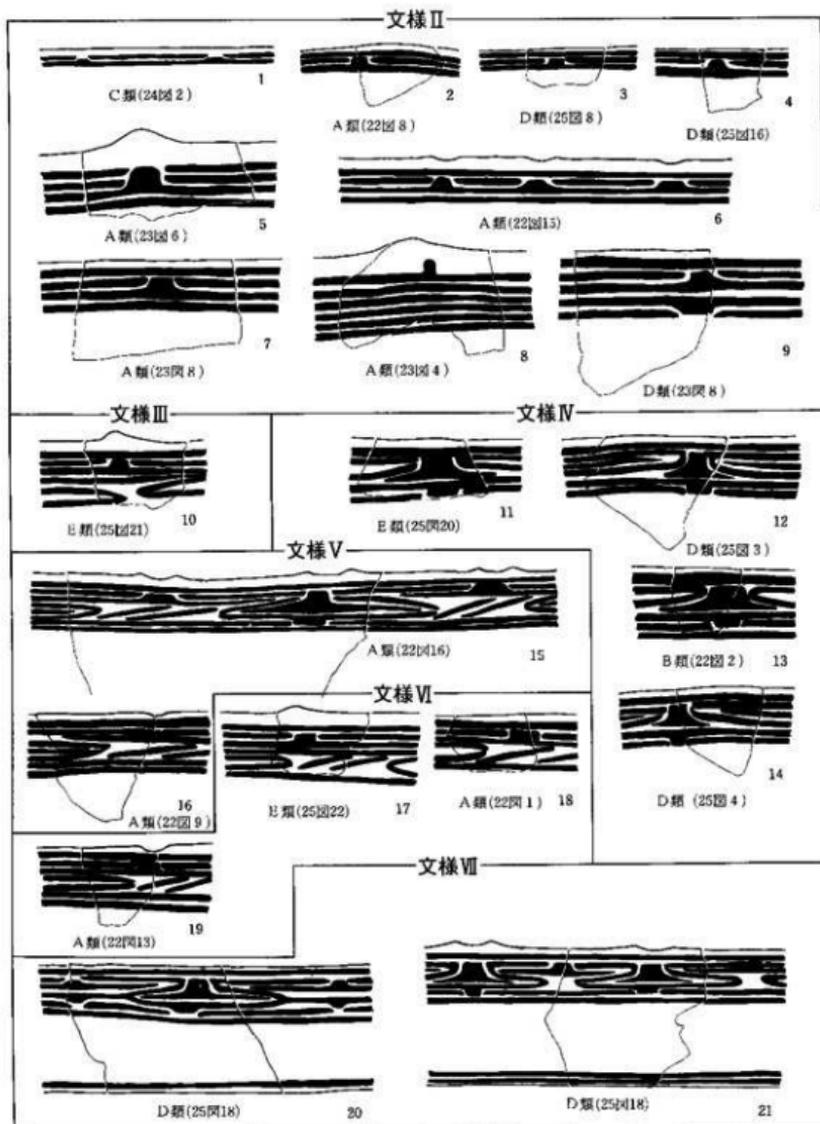
(台付土器) 3層 (第27図16)

1点のみの出土である。胴部と台部の境界に沈線を1条巡らしている。胴部上半~口縁部は不明である。

以上、第2群土器について検討したが、編年の位置付けは、V章考察の項で行う。

第2群土器類別集計

深鉢形土器				浅鉢形土器						
器形類別	点数 (%)	口縁部	口唇部	器形類別	点数 (%)	口縁部	口唇部			
A類	21点 (24.4%)	小瓶状	14点 (66.7%)	炊飯	22点 (26.3%)	平鉢	8点 (40.0%)	炊飯	19点 (86.4%)	
		平鉢	7点 (33.3%)	虎縁炊飯		4点 (18.2%)	山形突起	4点 (20.0%)	煮	2点 (9.1%)
				斜+炊		2点 (9.1%)	双線山形突起	8点 (40.0%)		
				不明		2点 (9.1%)	平鉢	2点 (9.1%)	沈線	7点 (31.8%)
B類	33点 (60.7%)	小瓶状	17点 (77.3%)	炊飯	19 (22.9%)	双線山形突起	6点 (75.0%)	煮	1点 (12.0%)	
		山形突起	7点 (21.3%)	虎縁炊飯		4点 (21.1%)	平鉢	18点 (94.7%)	炊飯	3点 (15.8%)
		平鉢	7点 (21.3%)	斜+炊		16点 (84.0%)	双線山形突起	1点 (5.3%)	煮	13点 (68.4%)
				不明		1点 (3.1%)	平鉢	12点 (63.2%)	沈線	3点 (15.8%)
C類	1 (1.2%)	小瓶状	1点 (100%)	炊飯	24点 (28.9%)	山形突起	2点 (8.3%)	煮	13点 (54.2%)	
							平鉢	22点 (91.7%)	沈線	3点 (12.5%)
D類	26点 (60.2%)	小瓶状	7点 (26.9%)	煮	6点 (7.2%)	平鉢	1点 (16.7%)	炊飯	4点 (66.7%)	
		平鉢	19点 (69.1%)	斜+炊		5点 (83.3%)	山形突起	3点 (50.0%)	煮	1点 (16.7%)
E類	2点 (2.3%)	平鉢	2点 (100%)	煮	4点 (4.8%)	平鉢	4点 (100%)	煮	4点 (100%)	
F類	1点 (1.2%)	小瓶状	1点 (100%)	炊飯	33点 (100%)	平鉢	46点 (64.3%)	沈線	29点 (42.4%)	
							山形突起	7点 (9.8%)	煮	39点 (57.6%)
合計	86点 (100%)	小瓶状	29点 (60.2%)	炊飯	24点 (28.9%)	平鉢	16点 (58.3%)	沈線	39点 (57.6%)	
		山形突起	7点 (4.7%)	虎縁炊飯		4点 (16.7%)	山形突起	7点 (25.0%)	煮	13点 (37.5%)
		平鉢	22点 (31.4%)	斜+炊		18点 (55.0%)	双線山形突起	16点 (59.3%)		
				不明		3点 (4.2%)				
			29点 (40.2%)							



第29図 第2群土器浅鉢形土器文様模式図

深鉢形土器の分類

類別	器形	模式図	口縁部	内面 (沈線)	口縁部と 胴部区画	地文
深鉢形 A類	胴部内彎 口縁部「く」字 状屈曲大きく外 反		小波状口 縁 (多) 平縁 (少)	無 (多) 沈線 (少)	沈線 沈線状段 軽い段 不明瞭	単節縄文
深鉢形 B類	胴部やや内彎 口縁部屈曲して わずかに外反		小波状口 縁 (多) 山形突起 (少) 平縁 (少)	沈線 一～ 二条	沈線 沈線状段 軽い段 不明瞭	単節縄文 無文 (小型)
深鉢形 C類	胴部やや内彎 口縁部直立屈曲 無		小波状口 縁	沈線 一条	沈線	単節縄文
深鉢形 D類	胴部外傾 口縁部外傾		平縁 (多) 小波状口 縁 (小)	無	無	単節縄文
深鉢形 E類	胴部やや外傾 口縁部やや内彎		平縁	無	無	単節縄文
深鉢形 F類	胴部やや内彎気 味 口縁部やや外傾		平縁	無	沈線	無 文

第30図 第2群土器深鉢形土器分類図

浅鉢形土器の分類

類別	器形	模式図	口縁部	内面 (沈線)	口唇部 (沈線)	文様
浅鉢形 A類	胴部内彎 口縁部直立		平縁 双頭山形突起 山形突起	沈線 一条	沈線 (半) 無 (半)	文様Ⅰ 文様Ⅱ 文様Ⅴ 文様Ⅵ
浅鉢形 B類	胴部内彎 口縁部屈曲わずかに外反		双頭山形突起 (多) 平縁 (少)	沈線 一条	沈線 (多) 無 (少)	文様Ⅰ？ 文様Ⅳ
浅鉢形 C類	胴部外傾 口縁部外傾		平縁 (多) 双頭山形突起 (少)	沈線 一条	沈線 (少) 無 (多)	文様Ⅰ 文様Ⅱ
浅鉢形 D類	胴部～口縁部 略直立		平縁 (多) 双頭山形突起 (少)	沈線 一条	無 (多) 沈線 (少)	文様Ⅰ 文様Ⅱ 文様Ⅳ 文様Ⅵ
浅鉢形 E類	胴部～口縁部 略直立 口縁部わずかに 屈曲わずかに外 反		山形突起 双頭山形 平縁	沈線 一条	沈線 (多) 無 (少)	文様Ⅰ 文様Ⅲ 文様Ⅳ 文様Ⅵ
浅鉢形 F類	胴部内彎 口縁部外傾		平縁	沈線 一条	無	(口縁部) 文様Ⅰ (胴部) 単節縄文

第31図 第2群土器浅鉢形土器分類図

② 土製品 (第32図1~3)

土偶の破片が3点出土している。1~3とも中空土偶の脚部破片で1の足は刻目を入れて指を表現し足首に二条の沈線を描いている。2・3は1の上部破片と考えられる。4は直径2.2 cm、厚さ1.2 cmの土玉で中心部に径0.5 cmの貫通孔がある。

③ 剥片石器とその素材 (第33~49図)

[石 鏃] (第33図1~4)

1は先端部・基部とも欠損しているため全体的形態は不明である。2は茎基部のえぐりが弱い凸基のもので、素材剥片の背面に礫面が残存している。3の基部は平基で側縁部がややふくらむ。全体的には鋭角三角形を呈している。4は凹基で側縁部は強くふくらむ。

[尖頭器] (第33図5)

尖頭部をもつが、石鏃よりもひと回り大型で厚みがある石器で1点出土している。左右が略対象で基部・側縁部ともに丸みをもつが尖頭部は尖る。

[石 匙] (第33図6~8)

7のつまみ部は欠損しているが、6・7ともつまみ部に対して縦方向に長い刃部が作られ末端が尖っている。6は背・腹面の全面を調整しているが、7・8は背面の側縁の調整のみである。8は礫打面下端の両側に背・腹両面からノッチを入れてつまみ部を作り出している。

[不定形石器] (第33~37図)

定形石器(石鏃・尖頭器・石匙)を除いたものを不定形石器として一括した。第33図9は両極剝離痕のある石器で、対向する縁辺が二対で、それぞれの縁辺とも線状を呈している。第33図10は楕円形の平面形態を呈し、背・腹両面に調整剝離を施し、特に背面は全面におよんでいる。第34図4は長方形を呈する剥片素材の左・右辺に部分的な調整剝離を加えたもので石筥の未製品の可能性がある。第35図3は背面右辺中心に大きな調整剝離を加え末端部を折断している。第35図6は背面左辺の一部にスクレイパーエッジがある。第36図1は腹面右辺の一部にスクレイパーエッジがあり先端は折れている。第36図2のa・bは接合資料である。背腹両面から大きな調整剝離を加えているが製作中a・bの二つに折れ、aはそのまま廃棄したがbには折れた部分を中心に調整剝離を加えている。第37図1は節理面に沿って剝離した大型の剥片素材の背腹両面の縁辺に沿って大きな交互剝離状の調整剝離を施している。背面に大きな礫面を残し、全体形が菱形を呈したチョッピングツール状の石器である。

[二次加工ある剥片] (第38~40図)

剥片の一部に調整剝離が施されている剥片である。第39図3は基辺が折断されているが、礫端片か礫面剥片と考えられる。腹面の一部に調整剝離を加えている。

[微細剝離痕ある剥片] (第40~41図)

縁辺に連続的な微細剝離痕を持つ剥片である。第41図4は背面左辺に、うろこ形や三日月形の微細な剝離痕がある。

[石 核] (第42~49図)

石核の周縁から中心に向かって求心的に剥片剝離がなされたもの(第42図2・3、第43図1)多打面から剥片剝離され、多面体を呈するもの(第42図1・第44図4・第47図1)などがある。

④ 磨製石器・礫石器・石製品

[石 棒] (第50図1)

断面形は丸みのある楕円形で、両端が欠損している。

[磨製石斧] (第50図2・3)

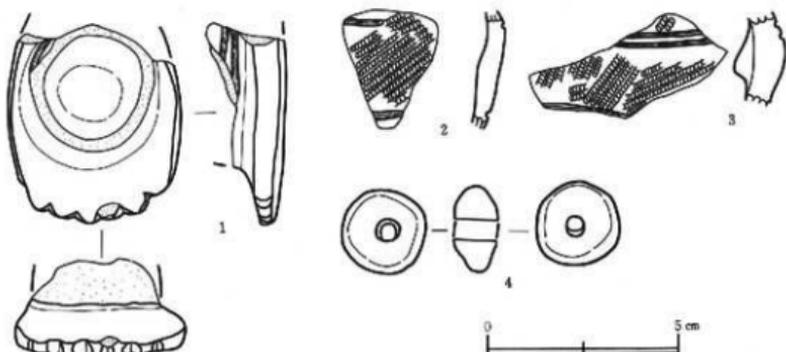
2点出土しているがいずれも破損品である。3は刃部が破損している。胴部上半より胴部下半の幅が大きく、縦断面は略並行で横断面はふくらみがある長方形で隅が丸い。頭部は丸味をもち、胴部側縁との境が不明瞭である。2は胴部上半と頭部が残存し、頭部は丸味をもち胴部側縁との境が不明瞭である。いずれも、頭部に敲打痕がある。

[凹 石] (第50図4)

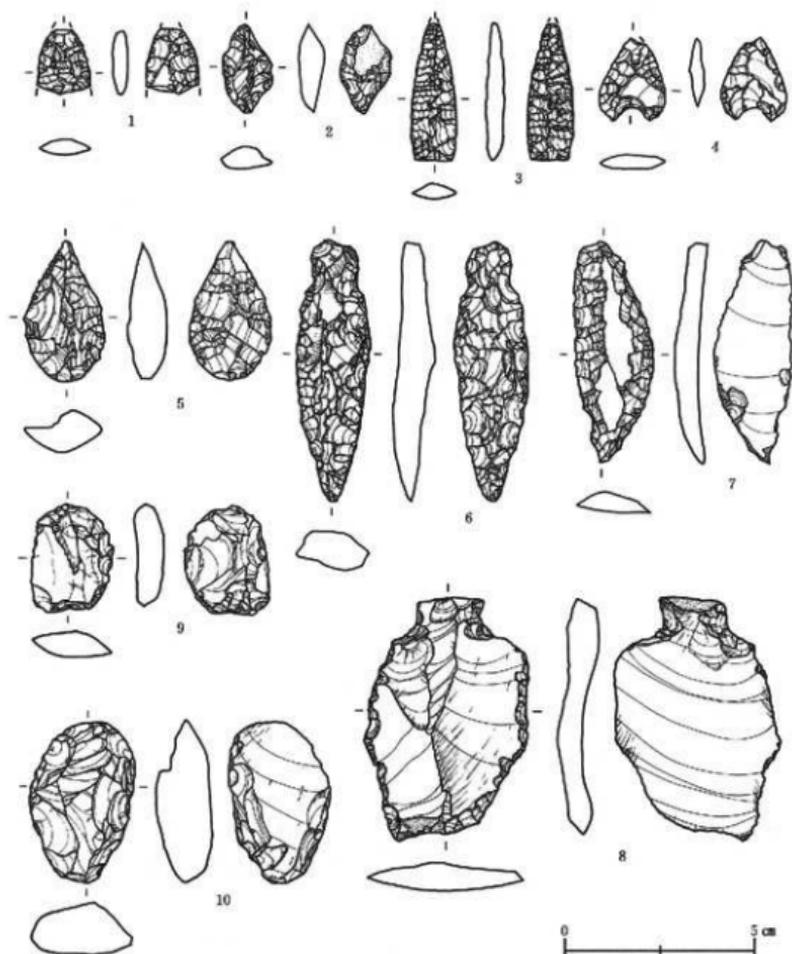
1点出土している。略円形の自然礫の両面に凹みがある。凹部の平面形は円形で、断面形はU字形である。

[磨 石] (第50図5・6、第51図1~5)

7点出土している。表・裏両面に磨面があるもの(第50図5、第51図1・2・4)と、側面に磨面を持つもの(第50図6・第51図3)とがある。第51図5は、板状に剝離する自然石の片面を磨面としており、石皿とすべきかもしれない。

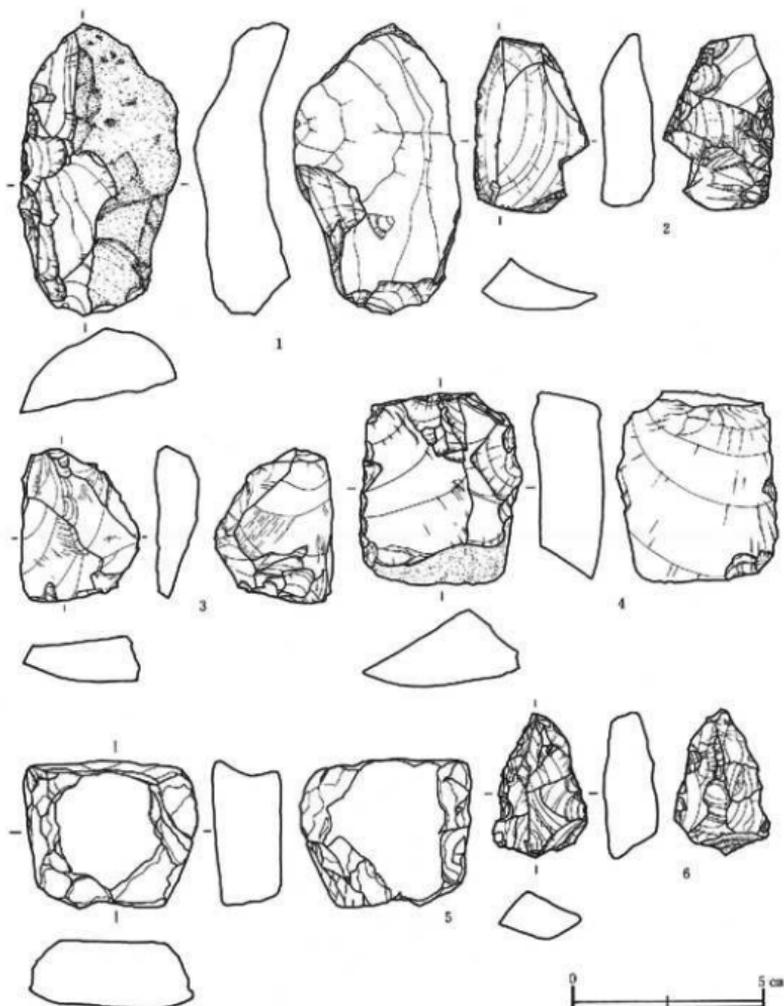


第32図 包含層地区出土土製品



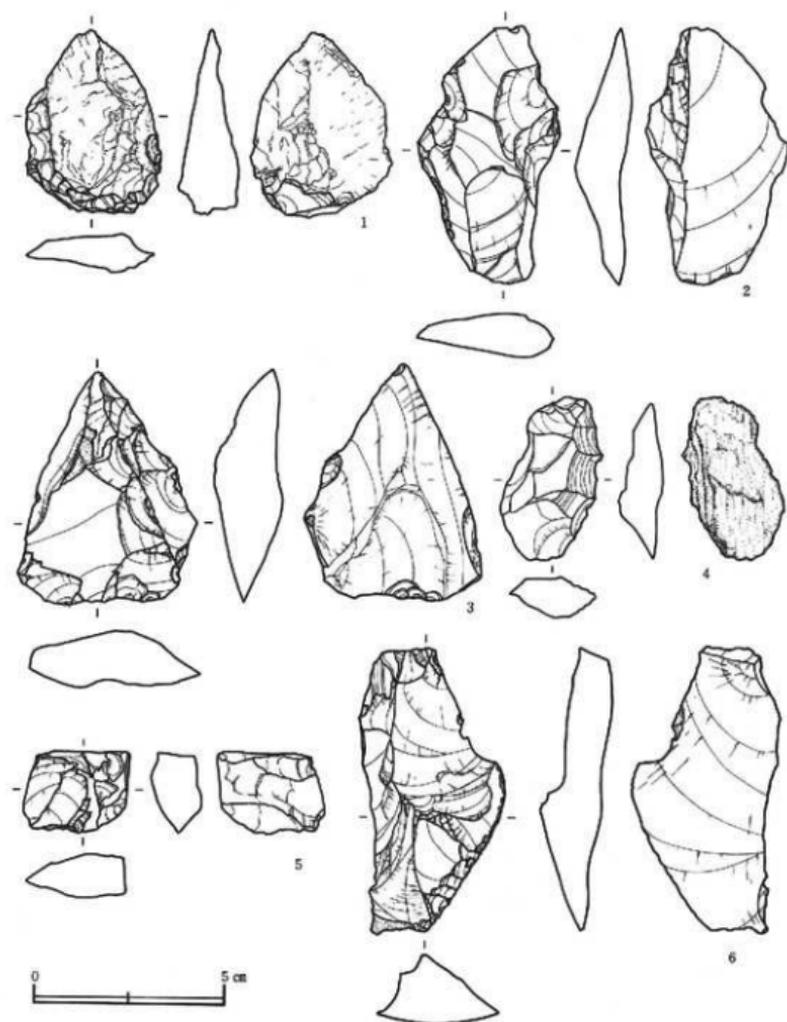
図番号	器種	出土地区・層位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真図番
33-1	石鏃	CC2a-3	K2	16.5	13.2	3.8	0.9	94-1
33-2	石鏃	SD06-1	K3	22.6	12.3	6.3	1.6	94-2
33-3	石鏃	CD03-4	K4	36.1	11.7	4.2	1.7	94-9
33-4	石鏃	栗屋	K5	21.1	16.9	3.6	1.1	94-3
33-5	矢頭部	CD20-3	K6	36.4	30.0	10.1	5.6	94-6
33-6	石匕	CC12-4	K7	64.3	19.0	9.2	16.5	94-8
33-7	石匕	XX	K8	57.1	19.8	6.9	7.3	94-7
33-8	石匕	CR22-4	K9	62.9	44.2	7.1	23.3	94-10
33-9	平笠形	栗屋	K10	37.7	21.2	6.8	4.5	94-4
33-10	平笠形	CD20-3	K11	42.8	26.4	13.1	14.9	94-5

第33図 包含層地区出土制片石器 (1)



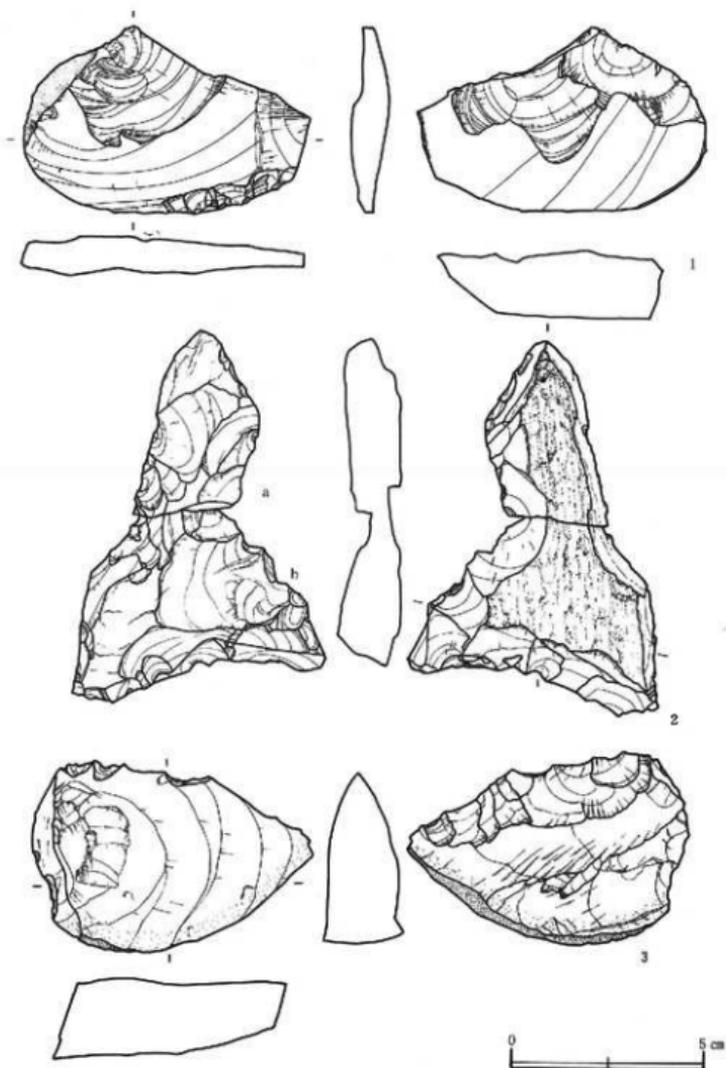
図番号	形状	出土地区・層位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真回数
34-1	不定形	湧尾	K12	77.0	71.3	8.9	87.0	35-1
34-2	不定形	CC21-4	K20	45.5	39.5	12.8	33.0	39-2
34-3	不定形	CB25-4	K26	49.3	32.2	11.3	36.8	35-3
34-4	不定形	CB25-3	K15	50.5	44.2	26.3	44.6	35-7
34-5	不定形	CB14-4	K11	38.7	41.3	17.6	38.4	35-5
34-6	不定形	XX	K27	37.0	33.4	11.9	16.3	35-4

第34図 包含層地区出土剥片石器 (2)



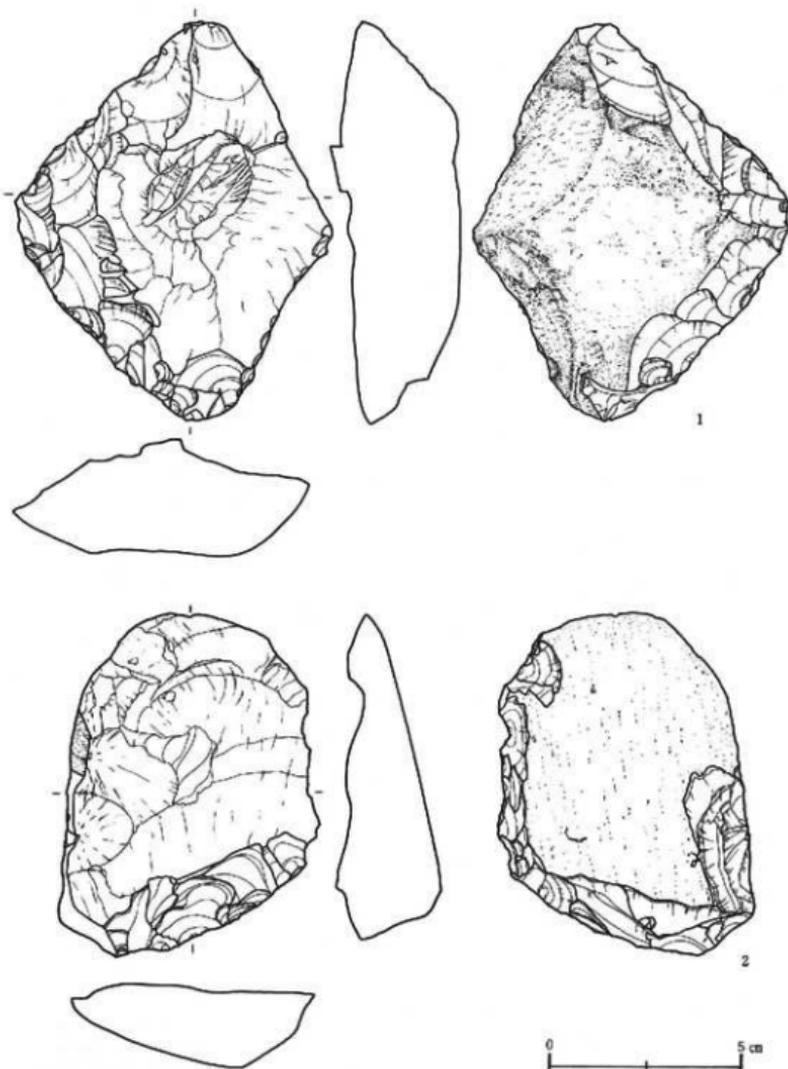
図番号	形状	出土層K・部位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真図版
35-1	不定形	CD05-3	K19	48.7	36.0	12.4	18.0	95-8
35-2	不定形	XX	K25	68.3	37.2	12.0	25.3	95-9
35-3	不定形	XX	K17	42.3	42.1	16.1	30.1	95-10
35-4	不定形	CD03-3	K20	43.6	23.1	12.4	2.6	95-9
35-5	不定形	CD03-3	K09	24.6	20.7	12.8	1.7	95-12
35-6	不定形	CD02-4	K04	71.3	71.9	17.9	37.4	95-11

第35図 包含層地区出土制片石器 (3)



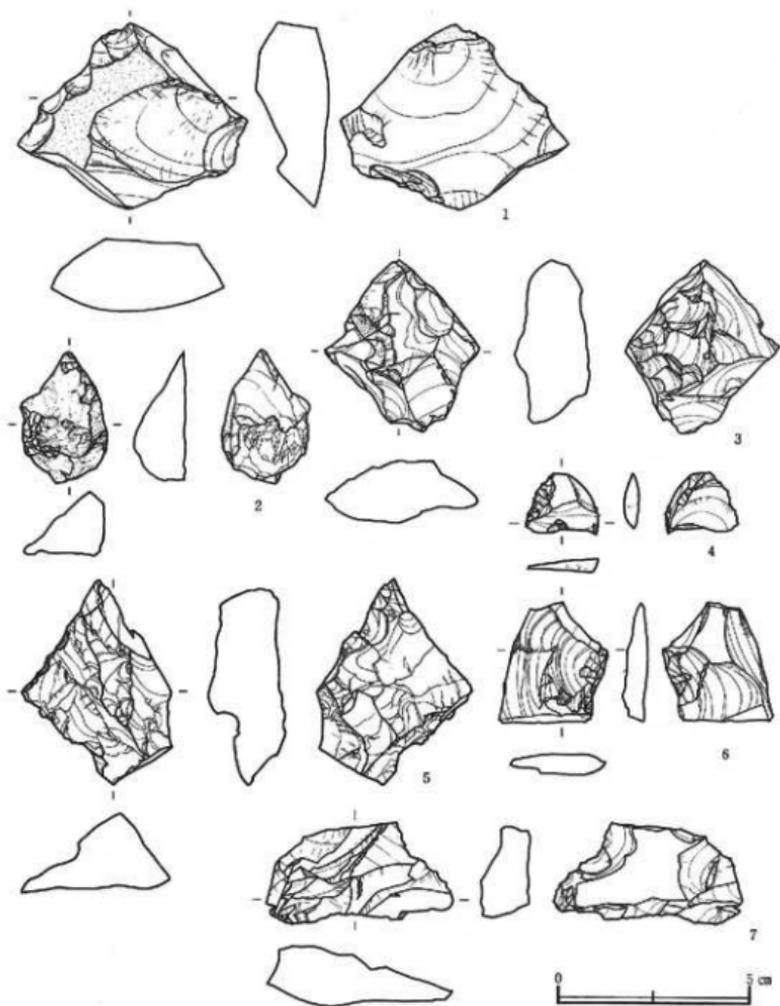
图番号	器種	出土地区・層位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真図版
36-1	不定形	CB21-4	K23	61.6	46.5	19.6	34.7	16-13
36-2	不定形	CB20-4	K16	96.4	60.7	16.7	79.1	16-17
36-3	不定形	NE23-3	K22	71.9	49.9	19.2	36.6	16-14

第36图 包含層地区出土剥片石器 (4)



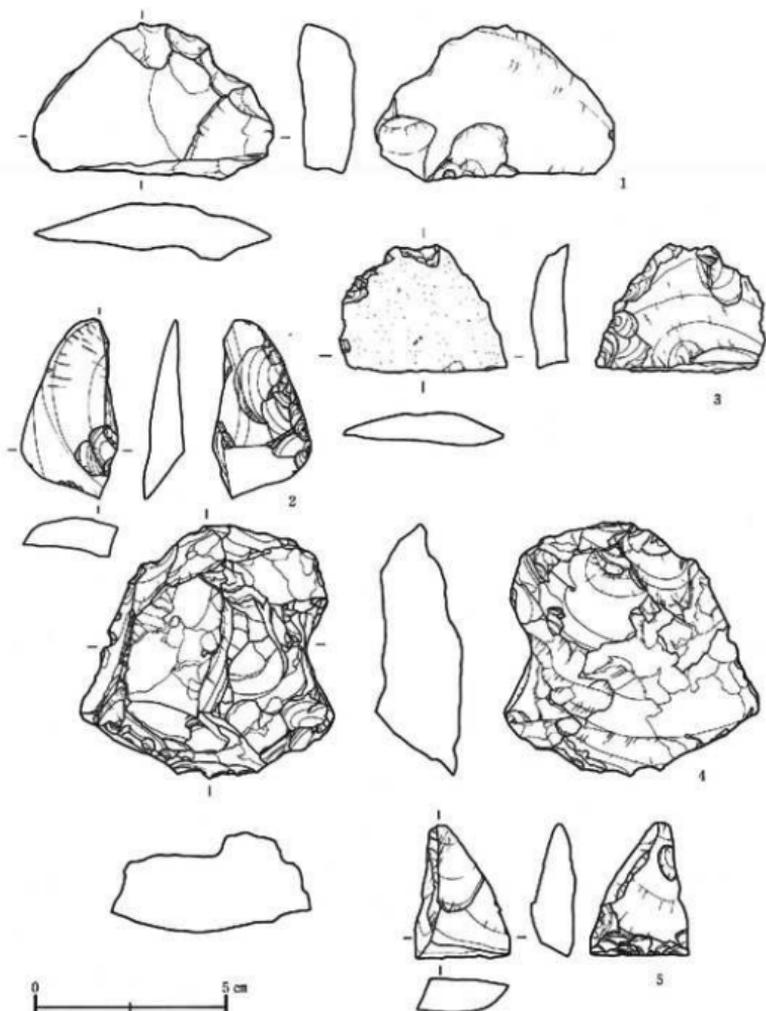
图番号	器种	出土地区・层位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真回数
37-1	不定形	CC26-3	K14	14.7	99.8	29.4	223.5	96-1
37-2	不定形	CM29-3	K13	91.3	65.9	31.6	147.0	96-5

第37图 包含層地区出土制片石器 (5)



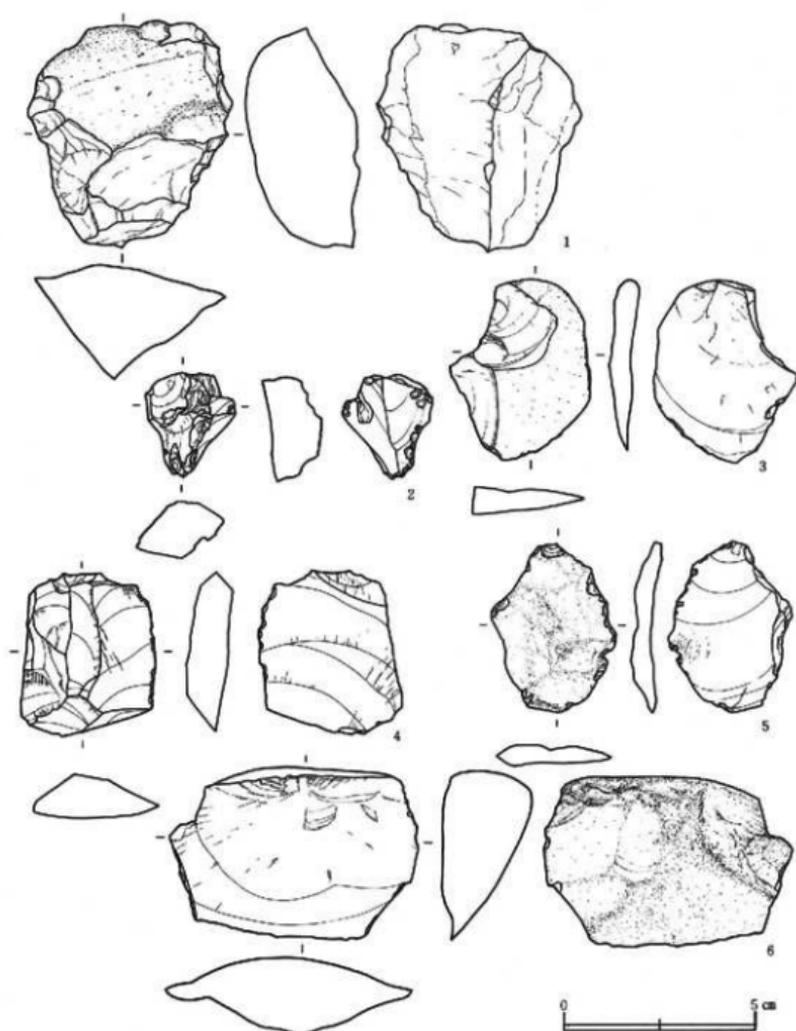
序号	材料	出土地区·层位	编号	长(mm)	宽(mm)	厚(mm)	重量(g)	号层
38-1	二次加工	BT23-3	K32	49.8	48.1	22.4	47.9	96-8
38-2	二次加工	CR29-3	K43	34.4	26.0	13.8	9.9	95-15
38-3	二次加工	CR25-3	K35	35.2	26.9	19.5	22.4	95-16
38-4	二次加工	AB~AD 3~7+8	K42	38.5	37.5	3.0	1.1	96-2
38-5	二次加工	CR22-3	K33	47.4	35.0	22.2	24.1	96-4
38-6	二次加工	BT24-3	K34	39.8	24.2	6.2	3.5	96-3
38-7	二次加工	BT-CP 12-14-1	K44	48.0	23.0	13.2	13.5	96-6

第38图 包含层地区出土制片石器(6)



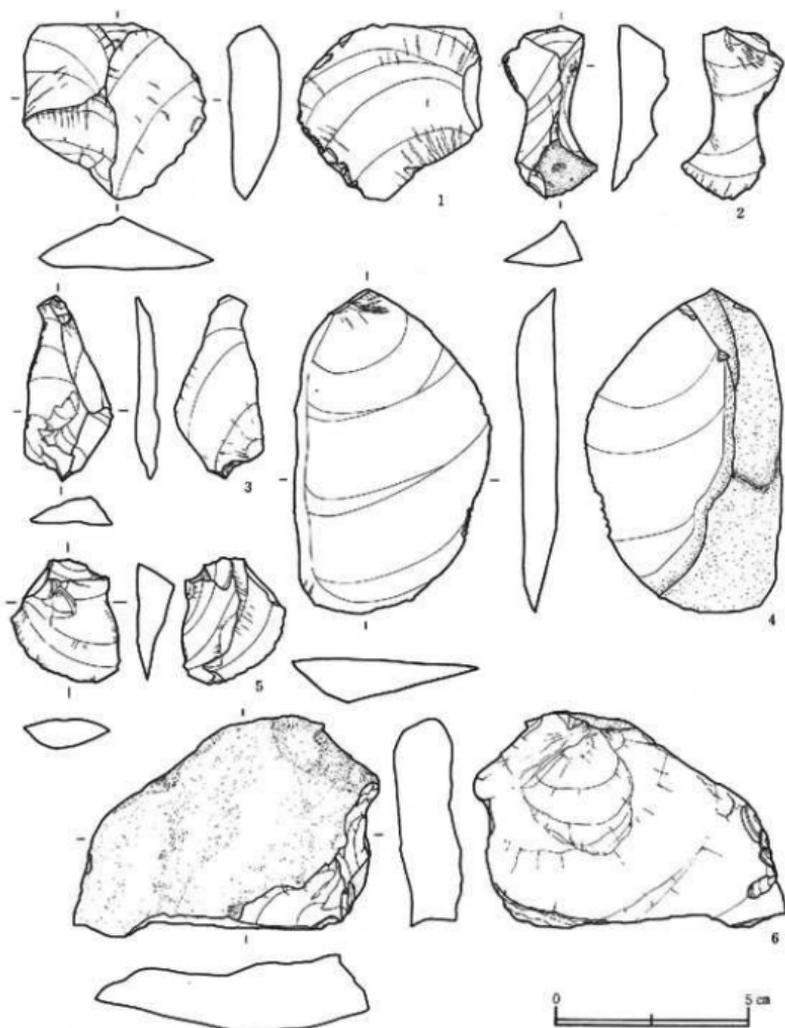
标本号	器类	出土地区・层位	登錄番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真附録
39-1	二次加工	CC18-3	K60	42.1	39.1	13.8	32.9	90-9
39-2	二次加工	CC20-3	K37	25.1	47.3	9.1	9.3	90-10
39-3	二次加工	CC20-3	K38	33.2	43.2	9.3	13.3	90-7
39-4	二次加工	CA25-4	K21	65.2	64.9	24.8	186.6	90-12
39-5	二次加工	SD11-1	K29	34.8	24.7	9.6	8.0	90-11

第39图 包含層地区出土剥片石器 (7)



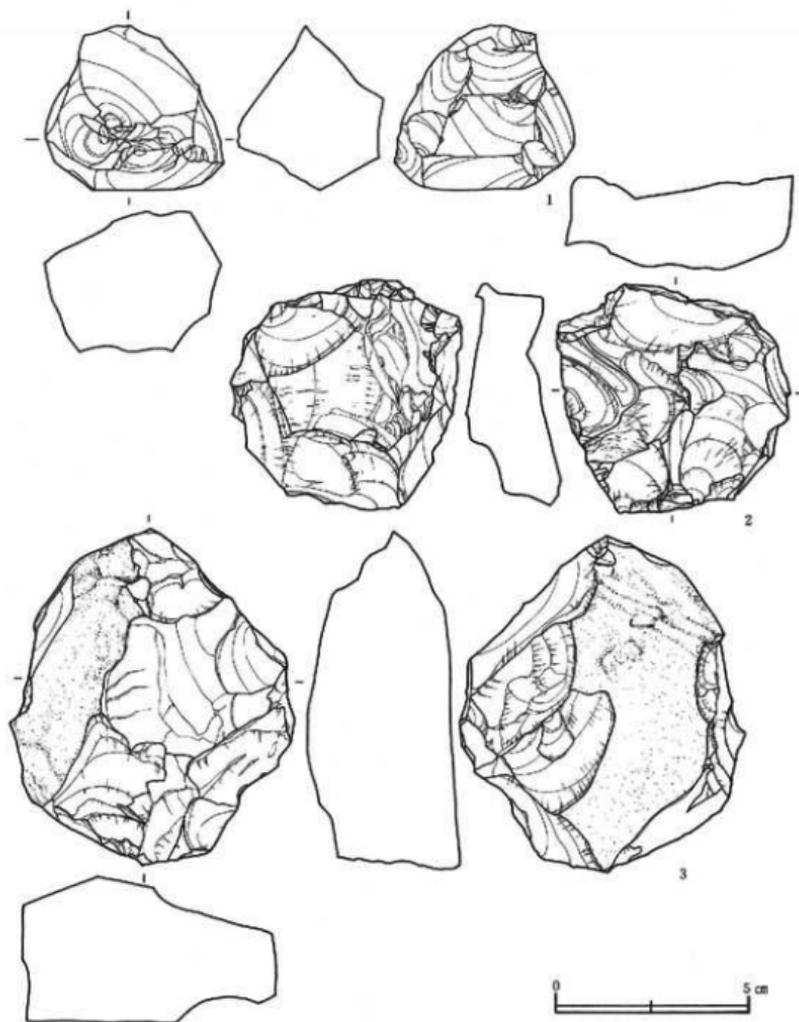
序号	器種	出土地区・种位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真図例
40-1	二次加工	R234-3	K47	50.9	48.5	24.2	72.9	97-1
40-2	剥離片断	XX	K56	26.7	22.9	14.6	3.5	97-2
40-3	剥離片断	IFT23-3	K57	47.0	36.6	8.2	15.6	97-3
40-4	剥離片断	CA25-3	K48	41.7	38.2	6.1	20.3	97-4
40-5	剥離片断	CC22-3	K54	42.7	30.3	5.7	7.5	97-7
40-6	剥離片断	CC30-3	K53	44.4	54.2	21.6	57.9	97-8

第40图 包含層地区出土剥片石器 (8)



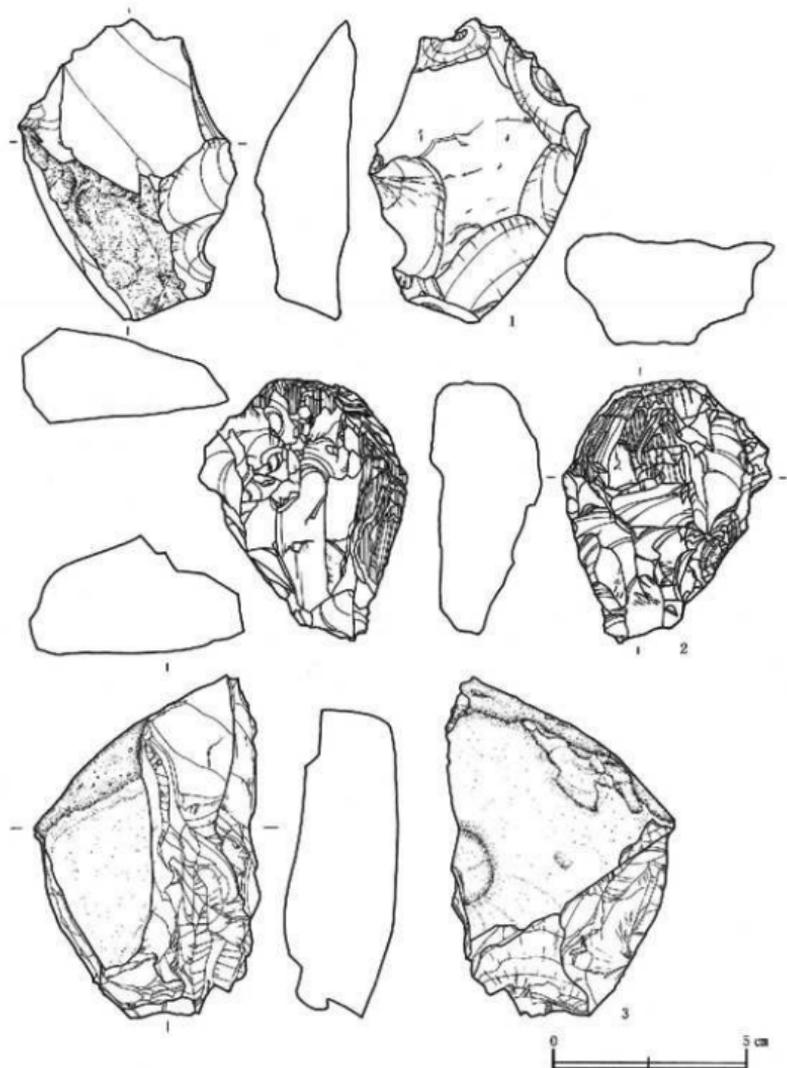
図番号	器種	出土地区・層位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真図版
41-1	剥片石器	CB18-4	K50	45.8	47.0	14.8	24.0	97-5
41-2	剥片石器	CD27-3	K56	38.6	31.9	11.4	7.5	97-6
41-3	剥片石器	FB25-1	K50	47.4	24.9	18.2	5.7	97-9
41-4	剥片石器	CE27-3	K52	41.8	49.9	11.4	41.0	97-12
41-5	剥片石器	CC24-3	K40	39.4	39.9	9.3	6.0	97-10
41-6	剥片石器	CD27-3	K59	56.9	86.5	36.7	90.4	97-11

第41图 包含層地区出土制片石器 (9)



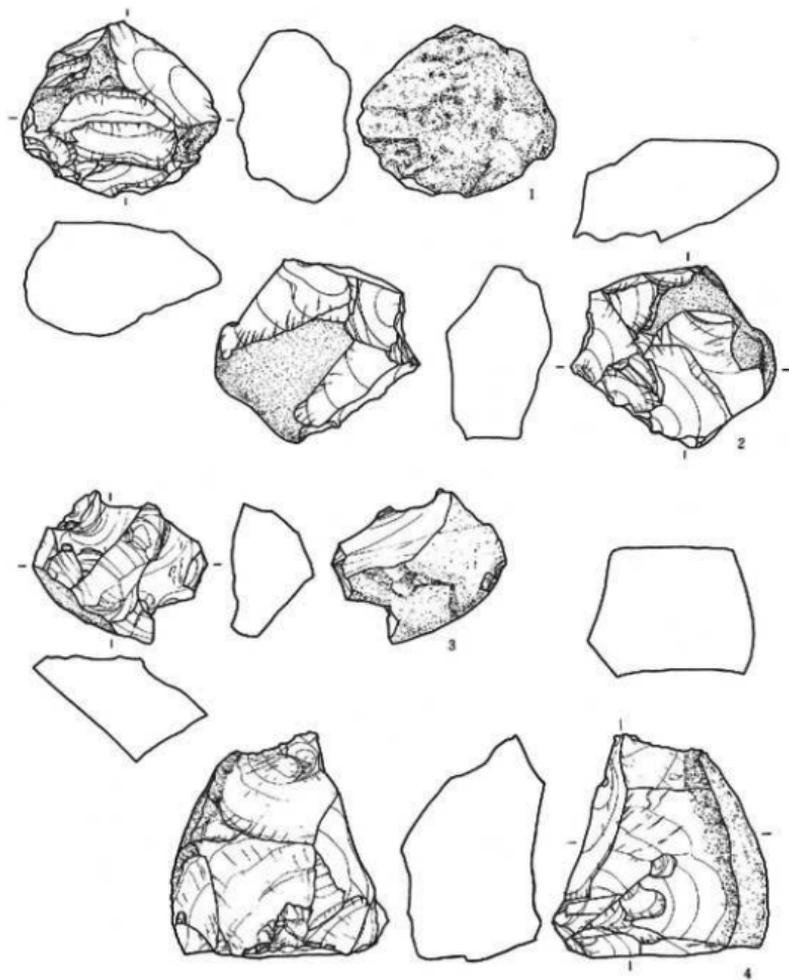
図番号	器種	出土地区・層位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真図版
42-1	石核	CC22-4	K08	39.4	45.5	36.9	59.5	97-13
42-2	石核	CC24-4	K76	60.2	69.5	22.9	91.8	97-14
42-3	石核	HT23-3	K79	83.3	73.4	29.1	290.5	97-16

第42図 包含層地区出土剥片石器 (10)



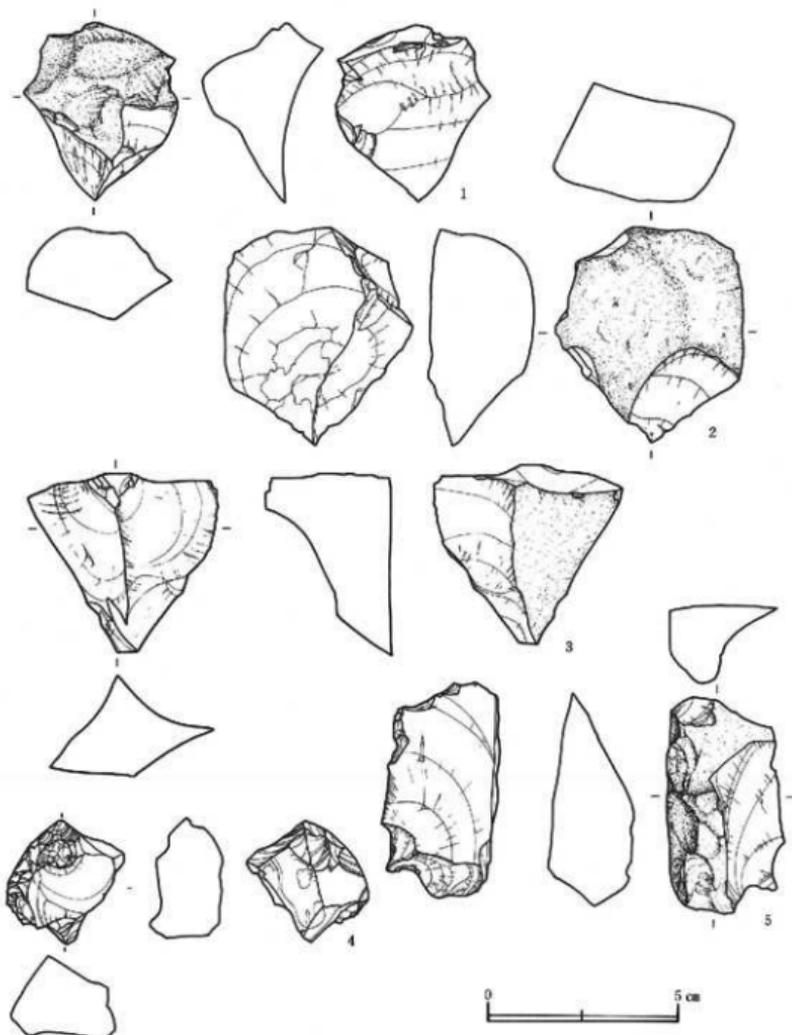
図番号	器種	出土地区・層位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真図版
43-1	石片	BT20-3	K75	51.4	75.5	25.5	96.1	97-15
43-2	石片	CR20-4	K76	67.2	53.4	27.1	92.3	97-16
43-3	石片	BR21-3	K77	91.2	58.6	29.9	182.0	97-17

第43図 包含層地区出土剥片石器 (11)



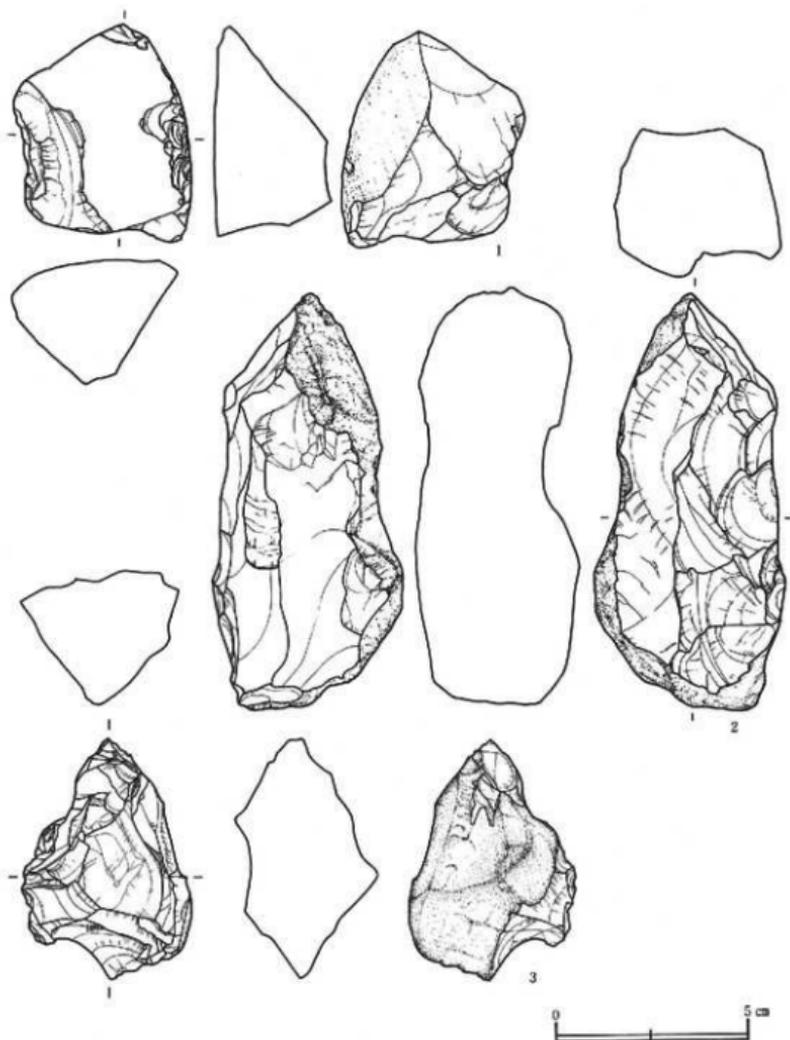
図番号	名称	出土地区・層位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真図添
44-1	石核	BT19-4	K74	43.8	46.8	38.2	63.1	99-1
44-2	石核	BQ23-3	K61	49.3	49.5	29.8	74.8	99-2
44-3	石核	BQ24-4	K65	39.1	33.1	21.9	29.6	99-3
44-4	石核	CA36-3	K69	54.4	66.2	32.7	131.1	99-4

第44図 包含層地区出土剥片石器 (12)



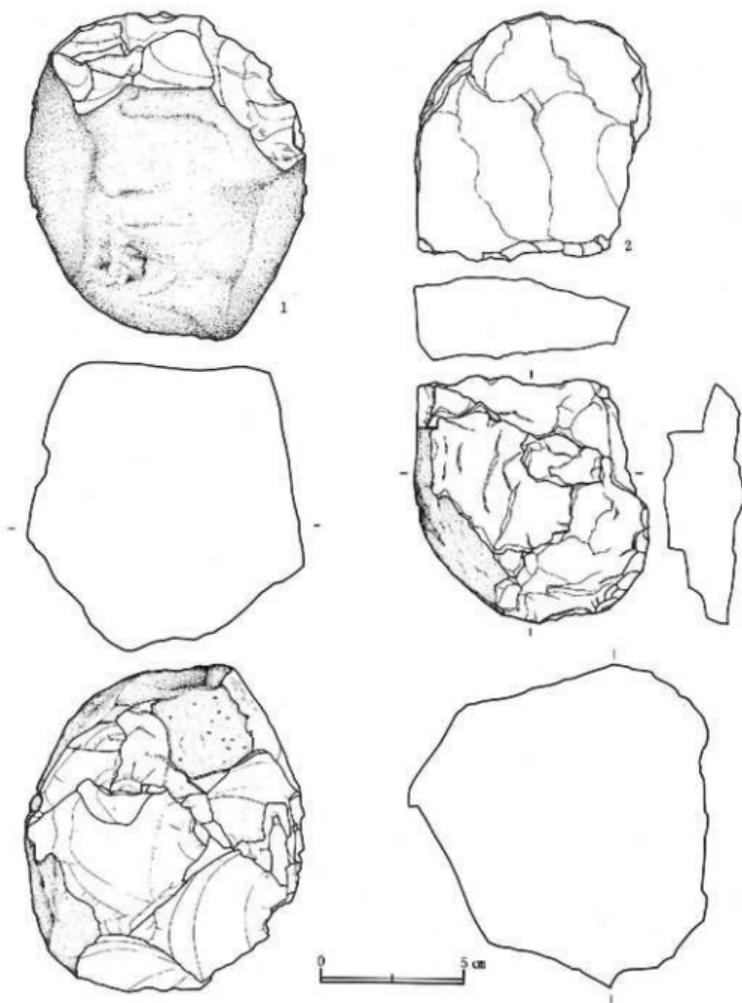
图录号	器名	出土地区·层位	登錄番号	长 (mm)	宽 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	所属层位
41-1	石核	BQ23-3	K64	46.6	39.9	22.4	34.3	98-9
41-2	石核	BQ24-3	K66	49.9	47.3	27.1	76.5	98-6
41-3	石核	DT23-3	K72	32.2	46.9	19.7	36.5	98-7
41-4	石核	CA25-3	K67	27.0	21.9	21.8	15.9	98-8
41-5	石核	RT22-3	K70	27.2	38.7	21.9	23.6	98-10

第45图 包含层地区出土剥片石器 (13)



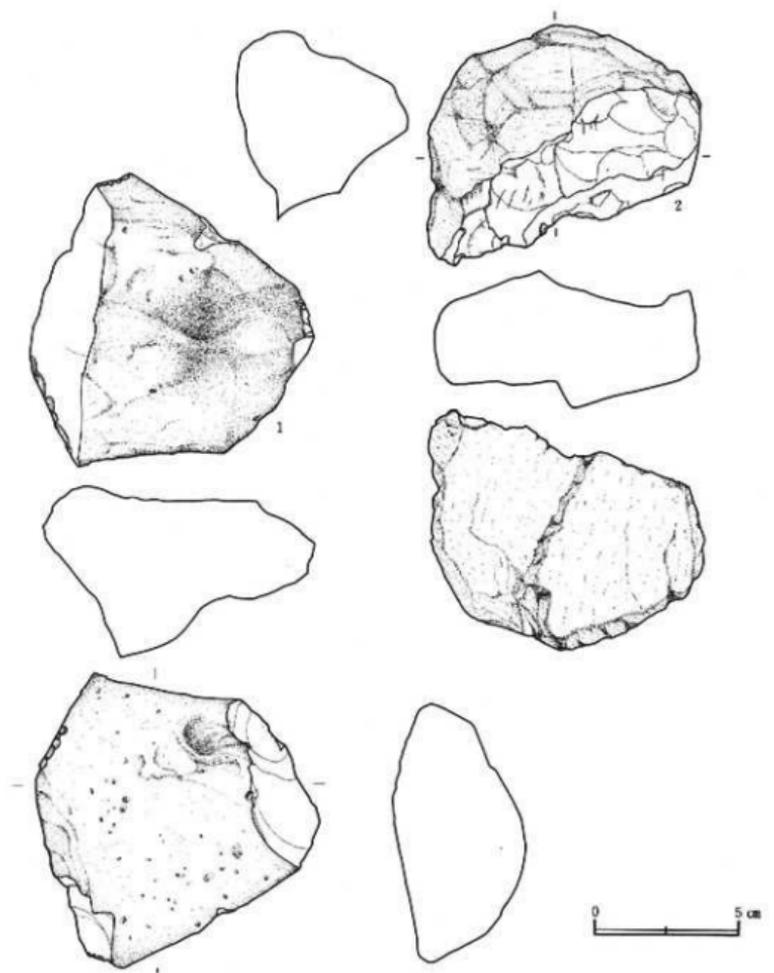
标本号	器型	出土地区·层位	发掘层号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真位置
42-1	石核	B519-4	K82	32.1	26.0	36.4	73.0	
42-2	石核	B719-4	K79	112.5	47.1	41.6	259.3	98-14
42-3	石核	B3-CP-58-10-1	K80	60.4	39.8	31.8	74.4	98-12

第46图 包含層地区出土剥片石器 (14)



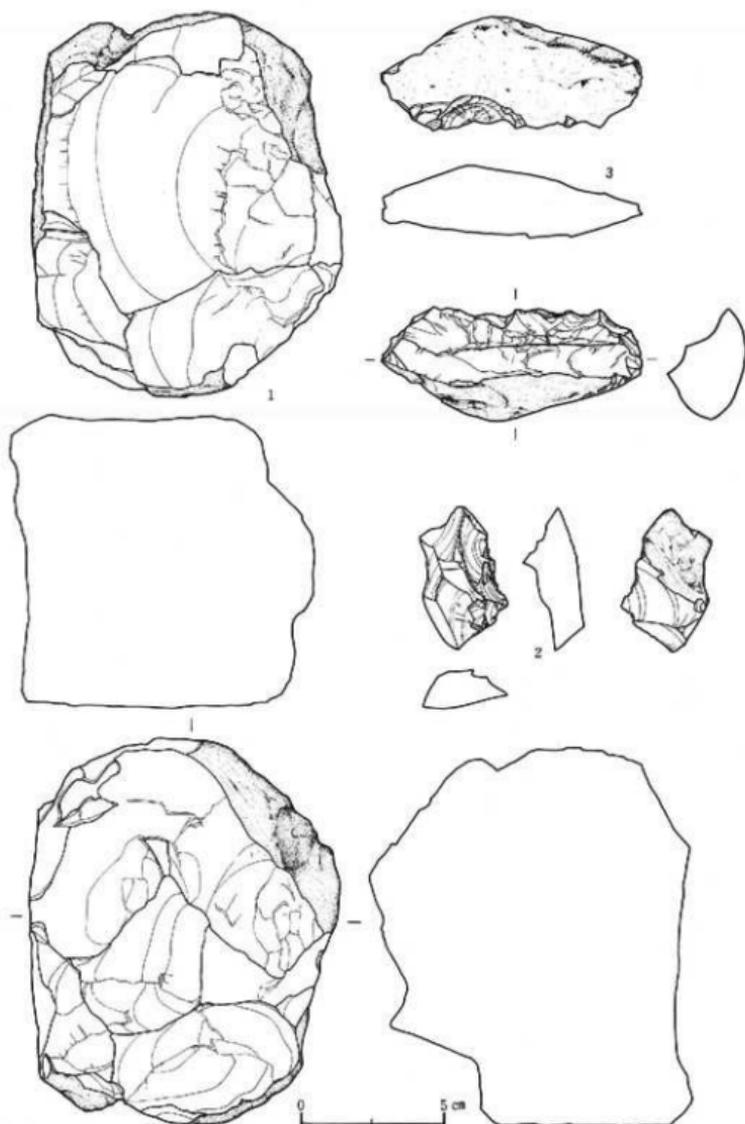
図番号	器種	出土地区・層位	登録番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真記録
43-1	石槌	K167-3	K167	89.9	123.6	103.6	1,380	39-3
43-2	石槌	CK20-4	K64	75.6	77.2	20.8	225	-

第47図 包含層地区出土制片石器 (15)



图番号	名称	出土地区・层位	透标番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真回数
44-1	石核	CA20-3	K37	96.5	52.8	33.8	480	99-1
44-2	石核	CE20-4	K85	96.3	71.2	36.8	380	99-2

第48图 包含層地区出土剥片石器 (16)



図番号	素材	出土地区・層位	遺跡番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真図版
45-1	石核	IS23-4	KR	156.3	135.1	106.5	2,980	39-4
45-2	石核	BP19-4	KR	28.3	49.0	31.0	31.6	38-7
45-3	石核	CR16-1	KR	88.8	61.2	28.3	85.3	36-13

第49図 包含層地区出土片石石器 (17)

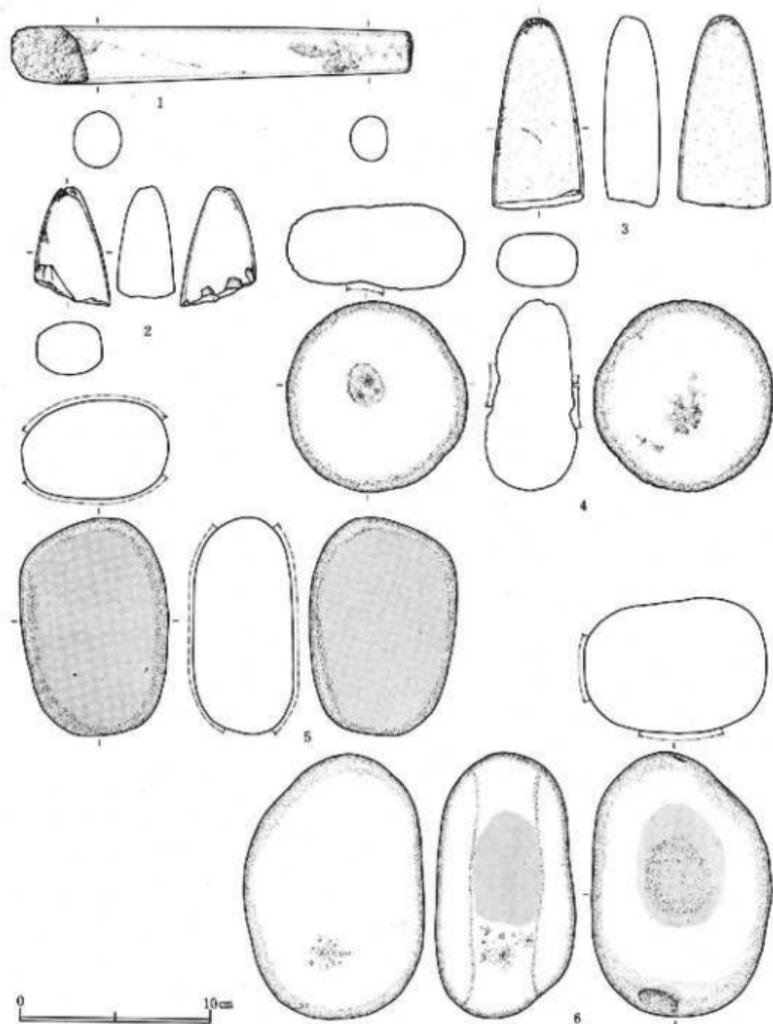


図 番号	登録番号	志埜-館	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石	材	産 所	使用状	備 考	写真図版
50-1	K104	CA30-3	(716.65)	(55.85)	34.25	190					石鏃	53-7
50-2	K103	CD26-3	(560.80)	(36.50)	38.15	90					磨製石尹	53-5
50-3	K102	××	(368.20)	45.95	39.10	130					磨製石尹	53-6
50-4	K105	××	99.55	92.30	44.75	470				研	燧石	209-2
50-5	K109	CB22-4	112.35	75.95	51.50	690			志埜		磨石	240-3
50-6	K110	CB22-4	139.04	92.65	67.40	1410			志埜		磨石	240-1

第50図 包含層地区出土燧石器・磨製石器・石製品

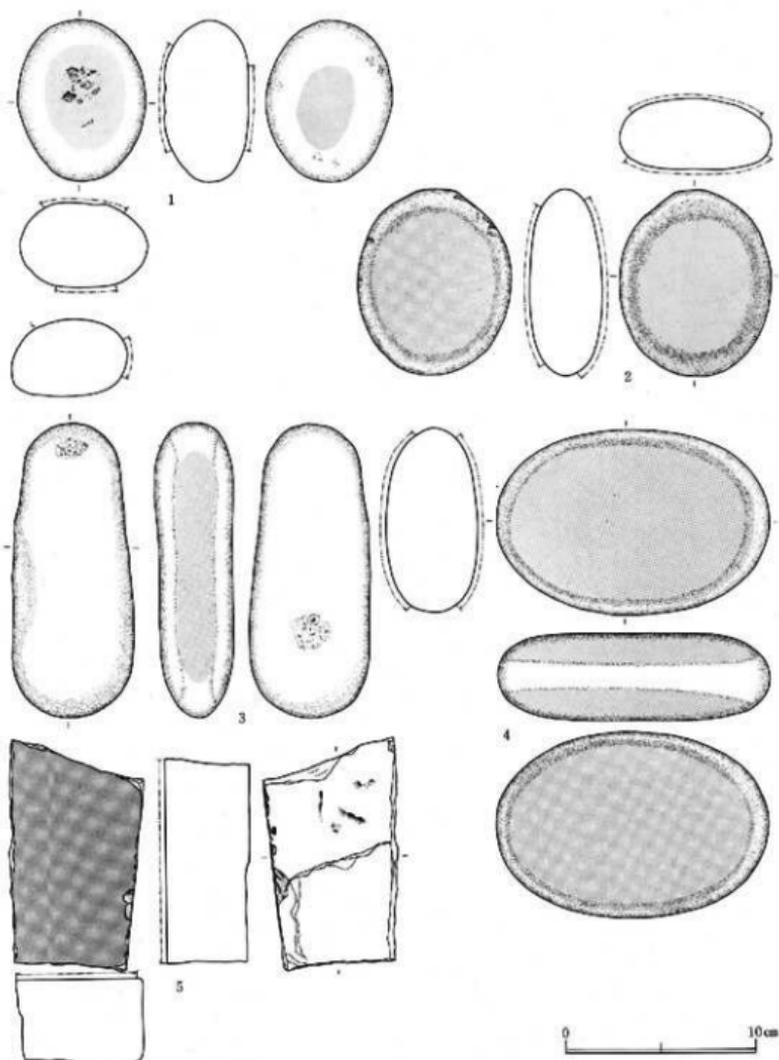


図 番号	発掘番号	名称・形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	用途	備 考	収蔵機関
51-1	K106	SPCP-1	84.70	65.00	42.20	340		片・スリ		109-3
51-2	K107	××	97.85	79.30	26.55	440		スリ		109-4
51-3	K111	CDP-2	151.05	96.45	37.45	660		形・スリ		103-2
51-4	K106	CCP-2	142.20	96.80	45.70	1,070		スリ		100-2
51-5	K113	CCM-4	185.65	98.20	43.20	650		スリ		101-1

第51図 包含層地区出土石器

2 水田地区

(1) 基本層位

遺跡の大部分に広がり 19,460 m²ほどである。このうち 12,040 m²を調査した。平安時代の水田面まで3枚の層が認められた。水田下については一部深掘をしたが地点によって堆積状況が異なっていた。以下各層の特徴・分布と遺物・遺構との関係について概略を述べる。

[第1層] (第53図)

第1層はシルトで構成される層で、全体的色調はにぶい黄褐色(10YR 4/3)である。現水田の耕作土で、水田地区のほぼ全域に広がる。

[第2層] (第53図)

第2層は、水田地区の中央を南北に延びる農道を境に東部と西部では若干様相が異なる。東部では、色調・土性から2a層(黄褐色シルト10YR 5/6)、2b層(暗灰黄色シルト質粘土2.5YR 4/2)、2c層(黄灰色粘土質シルト2.5YR 4/1)に細分される。2a層は東部の北西を除くほぼ全域に認められ、東南にいくにしたがって薄くなる。2a層下の北西に2b層が、南東に2c層が分布している。

西部でも、色調・土性から2a層(暗褐色粘土質シルト10YR 3/4)、2b層(灰黄褐色シルト質粘土10YR 4/2)、2c層(黒褐色シルト質粘土10YR 3/2)に細分される。2a層は北東を除くほぼ全域にみとめられる。2b・2c層とも分布域はせまい。

[第3層] (第57図)

第3層は灰白色火山灰層である。すべて水田跡の田面上に堆積しており、他の遺構には堆積していなかった。色調・混入物等から3a層(灰白色10YR 8/1、シルト質砂混入)、3b層(灰白色10YR 8/1) 3c層(灰白色2.5Y 8/2、にぶい黄橙色シルト混入)、3d層(灰白色2.5Y 8/2、3b層より灰色が強い) 3e層(灰白色10YR 8/1、3b層より明るい)、3f層(灰白色10YR 8/2、粘土質シルトを含む)、3g層(灰白色2.5Y 8/2、3d層より粒子が粗い)の7つに細分できる。堆積状況・分布状態については水田の項で詳述する。

[第4層] (第79・80図)

第4層は、水田区の全域に分布している。しかし、地点によって色調・土性が違っている。色調は、オリーブ色(5YR 5/4)、褐色(7.5YR 4/6、10YR 4/4、10YR 4/6)、にぶい黄褐色(10YR 4/3)、黄褐色(2.5YR 5/4)のものがあり、土性も砂とシルト質粘土とがある。深掘区のみ観察であり、全体の詳細な分布状況については把握することができなかった。おおよそ北部と南部が砂質で、中央部はシルト質粘土という傾向がある。包含層地区の基本層第2層と同一のものと考えられる。

(2) 遺構と遺物

① 水田跡

〔検出面〕

基本層位でふれたように、第1層及び第2層下の第3層灰白色火山灰層上面を精査した結果水田の畦畔を検出することができた。やや勾配のある北半部でも、残存する畦畔を検出できた。南部の非耕作域を除いた調査区のほぼ全域に水田があったものと考えられる。

〔灰白色火山灰の堆積状況〕

38区画の水田跡を検出したが、このうちSS11・14・15・16・17・18の6区画の灰白色火山灰を除去して出面を検出した。これら6区画の水田跡について、灰白色火山灰の堆積状況を検討してみる。最も厚く堆積していたのは、SS18の田面上(写真110)で約40cm程あった。基本層位の項でも述べたように、色調・混入物等から7層に細分することができる。このうち、3g層はいずれの水田跡でも田面直上に堆積し、他層よりもザラザラして粒子が粗い。3g層上に他の灰白色火山灰層が堆積している部分で層厚を計測すると、厚い部分で6cm、薄い部分で1cm程で平均すると、3cm前後である。田面の凹凸に対応するようになる堆積状況をめしめている。この3g層上に堆積する3a・3c・3f層には、シルト質砂・シルト・粘土質シルトが混入しており、水成堆積の痕跡が認められる。

〔耕作土〕

耕作土は、基本層第4層であるが、地点によって色調・土性が違っている。田面下の調査を実施していないので、厚さ等は不明である。

〔畦畔の配列〕

北部から南部にかけて緩やかに傾斜する地形を利用した水田跡のため、勾配の緩い中央部は畦畔の残存状況が良好であった。しかし、やや勾配のある北部は、隣接する田面の比高差のため、畦畔の片側しか検出できないものが多かった。

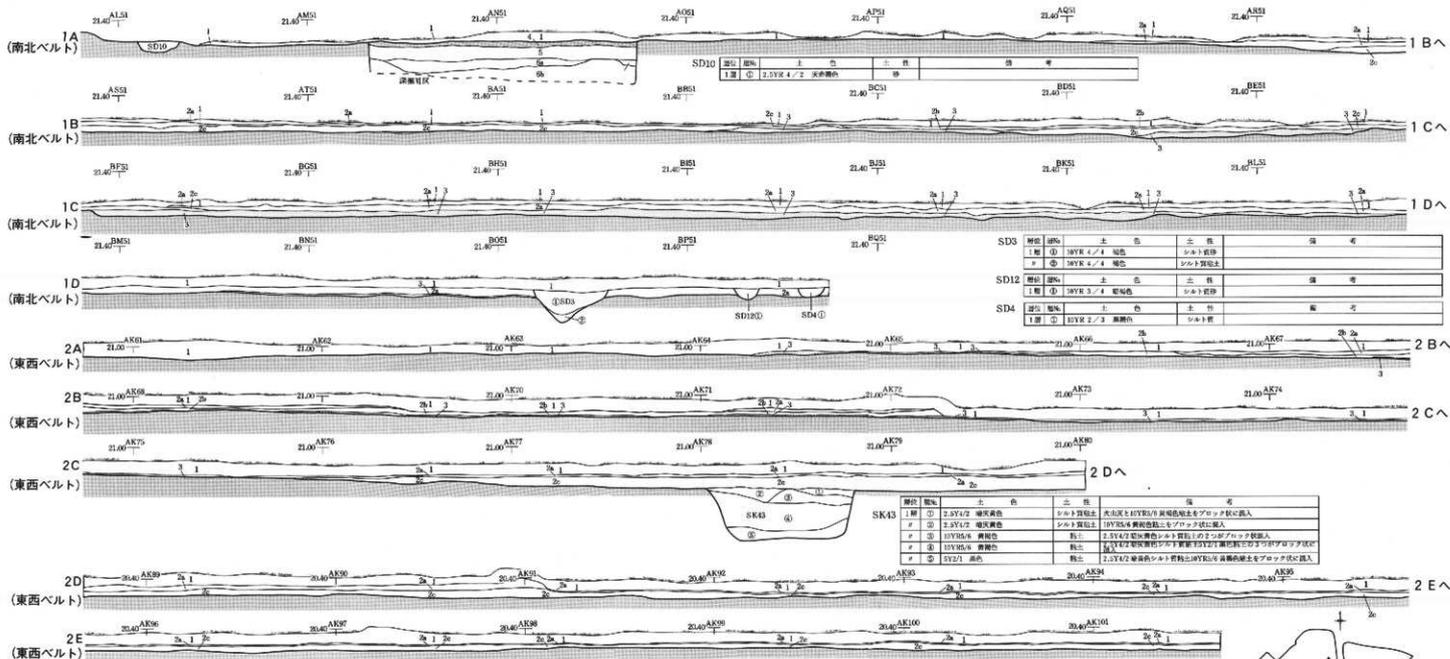
水田跡記述の便宜上、片側しか検出できなかった畦畔も含め①～⑳(第52図)に細別して記述する。いずれも土盛の畦畔と考えられ、耕作土の基本層第4層と同じ特徴であり、断面形は台形状を呈している。

これら畦畔中、農道西部の①(N-3°-W)・④(N-5°-W)・③(N-5°-W)、⑭(N-7°-W)・⑬(N-2°-W)、⑳(N-0°-W)・㉑(N-7°-W)・㉒(N-1°-W)は、それぞれ連結して直線状を呈し、方位も真北から0～10°の範囲で西にずれるだけで、方位に規則性がある。農道東部の㉓(N-6°-E)、㉔(N-2°-W)、㉕(N-4°-E)も、真北から2～6°の範囲で東西にずれるだけでこれらにも方位に規則性が認められる。

一方、これら規則性を持つ南北方向の畦畔に対して、東西方向に延びる畦畔の形状は、曲線



第52図 水田地区遺構配置図



1 A ~ 1 D 南北ベルト (A L 51 ~ B P 51)
 2 A ~ 2 E 東西ベルト (A K 61 ~ A K 80, A K 89 ~ A K 101)

水田地区南北ベルト (1 A ~ 1 D)

層号	層名	土色	土質	備考
1	1	19YR 4/2	2.0/1.2 黄褐色	シルト質粘土
2	2	19YR 3/4	2.0/1.2 黄褐色	シルト質粘土
3	3	19YR 4/2	2.0/1.2 黄褐色	シルト質粘土
4	4	19YR 3/2	2.0/1.2 黄褐色	シルト質粘土
5	5			砂礫層

水田地区東西ベルト (2 A ~ 2 E)

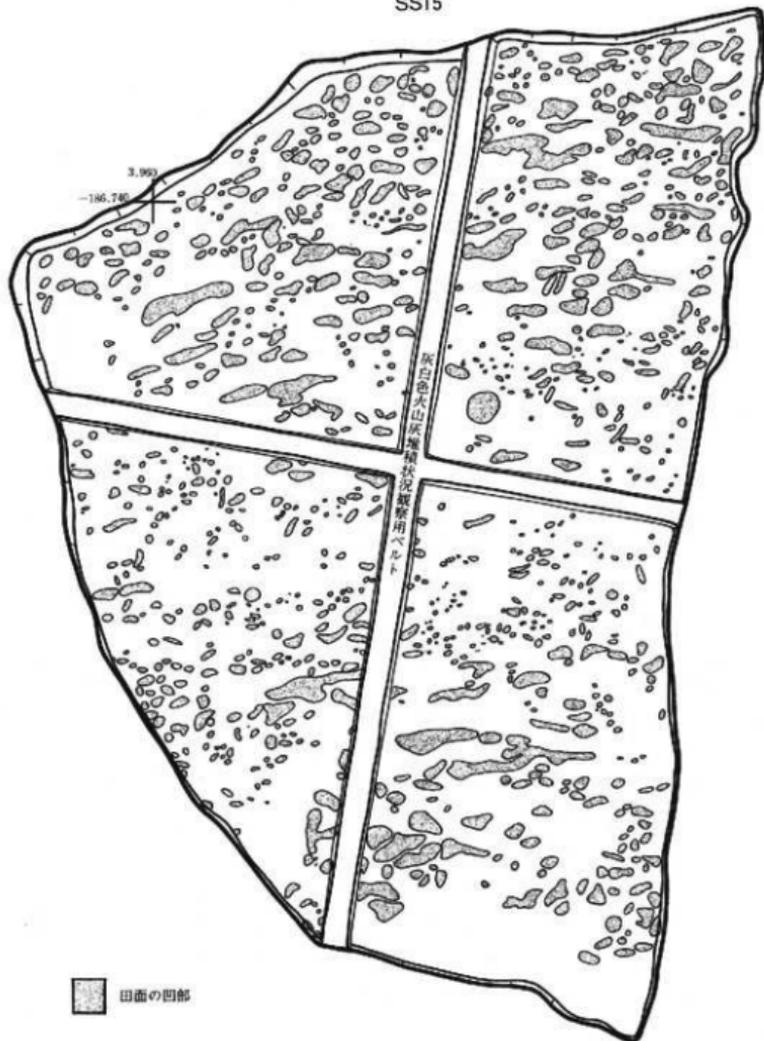
層号	層名	土色	土質	備考
1	1	2.5Y 4/2	2.0/1.2 黄褐色	シルト
2	2	2.5Y 4/2	2.0/1.2 黄褐色	シルト
3	3	2.5Y 4/2	2.0/1.2 黄褐色	シルト質粘土
4	4	2.5Y 4/2	2.0/1.2 黄褐色	シルト質粘土
5	5			砂礫層

第53図 水田地区東西・南北ベルト断面図

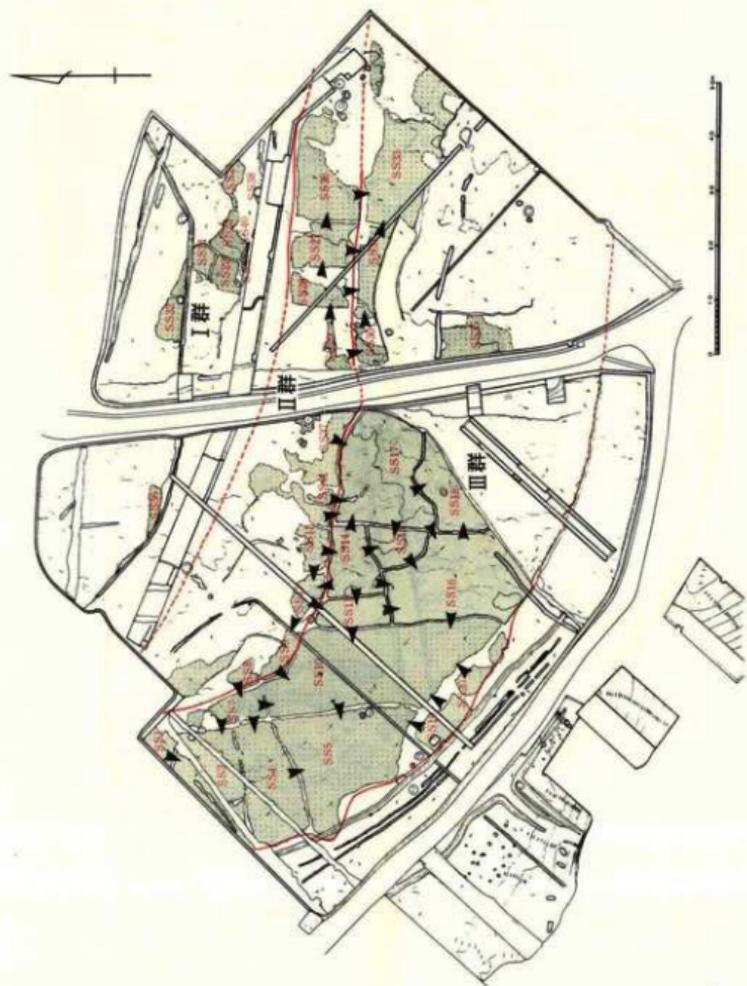
第2表 水田跡計測表

水田 番号	形状	面積	9区画の標高		内閣の状況 と9区画の高	隣接田舎との 高低関係	区別する 地号番号	水門	SS0	長方形 基壇 (確認の点)	(24.9) 以上	(20.44) 以下	(20.02) 以下	-	SS20>SS10 SS20>SS19	15B- 14A 37-40	■
			最大	最小													
SS1	不明 (確認の点)	(21.6) 以上	(20.67)	-	-	SS1>SS2	1	不明	SS01	(24.2) 以上	(21.18)	-	-	SS21>SS22 SS21>SS23	41-42 43-44	不明	
SS2	方形 基壇? (確認の点)	(167.2) 以上	(20.62)	(20.60)	-	SS2<SS1 SS2<SS7 SS2>SS4	1-2 3	3ヶ所 以上	SS22	(26.8) 以上	(21.10) 以下	-	-	SS22>SS21 SS22>SS27 SS22>SS28 SS22>SS29	45-46 47	1ヶ所 以上	
SS3	欠番																
SS4	長方形 基壇 (確認の点)	(194.5) 以上	(20.62)	(20.54)	-	SS4=SS2 SS4>SS5 SS4<SS7	2-4 5-6	3ヶ所 以上	SS29	(22.0) 以上	(20.94)	-	-	SS29>SS21 SS29>SS22 SS29>SS24 SS29>SS25	47-48 49-50	1ヶ所 以上	
SS5	不定形 (確認の点)	109.0	(20.60)	(20.54)	-	SS5>SS4 SS5<SS10 SS5<SS13	5-6 7A-7B	3ヶ所	SS24	(17.2) 以下	(20.90)	-	-	SS24>SS23 SS24>SS28 SS24>SS29	50-51	不明	
SS6	欠番																
SS7	長方形 基壇 (確認の点)	(60.6) 以上	(20.60)			SS7>SS2 SS7>SS6 SS7>SS10 SS7>SS4	4-6A 6B-9	1ヶ所	SS25	(4.7) 以上	(20.60)	-	-	SS25>SS23 SS25>SS27 SS25>SS30 SS25>SS40	52	不明	
SS8	長方形 基壇 (確認の点)	(62.2) 以上	(20.70)	-	-	SS8>SS7 SS8>SS9	6A-6B 10-11	不明	SS26	(14.5) 以上	(20.67)	-	-	SS26>SS28 SS26>SS27 SS26>SS30	56-57	不明	
SS9	不明 (確認の点)	(26.4) 以上	(20.70)	-	-	SS9>SS8 SS9>SS10 SS9<SS12	10-12A	不明	SS27	(61.9) 以上	(20.72)	-	-	SS27>SS25 SS27>SS26 SS27>SS28 SS27>SS31 SS27>SS40	57-58 59A	不明	
SS10	矩形 基壇 (確認の点)	(493.8) 以上	(20.63)	(20.56)	-	SS10>SS5 SS10>SS7 SS10>SS9 SS10<SS11 SS10<SS16 SS10<SS20	6-9 12A-13 10B-14 15A-15 B	3ヶ所 以上	SS28	(43.3) 以下	(20.87)	-	-	SS28<SS22 SS28>SS27 SS28<SS29 SS28>SS31 SS28>SS32	10B-60 61-62	不明	
SS11	長方形 基壇 (確認の点)	65.3	20.68	20.65	高低不明	SS11>SS10 SS11<SS12 SS11<SS14 SS11>SS16	13-16 17-18	■	SS29	(19.7) 以上	(20.80)	-	-	SS29>SS28 SS29>SS31 SS29>SS36	62-63	不明	
SS12	不明 (確認の点)	(32.0) 以上	(20.70)	-	-	SS12>SS9 SS12>SS11 SS12<SS13 SS12<SS14	11B-16 19-20	不明	SS30	(24.7) 以上	(20.73)	-	-	SS30>SS29 SS30>SS31 SS30>SS32	63-64	不明	
SS13	不明 (確認の点)	(26.7) 以上	(20.82)	-	-	SS13>SS12 SS13>SS14 SS13>SS41	20-21 22	不明	SS31	(58.4) 以上	(20.60)	-	-	SS31<SS27 SS31<SS28 SS31<SS30 SS31>SS33 SS31>SS39	65A-100 65	不明	
SS14	台形 基壇 (確認の点)	109.7	20.67	20.72	北東から 南西に傾斜	SS14>SS11 SS14>SS12 SS14<SS13 SS14>SS15 SS14>SS16 SS14>SS17	17-19 21-23 24-25	1ヶ所	SS32	(31.1) 以上	(21.19)	-	-	SS32>SS21 SS32>SS22	66	不明	
SS15	三角形 基壇 (確認の点)	59.8	20.78	20.74	ほぼ水平 中央がやや 凹む	SS15<SS14 SS15>SS16 SS15<SS17	24-26 27	■	SS33	(284.3) 以上	(20.63)	(20.94)	-	SS32>SS26 SS32<SS31	66-66	不明	
SS16	不定形 (確認の点)	(238.2) 以上	20.71	20.30	東から西 に傾斜	SS16>SS10 SS16<SS11 SS16<SS14 SS16<SS15 SS16>SS17 SS16>SS18	14-18 20-26 28-29	1ヶ所 以上	SS34	(72.0) 以上	(20.50)	-	-	SS34>SS26 SS34>SS27 SS34>SS28 SS34>SS29	67-68	不明	
SS17	不定形 (確認の点)	(292.4) 以上	20.85	20.40	北西から西 南東に傾斜	SS17<SS14 SS17>SS15 SS17>SS16 SS17>SS18 SS17<SS17 SS17<SS41	25-27 29-30 31-32	不明	SS35	(0.7) 以上	(21.61) 以下	-	-	SS35>SS22 SS35>SS28 SS35>SS40 SS35>SS45	67-67 68	不明	
SS18	不明 (確認の点)	(105.8) 以上	20.66	20.58	北西から 南東に傾斜	SS18<SS16 SS18<SS17	29-32	1ヶ所 以上	SS40	(1.1) 以上	(21.61) 以下	-	-	SS40>SS23 SS40>SS27 SS40>SS30	67-68 68	不明	
SS19	長方形 基壇 (確認の点)	(51.6) 以下	(20.63) 以下	(20.61) 以下	-	SS19>SS5 SS19>SS10 SS19>SS20	7B-15A 33-34B	不明	SS41	(34.4) 以上	(20.64)	(20.90)	-	SS41<SS13 SS41<SS17 SS41>SS27	71-72	不明	

SS15



第54図 SS15田面の凹部の状況



第55圖 水田圃比高関係

や弧状のものなど様々で、南北方向の畦畔への接続の仕方も一部を除き一定でなく、方位に規則性はあまり認め得ない。ただ、㉞ (N-87°-E)・㉟ (N 84°-E)・㊱ (N-89°-W) と㉞ (N-87°-W)・㉟ (N-84°-W)・㊲ (N-89°-W) とに若下の規則性が認められる程度である。恐らく東西方向の畦畔は、自然の地形の傾斜に沿って作られたことに起因すると考えられる。東西方向の畦畔中、㉞・㉟A・㉟B・㊳・㊴・㊵・㊶・㊷・㊸・㊹・㊺A・㊺Bは接続した一連のものと思われ、規模も他よりやや大きく、全体的に直線状ではなく、自然の地形に沿ったものと考えられる。

【畦畔の規模】

畦畔の規模等については第3表に示した。大半が田面まで検出していないため、上端で検討したが、大半が30~70 cmの中におさまる。全体的に見ると規則性はうかがえないが、東西方向に接続している㉞ (1.3 m)・㉟A (1.2 m)・㉟B・㊳・㊴ (0.6 m)・㊵ (1.0 m)・㊶ (0.6 m)・㊷ (0.7 m)・㊸ (1.8 m)・㊺A (0.5 m)・㊺B (0.7 m)は、他の畦畔よりやや規模が大きい。

【水田区画】

畦畔によって区画された水田跡は、38区画を数えることができる。これらを便宜上SS 1~41の番号(第2表)を付してまとめた。これらの中で平面形が推定でき、面積をほぼ確定できたものは10区画にしかすぎない。畦畔の項で説明したように、南北方向のものは方位に規則性が認められるが、東西方向のものは自然の地形に則しているため水田の平面形状は、方形・三角形・台形・不定形等規則性に欠けバラエティに富んでいる。面積をほぼ確定できるものなかで最大は、SS10の495.8 m²で、最小はSS15の59.9 m²と大小様々である。

田面の標高が最も高いのは、SS36 (21.24 m)で、SS35 (20.52 m)が最低でその差は72 cm程ある。計38区画の水田跡の配置を、隣接する田面の比高差や畦畔の関係から、大きく3つのグループに分類することが可能である。

I群 (SS36・32・21・22・23・24・25・39・40・38)

北部の標高がもっとも高い地点に位置するグループで、標高20.90 cm以上にあり畦畔㉞・㉟・㊱がII群との境界にあたる。この畦畔は更に西に延びていたと思われるが、後世の耕作により削平されたと考えられる。

II群 (SS8・9・12・13・41・37・29・28・27・26)

I群とIII群の中間に位置し、畦畔㉞・㉟・㊲と畦畔㉞・㉟A・㉟B・㊳・㊴・㊵・㊶・㊷・㊸・㊹・㊺A・㊺Bの間分布していたと考えられるグループ。

III群 (SS1・2・4・5・7・10・11・14・15・16・17・18・30・31・33・19・20・35)

中央部で標高が最も低いところに位置するグループ。このなかでもSS14が最も標高が高く、ここから東・南・西に傾斜している。農道西部ではSS5、東部ではSS35が最も低い。水田域の

端部にあたり非耕作域と接する。

【田面の状況】

田面まで検出したのは、SS11・14・15・16・17・18の6区画だけである。これら田面の状況を見ると、ほぼ平坦のもの(SS11・15)とやや傾斜しているもの(SS14・16・17・18)とがある。傾斜しているものは、隣接する区画の低いものの方に傾斜している傾向がある。

またこれらの区画で、灰白色火山灰を除去し田面を露出したところ、SS15・16の略全面と、SS11・14・17・18の一部で一定方向に走る凹部(写真18~25)を検出することができた。特にSS15が顕著であった(第54図)ので、凹部の灰白色火山灰を丁寧に除去して観察(写真25)してみた。凹部の中には、直径が5~15cm程の円形もしくは楕円形のもの、一辺が10~15cm程の「く」字状のものが認められた。深さはいずれも、5~10cm程度のもが多いようである。いずれも農具等の痕跡と考えられる。また、SS17・18・41の田面上から幅7~8cmでジグザグ状に枝別れしながら走る灰白色火山灰の痕跡(写真26・27)を検出した。SS17・41で1ヶ所、SS18で2ヶ所の計4ヶ所あった。ハタネズミの巣穴の可能性が高い。

【水口・水路】

火山灰注記表(第57図)

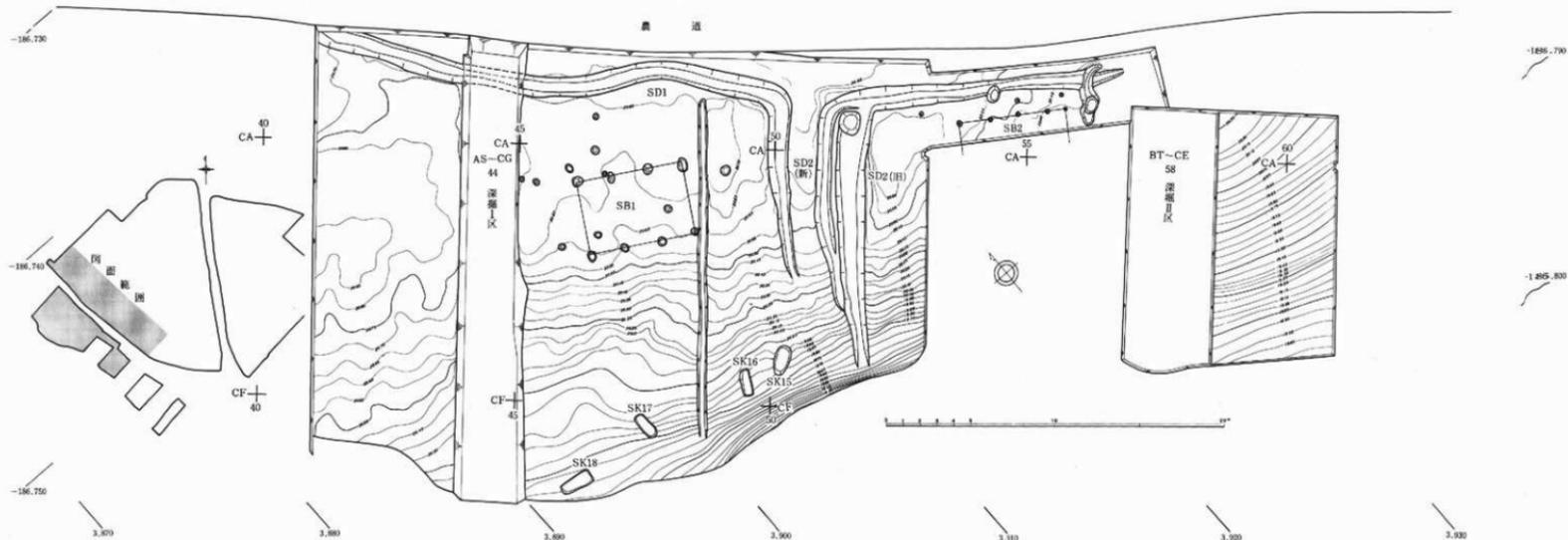
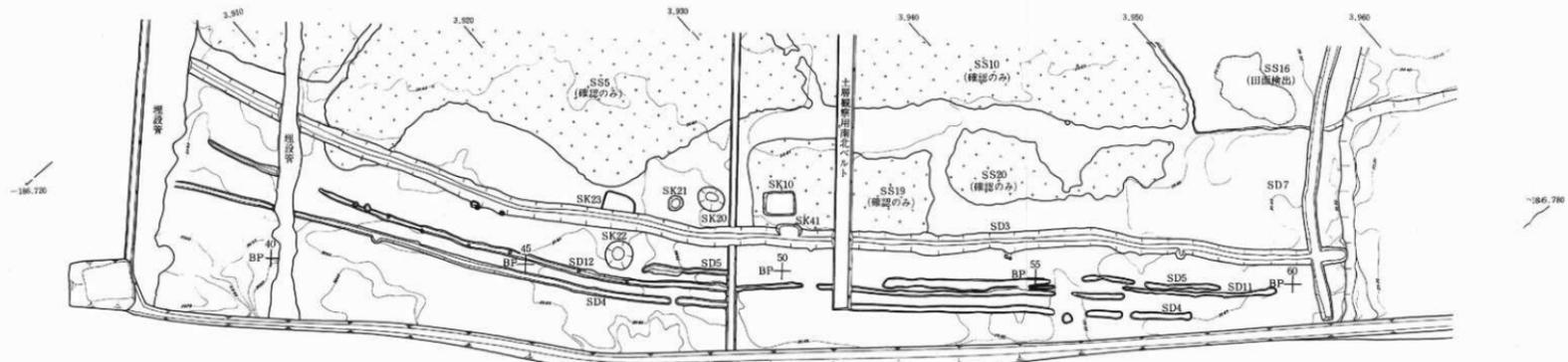
層位	地味	土色	土性	備考
3	3 a	10YR 8/1 灰白色	火山灰	10YR 4/6 褐色シルト・灰砂を混入
3	3 b	10YR 8/1 灰白色	火山灰	
3	3 c	2.5Y 8/2 灰白色	火山灰	10YR 7/3 におよぶ褐色シルトをブロック状に含む
3	3 d	2.5Y 8/2 灰白色	火山灰	3 b 層より幾分灰色味を帯びる
3	3 e	10YR 8/1 灰白色	火山灰	3 b 層より明るい
3	3 f	10YR 8/2 灰白色	火山灰	10YR 8/6 褐色粘土質シルト(混砂)を含む層(細粒に広がる)
3	3 g	2.5Y 8/2 灰白色	火山灰	3 d 層より粘土が混入



第56図 水田面堆積火山灰断面配置図



第59図 水田地区東側・南平面図



第60図 水田地区西側南平面図

田面まで検出したものが少ないため、明瞭に水口と想定できるものも少なかった。水路も不明である。

【出土遺物】

水田地区第1～4層から出土した遺物を一括して説明する。第3層の灰白色火山灰からは昆虫の遺体が1点(写真109)が出土しただけであった。第5層以下の出土遺物については、深掘区で説明する。

(1) 1～2層出土遺物

(土師器・須恵器)

小破片のため図示できなかったが、ロクロ土師器坏は、内面黒色処理のものである。

(陶・磁器) (写真102・103)

常滑の甕(写真102-5・103-3)・鉢(写真103-5)の破片が出土している。写真103-4は山茶碗系のもので、13世紀前半かそれ以前のものである。写真103-2・6・7は中国産で、写真103-2は青磁皿、写真103-6・7は白磁で13～14世紀のものである。他に、近世～近代の瀬戸、美濃、相馬大塚、肥前唐津、堤等の陶・磁器が出土している。

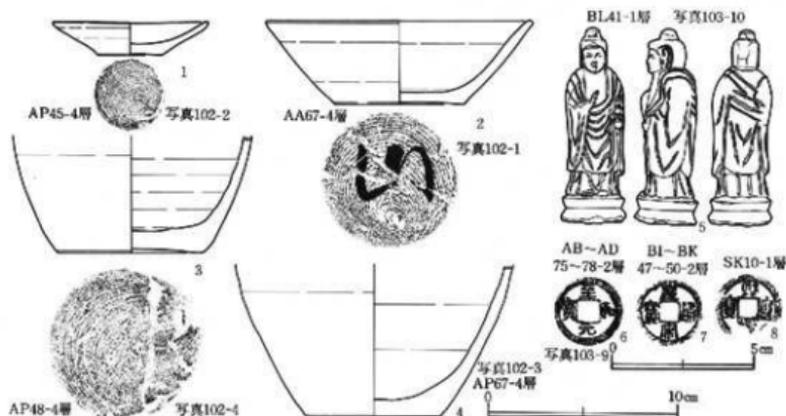
(金属器) (第62図5～7)

第62図6～7はいずれも北宋銭で、それぞれ「至和元寶」(至和元年 1054年)、「皇宋通寶」(宣元2年 1039年)である。第62図5は像高6.8cmの銅製阿彌陀如来の立像で、線刻によって丁寧に作られている。

(2) 第4層出土遺物

(土師器) (第62図3・4)

図示できたものが2点ある。いずれもロクロ調整の小型甕で、第62図3には回転糸切痕がある。



第62図 水田地区出土遺物

(須恵器) (第62図2)

図示できたものが1点ある。回転糸切り後、無調整のもので底部に墨書がある。「山」という文字か。

(赤焼土器) (第62図1)

口径8.1 cm、底径3.3 cmのものである。

② SB (掘立柱建物跡) (第60図)

2棟検出している。SB1は、桁行3間(柱間寸法2.1m)総長6.3m、梁行1間(柱間寸法4.3m)総長4.3mの東西棟建物跡で、桁柱列の方向はN-61°-Wである。柱穴は、円形を基調とし直径0.4~0.8mで、柱痕跡は確認できなかった。SB2は、桁行4間(柱間寸法1.1~1.8m)総長6.4m、梁行1間以上あると考えられる。桁柱列の方向はN-56°-Wである。柱穴は、円形で直径0.3mで柱痕跡は確認できなかった。いずれの柱穴からも出土遺物はない。

③ SK (土壌・焼土遺構) (第63~73図)

水田地区では、36基の土壌と、1基の焼土遺構を検出した。深掘地区のSK48・49については、深掘区の項で説明する。これらの概略についてまとめたのが、第1表である。

[確認状況]

SK10・11・13・14・19・24・26・37・38・39・41は灰白色火山灰上面で確認したが、他は第4層上面で検出した。

[他遺構との新旧関係]

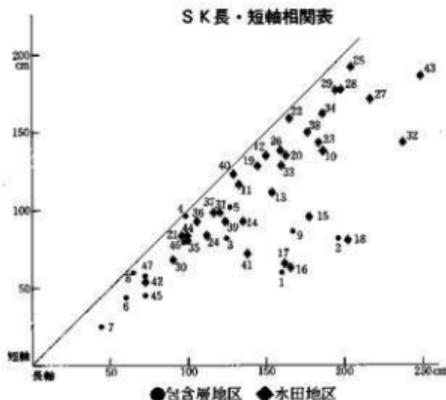
灰白色火山灰堆積との新旧関係からすると、SK10・11・13・14・19・24・26・37・38・39・41はいずれも新しい。SD3より古いSK41と新しいSK23を除いた他のものには重複関係が認められなかった。

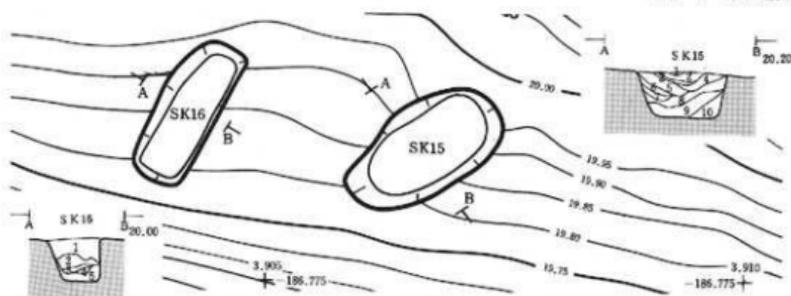
[形態]

平面形態には、円形・円形基調・方形・方形基調・長方形・長方形基調の6種類が認められた。円形基調のものが大半である。

[規模]

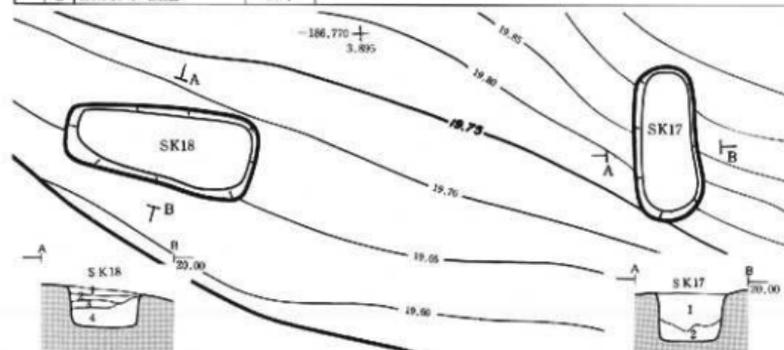
第1表のように、最大はSK43、最小はSK42であり、規模にあまりまとまりは見られない。





SKNo	地区	線図面	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	基礎関係	地盤状況	備考
SK16	水田	4層土留	長方形	260×63×49				自然地盤	透物照 写真30
層位	層No	土色	土性	備考					
	①	10YR 4/6 褐色	砂						
	②	10YR 4/4 褐色	砂						
	③	10YR 4/3 灰褐色	シルト質砂						
	④	10YR 2/3 黒褐色	シルト						
	⑤	10YR 2/3 黒褐色	砂質シルト						

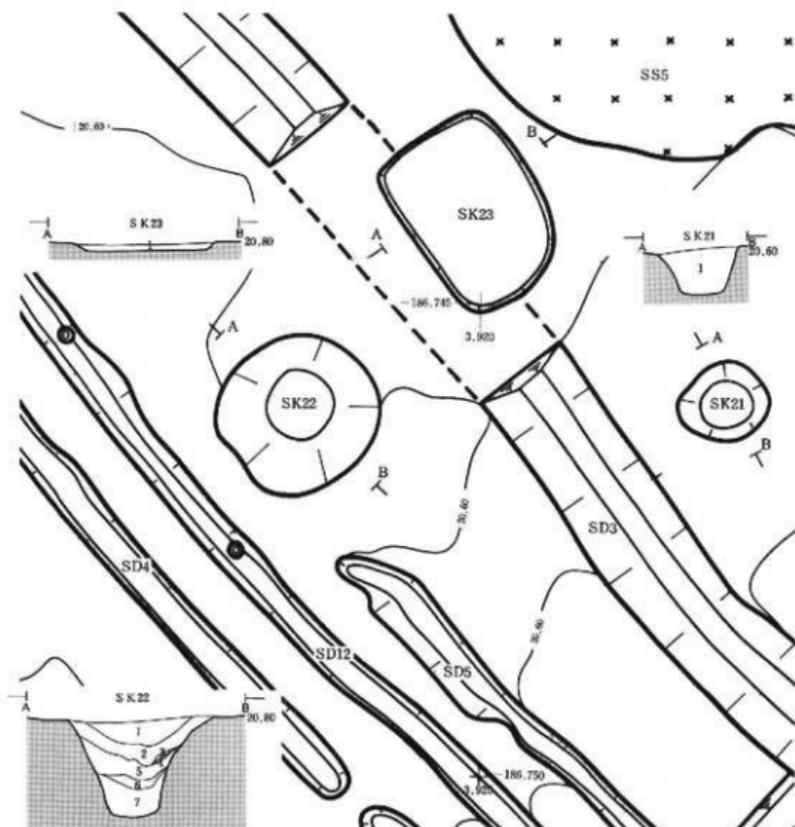
SKNo	地区	線図面	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	基礎関係	地盤状況	備考
SK15	水田	4層土留	正方形	177×96×44				自然地盤	透物照 写真38
層位	層No	土色	土性	備考					
	①	10YR 5/6 黄褐色	シルト質砂						
	②	10YR 5/6 黄褐色	#	わずかに石子が小さい					
	③	10YR 3/3 暗褐色	#						
	④	10YR 3/3 暗褐色	#						
	⑤	10YR 5/6 黄褐色	#						
	⑥	10YR 3/3 暗褐色	#						
	⑦	10YR 5/6 黄褐色	#						
	⑧	10YR 5/4 紅褐色	砂						
	⑨	10YR 4/3 灰褐色	シルト	10YR 3/6黄褐色シルト質砂を混入					
	⑩	10YR 2/2 黒褐色	シルト						



SKNo	地区	線図面	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	基礎関係	地盤状況	備考
SK17	水田	4層土留	長方形	262×66×33				自然地盤	透物照 写真37
層位	層No	土色	土性	備考					
	①	2.5Y 5/3 黄褐色	シルト質砂	若干グライ化している					
	②	10YR 2/3 黄褐色	砂質シルト						

SKNo	地区	線図面	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	基礎関係	地盤状況	備考
SK18	水田	4層土留	長方形	202×66×33				自然地盤	透物照 写真36
層位	層No	土色	土性	備考					
	①	10YR 5/6 黄褐色	砂						
	②	10YR 3/3 暗褐色	シルト質砂						
	③	10YR 2/3 黒褐色	#						
	④	10YR 2/3 黒褐色	シルト						

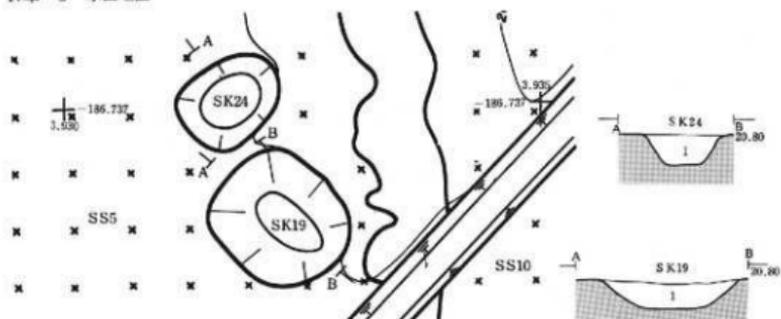
第63図 S K15.16.17.18平面図



SK21	SKNo	地区	位置	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	築造関係	発露状況	備考
	SK21	水田	4層下層	円形深筒	96×94×51				人為構築	遺物類 写真41-42
	層位	層No	土色	土質	備考					
	①	10YR 5/3	にぶい黄褐色	シルト	①②③④⑤⑥⑦ : 1 : 2 : 4で流入					
	②	7.5YR 3/3	黒褐色	シルト						
	③	10YR 5/8	黄褐色	シルト						
	④	10YR 5/4	にぶい黄褐色	シルト						
SK22	SKNo	地区	位置	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	築造関係	発露状況	備考
	SK22	水田	4層上層	円形	165×139×73				自然発露	遺物類 写真41-43
	層位	層No	土色	土質	備考					
	①	10YR 4/4	褐色	シルト						
	②	10YR 4/3	にぶい黄褐色	シルト						
	③	10YR 2/2	暗褐色	シルト						
	④	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト						
	⑤	10YR 3/3	暗褐色	シルト						
	⑥	7.5YR 3/3	暗褐色	シルト						
	⑦	10YR 2/1	黒色	粘土						
SK23	SKNo	地区	位置	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	築造関係	発露状況	備考
	SK23	水田	4層上層	方形深筒	198×104×6				SSOより新	人為構築? 遺物類 写真41
	層位	層No	土色	土質	備考					
	①	7.5YR 4/2	灰褐色	シルト						

第64図 S K 21 . 22 . 23平面図

IV章 2 水田地区

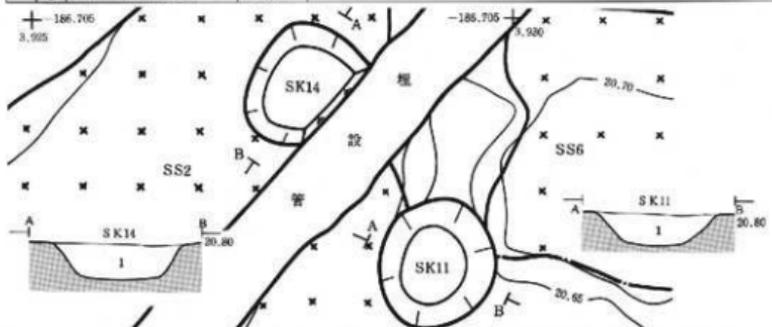


SKNo	地区	建設期	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	土質関係	地層状況	備考
SK19	水田	3期上層	円形基礎	144×139×31			SS5より新	人為地盤	遺物無 写真30-39

層位	層No	土色	土性	備考
	①	19YR 4/4 黄褐色	シルト	①②③④が6:2:1:1で混入 ⑤が少量混入
	②	10YR 3/1 黄褐色	シルト	
	③	10YR 2/3 黄褐色	シルト	
	④	5 YR 4/8 赤褐色	シルト	
	⑤	10YR 7/3 に近い黄褐色	火山灰	

SKNo	地区	建設期	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	土質関係	地層状況	備考
SK24	水田	3期上層	円形基礎	111×91×31			SS5より新	自然地盤	遺物無 写真44-45

層位	層No	土色	土性	備考
	①	10YR 3/3 赤褐色	シルト	①②が8:2で混入 ③が少量混入
	②	10YR 5/4 に近い黄褐色	シルト	
	③	10YR 7/3 に近い黄褐色	火山灰	



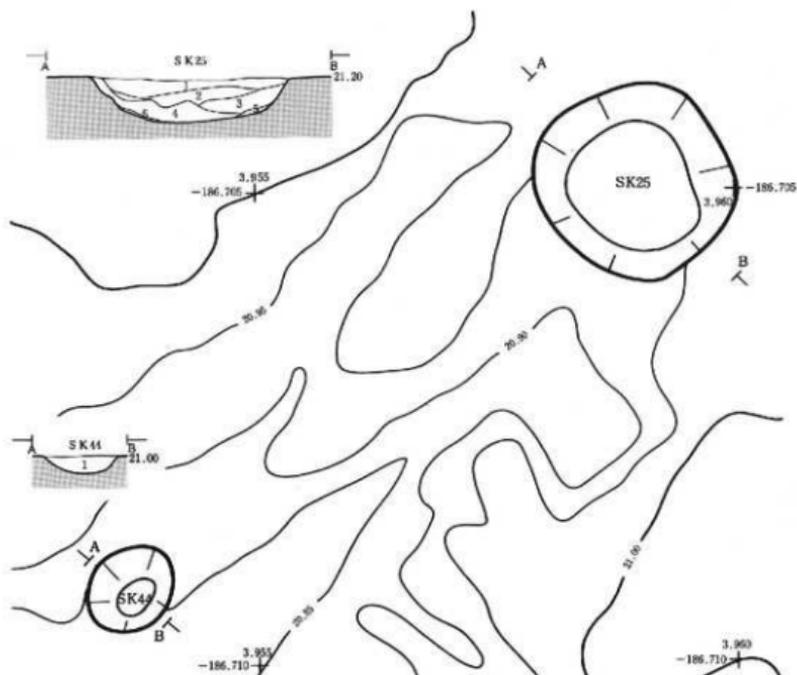
SKNo	地区	建設期	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	土質関係	地層状況	備考
SK11	水田	3期上層	円形	112×117×6			SS2より新	人為地盤	遺物無 写真34

層位	層No	土色	土性	備考
	①	10YR 4/3 灰黄褐色	シルト	①②③④⑤が5:2:1:1:1で混入 ⑥が少量混入
	②	10YR 2/3 黄褐色	シルト	
	③	10YR 2/2 黄褐色	シルト	
	④	10YR 5/4 に近い黄褐色	シルト粘粒土	
	⑤	10YR 5/6 黄褐色	火山灰	
	⑥	10YR 7/1 灰白色		

SKNo	地区	建設期	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	土質関係	地層状況	備考
SK14	水田	3期上層	円形基礎	139×93以上×35			SS2より新	人為地盤	遺物無 写真36

層位	層No	土色	土性	備考
	①	10YR 3/2 黄褐色	シルト	①②③④⑤が3:2:1:1:1で混入 ⑥が少量混入
	②	10YR 2/3 黄褐色	シルト	
	③	10YR 5/4 に近い黄褐色	シルト	
	④	5 YR 3/6 暗赤褐色	シルト	
	⑤	10Y 4/1 暗緑灰色	シルト	
	⑥	10YR 7/1 灰白色	火山灰	

第66図 S K11.14.19.24平面図

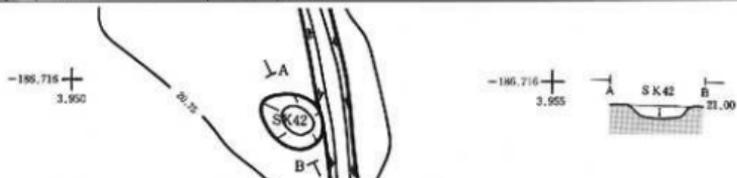


SKNo	地況	建設年	平面形	縦横(縦軸×短軸×厚さ)	壁の状況	底面の状況	応用用途	地境状況	備考
SK25	水田	4層上層	円形溝壁	204×102×4寸			陸	自然増陸	中層中央1点 中層西側1点 土底 溝底層厚1.5(平均) 写真47

層位	層No	土色	土性	備考
①	3YR 6/2	灰青褐色	シルト	
②	3YR 4/4	褐色	シルト	
③	3YR 4/3	灰赤い黄褐色	シルト	
④	3YR 4/2	灰黄褐色	シルト	
⑤	3YR 5/1	灰褐色	粘土質シルト	

SKNo	地況	建設年	平面形	縦横(縦軸×短軸×厚さ)	壁の状況	底面の状況	応用用途	地境状況	備考
SK44	水田	4層上層	円形溝壁	99×84×1寸			陸	自然増陸?	写真44

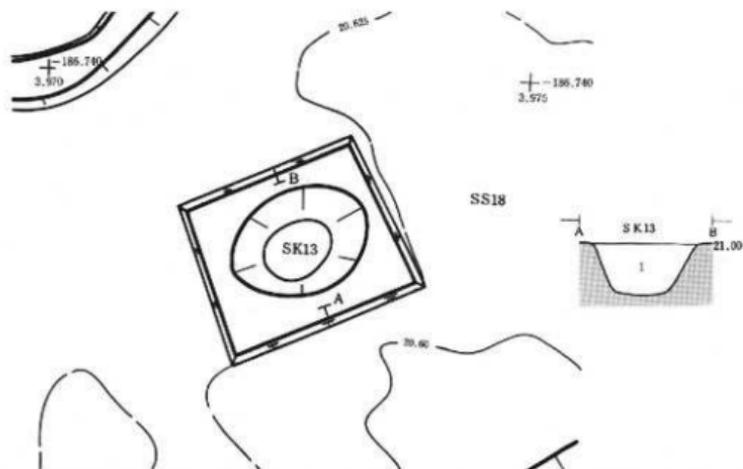
層位	層No	土色	土性	備考
①	7.5YR 4/2	灰褐色	シルト	



SKNo	地況	建設年	平面形	縦横(縦軸×短軸×厚さ)	壁の状況	底面の状況	応用用途	地境状況	備考
SK42	水田	4層上層	円形溝壁	72×54×12			陸	自然増陸	写真48

層位	層No	土色	土性	備考
①	7.5YR 5/2	灰褐色	シルト質粘土	7.5YR 4/1 灰白色 (火山灰) を混入

第67図 S K 25.42.44平面図

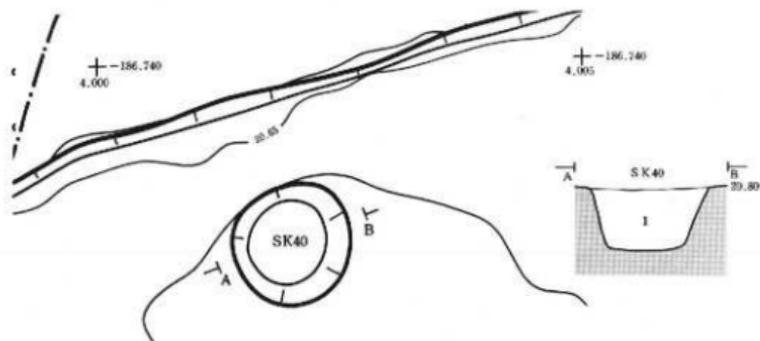


SKNo	地区	建設期	平面形	規模(面積×形状×高さ)	壁の状況	基礎の状況	構造関係	地盤状況	備考
SK13	水田	3期上層	円形基礎	150×111×5.0			SS1より新	人為地盤	地盤の硬直 寸法誤
階位	階高	土 色	土 性	備 考					
①	7.5YR 5/6 暗褐色	シルト	0.020(0.03)以下 2:1:1:1:1:4で混入						
②	10YR 6/2 灰黄褐色	シルト							
③	10YR 2/2 暗緑色	シルト							
④	10YR 3/4 暗褐色	シルト							
⑤	10YR 8/2 灰白色	火山灰							



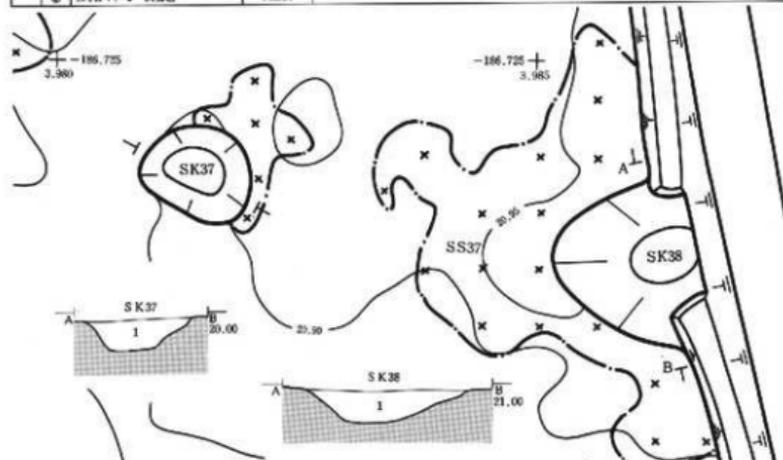
SKNo	地区	建設期	平面形	規模(面積×形状×高さ)	壁の状況	基礎の状況	構造関係	地盤状況	備考
SK12	水田	4地上層	円形基礎	150×135×4.0			新	自然地盤	遺物類 寸法誤
階位	階高	土 色	土 性	備 考					
①	10YR 6/2 灰黄褐色	シルト							
②	10YR 4/1 褐色	粘土質シルト							

第68図 SK12. 13平面図



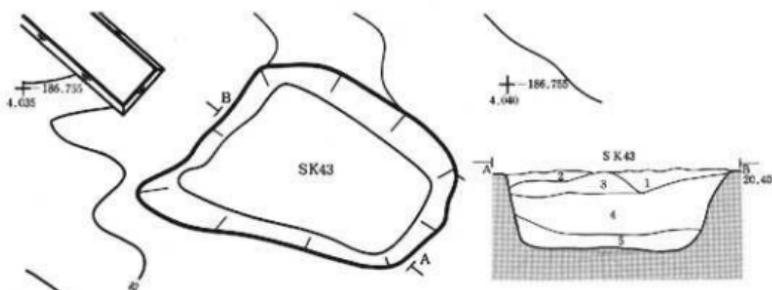
SKNo	地区	建設期	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	基礎関係	基礎状況	備考
SK40	本田	4期上層	円形	129×123×65					
階位	階別	土色	土性	備考					
①	1stYR 5/3	紅褐色	シルト	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿					
②	1stYR 2/3	黄褐色	シルト						
③	1stYR 3/8	黄褐色	粘土						
④	5 YR 4/6	赤褐色	粘土質シルト						

SKNo	地区	建設期	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	基礎関係	基礎状況	備考
SK37	本田	3期上層	円形	117×90×32			SS37上9層	人為堆積	造形家 写真54
階位	階別	土色	土性	備考					
①	1stYR 8/4	紅褐色	シルト	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿					
②	1stYR 4/4	褐色	シルト						
③	1stYR 3/2	黄褐色	シルト						
④	5 YR 4/8	赤褐色	砂						
⑤	1stYR 7/2	灰白色	火山灰						

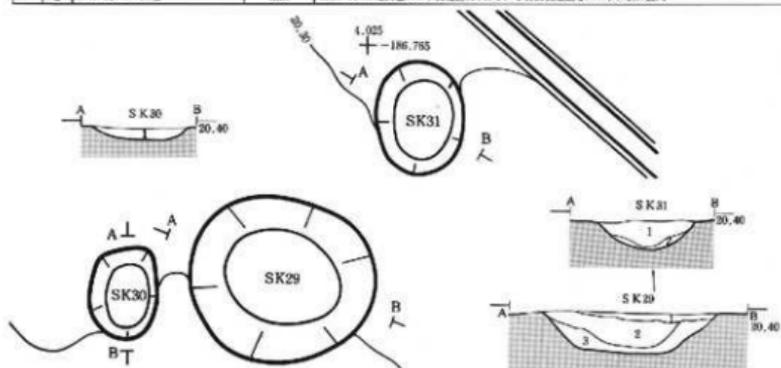


SKNo	地区	建設期	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	基礎関係	基礎状況	備考
SK38	本田	3期上層	円形	108以上×177×18			SS37上9層	人為堆積	造形家 写真55
階位	階別	土色	土性	備考					
①	1stYR 6/3	紅褐色	シルト	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿					
②	1stYR 5/7	黄褐色	シルト						
③	5 YR 4/8	赤褐色	砂						
④	7.5YR 4/4	褐色	シルト						
⑤	1stYR 7/3	紅褐色	火山灰						

第69図 S K 37.38.40平面図



SKNo	地区	遺跡区	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	遺跡の状況	発掘年度	発掘状況	備考
SK43	水田	4段上段	方形基壇	219×182×84					
層位	層No	土色	土性	備考					
①	2.5Y 4/2	暗灰青色	シルト質粘土	水田跡と10YR 5/6黄褐色粘土をブロック状に混入					
②	2.5YR 4/2	暗灰青色	シルト質粘土	10YR 5/6黄褐色粘土をブロック状に混入					
③	10YR 5/6	黄褐色	粘土	2.5Y 4/2暗灰青色シルト質粘土の3つがブロック状に混入					
④	10YR 5/6	黄褐色	粘土	2.5Y 4/2暗灰青色シルト質粘土5Y 2/1黄褐色粘土の3つがブロック状に混入					
⑤	5Y 7/1	黒色	粘土	2.5Y 4/2暗灰青色シルト質粘土10YR 5/6黄褐色粘土をブロック状に混入					

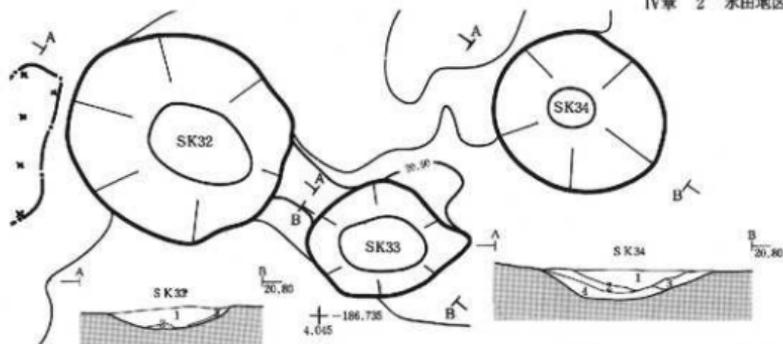


SKNo	地区	遺跡区	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	遺跡の状況	発掘年度	発掘状況	備考
SK29	水田	4段上段	円形基壇	290×177×45					
層位	層No	土色	土性	備考					
①	10YR 4/2	灰青褐色	シルト	(1)②が①:3:2で混入					
②	10YR 4/3	灰青+黄褐色	シルト						
③	10YR 4/6	黄褐色	シルト						

SKNo	地区	遺跡区	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	遺跡の状況	発掘年度	発掘状況	備考
SK30	水田	4段上段	円形基壇	90×59×17					
層位	層No	土色	土性	備考					
①	10YR 5/3	灰青+黄褐色	シルト						
②	10YR 3/2	黒褐色	シルト						
③	2.5Y 4/2	暗灰青色	粘土						

SKNo	地区	遺跡区	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	遺跡の状況	発掘年度	発掘状況	備考
SK31	水田	4段上段	円形基壇	130×92×21					
層位	層No	土色	土性	備考					
①	10YR 4/2	灰青褐色	シルト						
②	10YR 3/2	黒褐色	シルト						

第70図 SK 29,30,31,43平面図



SKNo	地区	調査区	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	土質関係	堆積状況	備考
SK32	本庄	4区上田	円形基溝	137×144×0.5			無	白色堆積	写真54

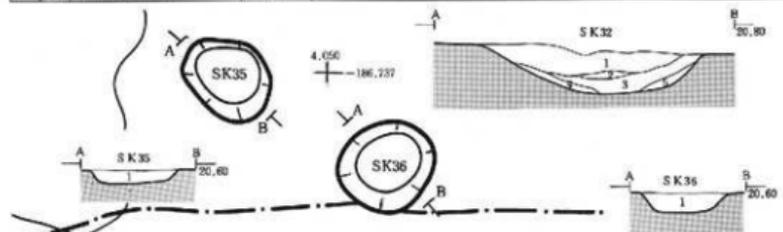
層位	層No	土色	土性	備考
①	10YR 5/4	にぶい黄褐色	シルト	
②	10YR 3/4	暗褐色	シルト	
③	10YR 3/2	黒褐色	シルト	
④	10YR 4/2	次黄褐色	シルト	
⑤	10YR 4/2	次黄褐色	シルト	

SKNo	地区	調査区	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	土質関係	堆積状況	備考
SK33	本庄	4区上田	円形基溝	109×125×21			無	白色堆積	写真55 1点(24)

層位	層No	土色	土性	備考
①	10YR 4/4	褐色	シルト	
②	10YR 2/3	黒褐色	シルト	
③	10YR 3/2	黒褐色	シルト	

SKNo	地区	調査区	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	土質関係	堆積状況	備考
SK34	本庄	4区上田	円形基溝	180×162×42			無	自然堆積	写真57

層位	層No	土色	土性	備考
①	10YR 5/2	にぶい黄褐色	シルト	
②	10YR 4/4	褐色	シルト	
③	10YR 4/4	褐色	シルト	
④	10YR 3/3	黄褐色	シルト	



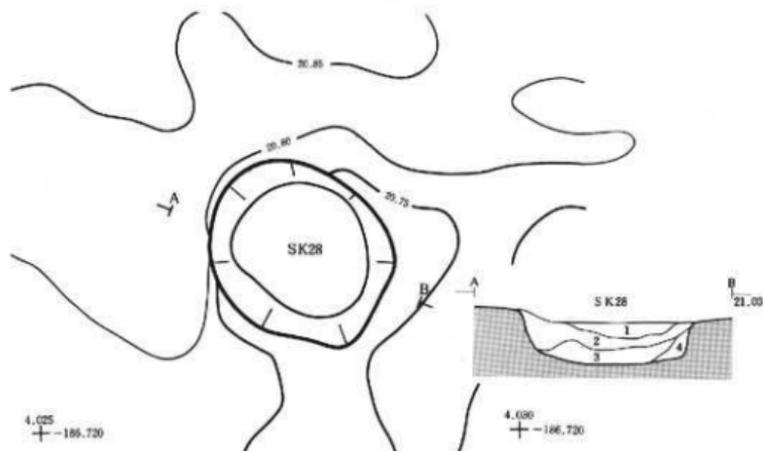
SKNo	地区	調査区	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	土質関係	堆積状況	備考
SK35	本庄	4区上田	円形基溝	99×81×13			無	人為堆積	写真56

層位	層No	土色	土性	備考
①	10YR 4/2	次黄褐色	シルト	①②③が5:1:1で混入
②	10YR 3/0	白褐色	粘土	
③	5YR 4/6	赤褐色	シルト	

SKNo	地区	調査区	平面形	規模(長軸×短軸×深さ)	壁の状況	底面の状況	土質関係	堆積状況	備考
SK36	本庄	4区上田	円形基溝	105×103×20			無	人為堆積	写真58

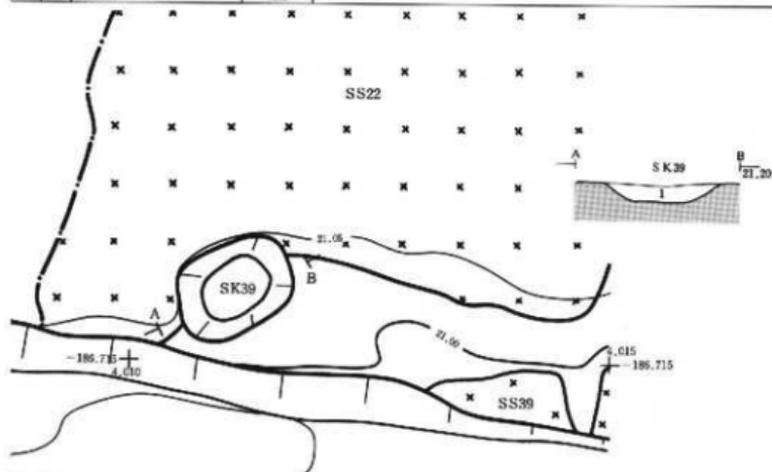
層位	層No	土色	土性	備考
①	10YR 3/2	黒褐色	シルト	①②③④が7:1:1:1:1で混入
②	5YR 4/8	赤褐色	粘土	
③	10YR 4/4	褐色	シルト	
④	10YR 3/1	黒褐色	粘土質シルト	

第71図 S K 33.34.35.36平面図



SKNo.	地区	調査期	平面形	規模(長軸×短軸×高さ)	壁の状況	基礎の状況	基礎関係	壁面状況	備考
SK28	水田	4月上旬	円形	108×177×60					

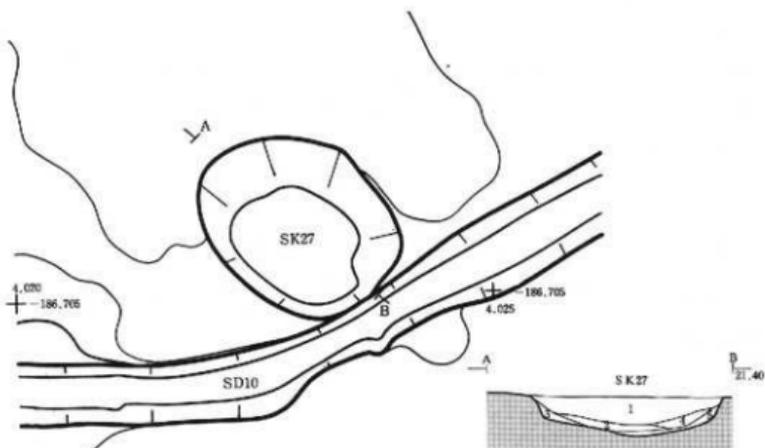
調査層No.	土色	土性	備考
① 10YR 5/4	紅褐色	シルト	
② 10YR 4/3	紅褐色	シルト	
③ 10YR 4/2	黄褐色	シルト	
④ 10YR 3/1	黄褐色	粘土	



SKNo.	地区	調査期	平面形	規模(長軸×短軸×高さ)	壁の状況	基礎の状況	基礎関係	壁面状況	備考
SK39	水田	5月上旬	円形	125×95×25			SS2より古	人工基礎	遺物照写あり

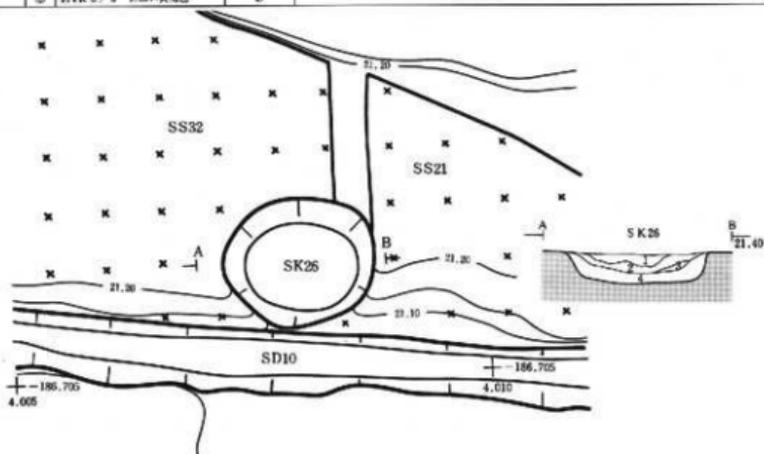
調査層No.	土色	土性	備考
① 10YR 4/2	黄褐色	シルト	②③④が6:3:1で混入
② 10YR 5/6	黄褐色	砂	
③ 10YR 3/4	黄褐色	シルト	

第72図 S K 28.39平面図



SK27

SKNo	地区	調査年	平面形	規模(長軸×短軸×高さ)	壁の状況	遺物の状況	調査時期	発掘状況	備考
SK27	水田	4期上田	円形基礎	24.0×17.1×3.4				自然発現	遺物付 写真50
層位	調査No	土色	土性	備考					
	①	3YR 4/4 褐色	シルト						
	②	3YR 4/2 灰黄褐色	粘土						
	③	3YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト						
	④	3YR 5/4 ぶよい黄褐色	砂						
	⑤	3YR 5/3 ぶよい黄褐色	砂						



SK26

SKNo	地区	調査年	平面形	規模(長軸×短軸×高さ)	壁の状況	遺物の状況	調査時期	発掘状況	備考
SK26	水田	3期上田	円形基礎	13.9×13.8×1.8				SS22より新	自然発現 遺物付 写真16
層位	調査No	土色	土性	備考					
	①	3YR 4/4 褐色	シルト						
	②	3YR 5/2 灰黄褐色	シルト						
	③	3YR 5/3 ぶよい黄褐色	砂						
	④	3YR 3/4 暗褐色	シルト						

第73図 S K 26.27平面図

【堆積状況】

堆積土の状況から、人為堆積のもの、廃絶後の土砂流入による自然堆積のものとの2種類が認められた。

平面形態と堆積状況から深畑区を除いた水田地区のSKは下のようグルーピングすることができる。

堆積状況	円形		方形		長方形	
	円形	円形基調	方形	方形基調	長方形	長方形基調
自然堆積	22	12・24・25・26・27・28・30 31・32・33・34・42・44			16	15・17・18
人為堆積	11 40	13・14・19・20・21・29・35	10	23・41・43		

【分布状況】

全体的にみると調査区全域に散漫に分布しているように観察されるが、上記グルーピングに沿って分布状況を検討してみる。

長方形を基調とし自然堆積であるSK15・16・17・18は、いずれも非耕作域南方の斜面上に分布している特徴がある。恐らくこれらは、同一の性格を持つ土壌と考えられる。

他の土壌と調査前の畦畔との位置関係を検討してみると、SK11・23・37・38・43を除き、現水田畦畔と接しているか、非常に近接する位置関係にある(第4図)。さらに、これらのなかにはSK12・19・20・21・24・27・28・30・31・32・33のように現水田の畦畔が接続する地点に位置するものがある。こうした点から、これら土壌群は、現水田の畦畔と密接な関係があると思われる。ただし、SK10からは北宋銭(第62図8)が出土し、人為的堆積であるので違う性格のものであろう。SK10に隣接し、方形基調で人為的堆積のSK41はSK10と同じ性格と考えられる。

【出土遺物】

SK10・13・20・25・32・33から遺物が出土している。SK10の底面付近から北宋銭「熙寧元寶」?(北宋熙寧元年1068年)(第62図8)が1点出土している。SK13からは明治の硬貨が1点、SK20から年代不明の白磁紅皿(写真104-15)破片1点、SK25から19世紀の鐺鉢(写真104-14)破片1点、SK32から18世紀後半～19世紀前半の染付皿(写真104-13)破片1点、SK33から年代不明の肥前染付碗(写真104-16)破片1点がそれぞれ出土している。

④ SD (溝・河川跡)

溝を21条、河川跡を4条、計25条確認した。深掘区で検出したSD13・18・19・20・21・26等の河川跡については、深掘区の項で説明する。溝・河川跡の概略についてまとめたのが第4表である。

〔確認状況〕

基本層位第3層灰白色火山灰の上面で確認したSD6・7を除いた他は、第4層上面で確認している。しかし、土層観察用ベルトを観察した結果、SD3・4・12は、基本層位第2層上面から掘り込まれていることが判明した(第53図)。これらと略平行して走るSD5・11も第2層から掘り込まれている可能性が高い。

〔堆積状況〕

SD7は、人為的な堆積状況をしめているが、他はすべて自然堆積である。

〔分布状況〕

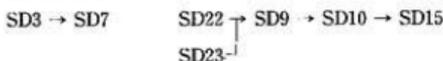
主に水田跡が検出された中央部を除いた、北部・南部に多く分布している。等高線に沿って略東西方向に走るSD1・2・3・4・9・10・12は保存良好で検出長があったが、傾斜に沿って南北方向に走る他のものは検出長が短かった。

SD9は北端部に位置し、一段高い段丘崖の下端に略沿って作られている。SD10は現水田の畦畔位置と一致している。SD3・4・5・11・12の5本は略並行して走っている。このうちSD5・11は残存状況が悪いが本来は更に北西方向に伸びていたものと推定される。水田域を画する溝かとも推定される。SD3とSD4・5・11・12は規模・形態が違うが、SD4・5・11・12はそれぞれ近似しているため造り替えの可能性もあるが、重複関係を明らかにすることは出来なかった。これらと若干距離をおきながら凡そ並行に走るSD1・2が検出されている。SD1・2ともL字形に川に向かって屈曲し通路状の空間を造り出している。この空間の左右に、SB1・2の掘立柱建物が位置する。SD1・2とSD4の間は凡そ8～10m、SD3とは11～14m程の距離がある。これらの間には農道があるため、両者の関係を明らかにすることは出来なかった。

〔他遺構との新旧関係〕

灰白色火山灰の堆積との新旧関係からすると、SD3・6・7・10・14・20はいずれも新しい。SD15はSD10より新しいのでこれも灰白色火山灰の堆積よりも新しい。SD2は、L字形に屈曲して川に向かう部分の造り替えが行われている。新しい方がSD1との距離がせまい。

また、SD3とSD7、SD9とSD10・15・22・23とが重複している。これらをまとめると下のようになる。

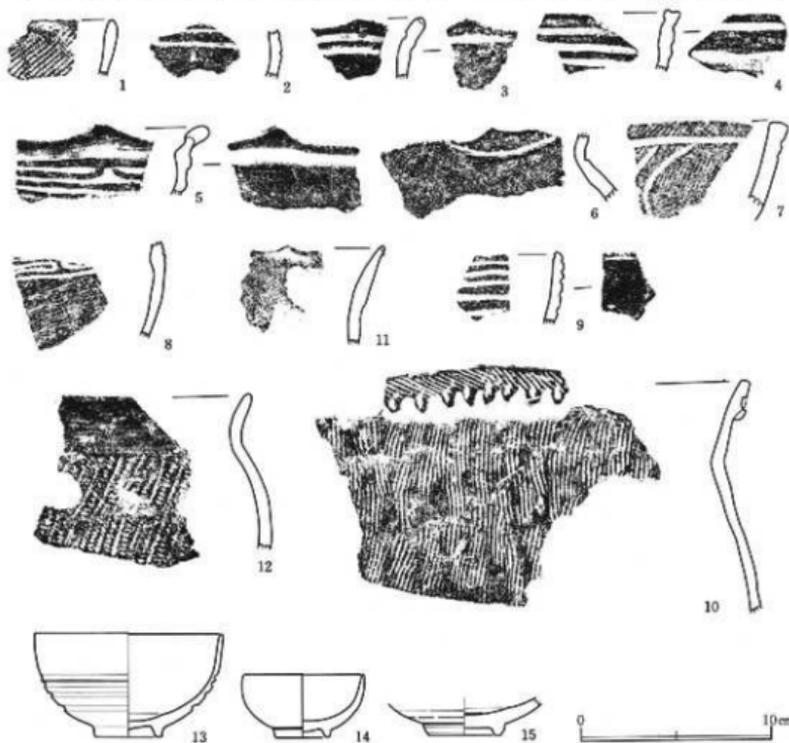


第4表 SD(溝・河川跡)一覽表

SD No	地区	確認層位	幅(上層・下層)	断面形	検出高	方向	崖壁関係	堆積状況	備 考
SD1	水田地区	4層上面	1.4~1.1m・0.8~0.5m	U字状	38.1m	N-37°E N 34~60°W	-	自然堆積	1.平に広がる
SD2	水田地区	4層上面	1.8~0.7m・0.8~0.3m	U字状	29.7m	N-39°E N-54°E	新・旧あり	自然堆積	1.平に広がる
SD3	水田地区	4層上面	1.1~0.9m・0.3~0.2m	台形状	70.1m	N 22~49°W	SS5より新 SS19より新 SS17より旧 SK41より新 SK23より旧	自然堆積	
SD4	水田地区	4層上面	0.4~0.3m・0.3~0.2m	U字形	43.6m	N-33~48°W	-	自然堆積	
SD5	水田地区	4層上面	0.8~0.3m・0.6~0.2m	U字形	17.5m	N 43~47°W	-	自然堆積	
SD6	水田地区	3層上面	0.7~0.4m・0.5~0.3m	U字形	12.1m	N-08~59°E	SS2より新	自然堆積	
SD7	水田地区	3層上面	0.8~0.7m・0.5~0.3m	台形状	21.1m	N-30~49°E	SS16より新 SD3より新	人為堆積	
SD6	欠番								
SD9	水田地区	4層上面	2.2~0.6m・1.0~0.3m	台形状	68.2m	N 74~30°W	SD10より旧 SD13より旧 SD22より新 SD23より新	自然堆積	陶磁器片 (J56)
SD10	水田地区	4層上面	1.0~0.3m・0.4~0.1m	台形状	80.1m	N-08~85°W N 62°E	SD9より新 SD15より旧 SS21より新 SS26より新 SS26より新	自然堆積	ガラス, 陶磁器片 (J16, 17, 30)
SD11	水田地区	4層上面	0.5~0.2m・0.3~0.1m	U字形	10.7m	N 45~47°W	-	自然堆積	
SD12	水田地区	4層上面	0.5~0.3m・0.3~0.2m	U字形	46.0m	N-28~69°W	-	自然堆積	
SD13	水田地区(深掘区)	4層上面	7.0m	U字形	9.5m	N-2°E	SD20より新 SD27より旧	自然堆積	旧河道 陶磁器片 (J29, 31, 32, 44, 46, 60, 70, 81)
SD14	水田地区	4層上面	1.0~0.5m・0.8~0.3m	U字形	26.2m	N-75°W	SS35より新	自然堆積	残存良好でない
SD15	水田地区	4層上面	-	-	15.4m	N-74°W	SD9より新 SD10より新	自然堆積	
SD16	欠番								
SD17	水田地区	4層上面	0.5~0.5m・-	-	6.7m	N 88°E	-	自然堆積	確認のみ
SD18	水田地区(深掘区)	5b層上面	0.5~0.4m・0.2~0.1m	U字形	4.8m	N-58°W N 24°E	-	自然堆積	
SD19	水田地区(深掘区)	7層上面	4.7m・3.8m	U字形	1.6m	N-45°W	-	自然堆積	旧河道
SD20	水田地区(深掘区)	6c層上面	-	U字形	4.1m	-	SD13より旧 SS29より新	自然堆積	旧河道?
SD21	水田地区(深掘区)	6b層上面	11.9~10.8m・ 10.2~9.7m	U字形	3.8m	N-10°W	-	自然堆積	旧河道
SD22	水田地区	4層上面	0.7~0.4m・-	-	8.9m	N 6°W	SD9より旧	自然堆積	確認のみ
SD23	水田地区	4層上面	-	-	3.5m	N-88°W	SD9より旧	自然堆積	
SD24	欠番								
SD25	水田地区	4層上面	-	-	4.3m	N 74°W	-	自然堆積	確認のみ
SD26	水田地区(深掘区)	5b層上面	0.5~0.4m・-	-	3.3m	N-85°E	-	自然堆積	
SD27	水田地区	4層上面	0.8~0.7m・-	-	4.1m	N 4°W	SD13より新	自然堆積	確認のみ
SD28	水田地区	4層上面	1.1~0.6m・-	-	3.4m	N-45°E	-	自然堆積	確認のみ

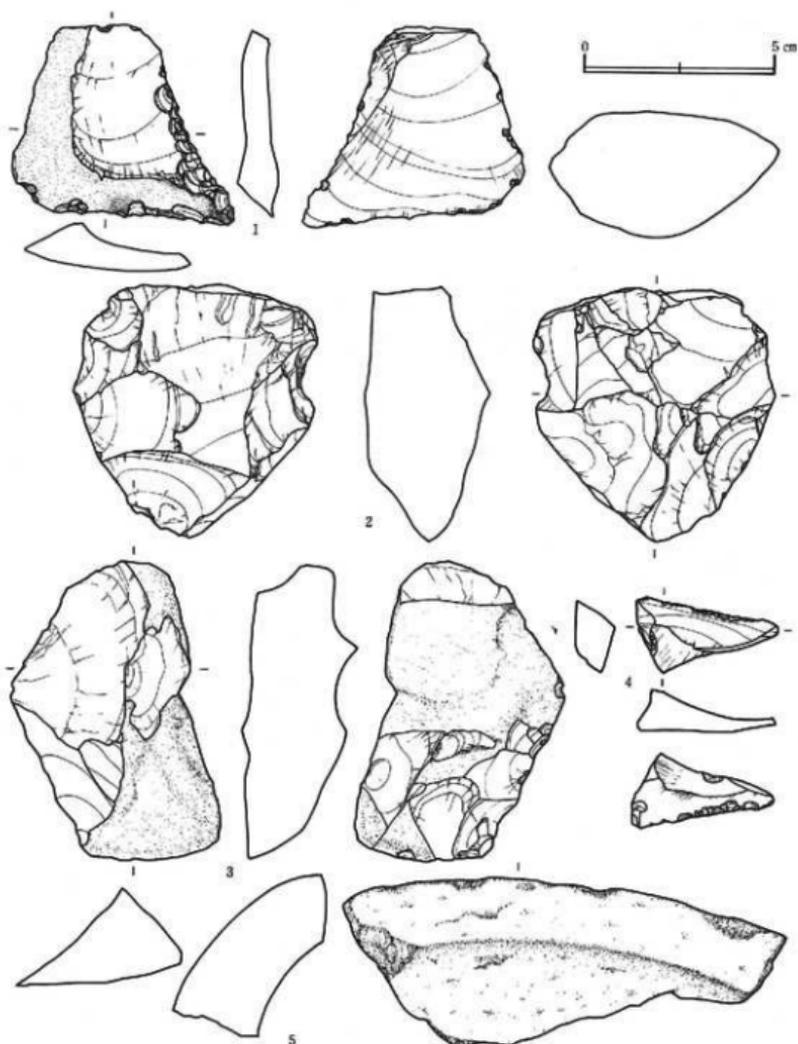
[出土遺物]

SD9・10 から遺物が出土している。SD9 からは、17世紀後半から18世紀の青緑釉皿(写真104-10)の破片が1点出土している。SD10 からは、18世紀～19世紀の掛け分碗(写真104-5)や鉄絵皿(写真104-3)の他に、ガラス瓶が出土している。その他のSDからは、出土していない。



図番	器種	出土遺物	器種	口縁	文様	地文	口縁	裏底	備考	写真図
24-1	A289	SD9-1	掛鉢	口平		L.R.横	-	-	鐵文焼跡	写真104-1
24-2	A106	SD9-1	鉄鉢	圓			-	-	#	写真104-2
24-3	A369	SD9-1	皿	口広開		無	○	○	#	写真104-3
24-4	A385	SD10-1	鉄鉢	口平		無	○	○	#	写真104-4
24-5	A384	SD9-1	鉄鉢	口広開		無	-	○	#	写真104-5
24-6	A388	SD9-1	皿	圓		無	-	-	#	写真104-6
24-7	A105	SD1-1	掛鉢	口平		L.R?	-	-	鐵文焼跡	写真104-7
24-8	A369	SD1-1	鉄鉢	圓		L.R?	-	-	鐵文焼跡	写真104-8
24-9	A403	SD1-1	鉄鉢	口平		無	-	○	#	写真104-9
24-10	A385	SD1-1	鉄鉢	口平		R.横	-	-	鉄文	写真104-11
24-11	A402	SD1-1	掛鉢	口小開		無	-	-	鐵文焼跡	写真104-10
24-12	A367	SD1-1	掛鉢	口平		L.P.横	-	-	#	写真104-12
図番	器種	出土遺物	器種	口縁	文様	地文	製作年代	特徴	備考	写真図
24-13	J型	SD13-1	相模大碗				18世紀後半	底+裏縁の内部の縁は3取付		写真104-1
24-14	JII	SD13-1	小形鉄絵皿				18世紀～19世紀	両台縁～両台内縁部		写真104-2
24-15	J44	SD13-1	鉄鉢(掛鉢系)				17世紀後半～18世紀	見込縁+口縁射す両台縁		写真104-4

第74図 水田地区SD(溝・河川跡)出土遺物



図番号	種類	出土層位・標高	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	写真原尺
75-1	不規則	SD27-1	31.1	59.3	11.3	50.7	167-1
75-2	石核	SD21-1	61.5	60.2	30.2	130.3	167-5
75-3	片断的剥離	SD21-1	80.1	50.3	31.6	98.1	167-2
75-4	片断的剥離	SD00-1	32.4	21.4	12.0	4.8	167-3
75-5	石片	SD12-1	184.1	32.7	23.0	125.0	161-3

第75図 水田地区SD出土制片石器・石製品

⑤ 深掘区

第4層下の状況把握と給・排水管理設のため、6ヶ所調査区を設定し深掘を行った。各地点とも第4層下の堆積状況や遺構・遺物の出土状況が違うので個々に説明する。

[I・II区] (第79図2A・2B・3)

ともに、七北田川に向かって傾斜する地点に設定した。バックホーで深掘し、第4層下の堆積状況を観察した。I区の8～10層から若干縄文土器が出土したが、時期は不明である。

[IV区] (第79図1A・1B)

後世の削平のため、水田跡が検出できなかった地点である。7層上面でSD19を検出した。西壁の断面観察では、上端幅16.8m、底面の幅3.6m、深さ1.3mあり、底面から両側に非常に緩やかに立ち上がっており、河川跡と考えられる。堆積土中から縄文土器(第74図1)が1点出土したが、時期は不明である。他に、樹木(写真65)が出土している。これらは、同定の結果クリ・イヌガヤ・カツラ・ヤブツバキ・モクレン属の一種と判明した。いずれも加工痕など無く自然の流木である。また、V区北端の7層上面で、自然の立木(写真71)を検出している。SD19との層位関係から、SD19の脇に生息していた樹木と考えられる。樹種は同定していない。

5層から4点の弥生土器(第76図4～7)と、6点の微細な剝離痕ある剝片石核・剝片(第78図1～6)が出土した。第76図4は口縁部破片で、口唇直下に交互刺突文を二条以上巡らしている。弥生時代後期の天王山式である。5・6・7はいずれも胴部破片であるが、出土層位等から天王山式と考えられる。第78図1・6は石核で、2・3・4は微細な剝離痕ある剝片で、5は剝片である。これらも、出土層位から天王山式期の可能性が高い。

更に下層の8層上面でSK48・49を検出した。SK48(第77図)は、長軸176cm・短軸54cm以上、深さ16cmあり、平面形が長方形基調の土壇である。遺物は出土しなかった。SK49(第77図)は残存長34cm×26cmの焼面で、中央部がやや凹み周辺に炭化物が分布していた。この周辺から4点の石器や剝片が出土している。第77図1は、所謂アメリカ式石鏝で石材は黒曜石である。先端部が欠失するが、基部の両側からノッチを入れ、表・裏とも入念な調整剝離を加えている。2は剝片、3は微細な剝離痕ある剝片、4は二次加工のある剝片である。周辺の壁面を精査してみたが、落ち込みなどは検出できなかった。

この更に下層の9層から、縄文土器(第76図2)が出土している。台付浅鉢で、双頭山形突起を持ち、胴部が内彎気味に立ち上がり口縁部が略直立している。五条の沈線間の一部を彫去したもので、反対向きに一对になっている。台部との境界に二条、台部裾に三条の沈線を巡らしている。包含層地区出土縄文土器の第2群と同時期のものである。

[V区] (第80図2A・2B・2C)

V・VI区とも、公園施設に伴う給・排水管理設備所にあたるため、深掘調査を行った。両地点

とも水田跡が残存しておらず、農道東側をV区、西側をVI区とした。V区西端でSD13・20を検出した。SD13は、水田地区の略中央に位置し、第4層上面で確認した。農道と重複しているため、底面幅を確認することができなかった。さらにトレンチを3本入れたが、堆積状況の把握にとどまった。確認面の状況からすると、おおよそN-2°Eの方位を持ち、上端幅は7m程の規模である。調査前に農道東側にあった一段低い水田の畦畔と略一致(第4図)している。底面直上から、加工痕ある木材群(写真66)が出土しているが、性格は不明である。これらは、同定の結果、クリ・イヌガヤと判明している。堆積土から陶・磁器が出土している。第74図13・14はいずれも相馬大堀のもので、13は18世紀後半の掛け分け碗、14は18～19世紀の小型灰釉碗、15は肥前の白磁あるいは染付で17世紀後半～18世紀のものである。他に、18～19世紀の相馬大堀の灰釉碗(写真104-4)、肥前染付碗(写真104-7)、17世紀前半の美濃長石釉碗(写真104-9)、19世紀の堤掘鉢(写真104-11)、香炉(写真104-8)の破片が出土している。

SD20は、6c層上面で確認できSD13よりも古い。上端幅、底面幅とも不明であるが河川跡と考えられる。堆積土から微細剝離痕ある剝片が1点(第75図4)、縄文土器が4点(第74図2・3・5・6)出土している。第74図3・6は壺、2・5は浅鉢の破片で、包含層地区出土の第2群土器と同時期のものである。

SD18・26とも5b層上面で確認したが、出土遺物は無い。SD18は幅50cm、深さ10cm、長さ4.5mあり、鎌型に屈曲している。SD26は幅50cm、長さ3.3mある。

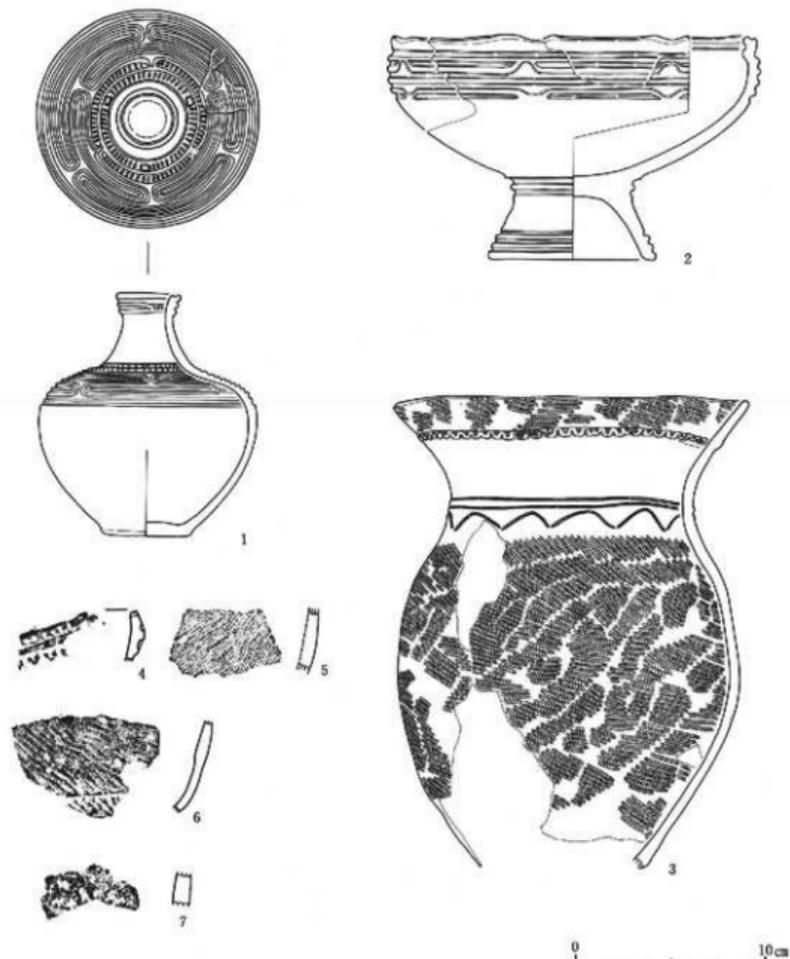
[VI区] (第80図1A・1B)

6b層上面でSD21を検出した。上端幅4.0m、底面幅3.0mあり、堆積土から縄文土器・弥生土器(第74図4・7～12)、剝片石器(第75図1～3・第39図5)が出土している。第74図7は、縄文時代後期の深鉢形土器の破片である。8・9・11はいずれも、包含層地区出土の第2群土器と同時期のものである。10は複合口縁の深鉢形土器である。複合口縁部は、RLの横回転施文で、下端に交互刺突文があり体部は、RLの斜回転施文で、弥生時代後期の天王山式である。8・9・11はいずれも土器全体が摩耗しているが、10には認められない。

6b層中で立木の根を検出(写真70)した。根材のため同定できなかったが、広葉樹の一種のようである。SD21との層位関係から、SD21の脇に生息していた樹木と考えられる。

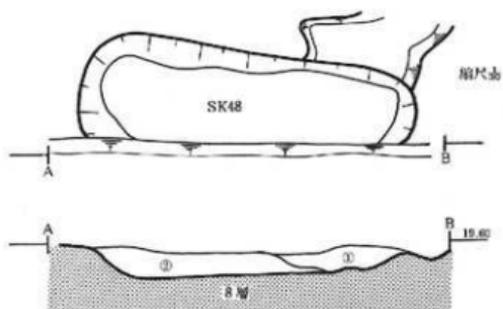
また、6b層中から横倒した状態で弥生土器(第76図3)(写真108)が出土した。複合口縁で複合部下端に交互刺突文がある。口頸部には並行する二条の沈線、肩部に弧状の沈線が施文されている。複合口縁部・胴部ともRLの斜回転施文である。内面・口頸部ともナデ調整が行われている。底部を欠き、胴部内側に貫通しない穿孔痕跡が認められる。弥生時代後期の天王山式である。さらに下層の8c層から縄文土器(第76図1)が出土している。小型の壺で、口縁部に二条の沈線を巡らし一部彫去している。肩部には刻目と変形工字文を施文している。縄文時代

晩期の終末に位置付けられる。

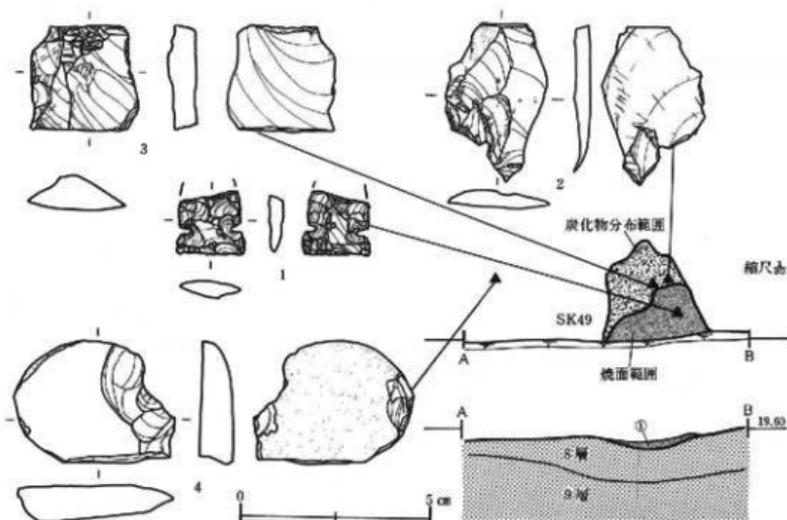


図番号	図録番号	出土地区・層位	器形	断面と1/3縮小形	文様	地文	口注	底注	備考	写真図版
76-1	A485	JMS6-9C	壺	口平	-	無	-	○	底文洗面	写真106-2
76-2	A487	EH60-9	台付浅鉢	口取山型	支線目	無	○	○	-	写真106-3
76-3	A488	AMS2-6	深鉢	口取	-	RL斜	-	-	先土	写真106-1
76-4	A224	BC66-3	深鉢	口取	-	無	-	-	-	写真106-13
76-5	A225	BH66-5	深鉢	深	-	LR	-	-	-	写真106-14
76-6	A226	BC66-5	深鉢	深	-	RL直	-	-	-	写真106-15
76-7	A437	BH66-5	深鉢	深	-	無	-	-	-	写真106-16

第76図 水田地区深掘区出土遺物



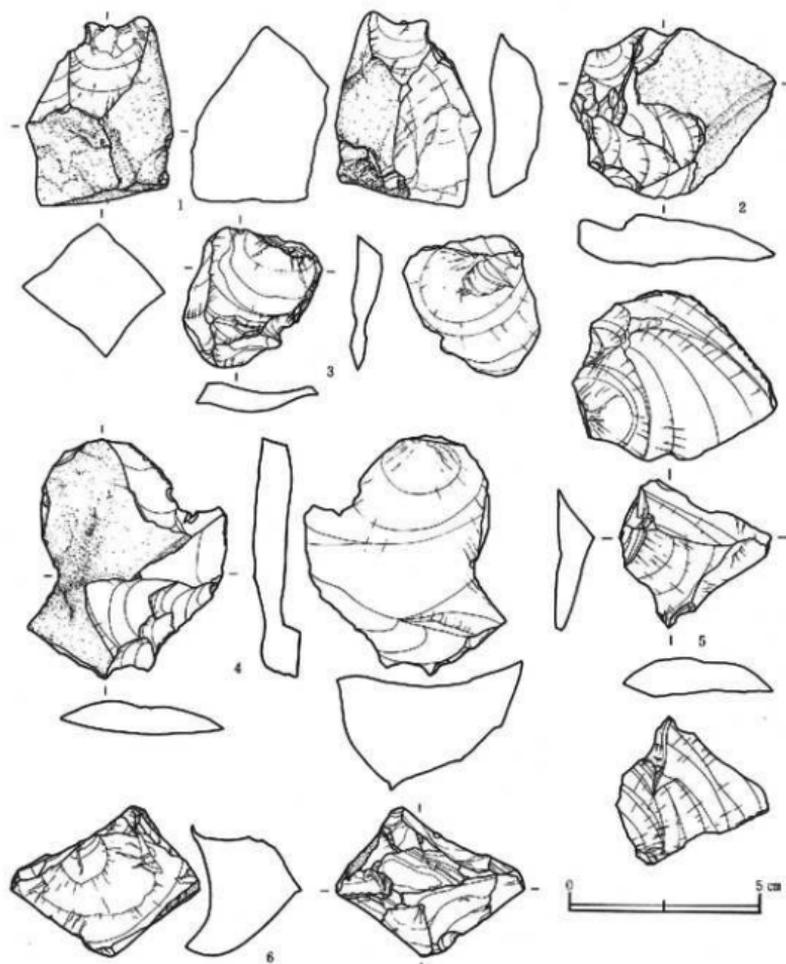
層位	層No.	土色	土性	備考
1	①	黒褐色L.Y.R.3/2	砂質S.A.3	原色がY.R.1.3粘土(焼物遺跡)を強固に凝入
1	②	黒褐色L.Y.R.4/3	粘土質S.A.3	



層位	層No.	土色	土性	備考
1	①	褐色黒色	L.Y.R. 2 / 3	シルト

図番号	器種	出土地区・層位	登録番号	高さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	学芸部収
77-1	石鉢	SK49-1	K1	16.5	12.1	3.5	3.1	167-11
77-2	鉢	SK49-1	K98	38.6	42.2	4.9	4.0	167-13
77-3	煎餅鉢	SK49-1	K17	27.6	38.5	9.2	7.4	167-12
77-4	二次加工	SK49-7	K36	32.0	41.9	8.6	10.0	167-14

第77図 水田地区深掘IV区SK48・49



图录号	器种	出土地点·层位	全编序号	长 ϕ (mm)	宽 (mm)	厚 ϕ (mm)	重量(g)	写真图枚
78-1	石核	BH196-5	K75	43.4	26.0	25.4	49.3	167-4
78-2	细纹刮棒	BC96-5	K49	50.0	44.2	14.6	33.6	167-6
78-3	细纹刮棒	BC96-3	K45	30.2	26.8	6.2	6.9	167-7
78-4	细纹刮棒	BC96-3	K51	42.7	37.6	9.0	27.9	167-8
78-5	刮片	BC96-5	K90	30.1	26.6	10.4	9.7	167-9
78-6	石核	BH196-5	K61	49.3	20.5	29.3	37.0	167-10

第78图 水田地区深掘区出土刮片石器

断面図土層注記表

深掘IV区

層位	層号	土 色	土 性	備 考
4	a	3.5Y 4/6 褐色	シルト質粘土	下層は3.5Y 5/4 黄褐色シルト質粘土
5	3.a	2.5Y 4/3 オリーブ褐色	シルト質粘土	わずかに砂を含む
5	3.b	2.5Y 3/2 黄褐色	硬質シルト	
6	a	3.5Y 5/4 黄褐色	砂	1~2cmの礫を多量に含む
6	b	2.5Y 5/4 黄褐色	砂	
6	c	2.5Y 5/3 黄褐色	シルト質砂	
7	7.a	3.5Y 5/2 黄褐色	シルト質粘土	
7	b	2.5Y 3/2 黄褐色	シルト質砂	
8	a	3.5Y 4/1 灰色	砂	部分的に3.5Y 5/1 灰色 砂を含む
9	9	3.5Y 3/1 オリーブ褐色	シルト質砂	植物遺体を含む

SD19

層位	層号	土 色	土 性	備 考
①	2.5Y 5/4 黄褐色	シルト質砂		
②	2.5Y 5/3 黄褐色	シルト質砂		
③	2.5Y 4/1 灰色	砂	3.5Y 5/3 黄褐色砂との互層	
④	2.5Y 4/4 オリーブ褐色	砂	2.5~3cmの礫を多量に含む部分がある。	

深掘VI区

層位	層号	土 色	土 性	備 考
4	a	3.5Y 5/4 オリーブ褐色	砂	
5	5	2.5Y 4/2 黄褐色	シルト質粘土	
6	a	3.5Y 3/1 灰色	硬質シルト	黄化泥を多量に含む。細砂も含む。
6	b	3.5Y 4/6 褐色	硬砂	
6	c	2.5Y 5/8 黄褐色	砂	
7	7.a	5.5Y 6/3 灰オリーブ色	粘土	
7	b	3.5Y 4/2 オリーブ灰色	硬砂	
8	a	2.5Y 3/1 黄オリーブ褐色	シルト	わずかに砂を含む
8	b	2.5Y 4/1 黄オリーブ褐色	シルト質砂	
8	c	3.5Y 3/1 黄褐色	シルト	
8	d	2.5Y 4/3 黄褐色	硬質シルト	
9	a	2.5Y 4/2 黄オリーブ褐色	砂	
9	b	2.5Y 4/1 黄オリーブ褐色	砂	
9	c	5.5Y 3/1 灰オリーブ色	シルト質砂	
9	d	2.5Y 4/3 黄オリーブ褐色	砂	部分的に3.5Y 4/2 オリーブ褐色硬砂を含む
10	10a	3.5Y 3/1 オリーブ褐色	硬質シルト	2.5Y 4/1 黄オリーブ色砂とアロックス質砂を含む
10	10b	3.5Y 3/1 オリーブ褐色	シルト	
11	11	3.5Y 2/1 黄褐色	シルト質砂	

SD21

層位	層号	土 色	土 性	備 考
①	2.5Y 6/3 灰褐色	砂		
②	2.5Y 6/3 灰褐色	砂	2.5Y 8/4 灰褐色砂を多量に含む	
③	3.5Y 5/3 灰オリーブ色	硬砂	2.5Y 3/4 黄褐色砂、礫を多量に含む	

深掘V区

層位	層号	土 色	土 性	備 考
4	a	2.5Y 5/4 黄褐色	砂	3.5Y 4/6 粘土を含む。植物の集積がある
4	b	2.5Y 4/6 褐色	シルト質粘土	膨張性の凝結で特長
5	b	3.5Y 4/3 灰褐色	シルト質粘土	内層で4.5Y 4/2 砂を多量に含む。
5	a	2.5Y 4/3 オリーブ褐色	シルト質	黄砂で4.5Y 3/2 粘土質シルトを多く含む
5	c	3.5Y 4/3 黄褐色	粘土	
6	a	2.5Y 4/4 オリーブ褐色	砂	2.5Y 4/2 粘土質シルトを多量に含むことがある。
6	b	2.5Y 4/3 オリーブ褐色	砂	
6	c	3.5Y 3/2 オリーブ褐色	砂	いくぶん隙間がある
7	7	3.5Y 3/2 黄褐色	シルト質粘土	
8	8	2.5Y 3/3 黄褐色	シルト質粘土	
9	a	2.5Y 4/1 黄オリーブ褐色	粘土	泥質は5.5Y 4/2 シルト質粘土を多く含む
9	b	3.5Y 4/6 褐色	硬砂	3.5Y 4/2 硬砂、小礫を含む
9	c	2.5Y 3/2 オリーブ褐色	シルト質粘土	
10	10	2.5Y 2/2 褐色	粘土質シルト	植物遺体を含む
11	11a	3.5Y 4/4 オリーブ褐色	シルト質砂	
11	11b	3.5Y 4/2 灰オリーブ色	砂	
12	12	3.5Y 4/1 灰色	砂	
13	13	3.5Y 4/1 灰色	砂	

SD13

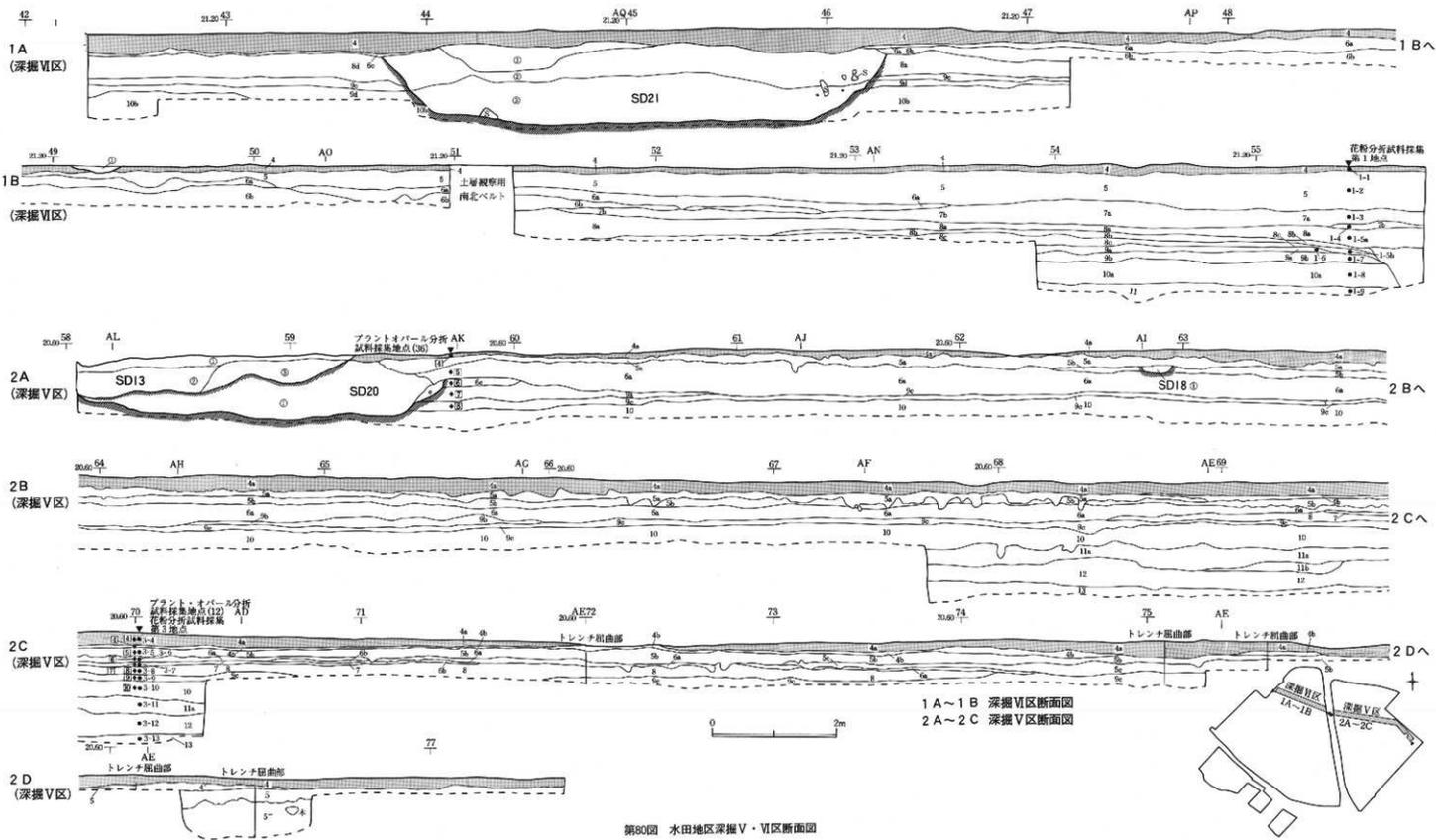
層位	層号	土 色	土 性	備 考
①	3.5Y 3/4 黄褐色	シルト質砂		
②	2.5Y 4/3 灰色	シルト質	5.5Y 4/2 砂とアロックス質を含む	
③	5.5Y 5/4 オリーブ色	砂	5.5Y 5/4 砂、礫を多量に含む	

SD20

層位	層号	土 色	土 性	備 考
①	5.5Y 5/3 灰オリーブ色	砂		下部に礫を多量に含む

SD18

層位	層号	土 色	土 性	備 考
①	2.5Y 5/2 黄褐色	硬砂	2.5Y 4/4 褐色シルト質砂を含む	



V 章 分析・同定

1 プラント・オパール分析

古環境研究所

1. はじめに

赤生津遺跡では、灰白色火山灰層の直下から平安時代の水田跡が広範囲にわたって検出されていた。この調査は、プラント・オパール分析を用いて、同水田跡の分布域の探査とそこで生産された稲の生産量の推定、およびその他の層における水田跡の探査を試みたものである。

2. 試料

昭和63年11月25日～27日に現地調査を行った。調査区の土層は1層～11層に分層された。このうち、1層は現表土、3層は灰白色火山灰層であり、4層上面では平安時代の水田跡が検出されていた。第81図に、試料採取地点を示す。このうち、No. 12、No. 81、No. 36、No. 138Bの4地点では、水田跡の探査を目的として、トレンチ内の土層断面において各層ごとに土壌試料を採取した。また、その他の地点では、水田跡の分布域の探査および稲の生産量の推定を目的として、4層上面の土壌試料が採取された。採取用具は、容量 50 cc の採土管およびポリ袋などを用いた。試料数は計236点である。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）」をもとに、次の手順で行った。

- (1) 試料土の絶乾 (105°C・24時間)、仮比重測定
- (2) 試料土約 1g を秤量、ガラスビーズ添加 (直径約 40 μm 、約 0.02 g)
 - ※電子分析天秤により 1 万分の 1g の精度で秤量
- (3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- (4) 超音波による分散 (150 W・26 kHz・15 分間)
- (5) 沈底法による微粒子 (20 μm 以下) 除去、乾燥
- (6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

同定は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパール (以下、プラント・オパールと略す) をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が300以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプレパラートとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めた。また、この値に試料の仮比重と各植物の換算計数 (機動細胞珪酸

体1個あたりの植物体乾重、単位：10⁻⁶g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。

換算計数は、イネは赤米、ヨシ属はヨシ、タケ亜科はゴキダケの値を用いた。その値は、それぞれ2.94(種実重は1.03)、6.31、0.48である(杉山・藤原、1987)。

4. 分析結果

プラント・オパール分析の結果を第5～9表および第82～84図に示す。なお、稲作跡の検証および探査が主目的であるため、同定および定量は、イネ、ヨシ属、タケ亜科、ウシクサ族(スキヤチガヤなどが含まれる)、キビ族(ヒエなどが含まれる)の主要な5分類群に限定した。巻末に各分類群の顕微鏡写真(写真111、112)を示す。

5. 考 察

(1) 4層水田跡の分布域について

平安時代とされる4層水田跡の分布域を把握する目的で、同層上面において約7m間隔で土壌試料が採取された。採取地点数は計203箇所である(第81図)。分析の結果、全体の82%にあたる167箇所で見出されたイネのプラント・オパールが検出された。検出されたイネのプラント・オパール密度を5段階に区分して、第85図に示す。これを見ると明らかのように、水田遺構が比較的明瞭に検出されたところ(調査区中央部付近の一帯)ではプラント・オパール密度が高く、不明瞭もしくは検出されないところ(調査区北部および南部の一帯)では低い傾向が認められた。

このことの原因としては、次のようなことが考えられる。①当時はほぼ全面に水田が展開していたが、後代の洪水によって調査区北部および南部の一帯で耕作土が流出し、水田機構が不明瞭になるとともにプラント・オパール密度も減少した。②当時は調査区北部および南部の一帯では水田耕作が行われておらず、検出されたプラント・オパールは近傍の水田からの流れ込みである、などである。ここでは、同層の直上を覆っている灰白色火山灰層が、遺構が比較的明瞭なところのみに見られ、それ以外のところではほとんど見られないことから、前者の可能性が高いと考えられる。

(2) 稲の生産量について

4層水田跡が比較的明瞭に検出されたSS1～SS18水田区画について、そこで生産された稲の総量を算出した(層厚を平均15cmと仮定)。その結果、面積10aあたり平均7.4tと推定された。当時の稲の年間生産量を面積10aあたり100kgとし、稲わらがすべて水田内に還元されたと仮定すると、同水田跡で稲作が営まれた期間は、延べおよそ70数年間であったものと推定される。

(3) 水田跡の探査

No. 12、No. 81、No. 36、No. 138Bの4地点では、4層～11層について分析を行った。その

結果、No. 12 および No. 81 地点の 4 層および No. 138 B 地点の 5 層でイネのプラント・オパールが検出された。このうち、4 層については、同地点もしくはその付近で行われていた平安時代の水田耕作に由来するものと考えられる。一方、No. 138B 地点の 5 層では、プラント・オパール密度が 900 個/g と微量であることから、ここで稲作が行われた可能性は考えにくい。おそらく上層もしくは他所からの混入と考えられる。

以上のように、4 層よりも下層では水田層の可能性は認められなかった。したがって、同遺跡で稲作が開始されたのは、4 層の時期（平安時代）からと推定される。

参考文献

仙台市教育委員会、1988.『赤生津遺跡現地説明会用資料』

杉山真二・藤原宏志、1987.「川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析 赤山—古塚編—」【川口市遺跡調査会報告】第10集、281—298.

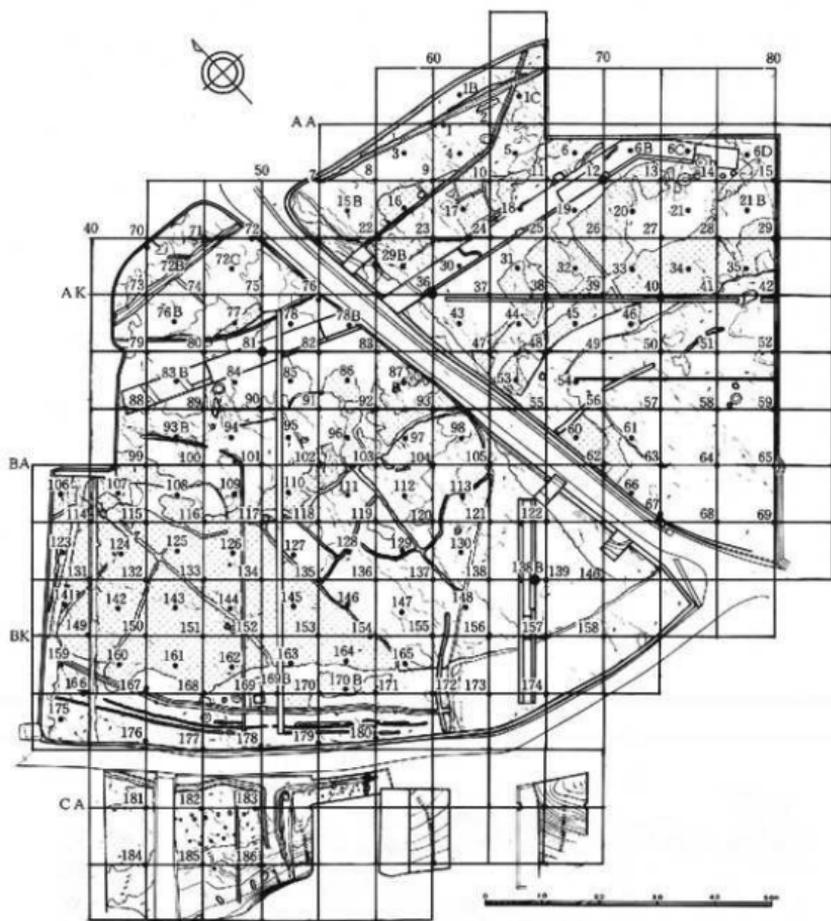
藤原宏志、1976.「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—」【考古学と自然科学】9：15—29.

藤原宏志、1979.「プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)—福岡・板付遺跡（夜臼式）水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ（*O. sativa* L.）生産総量の推定—」【考古学と自然科学】12：29—41.

藤原宏志・杉山真二、1984.「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—」【考古学と自然科学】17：73—85.



現地説明会（昭和63年11月5日）



第81图 試料採取地点

仙台市、赤生津遺跡

No. 12 地点

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
4-1	0	1,000	5,000	0	0
4-2	900	0	11,000	0	0
4*	0	0	6,700	0	0
5	0	0	16,500	0	0
6	0	0	9,100	0	0
7	0	0	10,800	0	0
8	0	900	12,500	0	0
9	0	0	18,000	0	0
10-1	0	0	27,600	0	0
10-2	0	0	23,000	0	0
10-3	0	0	21,600	0	0

No. 81 地点

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
4	3,600	0	16,300	0	0
5	0	900	17,400	0	0
6	0	0	24,800	0	0
7	0	0	13,000	0	0
8	0	0	6,800	0	0
9	0	0	27,700	0	0
10	0	800	34,800	0	0
11	0	0	17,700	0	0

No. 36 地点

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
4	0	0	12,600	0	0
5	0	0	8,100	0	0
6	0	0	5,900	0	0
7-1	0	0	18,500	0	0
7-2	0	0	19,100	0	0
8-1	0	0	48,400	0	0
8-2	0	0	36,700	0	0
8-3	0	0	36,200	0	0

No. 138B 地点

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
4	0	0	16,500	0	0
5	900	0	10,400	0	0
6	0	0	22,000	0	0
7-1	0	0	33,900	900	0
7-2	0	3,500	77,500	2,300	0
8	0	900	21,100	0	0
9	0	2,900	38,700	0	0
10-1	0	0	32,000	0	0
10-2	0	0	18,700	900	0
11	0	0	19,900	0	0

第5表 試料1gあたりのプラント・オバール個数(1)

V 章

4 欄と開

試料名	イネ	コシ儀	ナケ肥料	ウシフサ数	ヤビ数
1H	0	1,800	22,200	0	0
1C	1,800	0	14,400	0	0
1	0	0	2,900	0	0
2	1,800	0	7,400	0	0
3	9,300	900	12,100	0	0
4	1,900	0	15,600	0	0
5	0	0	13,000	0	0
6	1,800	0	12,700	0	0
6B	2,900	0	20,900	900	0
6C	1,700	0	5,900	0	0
6D	1,900	0	9,800	0	0
7	0	0	13,000	0	0
8	0	0	16,100	0	0
9	0	0	9,000	0	0
10	900	0	6,800	0	0
11	1,000	0	16,000	0	0
13	1,000	0	17,700	0	0
14	2,900	0	8,700	0	0
15	0	0	12,300	0	0
15B	0	2,800	16,900	0	0
16	1,000	1,000	11,000	0	0
17	900	900	8,500	0	0
18	1,800	0	11,600	0	0
19	900	0	17,200	0	0
20	3,900	0	16,600	0	0
21	1,900	0	14,300	0	0
21B	3,000	0	15,700	0	0
22	2,800	0	12,400	900	0
23	900	0	11,700	0	0
24	2,700	900	11,000	0	0
25	1,000	0	8,300	0	0
26	900	900	900	900	0
27	0	0	9,300	0	0
28	900	0	4,600	0	0
29	0	0	16,000	0	0
29B	0	0	18,500	0	0
30	0	0	17,200	900	0
31	800	0	17,000	0	0
32	800	0	15,300	0	0
33	0	0	27,800	0	0
34	1,900	0	18,400	0	0
35	900	0	19,800	0	0
37	4,900	0	15,700	0	0
38	2,900	0	14,500	0	0
39	1,900	0	18,800	0	0
40	1,900	0	19,000	0	0
41	3,400	0	15,300	0	0
42	4,500	0	11,000	0	0
43	2,300	0	6,300	700	0
44	2,800	0	6,500	0	0
45	2,000	0	16,200	0	0
46	900	0	13,500	0	0
47	1,800	0	12,100	0	0
48	900	0	8,800	0	0
49	800	0	19,700	800	0
50	2,700	900	24,000	0	0
51	900	0	19,300	1,900	0
52	0	2,000	18,200	0	0
53	1,000	0	9,000	1,000	0
54	900	900	12,100	0	0
55	1,800	0	18,600	0	0
56	0	0	15,900	0	0
57	0	0	17,900	0	0
58	0	0	11,500	0	0
59	2,900	0	17,600	0	0
60	900	0	17,400	0	0

第6表 試料1gあたりのプラント・オパール個数(2)

試料名	イネ	ウシ糞	タケ肥料	ウシクサ糞	キジ糞
61	900	0	15,400	900	0
62	1,000	0	19,400	0	0
63	1,900	0	13,300	900	0
64	1,700	0	20,000	0	0
65	800	800	16,000	0	0
66	1,800	0	13,900	0	0
67	800	0	11,400	0	0
68	4,700	0	19,000	0	0
69	900	0	9,100	0	0
70	0	0	19,900	0	0
71	0	900	18,700	900	0
72	0	0	26,800	1,800	0
72B	900	900	12,000	0	0
72C	0	1,000	21,400	0	0
73	0	0	17,500	800	0
74	0	0	22,000	0	0
75	1,800	900	6,400	0	0
76	4,500	0	18,300	0	0
76H	1,000	0	13,200	0	0
77	900	0	22,900	900	0
78	0	0	13,300	0	0
78B	900	0	20,600	0	0
79	900	0	20,700	900	0
80	0	0	15,900	0	0
82	900	0	17,100	900	0
83	900	0	14,200	0	0
83B	1,900	0	14,700	0	0
84	900	0	12,200	0	0
85	900	0	12,000	900	0
86	0	2,700	0	19,500	0
87	0	0	5,300	0	0
88	900	0	18,300	0	0
89	900	0	11,200	0	0
90	1,800	0	20,700	0	0
91	2,000	0	12,800	900	0
92	3,800	0	12,400	0	0
93	900	0	9,200	0	0
93B	900	0	20,800	900	0
94	900	800	25,900	0	0
95	0	0	28,600	0	0
96	4,000	0	23,300	0	0
97	900	0	11,900	0	0
98	0	0	18,200	0	0
99	2,900	0	17,700	900	0
100	900	0	15,300	0	0
101	3,600	900	12,600	0	0
102	2,600	0	18,400	0	0
103	900	0	3,800	900	0
104	1,800	0	14,800	0	0
105	1,800	0	32,200	2,800	0
106	900	900	19,500	0	0
107	6,300	0	12,600	1,800	0
108	3,700	900	19,300	0	0
109	3,500	0	14,200	800	0
110	1,600	0	14,700	800	0
111	900	0	3,600	0	0
112	1,900	0	11,900	0	0
113	900	0	16,900	0	0
114	6,000	0	12,000	0	0
115	1,700	0	19,100	0	0
116	4,400	1,700	21,400	800	0
117	4,900	0	17,800	0	0
118	3,800	900	14,400	0	0
119	3,700	0	14,900	0	0
120	3,800	1,900	15,300	0	0
121	1,800	0	15,000	0	0

第7表 試料1gあたりのプラント・オパール個数(3)

試料名	イキ	コシ数	ナゲ量	ウシクヤ数	キセ数
122	900	0	15,300	900	0
123	5,000	0	7,100	0	0
124	2,800	0	12,400	0	0
125	3,600	0	15,400	0	0
126	2,800	0	16,300	0	0
127	1,900	0	18,100	900	0
128	4,700	0	11,400	0	0
129	1,800	0	14,900	1,800	0
130	2,900	0	11,600	1,900	0
131	2,900	900	7,800	0	0
132	3,800	0	20,200	900	900
133	4,500	900	12,800	0	0
134	3,700	900	16,900	900	0
135	3,700	0	16,000	0	0
136	4,000	0	21,000	1,000	0
137	3,000	0	16,800	0	0
138	900	0	17,800	0	0
139	900	0	13,600	0	0
140	3,600	0	10,600	0	0
141	9,600	1,900	23,000	0	0
142	12,300	0	24,600	0	900
143	900	900	9,300	0	0
144	4,500	0	11,800	0	0
145	3,300	0	34,300	0	0
146	3,700	0	13,800	0	0
147	4,800	900	14,600	0	0
148	900	900	15,300	900	0
149	3,000	1,000	12,000	0	0
150	3,900	0	14,600	0	0
151	4,900	0	8,900	0	0
152	3,800	0	15,600	0	0
153	4,800	0	18,600	0	0
154	9,600	0	16,300	0	0
155	8,100	0	14,500	900	0
156	0	0	9,100	0	0
157	6,000	0	14,000	0	0
158	10,900	0	11,900	0	0
159	2,700	0	19,300	0	0
160	1,900	900	7,700	2,900	0
161	6,600	0	17,200	0	0
162	3,600	1,800	21,100	0	0
163	2,900	0	11,900	0	0
164	2,700	0	19,300	0	0
165	1,700	1,700	12,000	0	0
166	3,600	0	15,500	900	0
167	900	900	15,800	900	0
168	4,900	900	18,900	0	0
169	3,200	900	13,200	0	0
169B	1,900	900	18,300	0	0
170	1,800	0	10,300	0	0
170B	2,800	0	11,100	0	0
171	3,800	0	13,500	0	0
172	1,800	0	16,800	0	1,800
173	1,900	0	29,500	0	0
174	7,400	0	17,700	0	900
175	5,400	0	16,000	900	0
176	3,600	900	19,100	0	0
177	900	900	13,800	900	0
178	990	0	22,000	0	0
179	0	0	10,900	0	0
180	0	0	13,600	0	0
181	0	0	19,300	0	0
182	0	0	15,200	0	0
183	0	0	17,700	0	0
184	1,800	0	14,900	0	0
185	900	0	25,900	0	0
186	900	0	25,300	0	0

第8表 試料1gあたりのプラント・オパール個数 (4)

イネの推定生産量
仙台市、赤生津遺跡

No. 12 地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	P.O.数 個/g	収比率	P.O.数 個/cc	稲わら量 t/10a.cm	稲穂量 t/10a.cm	稲穂総量 t/10a
4-1	0	9	0	1.39	0	0.00	0.00	0.00
4-2	9	9	900	1.39	1,200	0.23	0.12	1.11
4'	18	5	0	1.39	0	0.00	0.00	0.00
5	23	12	0	0.98	0	0.00	0.00	0.00
6	35	10	0	1.00	0	0.00	0.00	0.00
7	45	7	0	0.88	0	0.00	0.00	0.00
8	52	14	0	0.60	0	0.00	0.00	0.00
9	66	9	0	0.93	0	0.00	0.00	0.00
10-1	75	10	0	1.06	0	0.00	0.00	0.00
10-2	85	10	0	1.06	0	0.00	0.00	0.00
10-3	95	-	0	1.06	0	0.00	0.00	-

No. 81 地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	P.O.数 個/g	収比率	P.O.数 個/cc	稲わら量 t/10a.cm	稲穂量 t/10a.cm	稲穂総量 t/10a
4	0	8	3,600	1.36	4,800	0.92	0.49	3.96
5	8	12	0	1.19	0	0.00	0.00	0.00
6	20	7	0	1.23	0	0.00	0.00	0.00
7	27	10	0	1.36	0	0.00	0.00	0.00
8	37	30	0	1.40	0	0.00	0.00	0.00
9	67	6	0	1.02	0	0.00	0.00	0.00
10	73	14	0	1.13	0	0.00	0.00	0.00
11	87	-	0	1.21	0	0.00	0.00	-

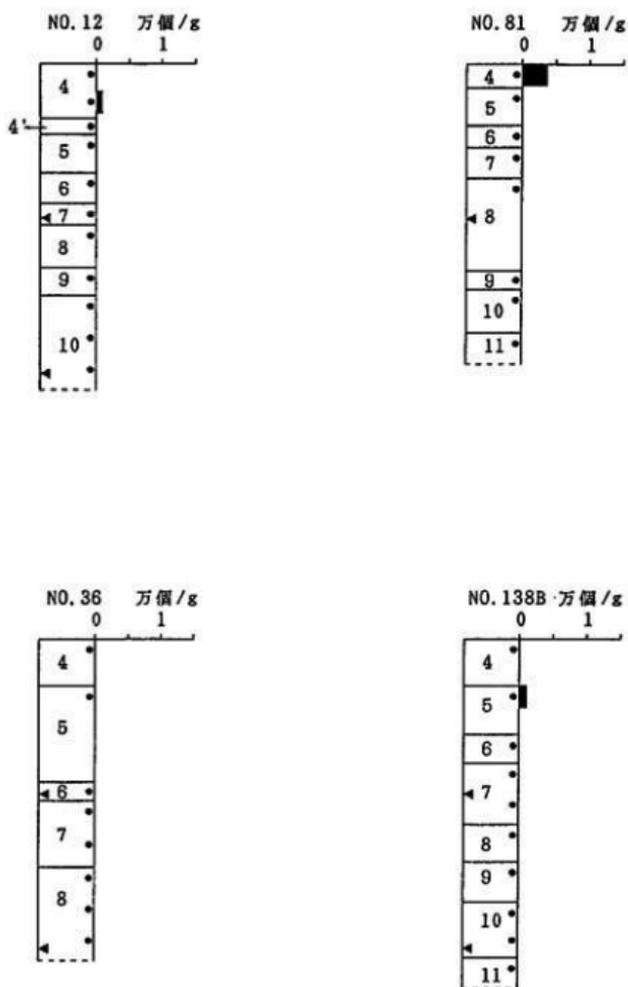
No. 36 地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	P.O.数 個/g	収比率	P.O.数 個/cc	稲わら量 t/10a.cm	稲穂量 t/10a.cm	稲穂総量 t/10a
4	0	15	0	1.44	0	0.00	0.00	0.00
5	15	31	0	1.29	0	0.00	0.00	0.00
6	46	6	0	1.38	0	0.00	0.00	0.00
7-1	32	11	0	1.02	0	0.00	0.00	0.00
7-2	63	11	0	1.02	0	0.00	0.00	0.00
8-1	74	10	0	1.05	0	0.00	0.00	0.00
8-2	84	10	0	1.05	0	0.00	0.00	0.00
8-3	94	-	0	1.05	0	0.00	0.00	-

No. 138B 地点

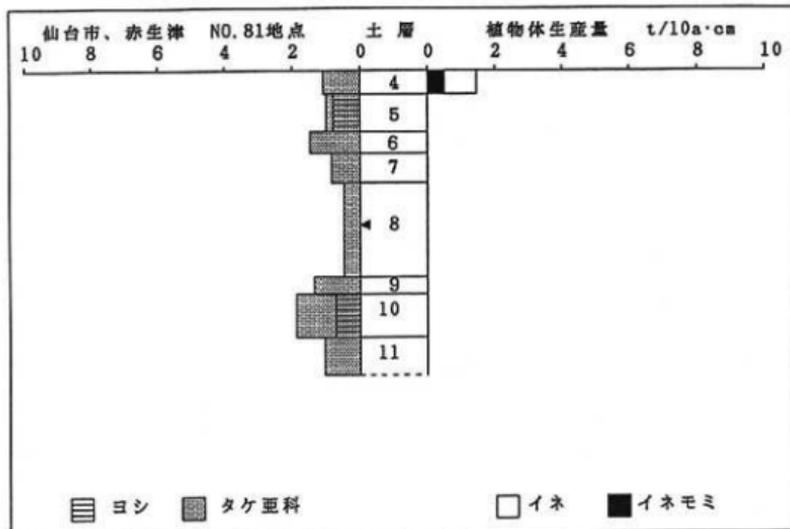
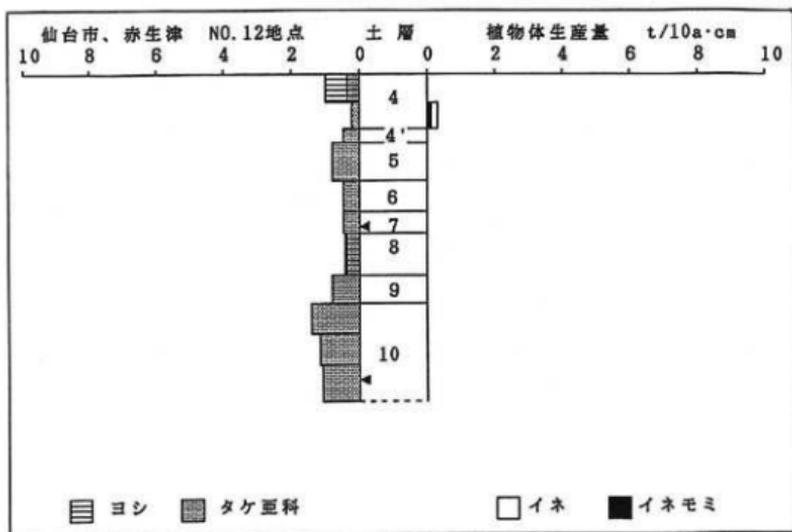
試料名	深さ cm	層厚 cm	P.O.数 個/g	収比率	P.O.数 個/cc	稲わら量 t/10a.cm	稲穂量 t/10a.cm	稲穂総量 t/10a
4	0	15	0	1.04	0	0.00	0.00	0.00
5	15	16	900	0.88	700	0.13	0.07	1.15
6	31	9	0	0.88	0	0.00	0.00	0.00
7-1	40	10	0	0.98	0	0.00	0.00	0.00
7-2	50	10	0	0.98	0	0.00	0.00	0.00
8	60	12	0	0.97	0	0.00	0.00	0.00
9	72	13	0	0.95	0	0.00	0.00	0.00
10-1	85	9	0	1.07	0	0.00	0.00	0.00
10-2	94	9	0	1.07	0	0.00	0.00	0.00
11	103	-	0	0.87	0	0.00	0.00	-

第9表 イネの推定生産量



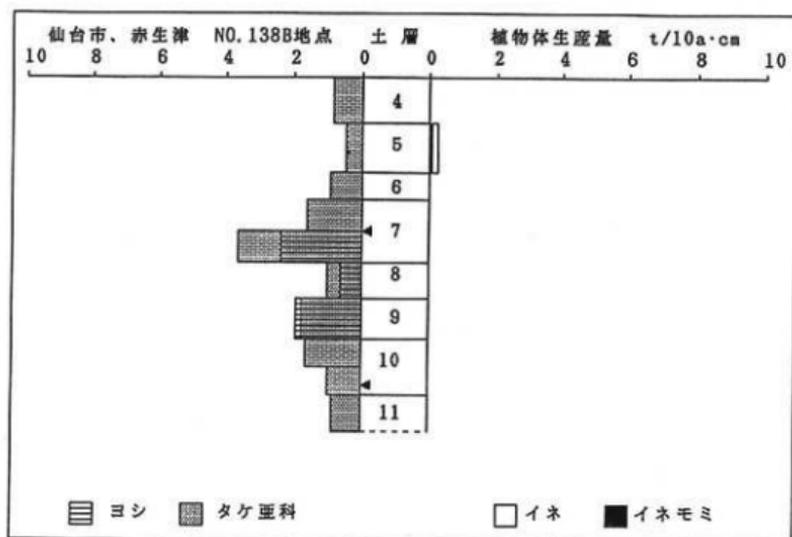
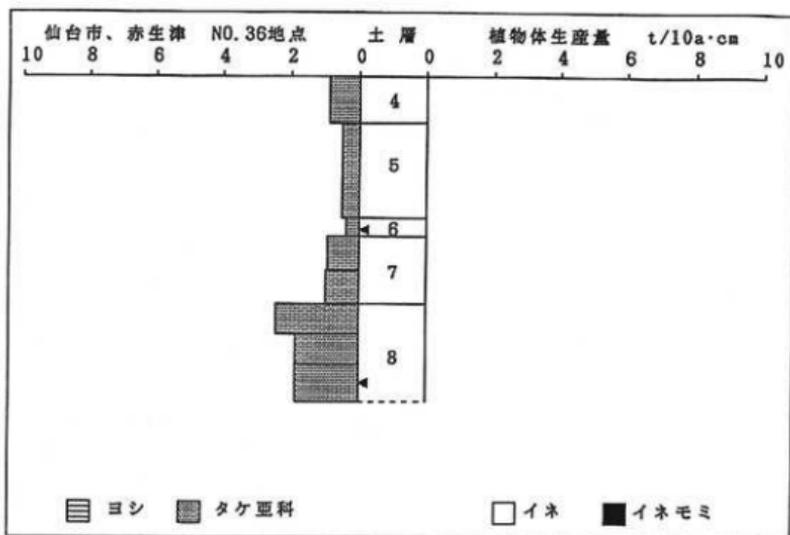
第82図 イネのプラント・オバールの検出状況

(注) ◀印は50mmのスケール、●印は分析試料の採取箇所

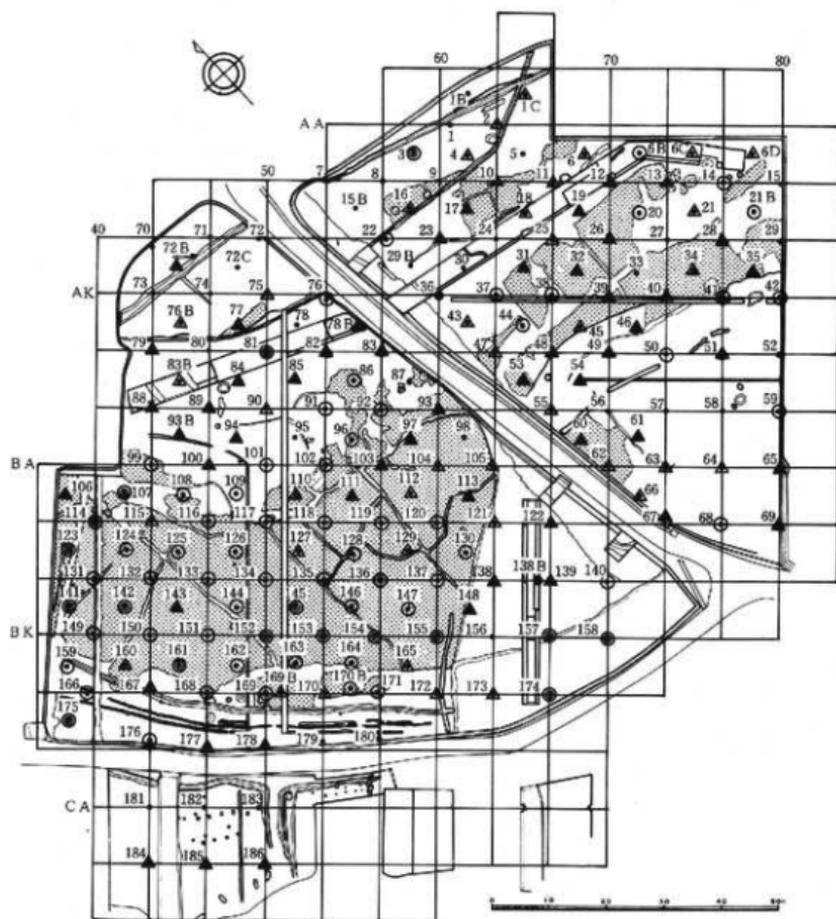


第83図 おもな植物の推定生産量と変遷(1)

(注) ◀印は50cmのスケール



第84回 おもな植物の推定生産量と変遷 (2)



イネのプラント・オバル密度

- ◎ 5,000個/㎡以上
- 2,500以上~5,000個/㎡未満
- △ 1,000以上~2,500個/㎡未満
- ▲ 1,000個/㎡未満
- 検出されず
- 火山灰の分布域

第85図 4層におけるイネのプラント・オバルの検出状況

2. テフラ組成分析

古環境研究所

1. 分析の目的

赤生津遺跡の発掘調査では、ガラス質火山灰層に覆われた平安時代の水田遺構が検出された。本分析では、ガラス質火山灰層を対象として、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を併せたテフラ組成分析を行うことによりその特徴を明かにし、噴出年代が求められている示標テフラとの対比を試みるものである。

II. 分析方法

分析には、発掘調査の際に採取されたブロック試料を用いた。ブロックの上部は、層理が発達した厚さ 12 cm の白色ガラス質火山灰層が認められる。全体としてみると、上部ほど細粒である。下部は灰色の粘土層で、水田土壌に相当する。火山灰層上部 6 cm を試料番号 1、下部 6 cm を試料番号 2、そして水田土壌を試料番号 3 とした。分析は、次の手順で行われた。

- 1) 試料 40 g を秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により、泥分を除去。
- 3) 80°C で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により、1/8-1/16 mm の粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で、250 粒以上を同定し火山ガラス比を求める。
- 6) さらに重鉱物について組成を明らかにする。

なお 4) の過程においては、1/4-1/8 mm の粒子を選別するのが通例であるが、今回の試料はいずれも細粒であるため 1/8-1/16 mm の粒子を対象とした。

III. 分析結果

分析の結果をダイアグラムにして第 86 図に、その内訳を第 10 表に示す。試料番号 1 には、3 試料の中で最も多くの火山ガラスが含まれている。軽石型火山ガラスに富み (67.6%)、少量の平板状のいわゆるバブル型ガラスも認められる (24.5%)。軽石型火山ガラスはスポンジ状や繊維束状を呈するものが多い。試料番号 2 にも試料番号 1 と同様な傾向が認められる。また若干分厚いバブル型ガラスの割合が増加する (20.1%)。試料番号 3 では、火山ガラスはわずかにしか認められない。ガラスの形態は、試料番号 1 や 2 と同様である。火山ガラスの色調は、いずれも無色透明である。

いずれの試料にも、重鉱物はほとんど含まれていない。ごくわずかに、試料番号 3 に角閃石と斜方輝石が認められる (250 粒中 3 粒)。しかし、重鉱物組成を求めることは量的に不可能であった。

IV. 考察—示標テフラとの対比

層理が認められることから、本火山灰試料は二次堆積の可能性も否定できない。しかし限られたブロック試料から、それを判断することは難しい。ここでは一次堆積のテフラとして、示標テフラとの対比を試みる。試料番号1および2には、スポンジ状の軽石型ガラスに富み、繊維束状の軽石型も含まれる。そしてガラスは、透明である。この特徴は、A.D.915年に十和田火山から噴出したと考えられている十和田a火山灰(To-a、町田ほか、1981)の特徴と一致する。したがって、火山灰層はTo-aに由来する可能性が考えられる。この対比結果は、火山灰層の下位から平安時代の遺物が出土していることも矛盾しない。

V. まとめ

赤生津遺跡で検出された火山灰層には、透明のスポンジ状や繊維束状の軽石型ガラスが多く含まれている。この特徴は、十和田a火山灰のガラスの特徴と一致する。屈折率測定など、さらに詳細な分析が行われることが望まれる。

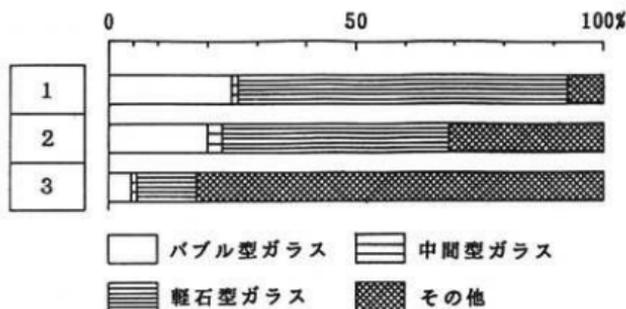
文 献

町田 洋・新井勇夫・森脇 広(1981)日本海を渡ってきたテフラ、科学、51, p.562-569.

第10表 赤生津遺跡の火山ガラス組成

試料	バブル型	中間型	軽石型	その他	合計
1	68	3	188	19	278
2	54	7	124	84	269
3	14	2	31	214	261

数字は、個数。



第86図 赤生津遺跡の火山ガラス組成

3 昆虫の同定

仙台市天文台 小室 信

浜生津遺跡から発見された昆虫について下記のように推測できますが、種までの同定はできず、属までにいたします。

記

- 1 科名 コガネムシ科
 2 属名 Anomala 属
 3 種名(候補) オオスジコガネ
 ドウガネブイブイ
 ヤマトアオドウガネ
 サクラコガネ

第11表 コガネムシ科 Anomala 属の昆虫

コガネムシ科 Anomala 属の昆虫

種名	体長	分布	出現期	食性
オオスジコガネ	17~20mm	本州	6~8月	各種針葉樹の葉を食害
ドウガネブイブイ	18~24mm	本州	6~8月	各種広葉樹の葉を食害
ヤマトアオドウガネ	17~25mm	本州	7~9月	
サクラコガネ	16~20mm	本州	6~8月	バラ科・クリ・ヤナギなどの葉を食害

種名	体長	分布	出現期	種名	体長	分布	出現期
ヒラタアオコガネ	10~12mm	本州西部	4~6月	ヒメコガネ	13~16mm	本州	6~8月
キンスジコガネ	17~19mm	本州	7~8月	オオサカスジコガネ	11~16mm	本州西部	6下~8月
オオスジコガネ	17~20mm	本州	6~8月	チビサクラコガネ	9~12mm	本州	6下~8月
スジコガネ	15~19mm	本州	6~8月	ヒメサクラコガネ	11~16mm	本州	6~8月
リュウキウドウガネ	17~22mm	沖縄	5~7月	サンカクスシコガネ	12.5~16	九州	5~7月
オオシマドウガネ	23~26mm	奄美大島	5~7月	ハンノヒメコガネ	12.5~17.5	本州	6~8月
アオドウガネ	17.5~22	本州西部	4~8月	ツヤコガネ	14~17.5	本州	6~8月
ドウガネブイブイ	18~24mm	本州	6~8月	サクラコガネ	16~20mm	本州	6~8月
ヤマトアオドウガネ	17~25mm	本州	7~9月	リュウキウスジコガネ	8.8~13.5	宮崎島	5中~7月

4 花粉分析

斎藤報恩会自然史博物館 竹内 貞子

縄文時代から平安時代にかけての、赤生津遺跡周辺植生環境を明らかにするために、花粉分析をおこなった。

(1) 分析試料

試料は第1、第2、第3の3地点で、それぞれ10個、9個、10個の計29個を、トレンチの壁面から直接採取した。採取層準は第87図に試料番号 (No) で示した。

(2) 分析方法

分析方法は下記の手順でおこなった。

試料粉碎 → KOH処理 → HF処理 → Hcl 処理 → 酢酸処理 →
 検鏡 ← 封入 ← 酢酸処理 ← アセトリシス処理

検鏡にあたっては、樹木花粉200個を同定し、かつ、その間に出現したすべての草本花粉および胞子を同定した。

(3) 分析の結果

花粉分析の結果は第12表に示した。また、主要な花粉の出現率については、第87図の花粉ダイアグラムに示した。各タクサの出現率は、樹木花粉の総数を基数とする百分率であらわしてある。

第3地点のNo 3-11、-12、-13の3試料からは花粉あるいは胞子が検出されなかった。

第1地点のNo 1-2、-5b、-6、-7、-8、および-9、第2地点のNo 138B-6、-7、-11および-12、第3地点のNo 2-10の11試料は絶対花粉量が少なく、百分率であらわすまでにいたらなかった。これら11試料については検出されたタクサを第12表に+で示した。

まず、各地点ごとの試料について分析結果を述べる。

[第1地点]

No 1-5a、-4、-3、の3試料はほぼ類似の組成を示す。コナラ属、マツ属（二葉松型）を主とし、ブナ属、クマシデ属、スギ属、クルミ属-サワグルミ属、ケヤキ属-ニレ属などがこれに次ぐ。樹木花粉が50%をしめ、シダ類の胞子もかなり多い。

No 1-1は、樹木花粉ではコナラ属、ブナ属、スギ属を主とし、マツ属、クマシデ属、クルミ属-サワグルミ属などをともなう。イネ科の花粉とシダ類の胞子の割合が多いのが目立つ。

[第2地点]

No 138-10は、コナラ属、マツ属を主とし、ブナ属、スギ属、クルミ属-サワグルミ属、ケヤキ属-ニレ属などがこれに次ぐ。シダ類の胞子が高率で出現し、全体の50%近くをしめる。

No 138B-9、-8は、下位に比べコナラ属が減少し、逆にハンノキ属、モミ属が増加する。

No 138B-5、-4 は、No 138B-9 や-8 と類似の傾向をしめすが、モミ属、ハンノキ属が減少し、クルミ属-サワグルミ属、ケヤキ属-ニレ属などが若干増加する。また、イネ科も増加している。

5 試料全体を通じて、シダ類の胞子が高率で出現している。

[第3地点]

下位から上位へ No 2-9 から No 2-6 までの 4 試料は、No 2-6 でマツ属が増加していることを除けば、ほぼ類似の組成を示す。コナラ属、ブナ属、マツ属を主とし、スギ属、クマシデ属、クルミ属-サワグルミ属、ニレ属-ケヤキ属などがこれに次ぐ。草木類の花粉および胞子の割合が小さく、樹木花粉の全体に占める比率が比較的高い。

No 2-5 では、ブナ属、ハンノキ属が下位に比べてやや増加し、逆にコナラ属、ケヤキ属-ニレ属などは減少する。

No 2-4 では、再びコナラ属が増加し、コナラ属、ブナ属を種とした組成となる。また、イネ科の急増で特徴づけられる。

(4) 考 察

当時の植生環境を復元するにあたり、まず、このあたりの現在の自然環境について、大まかにみることにする。

第三紀層からなる丘陵の間を、蛇行しながら東流する七北田川の両岸には、数段の段丘が分布している。赤生津遺跡は、七北田川の左岸で川辺の低位段丘の上に立地している。この付近一帯は、つい最近まで水田と桑畑がひろがっていたが、現在は開発が進んでいる。また、まわりの丘陵地も開発が進み、ほとんど裸地の状態になっている。開発前の丘陵地は、コナラ-クリを主とした雑木林であり、西方の奥羽山脈の山腹地帯はブナ林であった。

このような現在の自然環境を前提として、縄文時代晩期から平安時代にかけての、遺跡をとりまく自然環境を考察する。

[縄文時代晩期から弥生時代後期にかけて] No 1-5a~3、No 138B-10

遺跡周辺は、おもにシダ類（ワラビの仲間やゼンマイの仲間などを主とする）かんがえられる）やイネ科やキク科などの生育する草原であった。背後の丘陵地は、コナラ属、ブナ属、クマシデ属、クルミ属、ケヤキ属などにマツやスギのまざった林であったが、これらの樹々は丘陵地だけでなく、平地のまわりにも広がっていた。また七北田川へりには、これらの樹種のほかにハンノキもかなり生育していた。

地点3では、No 2-9 から No 2-6 までの層準がこの時期に相当するであろう。

[弥生時代後期から平安時代にかけて] No 138B-8、9

前の時期に比べて、自然環境に大きな変化はないが、モミ属やツガ属の花粉の出現率が高く

なっていることから、これらの花粉がおもに西方の山地帯からもたらされたものであることを考えると、ハンノキ属の増加とあわせてみて、若干の気候の悪化が考えられなくもないであろう。

地点3のNo2-5の層準がこの時期に相当するであろう。

[平安時代の耕作土] No 1-1、No 138B-5、-4

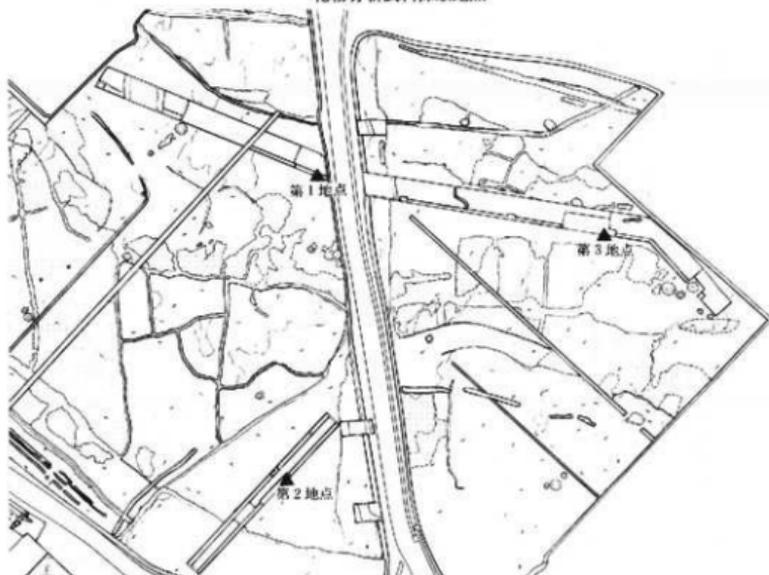
最後に、平安時代の耕作土の分析結果についてみると、No 1-1 試料のイネ科花粉の高い出現率は、水田の存在を裏づけ、考古学的な結果と矛盾しない。

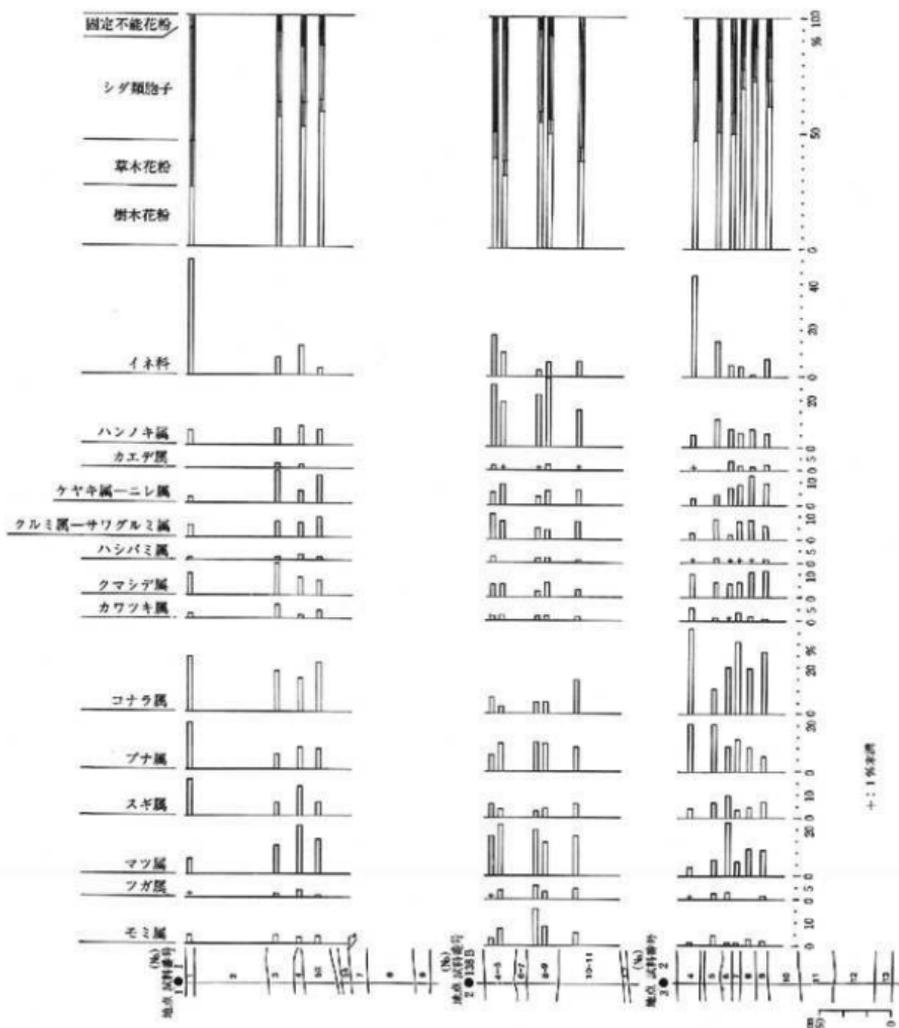
地点3のNo 2-4の層準が耕作土に相当するであろう。

地点2の耕作土の層準では、イネ科花粉の出現率は、他の2地点に比べてかなり低い。他の2地点に比べて、シダ類の胞子の出現率が非常に高いことと、川べりに位置しているということからみて、この地点が水田の中ではなかったということも考えられる、あるいは別の原因があるのかもしれない。不明である。

いずれにしろ、この時期にはコナラ属、ブナ属、クマシダ属、クルミ属、ケヤキ属、マツやスギの茂る丘陵の南側に水田が広がり、七北田川べりにはハンノキやヤナギなどが生育していたと推測される。

花粉分析試料採取地点





第87図 赤生津遺跡主要花粉ダイアグラム

5 出土材同定

バリノ・サーヴェイ株式会社

1. 試料

試料は No. 1～5, 7～26の25点である。No. 9～11の3点は江戸時代の、その他の22点は弥生時代のものと思われる自然木で、No. 1～4は立木、その他は流木と考えられている。

2. 方法

剃刀の刃を用いて試料の木口・柾目・板目の3面の徒手切片を作製、ガム・クロラル (Gum Chloral) で封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。同時に顕微鏡写真図版 (写真113～116) も作製した。

3. 結果

No. 1～5は、手元の現生標本中には該当するものが見あたらないため同定できなかった。その他の20点は以下の12種類 (Taxa) に同定された。試料の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質は次のようなものである。

・イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia*) イヌガヤ科 No. 11

早材部から晩材部への移行は緩やかで、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は滑らか、放射組織は単列、1～10細胞高。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。

イヌガヤは、本州 (岩手県以南)・四国・九州に分布する常緑小高木～低木で、時に植栽される。なお、北海道西部・本州の主として日本海側・四国の一部には、匍匐性の変種ハイヌガヤ (*C. harringtonia* var. *nana*) が分布する。イヌガヤの材はやや重硬で、器具・旋作材などに用いられる。

・オニグルミ (*Juglans ailanthifolia*) クルミ科 No. 25、26

散孔材で年輪界付近でやや急に管径を減少させる。管孔は単独および2～4個が複合、横断面では楕円形。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列。放射組織は同性～異性III型、1～4細胞幅、1～40細胞高。柔組織は短接線状、周囲状および散在状。年輪界は明瞭。

オニグルミは、北海道から九州までの川沿いなどに生育する落葉高木である。材の硬さは中程度、加工は容易で狂いが少なく、保存性は低い。銃床として広く用いられるほかに各種器具、家具材などの用途も知られている。種子は食用となり、栄養価に富む。

・ブナ属の一種 (*Fagus* sp.) ブナ科 No. 19

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2～3個が複合、横断面では多角形、道管は単および階段穿孔を有し、階段穿孔の段 (bar) 数は10前後。放射組織は同性～異性III型、単列、数細胞高のものから複合組織まである。柔組織は短接線状および散在状。年輪界は明瞭～やや明瞭。

ブナ属には、ブナ (*Fagus crenata*) とイヌブナ (*F. japonica*) の2種がある。ブナは北海道南西部（黒松内低地帯以南）・本州・四国・九州に、イヌブナは本州（岩手県以南）・四国・九州の主として太平洋側に分布する。イヌブナのほうがブナより低標高地から生育し、またブナのような大群落をつくることはない。ブナは、日本の冷温帯落葉樹林を代表する樹木である。材はやや重硬で、強度は大きい加工はそれほど困難ではなく、耐朽性は低い。木地・器具・家具・薪炭材などの用途があった。

・コナラ属（コナラ亜属コナラ節）の一種 [*Quercus* (subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) sp.]
ブナ科 No. 21, 22

環孔材で孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配置する。大道管は横断面では円形～楕円形、小道管は横断面では多角形、ともに単独。単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では櫛状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものとの複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

コナラ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が1年目に熟するグループで、モンゴリナラ (*Quercus mongolica*) とその変種ミズナラ (*Q. mongolica* var. *grosseserrata*)、コナラ (*Q. serrata*)、ナラガシワ (*Q. aliena*)、カシワ (*Q. dentata*) といくつかの変・品種を含む。モンゴリナラは北海道・本州（丹羽地方以北）に、ミズナラ・カシワは北海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州（岩手・秋田県以南）・四国・九州に分布する。このうち平野部で普通に見られるのはコナラである。コナラは樹高20mになる高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具、機械、樽材などの用途が知られる。

・クリ (*Castanea crenata*) ブナ科 No. 9, 10

環孔材で孔圏部は1～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では円形～楕円形、小道管は単独および2～3個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では櫛状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、櫛木や海苔粗朶などの用途が知られている。

・ケヤキ (*Zelkova serrata*) ニレ科 No. 17

環孔材で孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。大道管は横断面では楕円形、単独、小道管は横断面では多角形で複合管孔をな

す。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、1～30細胞高であるが、時に60細胞高を越える。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また屋敷林や並木として植栽される落葉高木で、時に樹高50mにも達する。材はやや重硬で、強度は大きい、加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途が知られる。

・ヤマグワ (*Morus bombycis*) クワ科 No. 24

環孔材で孔部は1～3列、晩材部はへ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。大道管は横断面では円形～楕円形、単独または2～3個が複合、小道管は横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、1～6細胞幅、1～50細胞高。柔組織は周囲状～翼状および散在状。年輪界は明瞭。

ヤマグリは北海道・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木で、多くの園芸品種があり養蚕に利用されている。材はやや重硬で強靱、加工はやや困難で、保存性は高い。装飾材や器具・家具材として用いられ、樹皮は和紙の原料や染料となり、果実は食用となる。

・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum*) カツラ科 No. 12, 13

散孔材で、管孔は単独または2～3個が複合、分布密度は高い。晩材部へ向かって管径を漸減させる。横断面では多角形、管壁は薄い。道管は階段穿孔を有し、段数は20以上、放射組織は異性Ⅱ型、1～2細胞幅、1～30細胞高。柔組織は散在状。年輪界はやや不明瞭。

カツラは北海道から九州に自生する落葉高木である。カツラ属にはこのほか、本州北中部の亜高山帯に分布するヒロハカツラ (*C. magnificum*) がある。カツラの材はやや軽軟で、割裂性は大きく、加工は容易、強度・保存性は低い。大径木が多く、欠点が少ないため、各種の道具・器具・木地・家具・建築・彫刻材などに用いられる有用材の一つである。

・モクレン属の一種 (*Magnolia* sp.) モクレン科 No. 15, 16

散孔材で横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列、放射組織との間では網目状～階段状となる。放射組織は異性Ⅱ型、1～2細胞幅、1～40細胞高。柔組織はターミナル状。年輪界は明瞭。

モクレン属は、ホオノキ (*Magnolia obovata*)、オオヤマレンゲ (*M. sieboldii*)、タムシバ (*M. salicifolia*)、コブシ (*M. kobus*)、シデコブシ (*M. stellata*) の5種が自生する。ホオノ

キ・コブシは北海道から九州の適潤～湿性地に生育するが、コブシは西日本にはやや少ない。タムシバナなどは産地が限られたり、稀であったりする。ホオノキの材は軽軟で、割裂性が大きく、加工は極めて容易で欠点が少ないことから、器具・建築・家具・建具材などのほか、指物・木地・下駄歯・刃物鞘など特殊な用途が知られている。また木炭は金・銀・銅・漆器の研磨に用いられた。コブシの材は、ホオノキに似るがやや硬く、ホオノキより劣るものとされ、ホオノキに準じた使われ方をする。

・カエデ属の一種 (*Acer* sp.) カエデ科 No. 23

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2～3個が複合。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～10細胞幅、1～30細胞高で時に100細胞高を越える。柔組織はターミナル状。周囲状または随伴散在状、接線状。年輪界はやや不明瞭。

カエデ属には、イタヤカエデ (*Acer mono*) やイロハモミジ (*A. palmatum*) など約25種が自生し、また多くの品種があり植栽されることも多い。属としては琉球を除くほぼ全土に分布する落葉高木～低木である。一般に材はやや重硬。強靱で、加工はやや困難、保存性は中程度である。器具・家具・建築・装飾・旋作・薪炭材などに用いられる。

・ヤブツバキ (*Camellia japonica*) ツバキ科 No. 7、8、14、18

散孔材で、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および2～3個が複合する。道管は階段穿孔を有し、段数は10～30、壁孔は対列～階段状に配列。放射組織は異性II型、1～3細胞幅、1～20細胞高であるが時に上下に連結する。柔組織は随伴散在状。年輪界はやや不明瞭。

ヤブツバキは、本州・四国・九州・琉球の主として沿海地に自生する。ツバキ属には、ヤブツバキと四国・九州・琉球の山地に自生するサザンカ (*C. sasanqua*) があり、ともに多くの変種があり植栽される。ヤブツバキの材は重硬・強靱で割れにくく、加工はやや困難、耐朽性は高い。器具・旋作・機械・薪炭材などに用いられる。

・エゴノキ属の一種 (*Styrax* sp.) エゴノキ科 No. 20

散孔材で管壁は薄く、横断面では楕円形、2～4個が複合または単独で、年輪界付近で管径を減ずる。道管は階段穿孔を有し、段数は5～10、壁孔は小型で密に交互～対列状に配列する。放射組織は異性II型、1～3細胞幅、1～30(50)細胞高。柔組織は短接線状および散在状。年輪界は不明瞭。

エゴノキ属には、エゴノキ (*Styrax japonica*)、ハクウンボク (*S. obassia*)、コハクウンボク (*S. shiraiana*) の3種がある。エゴノキは北海道(渡島)・本州・四国・九州・琉球に、ハクウンボクは北海道(北見・石狩以南)・本州・四国・九州に、コハクウンボクは本州(栃木県以南)・四国・九州に分布する落葉高木～低木である。材はやや重硬で割裂しにくく、加工はや

や容易、旋作・器具・薪炭材などに用いられる。

なお、No. 1～5は同一樹種であり、散孔材で、道管は単穿孔をもち内壁にはらせん肥厚が認められ、放射組織は単（～2）列、異性、10細胞高前後などの特徴をもつが、根材のようで同定できなかった。

以上の同定結果を出土地点などとも一覧表で示す（第88回第13表）。

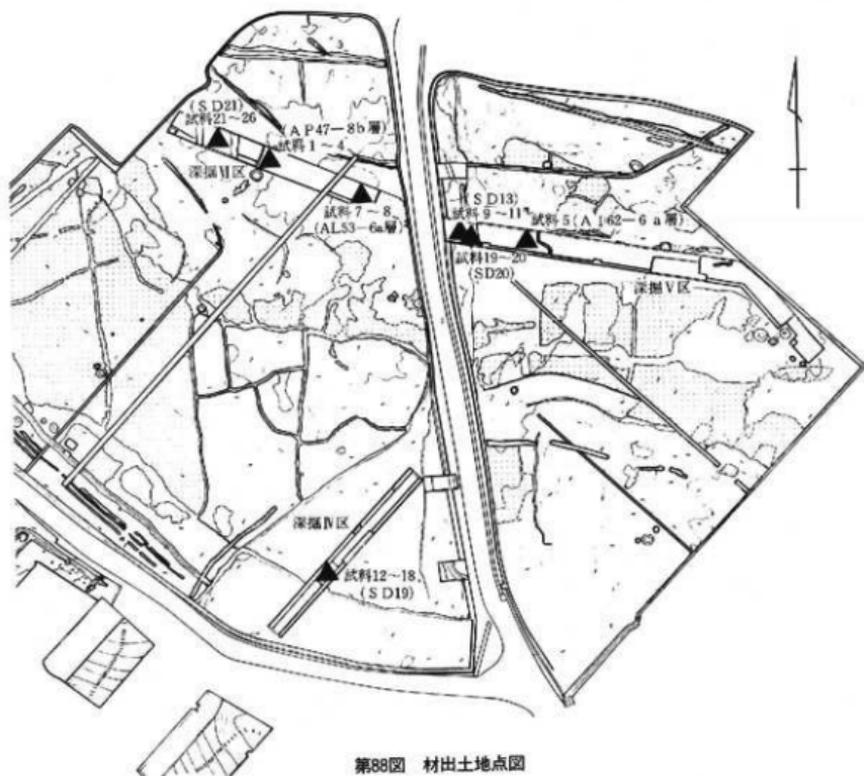
4. 考 察

弥生時代の自然木とされる22点の試料は、種類不明の広葉樹を含め11 Taxaに同定された。この種類数は、遺跡からの報告例としては多いと言えよう。例えば、遺跡周辺だけではなく、上流域に生育する樹木をも含むと推定された富沢遺跡第15次調査出土試料*の同定結果（高橋1987）より多くなっている。これは、当時の植生が現在よりも多様性に富んでいたことを示しているものかも知れないが、むしろ、試料が、（試料採取地点の当時の後背地がどれほどの広がりをもつと考えられているのかわからないが）かなり広い、そして様々な立場に生育していた樹木の混合物であることを示しているものと思う。なぜなら、現地生と考えられるNo. 1～4（5）を除いては流木とされており、富沢遺跡第15次調査出土試料と同様に、試料が上流域から（場合によっては下流域からも）供給された可能性が考えられることと、現生種の主な自生環境から見たとき、河川沿いや斜面下部に生育することの多いオニグルミ・ケヤキ・ホオノキ属・カツラと、丘陵地に多いブナ属・コナラ節、沿海地に多いヤブツバキが共存しているためである。したがって、得られた組成は出土地点近傍の当時の植生を直接反映しているものではなく、また、このことが組成の豊富さをもたらしたものと考える。

*：弥生時代樹形開式期とそれ以前のものとされる木片24点が9 Taxa（不明種を除く）に同定されている。

引用文献

高橋利彦 1987 「富沢遺跡出土材同定」「富沢 仙台市都市計画道路長町・折立線建設に伴う富沢遺跡第15次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書 第98集 仙台市教育委員会、397-412。



第88図 材出土地点図

試料番号	出土地点など	種 名	14	SD19③	ヤブツバキ
1	AP-47①	広葉樹 (散孔材)	15	SD19④	モクレン属の一種
2	AP-47②	広葉樹 (散孔材)	16	SD19⑤	モクレン属の一種
3	AP-47③	広葉樹 (散孔材)	17	SD19⑥	ケヤキ
4	AP-47④	広葉樹 (散孔材)	18	SD19⑦	ヤブツバキ
5	AI-62①	広葉樹 (散孔材)	19	SD20①	ブナ属の一種
7	AL-53①	ヤブツバキ	20	SD20②	エゴノキ属の一種
8	AL-53②	ヤブツバキ	21	SD21①	コナラ属 (コナラ亜属コナラ節) の一種
9	SD13①	クリ	22	SD21②	コナラ属 (コナラ亜属コナラ節) の一種
10	SD13②	クリ	23	SD21③	カエデ属の一種
11	SD13③	イヌガヤ	24	SD21④	ヤマグワ
12	SD19①	カツラ	25	SD21⑤	オニグルミ
13	SD19②	カツラ	26	SD21⑥	オニグルミ

第13表 赤生津遺跡出土材の樹種

VI章 考察

1 包含層地区の遺物と遺構

(1) 縄文土器第2群について

包含層地区出土の第1群土器については、すでにその編年的位置付けを明らかにした。ここでは、縄文土器の大部分をしめる第2群土器について検討する。

県内で第2群土器と類似する大洞A・A'式の土器群が出土しているのは、一迫町山王遺跡(伊東・須藤:1985)・同巻堀遺跡(一迫町教委:1977)・若柳町柴の脇遺跡(宮城県教委:1986)・古川市宮沢遺跡(宮城県教委:1980B)・七ヶ浜町二月田貝塚(塩竈女子高:1971・1972)・仙台市栗野A遺跡(仙台市教委:1983)・同芦見遺跡(仙台市教委:1988)・塩竈市一本松貝塚(加藤:1952)・石巻市沼津貝塚(石巻市教委:1976)・柴田町鹿野遺跡(柴田町教委:1976)・蔵王町鍛冶沢遺跡(後藤他:1976)・角田市梁瀬浦遺跡(角田市教委:1976)・同鱸沼遺跡(志間:1971)・同岩ノ入遺跡(宮城県教委:1983)等がある。このうち、比較的資料の多い宮城県北部の宮沢遺跡、南部の岩ノ入遺跡出土のものと比較検討してみる。

(深鉢形土器)

深鉢形土器の器形の比率を比較してみると以下ようになる。

赤生津C・D・E類	34%	岩ノ入A I・B・B II・B III	45%	宮沢II類	54%
// A・B・F類	66%	// A II・B IV	55%	// I類	46%

赤生津遺跡では、口頸部が屈曲するA・B類とも小波状口縁のものが多く、屈曲の無いD類にも小波状口縁があり、大半は内面に一条の沈線がある。宮沢遺跡では、小波状口縁が極めて少なく平縁のものが大部分であり、口頸部も屈曲しないものがやや多く、内面に沈線をもつものが少ない。岩ノ入遺跡でも、小波状口縁は少なく平口縁が多く、内面に沈線をもつものはほとんどなく、口頸部が屈曲するものが屈曲しないものより多い。ただ、屈曲し口縁部が内傾気味で、頸部に沈線による不定形の文様のあるものは、赤生津遺跡・宮沢遺跡にはない。また、岩ノ入遺跡では地文として条線文が多用され斜行縄文・撚糸文もあるが、赤生津遺跡・宮沢遺跡は斜行縄文のみである。

(浅鉢形土器)

各遺跡とも分類方法が違うが、浅鉢の器形の比率を比較してみるとおおよそ以下のようにとめられる。

赤生津 A・C 類	49%	岩ノ入IV類	50%	宮沢III類	24%
// B 類	10%	// III類	4%	// I 類	52%
// D・E 類	36%	// I・V 類	39%	// II類	24%
// F 類	5%	// II類	8%		0%

頸部が屈曲し口縁部が外反する赤生津遺跡 B 類は、浅鉢全体の約10%をしめるが、これに相当する岩ノ入遺跡III類が4%、宮沢遺跡 I 類は52%であり、宮沢遺跡の浅鉢より岩ノ入遺跡の浅鉢により類似した比率をしめしている。しかも、宮沢遺跡 I 類には、高く頂部が幅広い台形状の突起と低い突起が組み合うものや、山形を呈する突起の頂部を長方形や円形に肥大化させ、その上面に文様を施文したものなど大振りの突起を持つが、赤生津遺跡 B 類は双頭山形突起（2個一対の低平な山形突起で突起間に凹部を持つ）を持つものが多く、岩ノ入遺跡III類も2個一対の突起があるのみで、いずれも大振りの突起を持たない点で共通している。

また、胴部が内彎し、口縁部が外傾する赤生津 F 類は、岩ノ入II類に相当するものと考えられるが、宮沢遺跡には該当するものが見当たらない。

次に文様を比較してみると、宮沢遺跡には、赤生津遺跡・岩ノ入遺跡で認められるような明瞭な台形状彫去を持つものが少なく、沈線間彫去が大部分のようである。また、赤生津遺跡・岩ノ入遺跡に多く認められる、各文様要素間に独立して配置される斜行沈線が、宮沢遺跡には無い。さらに両遺跡に多い、沈線間彫去・台形状彫去・反転沈線・斜行沈線の組み合わせで文様を構成するものが、宮沢遺跡には少ない。

岩ノ入遺跡IV類（口縁部が内彎気味に立ち上がるもの）の主体となる浮線楕円文は、赤生津遺跡・宮沢遺跡とも全く認められない。

以上のように、浅鉢形土器の器形・文様は、赤生津遺跡のものは宮沢遺跡のものより、岩ノ入遺跡のものにより近似していると言える。

次に、宮沢遺跡・岩ノ入遺跡との比較検討の結果問題になった点について、他の遺跡の資料等も参考にしながら、地域差・時間差の観点から検討してみる。

(地域差)

深鉢形土器の地文の違いについては、岩ノ入遺跡の報告書ですでに指摘(宮城県教委：1983)されているように、東北地方北部と南部との地域差と考えられる。阿武隈川水系の岩ノ入遺跡をはじめ、梁瀬浦遺跡の第2トレンチ出土の深鉢形土器も条線文が多く、燃糸文もある。鱈沼遺跡・鹿野遺跡、白石川水系の蝦治沢遺跡も同様のようである。ところが名取川水系の梨野遺跡、広瀬川水系の芦見遺跡、七北田川水系の赤生津遺跡、松島湾沿岸の二月田遺跡・一本松貝塚では条線文は見当たらない。これらの水系の北部も同様である。また、岩ノ入遺跡から山土し

ている口縁部が内傾気味で頸部に沈線による不定形の文様のあるものは、阿武隈川水系以北からは見出せない。このように深鉢形土器は、阿武隈川水系を境界に北部と南部において顕著な地域差をみいだすことができる。

岩ノ入遺跡の浅鉢形土器にみられる浮線栴門文は、県内の他の遺跡から見出すことができないが、福島県の遺跡にはあるのでこれも地域差と考えられる。

(時間差)

宮沢遺跡にある大振りの突起を持つ大型の台付浅鉢は、赤生津遺跡・岩ノ入遺跡では皆無である。迫川水系にある弥生時代の大泉式の初期に位置付けられている青木畑遺跡(宮城県教委：1982)には、頸部がくびれて口縁部が外反・外傾し大振りの突起を持つものがある。同じ迫川水系にある山王遺跡(伊東・須藤：1985)では、大洞A式のV層以下には無いようであるが、大洞A'式のIV i・m層、IV a・k層には確実にあり、山王III式(大泉式)のIII c-2層にもその伝統がうかがえるものがある。こうした大振りの突起を持つものは北部だけでなく南部の阿武隈水系の鱈沼遺跡、白石川水系の鍛冶沢遺跡にある。大振りの突起は、新しい様相と考えられ、地域差というよりも時間差と考えたほうがよいように思われる。

深鉢形土器の小波状口縁も、山王遺跡では大洞A式のV c-7・m・n層・V a・k層・大洞A'式のIV i・m層にみられるが大洞A'式のIV a・k層、山王III式(大泉式)のIII c-2層には無くなるので、古い様相と考えられる。

赤生津遺跡浅鉢形土器F類(胴部が内彎し頸部が締めり口縁部が外傾)の類例は、南部の梁瀬浦遺跡にある。赤生津遺跡のものは口縁部直下と頸部に沈線を一条めぐらしているだけであるが、梁瀬浦遺跡のものは、文様帯が上下二段に分かれ、上部の器形及び文様は、赤生津遺跡の浅鉢D類に類似している。岩ノ入遺跡にも梁瀬浦遺跡のものと類似するものがある。宮沢遺跡にはないのでこれも古い様相かと考えられる。

文様の要素についても、山王遺跡V～IV層の変遷をみると台形状彫去、斜行沈線は古い文様要素と考えられる。

第2群土器を、宮城県北部の宮沢遺跡・南部の岩ノ入遺跡出土の土器とを比較し、地域差・時間差の視点から検討した。その結果、深鉢形土器は地文等において岩ノ入遺跡出土のものよりも宮沢遺跡のものに近いことがわかったが、これは地域差によるものと考えられる。しかし、頸部の屈曲するものが多いという点ではむしろ岩ノ入遺跡のものに類似しているといえる。浅鉢形土器は、器形・文様の点において宮沢遺跡のものよりも岩ノ入遺跡のものにより類似することがわかった。しかも、宮沢遺跡のものは第2群土器よりも新しい様相を呈していると考えられる。この結果、赤生津遺跡第2群土器は、岩ノ入遺跡のものに近く、岩ノ入遺跡と時間的にはほぼ並行する時期のものと考えられる。一方、宮沢遺跡のものは赤生津遺跡第2群のもの

より時間的にやや後出のものと考えられる。ところで、宮沢遺跡・岩ノ入遺跡出土のものはいずれも大洞 A'式とされている。とすると大洞 A'式には、宮沢遺跡段階と、赤生津遺跡・岩ノ入遺跡段階があるということになる。これを吟味するため、県内外の他遺跡とも比較してみることにする。資料がすべて発表されてはいないが、当該期の変遷が層位的にとらえられる山王遺跡と比較すると、山王 V a・k 層に赤生津遺跡・岩ノ入遺跡が並行し、山王 IV i・m 層に宮沢遺跡が並行すると考えられる。梁瀬浦遺跡も赤生津遺跡・岩ノ入遺跡に並行する。東北北部では剣吉荒町遺跡（工藤：1987）の I 群が、赤生津遺跡・岩ノ入遺跡に並行し、II 群が、宮沢遺跡に並行すると考えられる。中村五郎氏の指摘（中村：1988）のように大洞 A'式はいくつかに細分することが可能で、赤生津遺跡第 2 群土器は大洞 A'式の古い段階のものと言える。

(2) 遺構の年代について

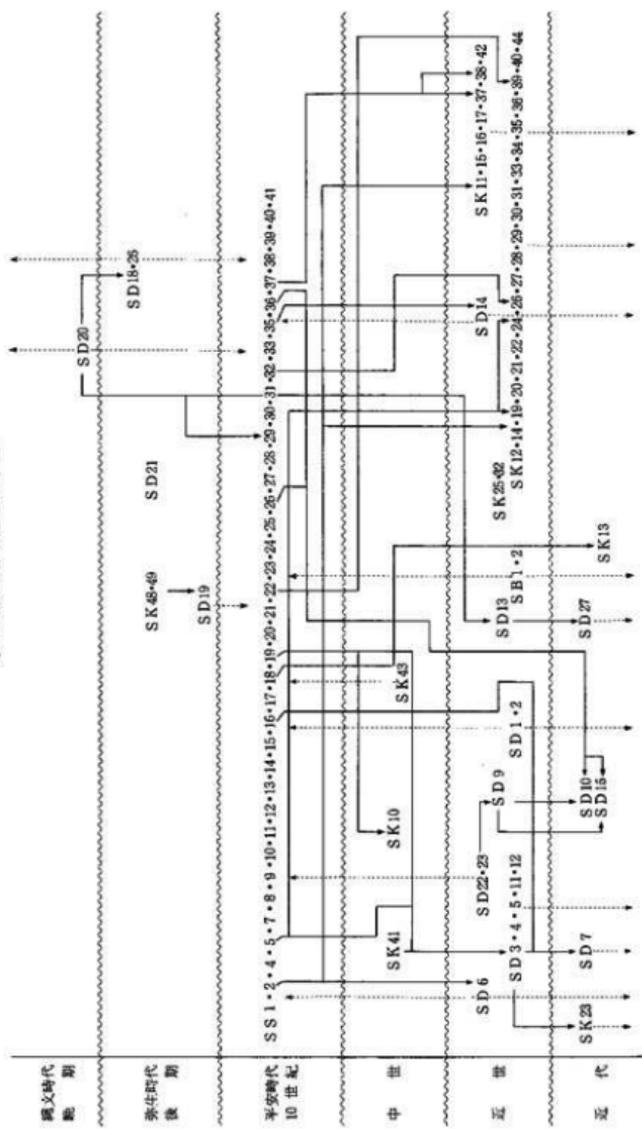
包含層地区検出の遺構の年代について検討する。検出した遺構は SK（土壇・焼土遺構）が 12 基あるが、いずれからも出土遺物がなため年代決定資料に欠ける。しかし、SK5・46 は第 3 層上面、他の SK1・2・3・4・5・6・7・8・9・45・47 は第 5 層上面で検出している。前述したように、第 4 層からは、縄文時代早期末から後期末の土器が少量ながら出土している。第 3 層からは、縄文時代晩期終末の土器群が出土している。第 2 層は水田地区の第 4 層に相当し、堆積年代は弥生時代後期以降から平安時代以前と推定される。包含層地区からは弥生土器が 1 片も出土していないことを考えあわせると、第 3 層上面検出の SK5・46 は縄文時代晩期終末の大洞 A'式期と考えられる。第 5 層上面検出の SK4・6・7・8・9・47 は、縄文時代早期末から晩期終末という幅でしか年代的位置付けをあたえられない。

2 水田地区の遺構について

水田地区からは SK（土壇・焼土遺構）を 37 基、SD（溝・河川跡）を 25 条、SB（掘立柱建物跡）を 2 棟、SS（水田跡）を 38 区画検出している。出土遺物は縄文時代晩期・弥生時代後期・平安時代・中世・近世・近代のものが出土している。遺物が伴出する年代の確実な遺構を中心に、層位関係・重複関係をもとに各遺構の年代を考えてみることにする。

①水田地区の基本層位第 1～2 層からは中世～近世～近代の遺物が出土している。第 2 層からは若干近世の陶・磁器が混入しているが、中世の陶・磁器の出土が多い。第 3 層の灰白色火山灰下の調査に重点を置いたため、第 2 層（2a・2b・2c 層）で水田跡を検出できなかったが水田土壌の可能性が高い。第 4 層上面で検出した灰白色火山灰を伴わない弧状やし字状の段差（第 59 図の SS33・34 の南側の 2 つの段差、第 61 図の土層観察ベルトにかかる段差とその東側のもの。それぞれ 2c 層・2b 層が関連。その他の段差は現水田に関連）は、第 2 層（2b・2c 層）期の水田跡の残存部と考えられる。したがって、第 1 層は近代～現代、第 2 層中世～近世（2a が近世、2b・2c 中世）と考えられる。

水田地区核出遺構の年代



—— 5段階標を示す
 想定される年代層を示し、遺構番号の年代場所は位のものである。

②第3層の灰白色火山灰層は、堆積年代が10世紀前半（白鳥：1980）というのが通説であり、第4層出土遺物（第62図1～4）の年代と矛盾しない。したがって、水田跡はすべて10世紀前半である。

③第4層下の堆積状況は地点によって異なるが、深掘IV区の5層は出土遺物から弥生時代後期の天王山式期（第76図4～7）、9層が縄文時代晩期大洞A'式期（第76図2）である。したがって、6～8層は縄文時代晩期以降～弥生時代後期以前と考えられ、SK48・49は天王山式期前後SD19は弥生時代後期以降～平安時代以前となる。深掘VI区の6層は出土遺物から弥生時代後期の天王山式期（第76図3）、8層は縄文時代晩期の大洞A'式期（第76図1）と考えられる。したがって、5層は弥生時代後期以降～平安時代以前と考えられる。SD21は検出層、出土遺物から弥生時代後期の天王山式期である。深掘V区の各層からは出土遺物がないが、IV・VI区の状況を考えると、縄文時代晩期以降、弥生時代後期を経て平安時代以前に堆積したものと考えられる。したがって、SD20は縄文時代晩期以降～平安時代以前であるが、SD18・26は層位関係から、縄文時代晩期以降の恐らく弥生時代後期であろう。

④SD3・4・12は土層観察用ベルトの観察の結果、第2層（2a層）上面から掘り込んでいることが判明しているため、近世以降に構築されたと考えられる。これらに略平行するSD5・11も同時期と思われる。

⑤SDの出土遺物から、SD9は近世（17～18世紀）、SD10は近代で重複関係も矛盾ない。SD13は近世（17～19世紀）である。

⑥SD1・2・17・25・28は第4層検出なので平安時代以降、SD6・14も水田跡との重複関係から平安時代（10世紀前半以降）、SD22・23はSD9との重複から近世（17～18世紀）以降、SD27はSD13との重複関係から近世（17～19世紀）以降、SD7はSD3との重複関係から近世以降である。SD15はSD9・10との重複から近世（17～18世紀）以降～近代以前である。

⑦SKの出土遺物から、SK10は中世、SK25は近世（19世紀）、SK32は近世（18～19世紀）、SK13は近代である。SK12・14・19・20・21・22・24・26・27・28・29・30・31・33・34・35・36・39・40・44は、SK13・25・32とともに現水田の畦畔と密接な位置関係にあることから近世～近代と考えられる。SK11・37・38は水田跡との重複関係から平安時代（10世紀前半）以降、SK15・16・17・42は第4層検出なので平安時代以降、SK41はSD3との重複関係から近世以前であるがSK10と平面形態・堆積状況が類似するので恐らく中世と考えられる。SK43は第2層（2c層）下なので平安時代（10世紀前半）以降～中世以前である。SK23はSD3との重複関係から近世以降である。

⑧SB1・2とも第4層検出なので平安時代以降である。

これら遺構の年代関係をまとめるとP149のようになる。

3 灰白色火山灰について

すでに水田跡の灰白色火山灰堆積状況の中で述べたように、もっとも厚く堆積していたところで40 cm 程あり、7層に細分することが可能であった。このうち田面直上の火山灰(3 g 層)は、他のものよりザラザラしていて粒子が粗く、シルト等の混入がなく、田面の凹凸に対応する堆積状況であった。厚さは平均すると3 cm ほどあり灰白色火山灰の一次堆積と考えられる。この上層の3 a～3 f 層はシルト等の混入があり、水成堆積の痕跡が認められ二次堆積と考えられる。恐らく火山灰が降下して直後の時期に、雨などによって周辺から流入した火山灰が堆積したものと推定でき、畦畔が小堤防の役割を果たしたため田面の上に厚く堆積したものと考えられる。この層中からの出土遺物は昆虫の遺体1点のみであった。昆虫同定の項で明らかのように、コガネムシ科 *Anomala* 属で、出現時期は6月～8月である。火山灰降下の季節を知る上で一つの参考資料となる。田面上で検出したハタネズミと考えられる巣穴の痕跡中(写真26・27)には、二次堆積の火山灰が堆積しており、一次堆積と考えられる火山灰層とは明瞭に区別できる。火山灰降下直後に巣穴が作られ、その後まもなく二次堆積の火山灰によって埋没したものと想定できる。したがって、火山灰降下時には水田には水が入っておらず、田面は濡いた状態であったと考えられる。

VII章 ま と め

- (1) 赤生津遺跡は七北田川中流右岸の最低位段丘上に立地する縄文時代早期末から中世の遺跡である。
- (2) 縄文時代早期末～前期初頭、中期初頭～末、後期中葉～末の遺物が少数であるが発見された。周辺でこれらの時期に、なんらかの活動が行われたと推定される。
- (3) 遺跡の西端部で縄文時代晩期の遺物包含層を検出した。大洞A'式の土器が比較的まとまって出土した。他遺跡との比較検討の結果、大洞A'式でも古い段階のものであることが判明した。大洞A'式の細分を考える上で、良好な資料と言える。
- (4) 平安時代の水田跡の下層から、縄文時代晩期・弥生時代後期の遺物と遺構を検出した。水田跡下層の広い範囲に広がる可能性がある。
- (5) 平安時代の水田跡を広範囲に検出した。10世紀前半に降下した灰白色火山灰にバックされたため良好な保存状態であった。平安時代の七北田川中流域における水田経営の実態を知る上で貴重な遺構である。
- (6) 中世・近世の遺物と遺構を検出した。平安時代に引き続いて水田経営を行っていたことが推定される。

引用・参考文献

- 石巻市教育委員会 (1976) : 『沼津貝塚保存管理計画策定事業報告書』
- 泉町教育委員会 (1968) : 『宮城県宮城郡泉町堂庭施寺宝塔址発掘調査報告』
- 泉市教育委員会 (1980) : 『杭城館跡』『泉市文化財調査報告書』第1集
- 泉市教育委員会 (1984) : 『松森船跡』『泉市文化財調査報告書』第2集
- 泉市教育委員会 (1985) : 『長船遺跡』『泉市文化財調査報告書』第4集
- 泉市教育委員会 (1986) : 『長命館跡』『泉市文化財調査報告書』第5集
- 泉市教育委員会 (1987) : 『泉市の文化財』
- 伊東信雄・須藤 隆 (1985) : 『山王遺跡調査図録』一迫町教育委員会
- 一迫町教育委員会 (1977) : 『巻堀遺跡』
- 角田市教育委員会 (1976) : 『梁瀬遺跡』『宮城県角田市文化財調査報告』第1集
- 加藤 孝 (1952) : 『塩釜市一本松貝塚の調査』『地域社会研究』第3・4号
- 工藤 竹久 (1987) : 『東北北部における亀岡式土器の終末』『考古学雑誌』第72巻 第4号
- 後藤静彦 他 (1976) : 『白石市史』別巻 考古資料編
- 塩釜女子高等学校 (1971) : 『宮城県七ヶ浜町吉田浜二月田貝塚発掘調査報告』『貝輪』6号
- 塩釜女子高等学校 (1972) : 『宮城県七ヶ浜町二月田貝塚第二次発掘調査報告』『貝輪』7号
- 白鳥良一 (1980) : 『多賀城跡出土土器の変遷』『研究紀要』宮城県多賀城跡調査研究所
- 柴田町教育委員会 (1976) : 『船迫ニュータウン地内遺跡調査報告』『柴田町文化財調査報告書』第8集
- 志 岡 泰 治 (1971) : 『鮎沼遺跡』東北電力株式会社宮城支店
- 仙台市教育委員会 (1983) : 『茂庭-梨野 A 遺跡-』『仙台市文化財調査報告書』第45集
- 仙台市教育委員会 (1988) : 『錦ヶ丘ニュータウン関連遺跡発掘調査報告書』『仙台市文化財調査報告書』第120集
- 仙台市教育委員会 (1989) : 『高柳遺跡現地説明会資料』
- 中村 五 郎 (1988) : 『弥生文化の曙光』未来社
- 宮城県教育委員会 (1980A) : 『東北自動車道遺跡調査報告書II 宮下遺跡』『宮城県文化財調査報告書』第63集
- 宮城県教育委員会 (1980B) : 『東北自動車道遺跡調査報告書III 宮沢遺跡』『宮城県文化財調査報告書』第69集
- 宮城県教育委員会 (1982) : 『青木畑遺跡』『宮城県文化財調査報告書』第85集
- 宮城県教育委員会 (1983) : 『遺跡詳細分布調査報告書一岩ノ入遺跡-』『宮城県文化財調査報告書』第95集
- 宮城県教育委員会 (1984) : 『鹿島・竹ノ内遺跡』『宮城県文化財調査報告書』第101集
- 宮城県教育委員会 (1986) : 『遺跡詳細分布調査報告書一柴の脇遺跡-』『宮城県文化財調査報告書』第119集
- 紫山遺跡発掘調査団 (1977) : 『紫山遺跡発掘調査概報』
- 山内 清 男 (1930) : 『所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄文式土器の終末』『山内清男・先史考古学論文集』第三冊

写 真 图 版



写真1 赤生津遺跡と周辺の遺跡



写真2 調査前の状況 (北西上空から)



写真3 調査前の状況 (南東上空から)



写真4 包含層断面 (包含層地区) CA~CB-30区 (第5図)



CA25-3層 (第18、19)

写真5 遺物出土状況 (包含層地区)



BIS25-24-4層

写真6 遺物出土状況 (包含層地区)



写真7 SK4 (包含層地区)

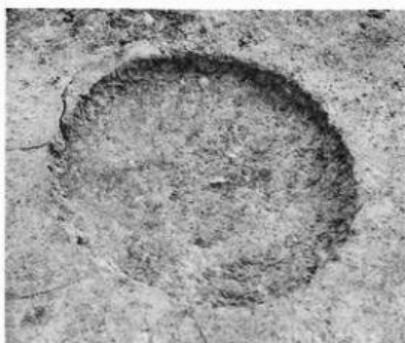


写真8 SK47 (包含層地区)



写真9 遺跡全景 (西側上空から)



写真10 SK 1 (包含層地区)



写真11 SK 2 (包含層地区)

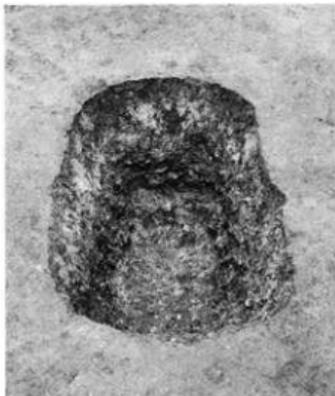


写真12 SK 3 (包含層地区)



写真13 水田跡検出状況（南上空より）

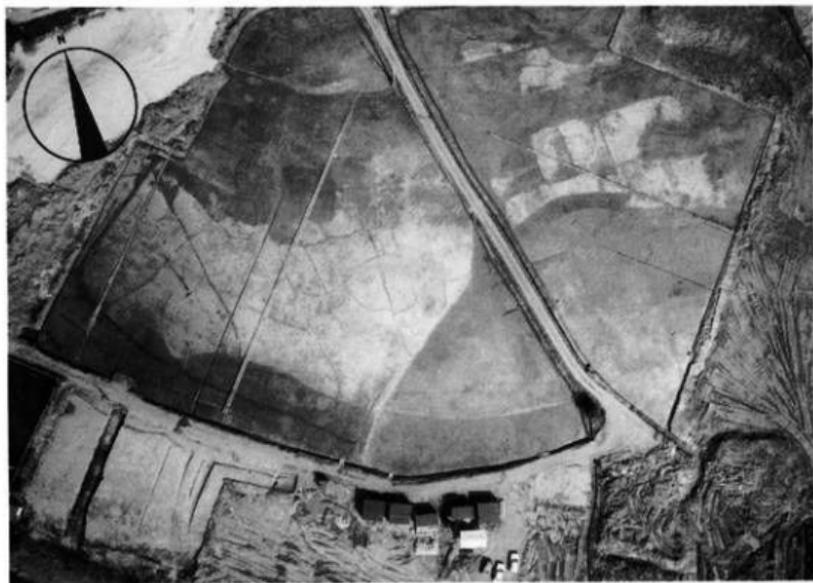


写真14 水田跡検出状況



写真15 水田地区(農道西側) 水田跡



写真16 水田地区（農道東側）水田跡検出状況

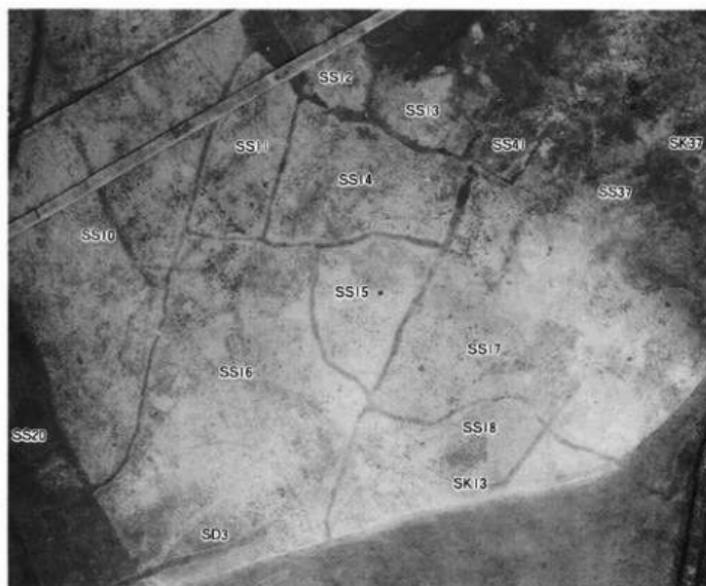


写真17 水田跡検出状況



写真18 田面の状況 (SS15は田面凹部の火山灰も除去)



写真19 SS14 SS11田面状況 (拡大)



写真20 田面状況 (拡大)



写真21 SS15田面状況



写真22 SS15田面状況



写真23 SS15田面状況



写真24 SS15田面状況



写真25 SS15田面状況(拡大)

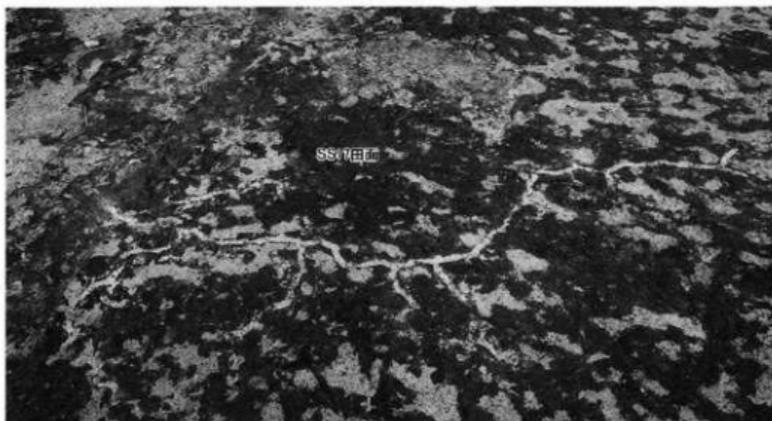


写真26 ハタネズミ巣穴痕(SS17)

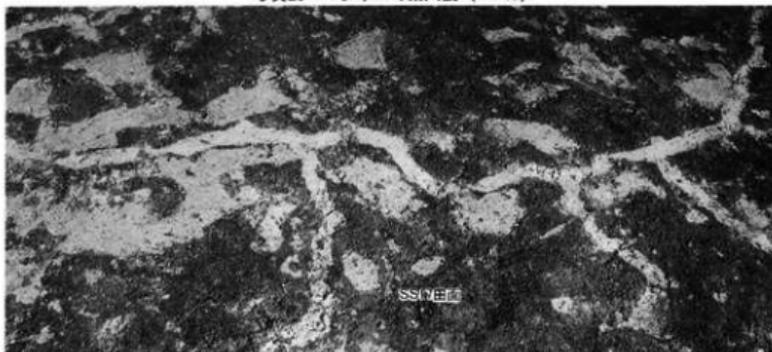


写真27 ハタネズミ巣穴痕(SS17)(拡大)



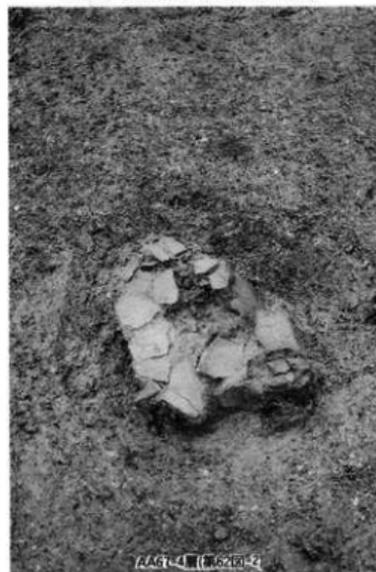
AP45-4層 第62回4

写真28 遺物出土状況 (水田地区)



AP45-4層 第62回3

写真29 遺物出土状況 (水田地区)



AP45-4層 第62回2

写真30 遺物出土状況 (水田地区)



AP45-4層 第62回1

写真31 遺物出土状況 (水田地区)

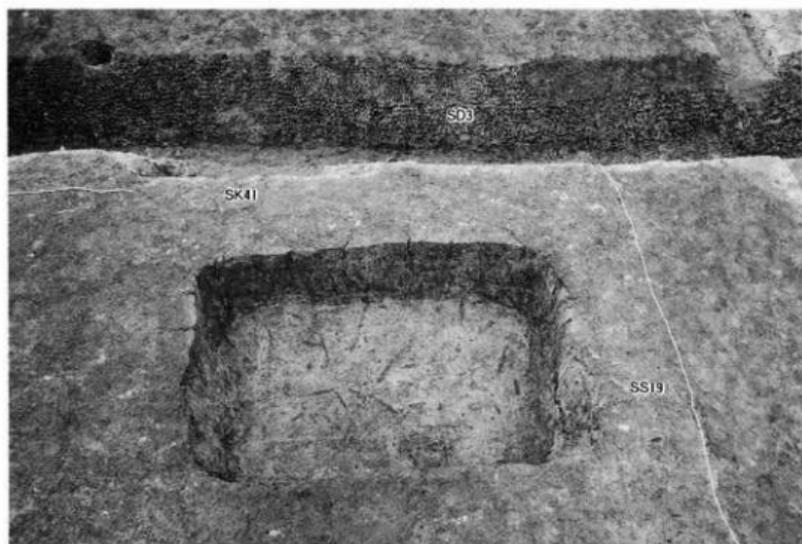


写真32 SK10 (水田地区)



写真33 SK10 (水田地区)堆積状況

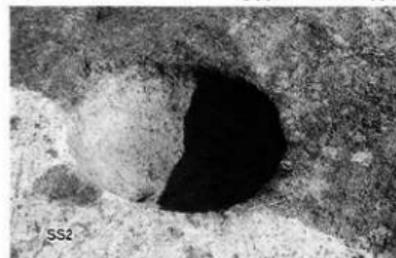


写真34 SK11 (水田地区)



写真35 SK13 (水田地区)堆積状況

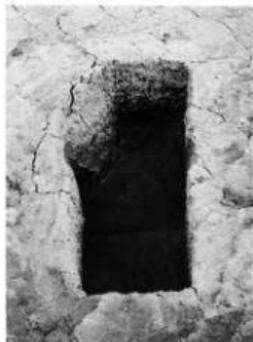


写真36 SK16 (水田地区)

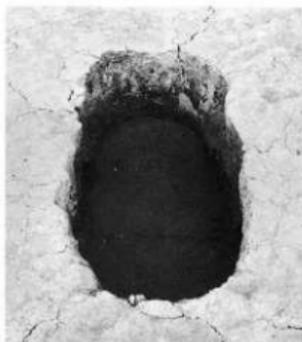


写真37 SK17 (水田地区)



写真38 SK15 (水田地区)

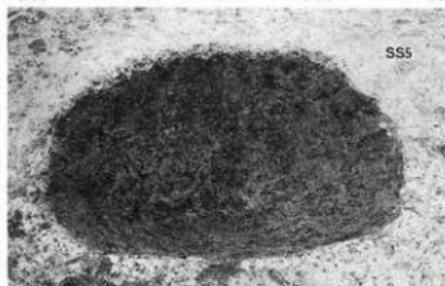


写真39 SK19 (水田地区)



写真40 SK19 (水田地区)堆積状況



写真41 SK20.21.22.23 (水田地区)

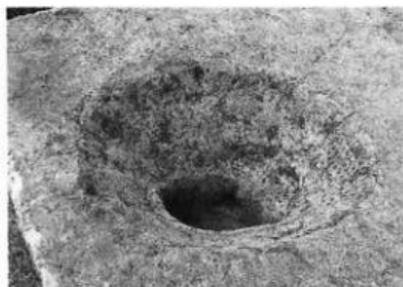


写真42 S K 21 (水田地区)

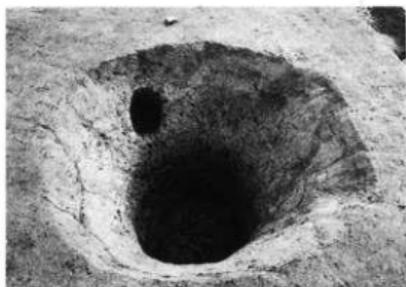


写真43 S K 22 (水田地区)

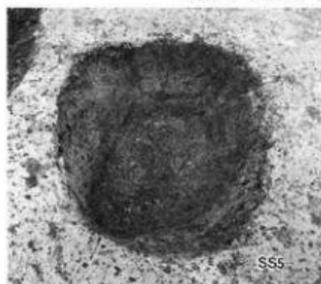


写真44 S K 24 (水田地区)

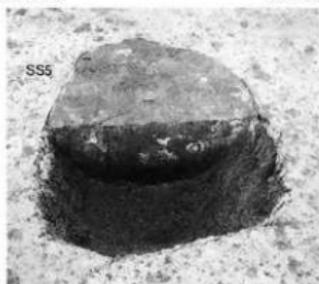


写真45 S K 24 (水田地区) 堆积状况

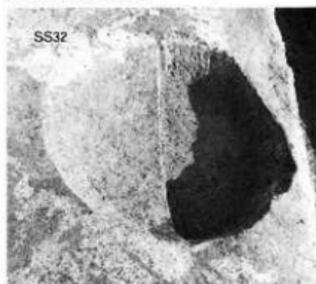


写真46 S K 26 (水田地区)



写真47 S K 25 (水田地区)



写真48 S K 29 (水田地区)



写真49 S K 28 (水田地区)

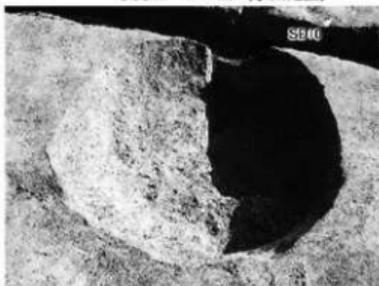


写真50 S K 27 (水田地区)



写真51 S K 30 (水田地区)



写真52 S K 31 (水田地区)



写真53 S K 29.30.31 (水田地区)

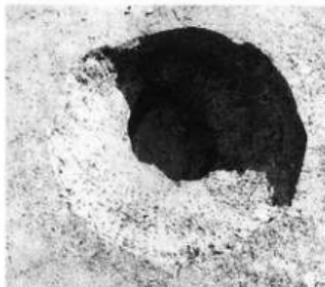


写真54 S K 32 (水田地区)



写真55 S K 33 (水田地区)

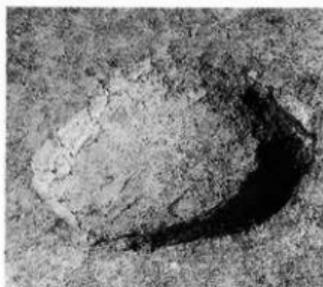


写真56 S K 35 (水田地区)



写真57 S K 34 (水田地区)



写真58 S K 37 (水田地区)

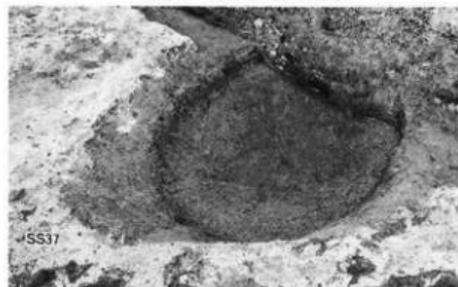


写真59 S K 38 (水田地区)



写真60 S K 39 (水田地区)



写真61 S K 40 (水田地区)

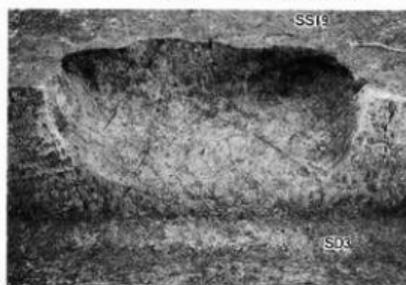


写真62 S K 41 (水田地区)



写真63 S K 43 (水田地区)

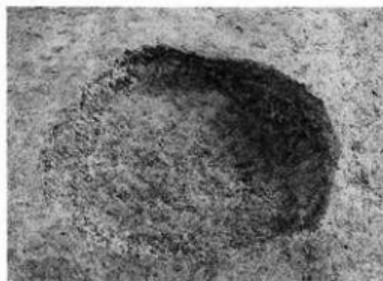


写真64 S K 44 (水田地区)



写真65 S D19樹木出土状況 (水田地区深掘Ⅳ区)



写真66 S D13木材出土状況 (水田地区深掘Ⅴ区)



写真67 S D21 (水田地区深掘Ⅵ区)



写真68 S D21断面 (水田地区深掘Ⅵ区)



写真69 水田地区深掘Ⅱ区断面 (第79図3)

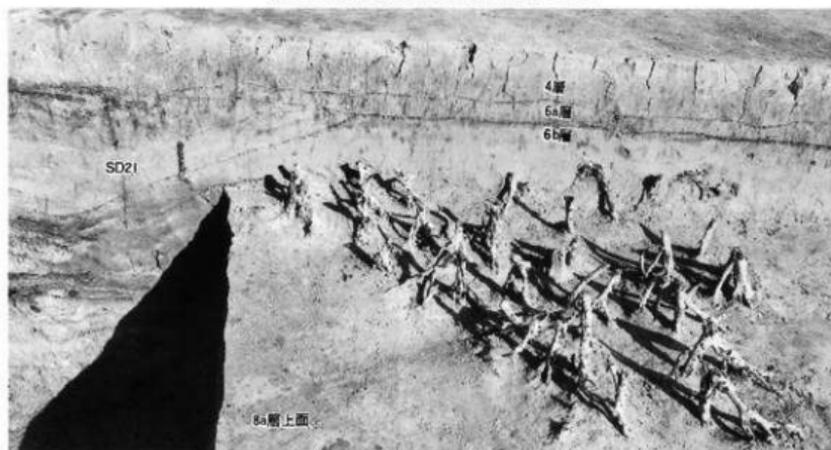


写真70 樹木出土状況 (水田地区深掘Ⅵ区)

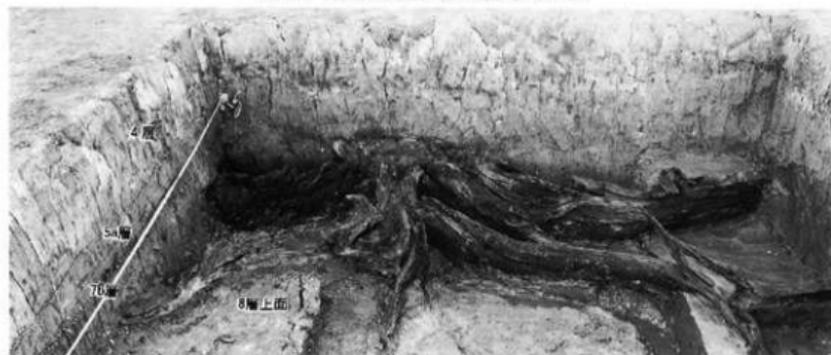


写真71 樹木出土状況 (水田地区深掘Ⅳ区)



写真72 樹木出土状況 (水田地区深掘V区)



写真74 樹木出土状況 (水田地区深掘VI区)

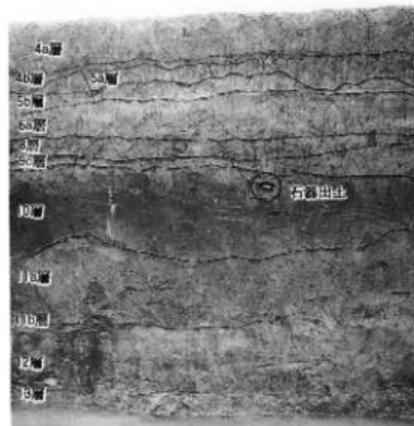


写真73 水田地区深掘V区断面



写真75 S D18 (水田地区深掘V区)



写真76 遺物出土状況 (水田地区深掘Ⅳ区)

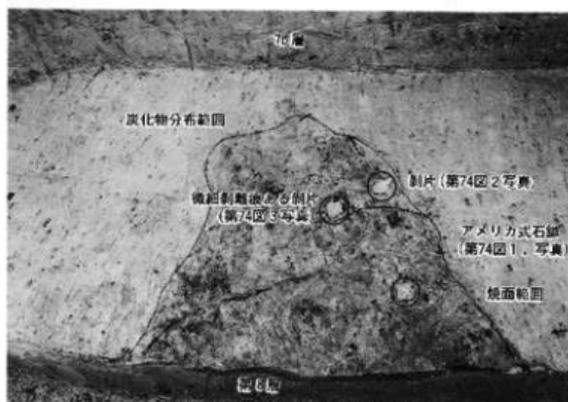
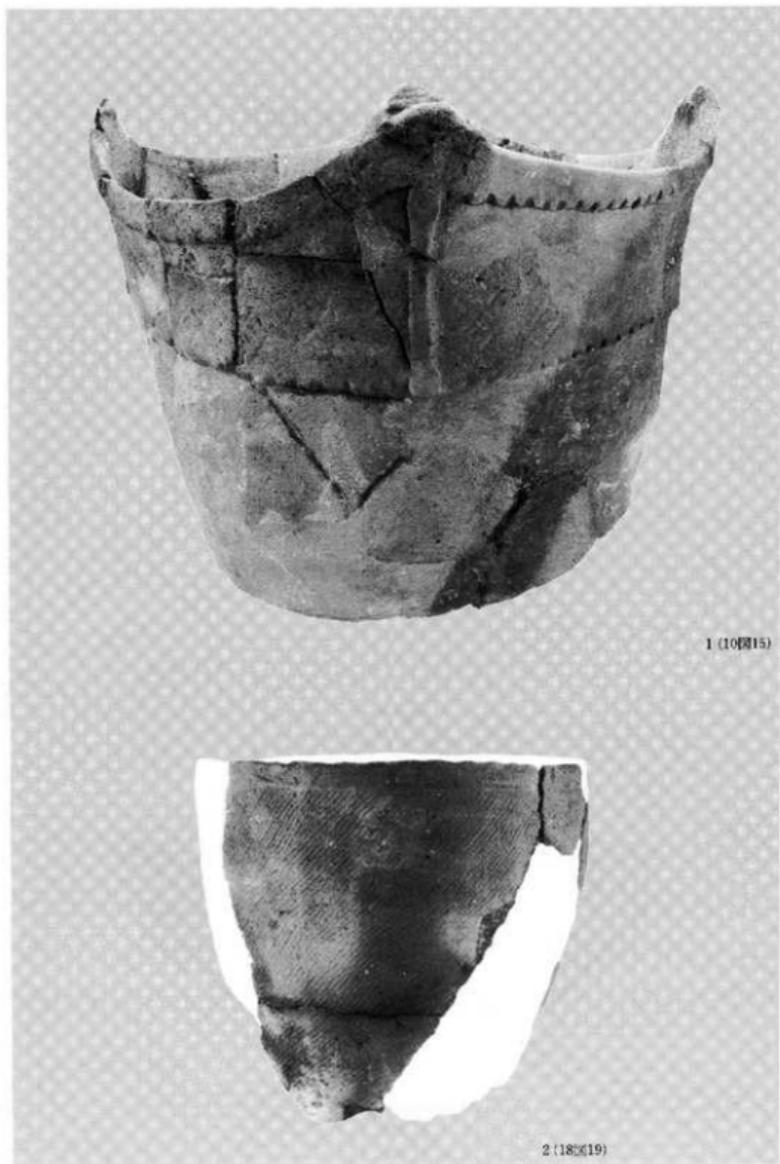


写真77 S K 49 (水田地区深掘Ⅳ区)



写真78 S K 48 (水田地区深掘Ⅳ区)



1 (10图15)

2 (18图19)

写真79 包含層地区出土縄文土器 (1)

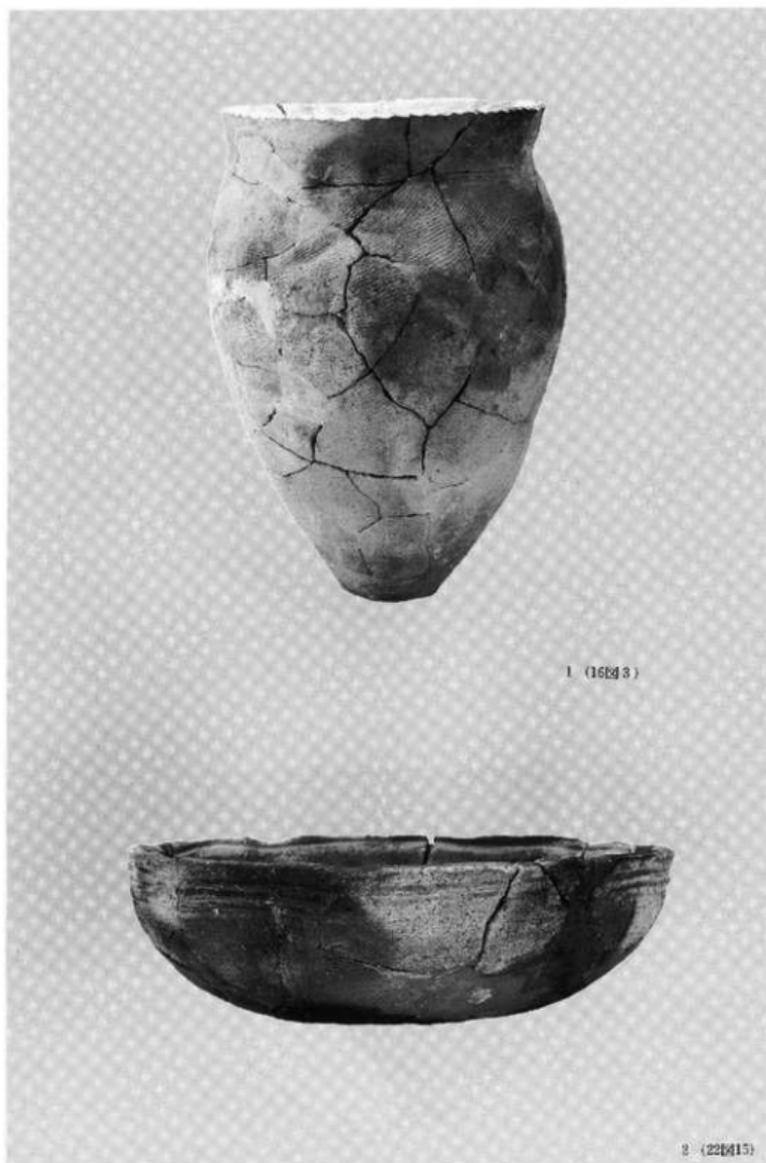


写真80 包含属地区出土縄文土器(2)

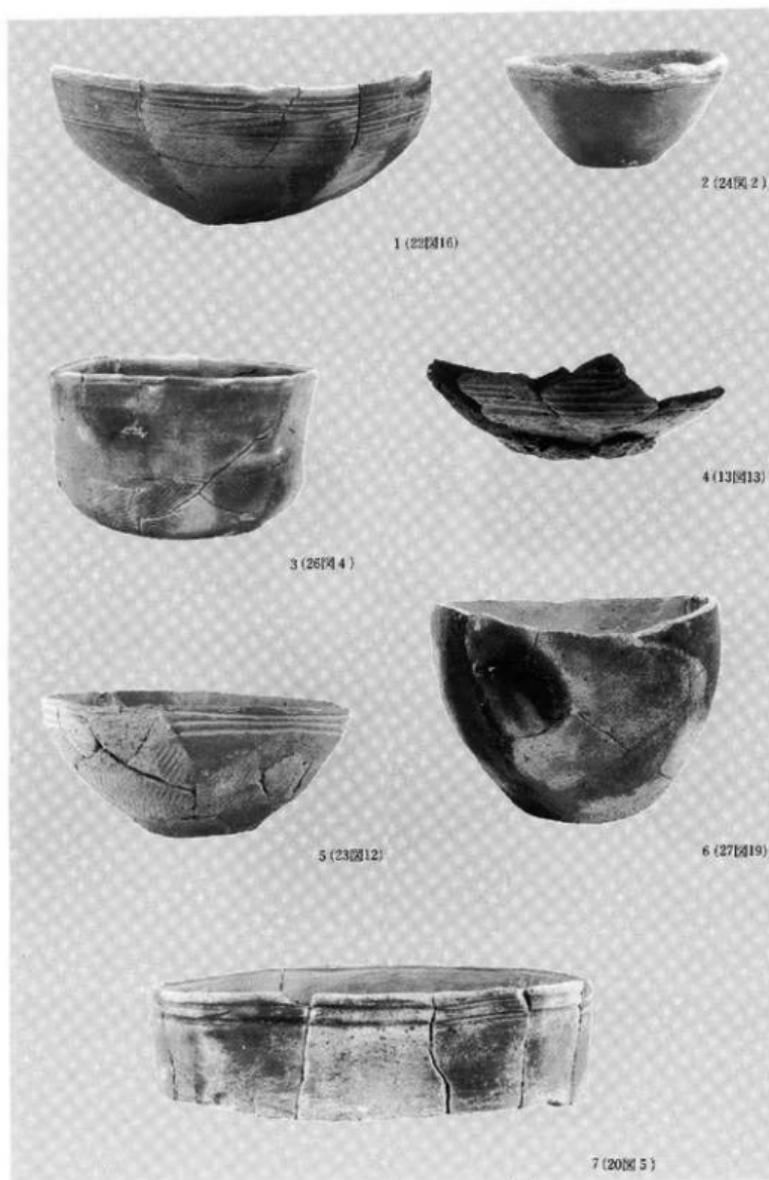


写真81 包含層地区出土縄文土器 (3)

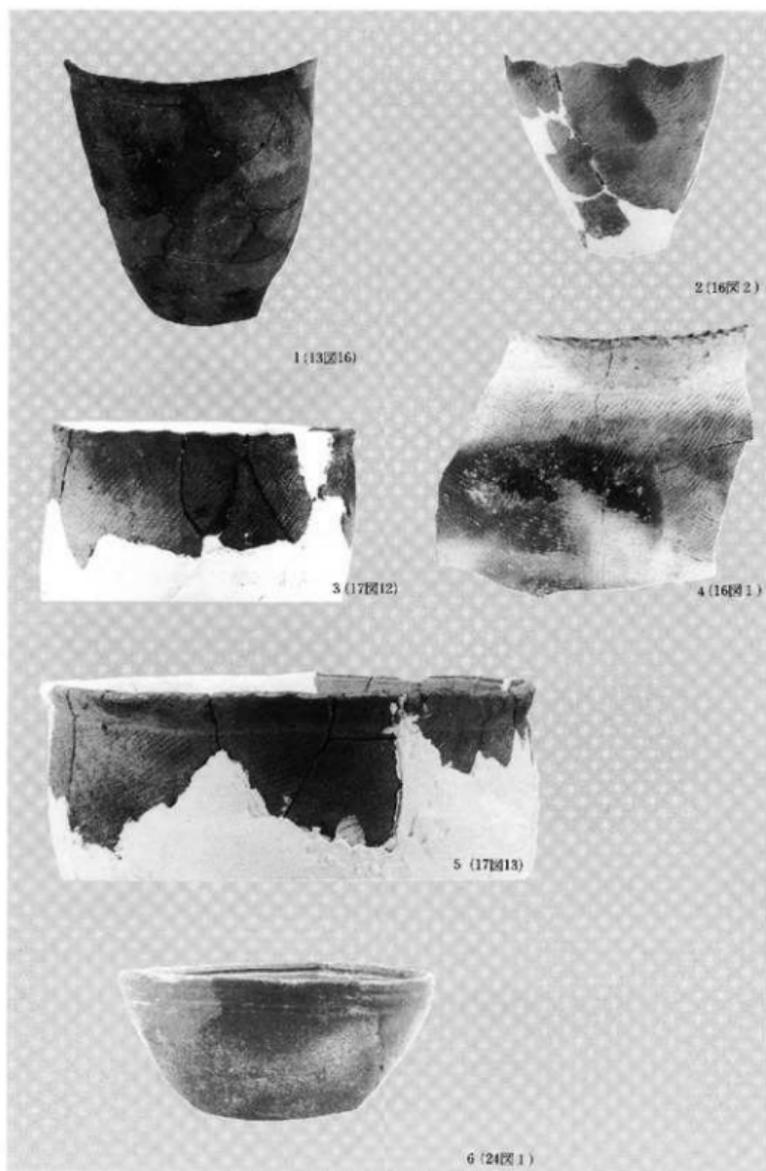


写真82 包含層地区出土縄文土器 (4)

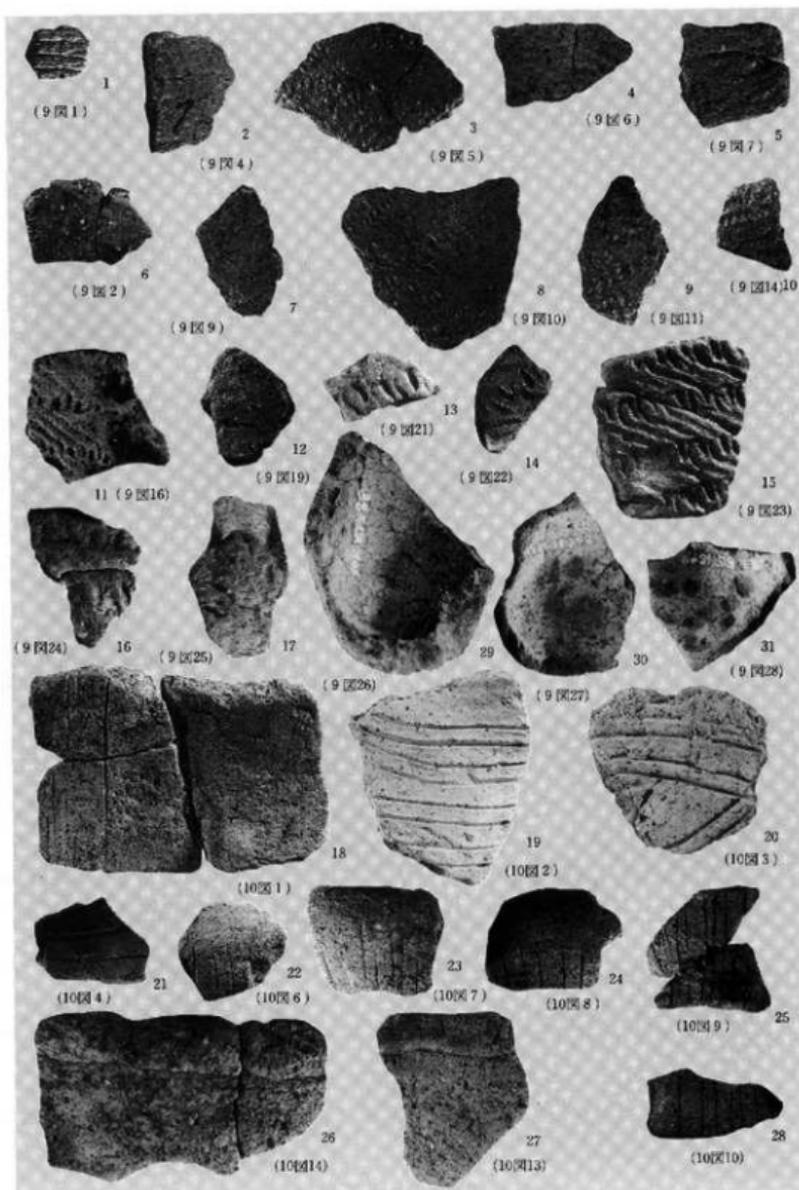


写真83 包含層地区出土縄文土器 (5)

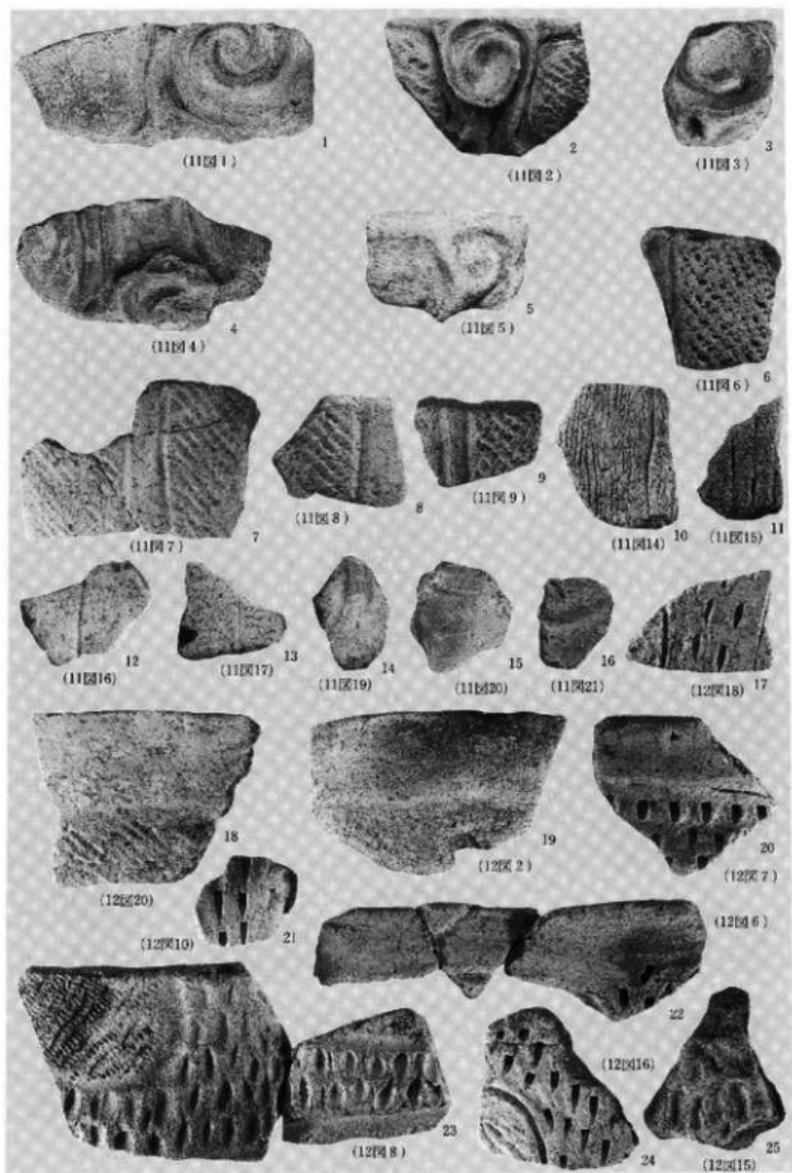


写真84 包含層地区出土縄文土器 (6)

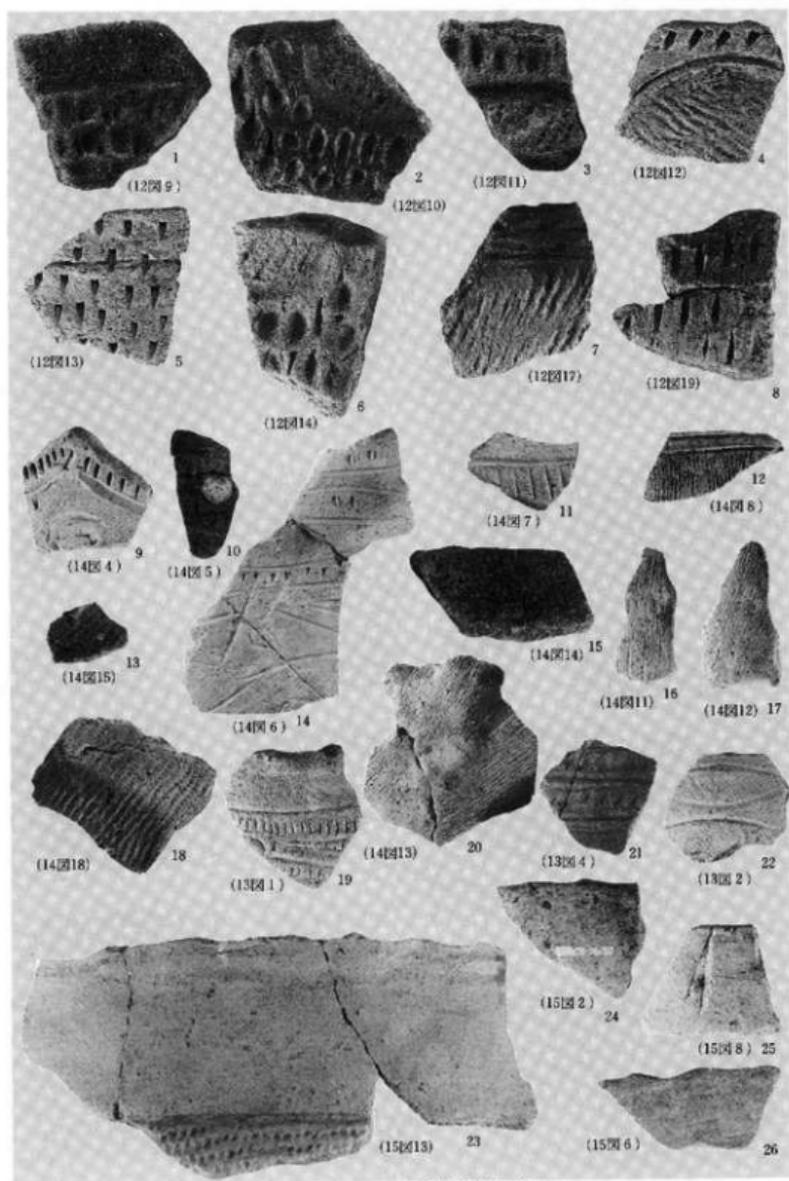


写真85 包含層地区出土縄文土器(7)

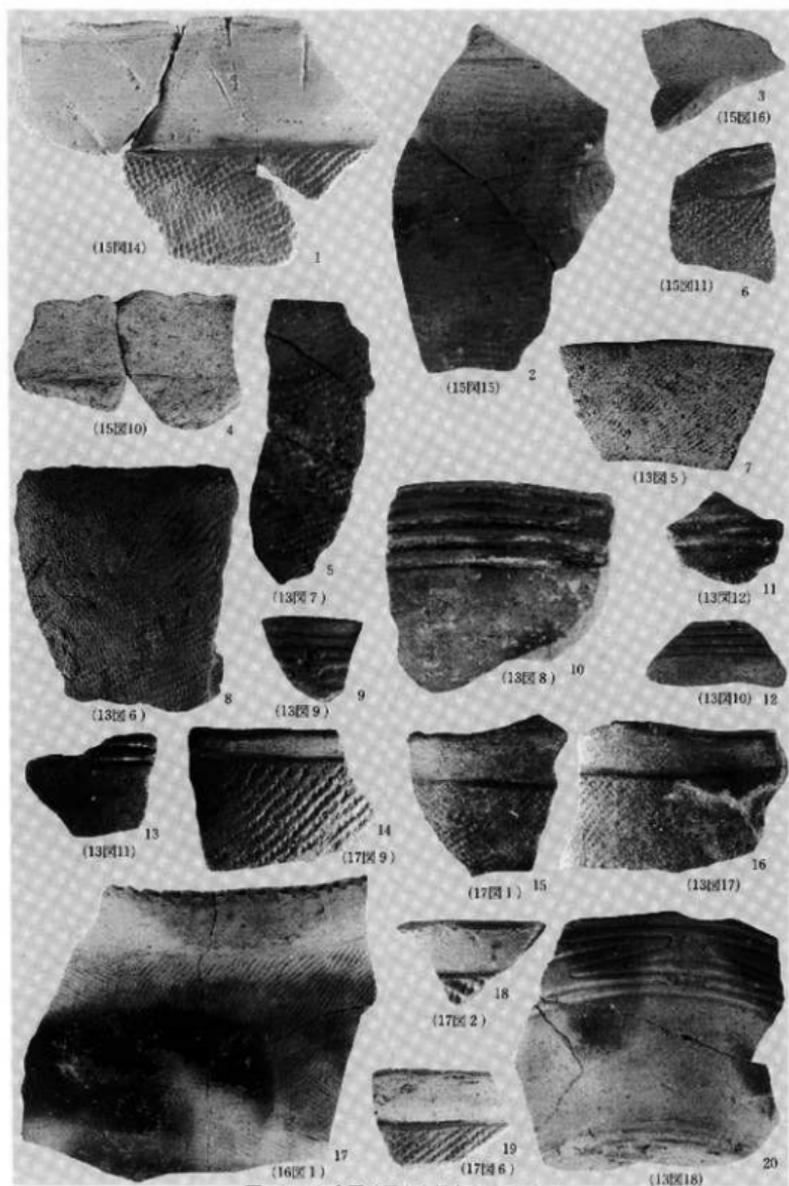


写真86 包含層地区出土縄文土器(8)

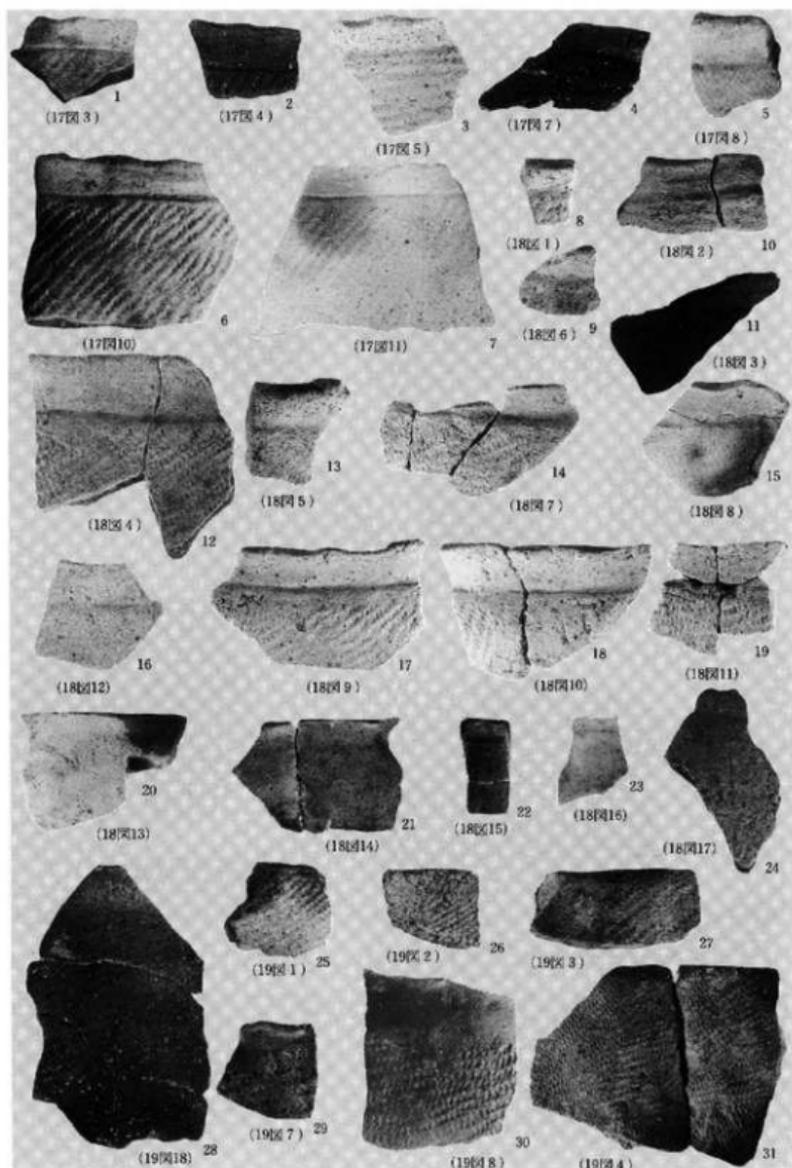


写真87 包含層地区出土縄文土器(9)

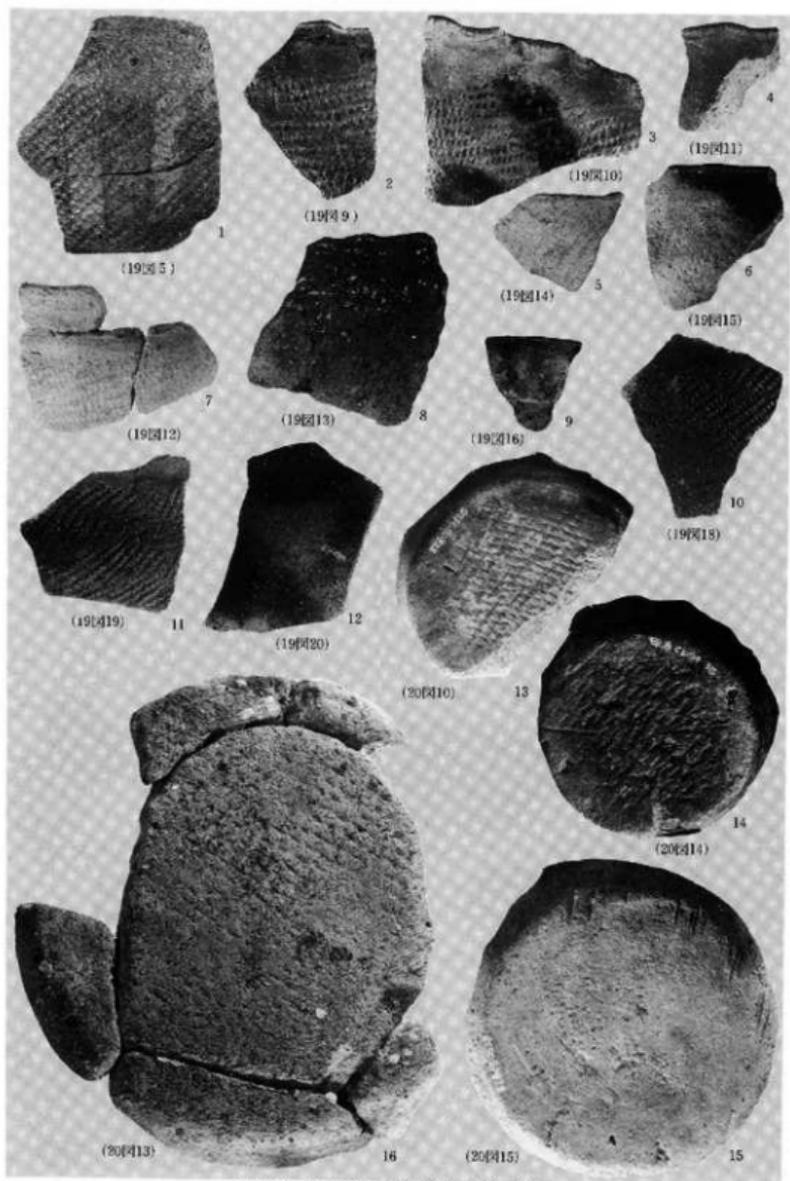


写真88 包含層地区出土縄文土器 (10)

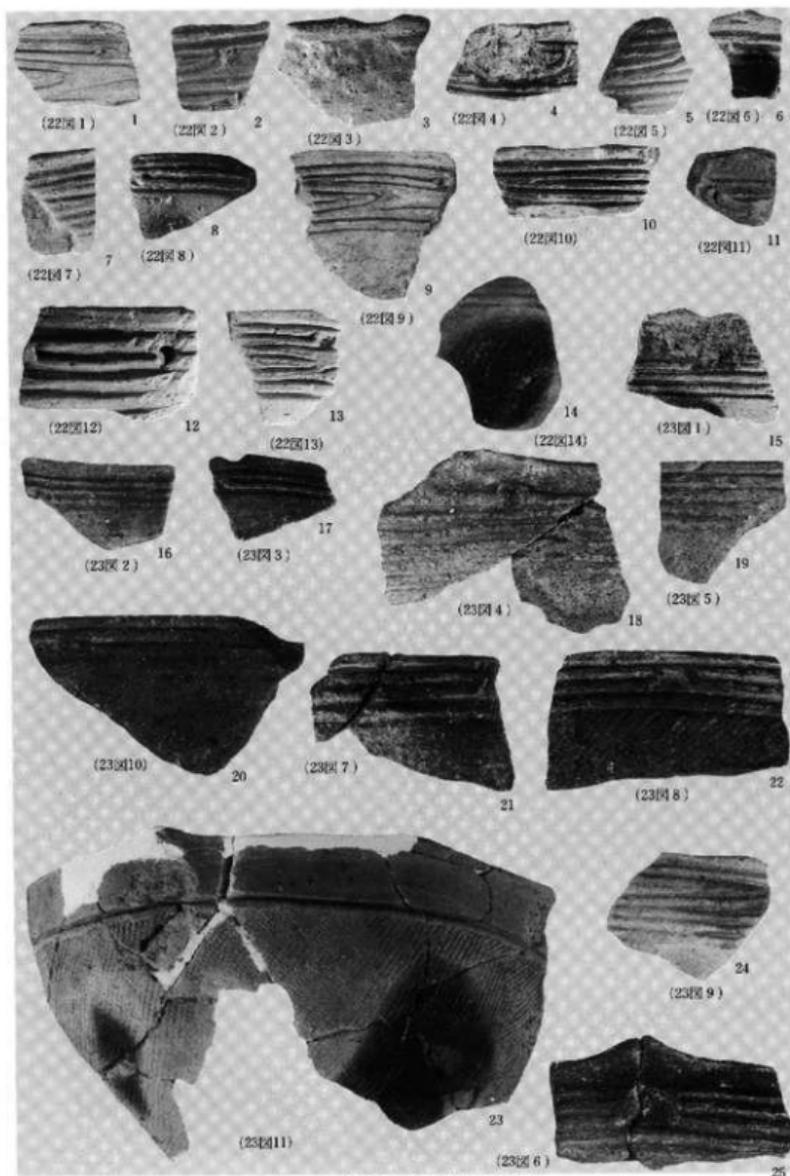


写真89 包含層地区出土縄文土器 (11)

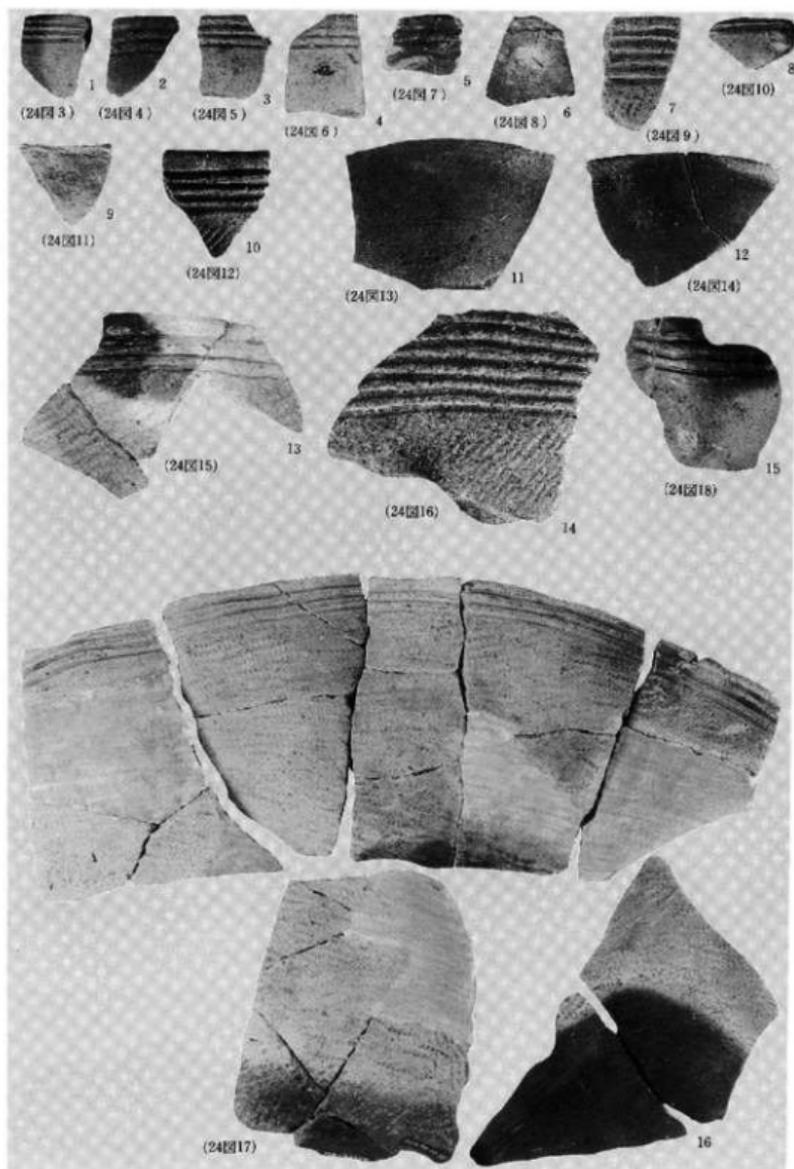


写真90 包含層地区出土縄文土器 (12)

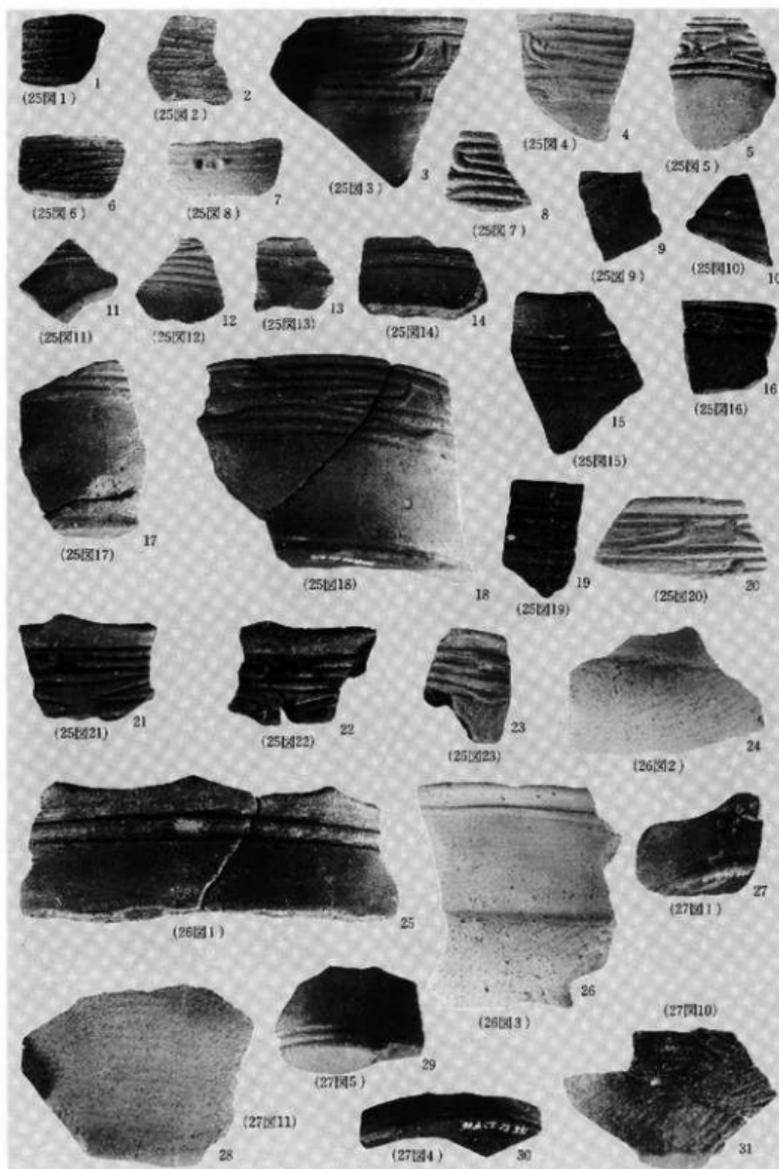


写真91 包含層地区出土縄文土器 (13)

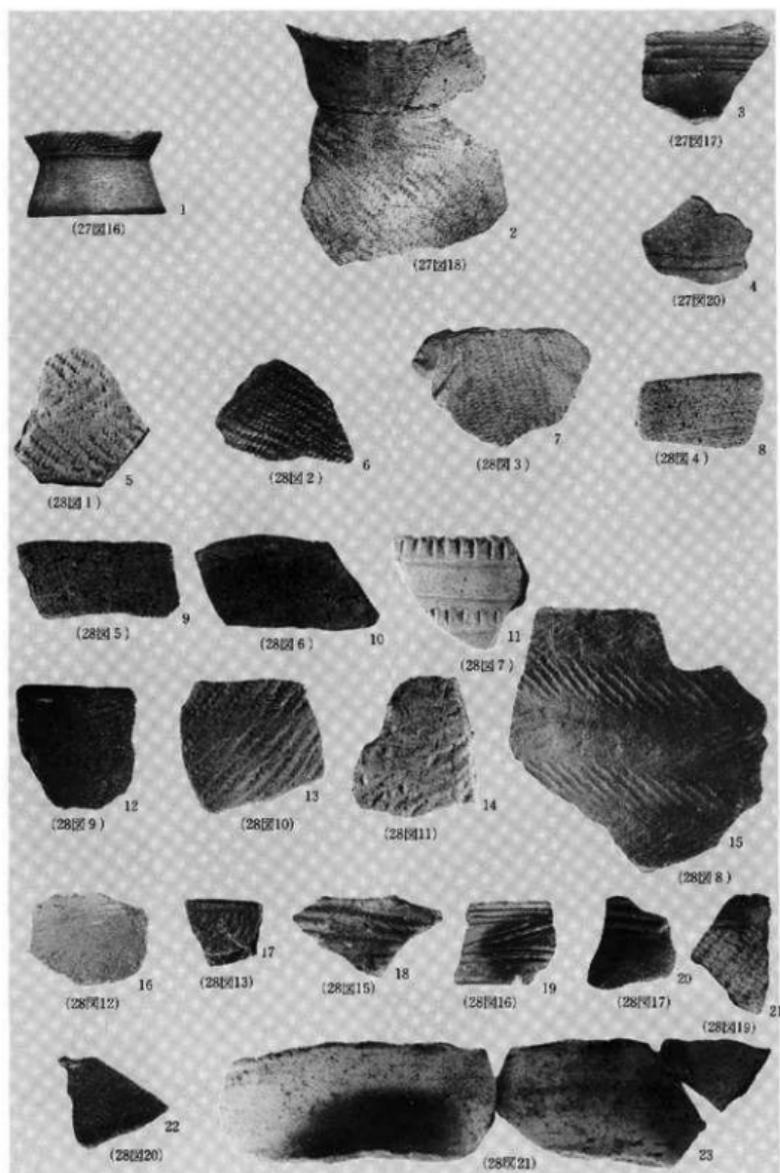


写真92 包含層地区出土縄文土器 (14)

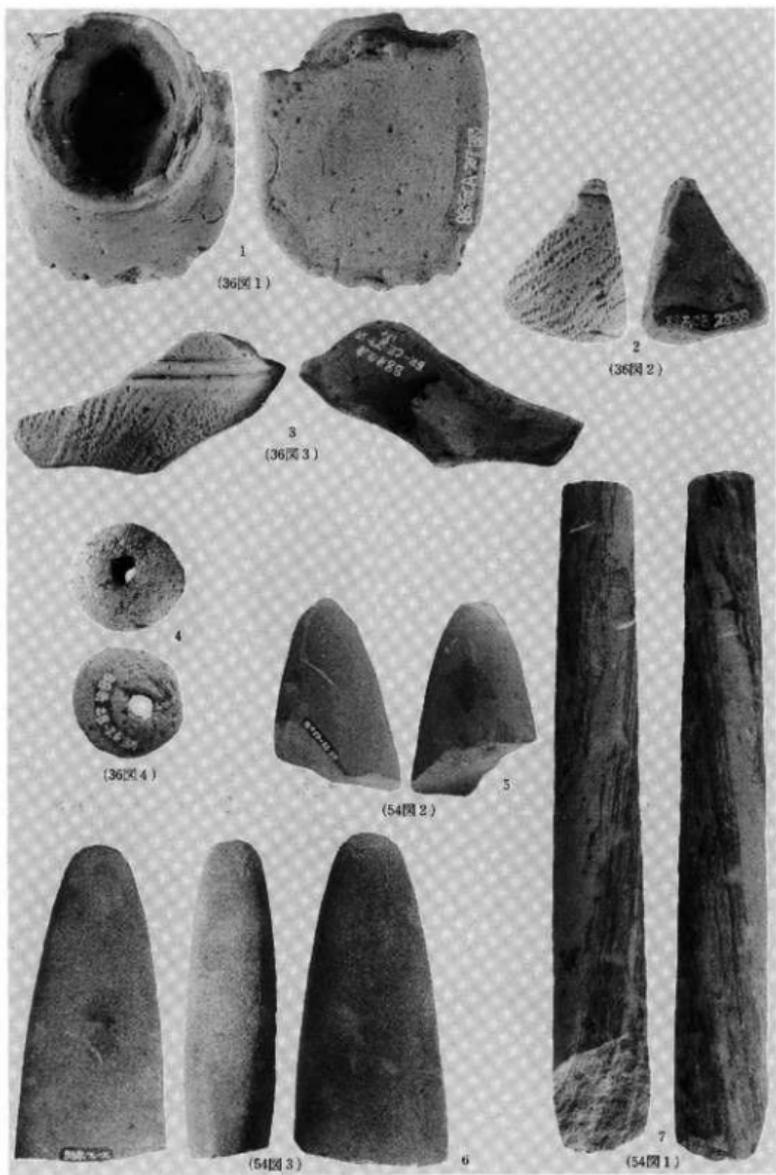


写真93 包含層地区出土土製品・石製品

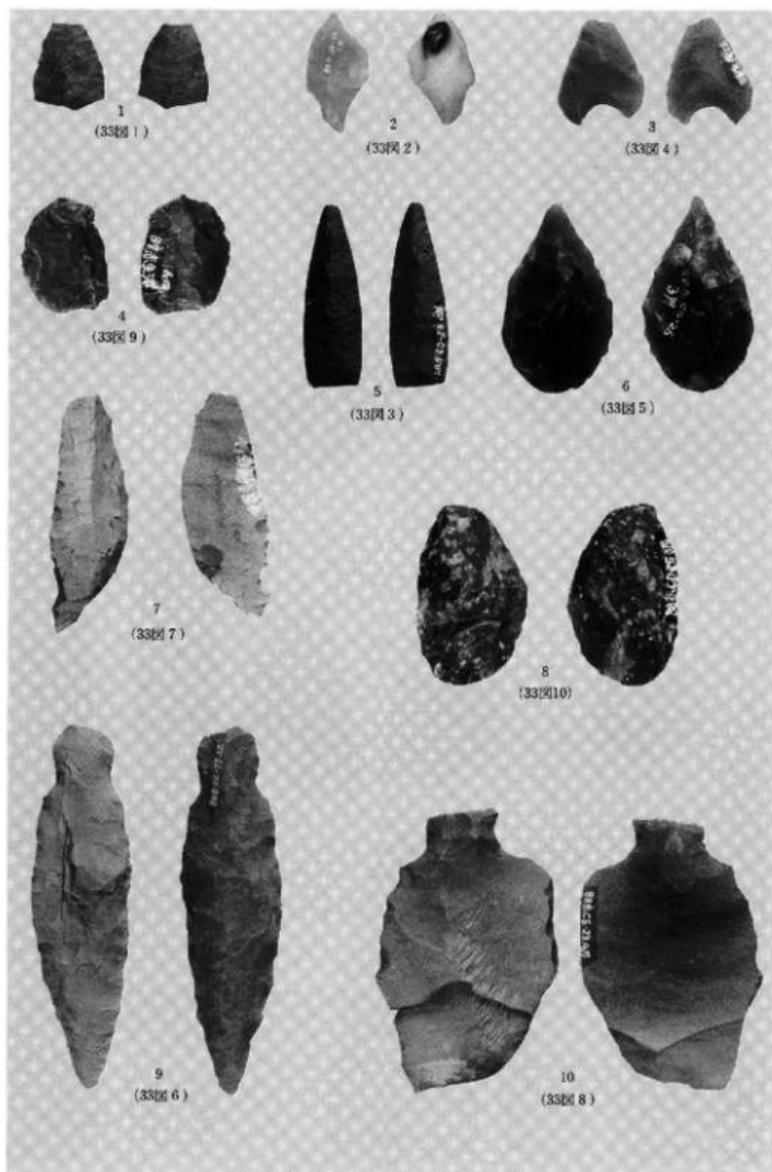


写真94 包含層地区出土剥片石器(1)

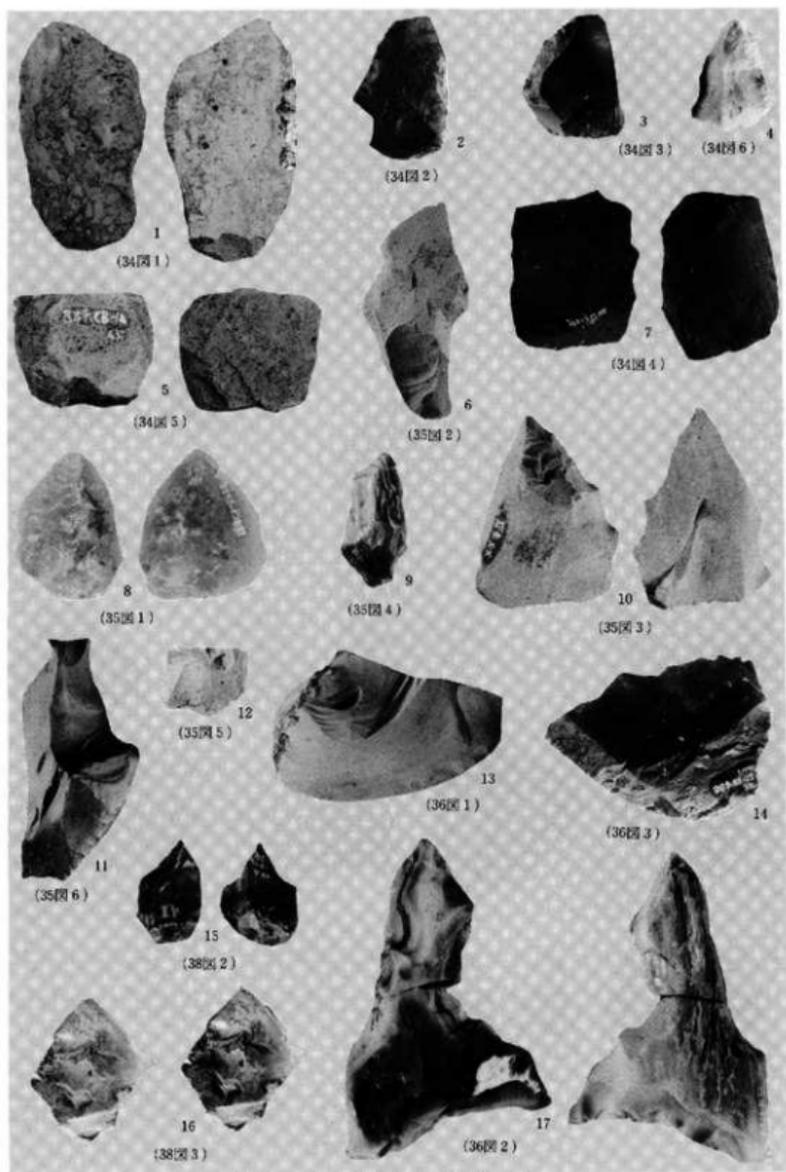


写真95 包含層地区出土制片石器 (2)

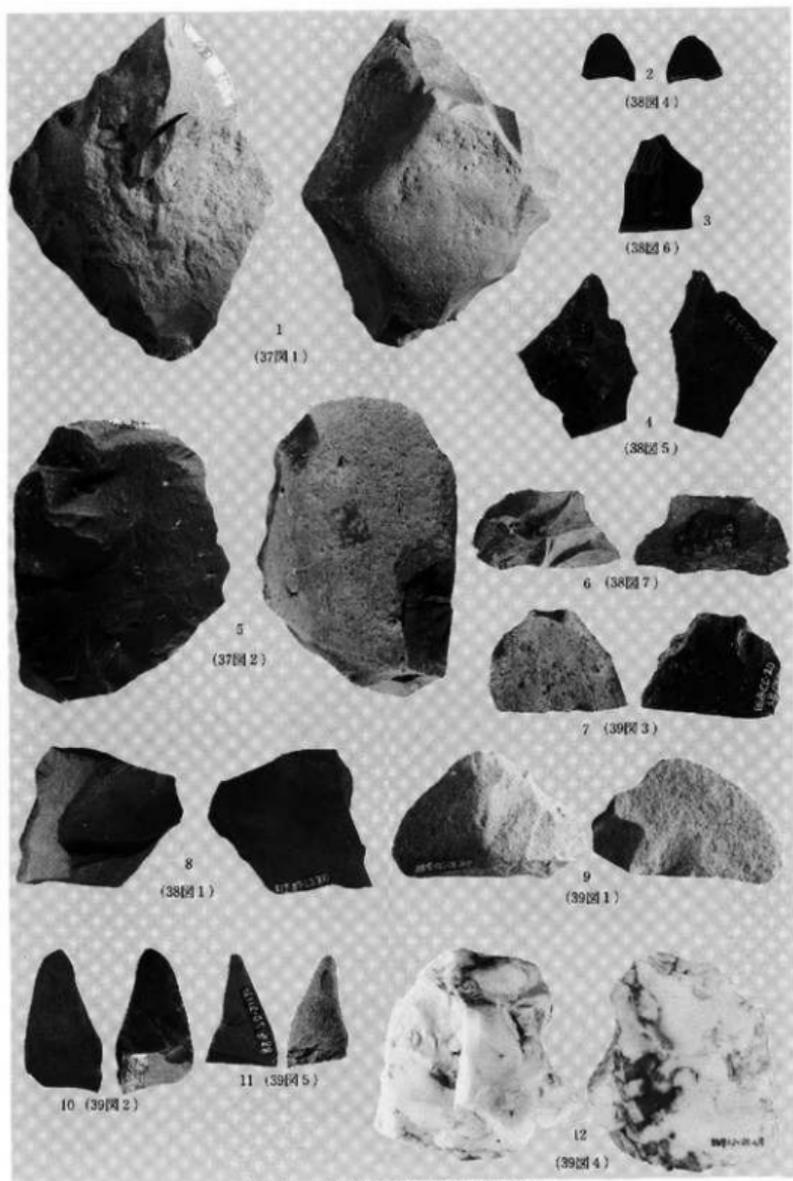


写真96 包含層地区出土制片石器 (3)

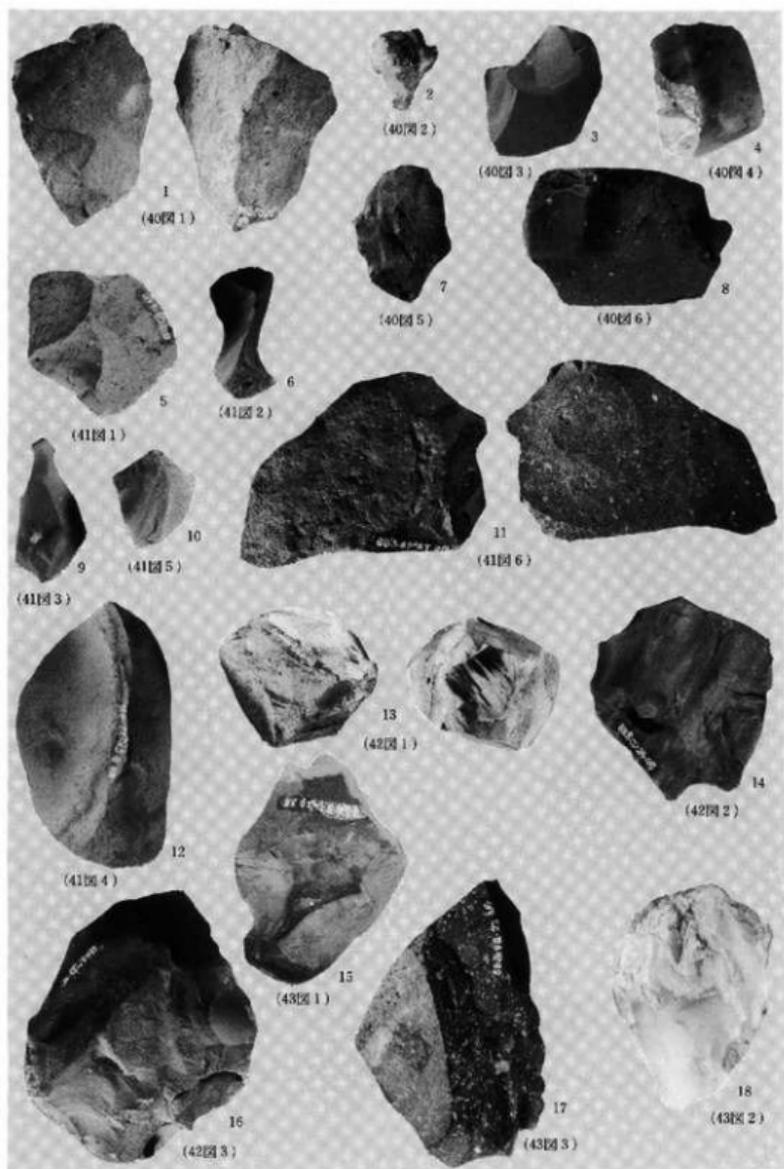


写真97 包含層地区出土剥片石器 (4)

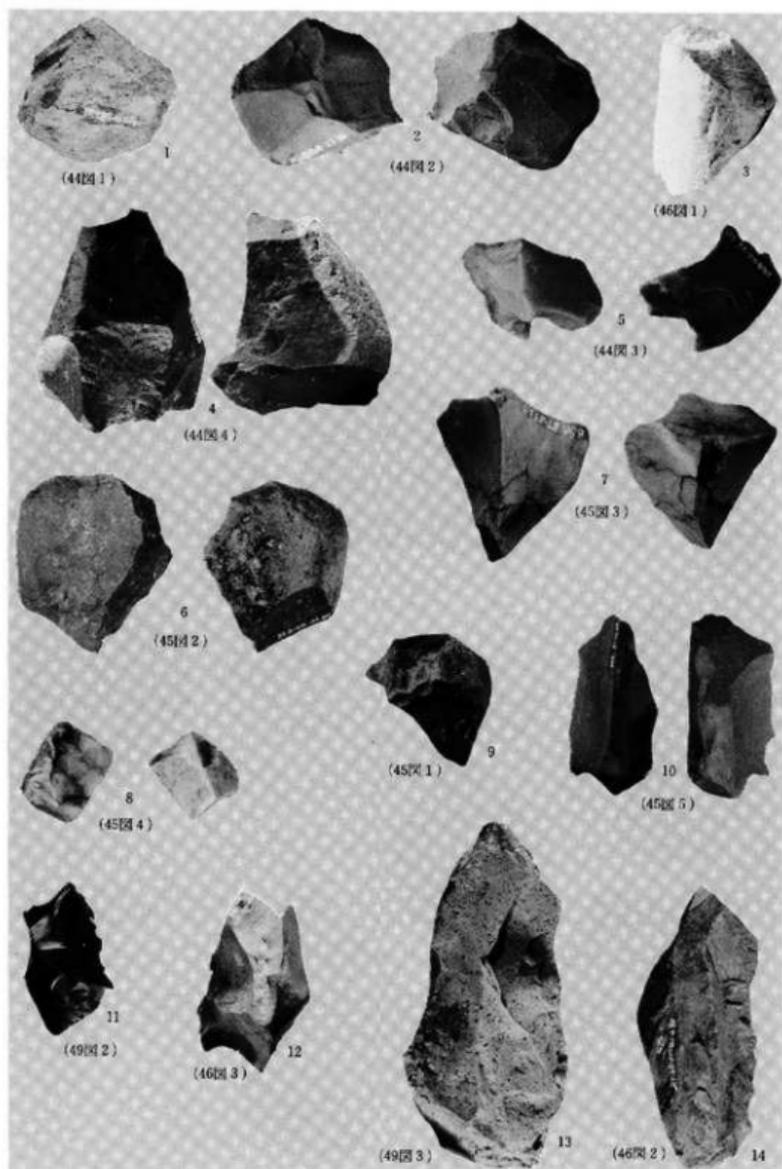


写真98 包含層地区出土制片石器 (5)

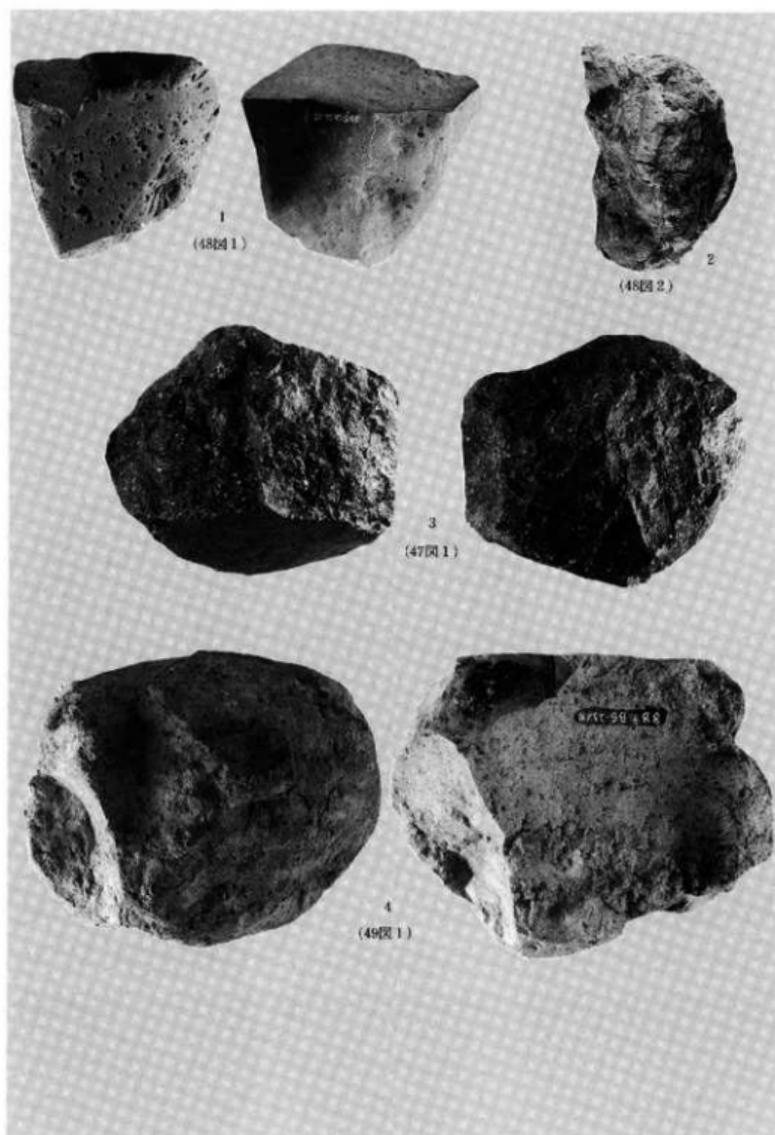


写真99 包含層地区出土矽片石器(6)



写真100 包含層地区出土礫石器

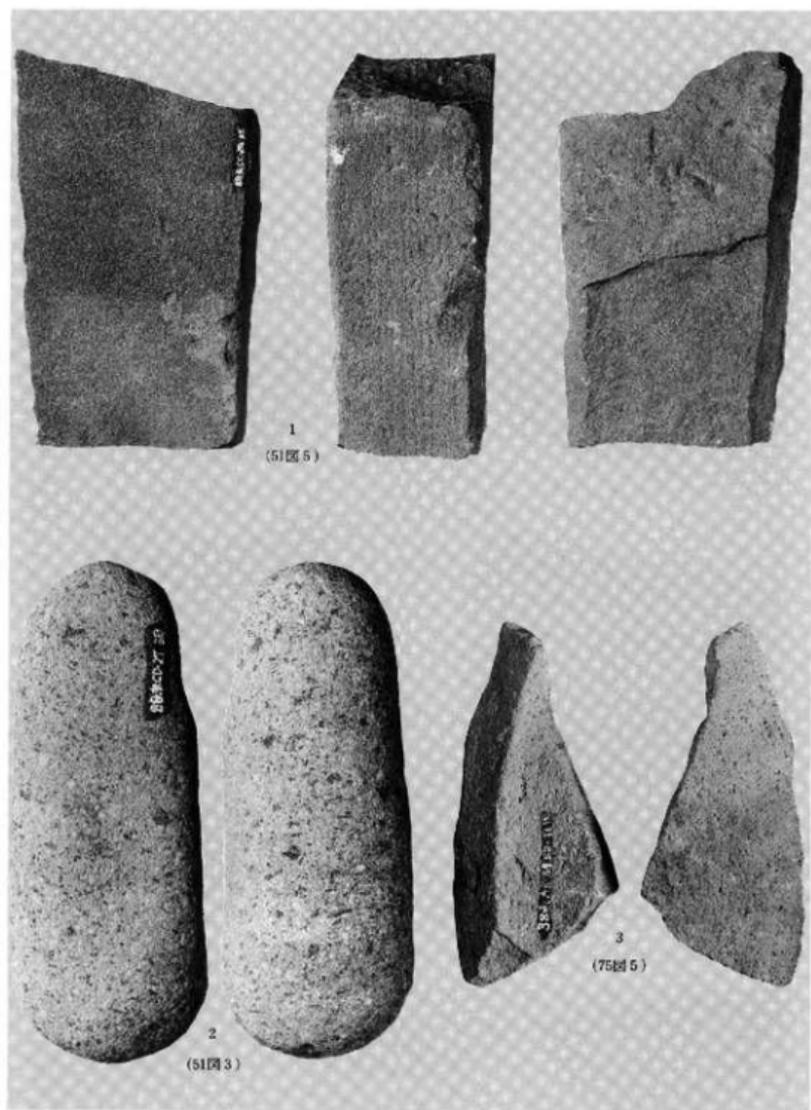


写真101 包含層水田地区出土礫石器・石製品

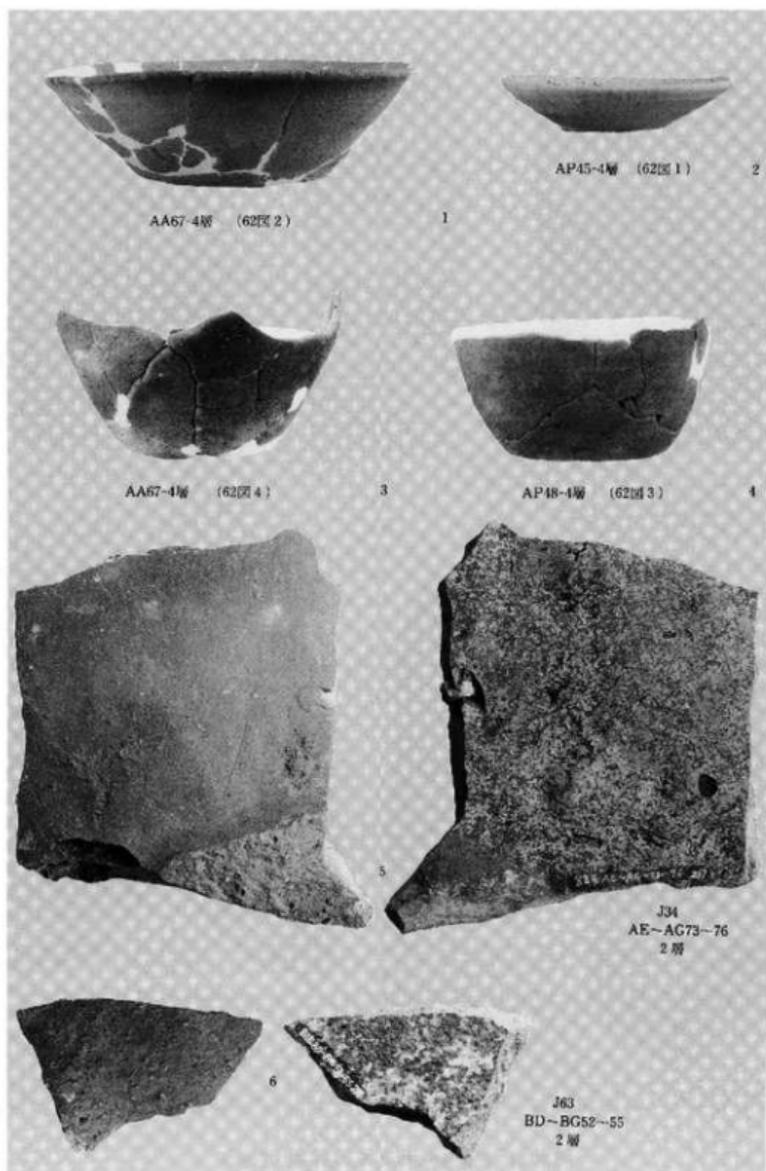


写真102 水田地区出土遺物(1)

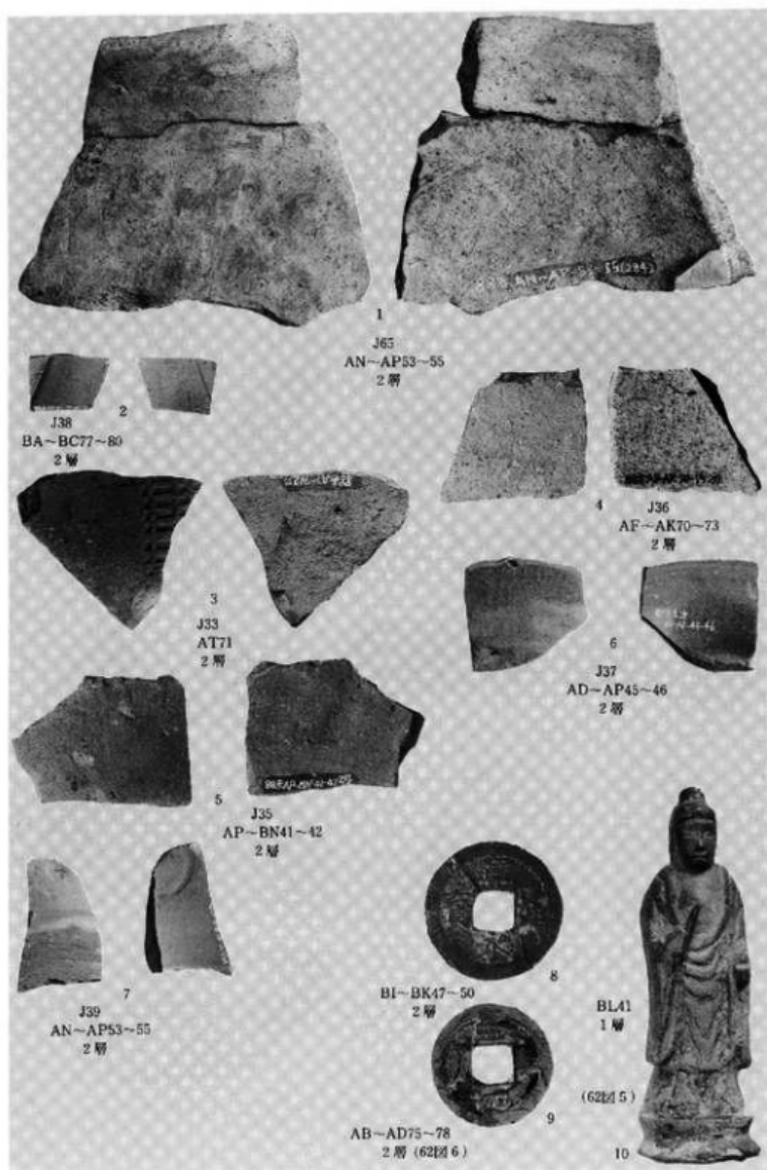


写真103 水田地区出土遺物 (2)



写真104 水田地区出土遺物 (SD・SK)

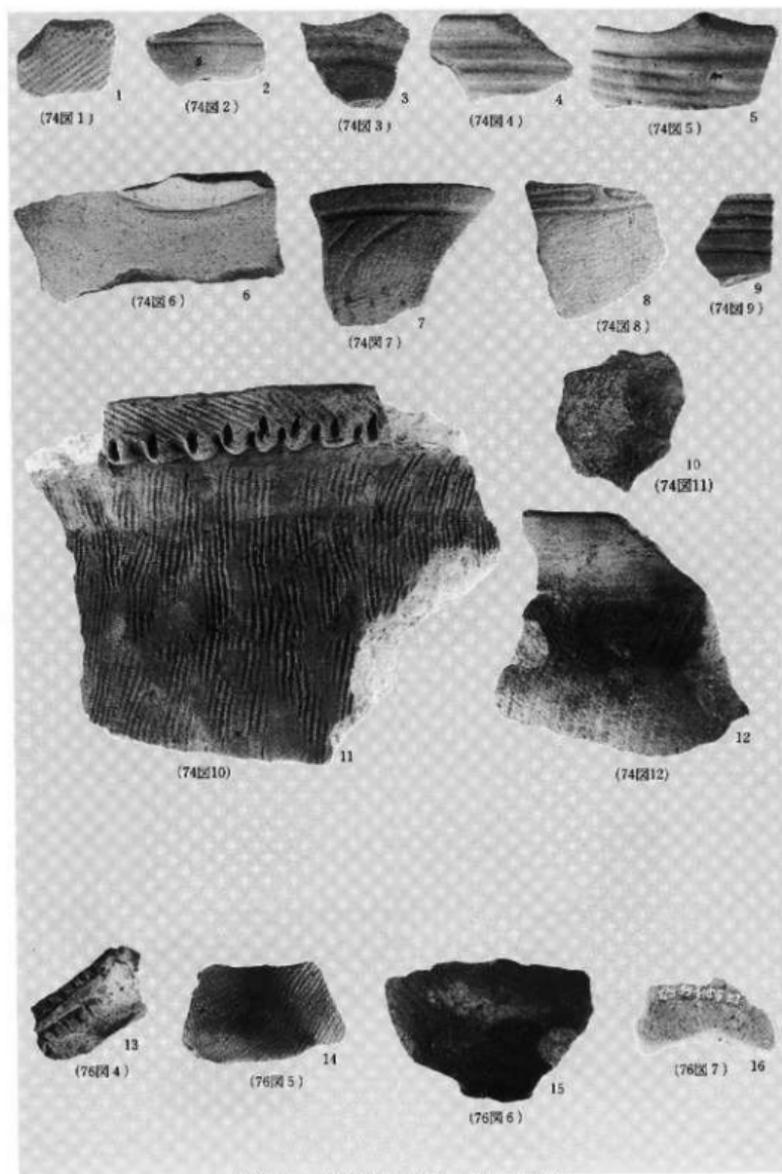


写真105 水田地区出土土器 (S.D、深掘区)



写真106 水田地区深掘区出土土器



写真107 水田地区出土制片石器 (S D、深掘区)



A5452-6 層
(76図3)

写真108 弥生土器出土状況 (深掘VI区)

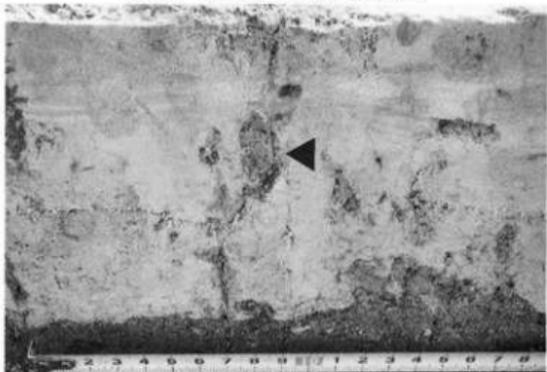
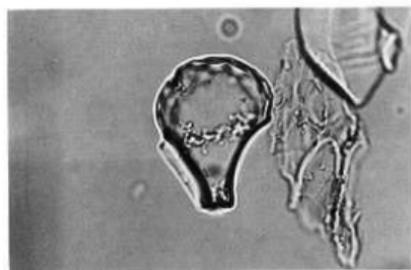


写真109 昆虫遺体出土状況

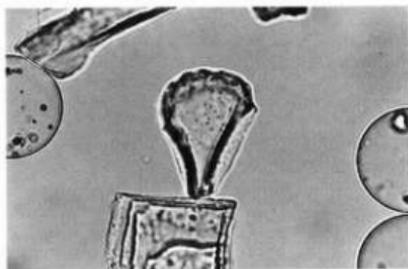


S S 18田面

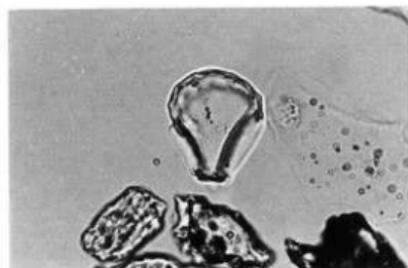
写真110 火山灰堆積状況 (S S 18)



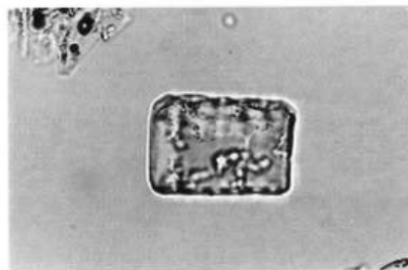
1 イネ No142 ×400



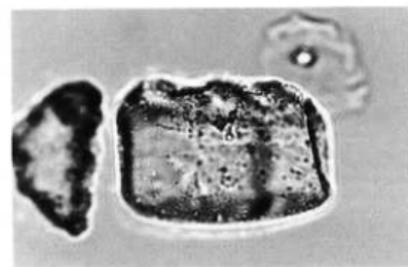
2 イネ No158 ×400



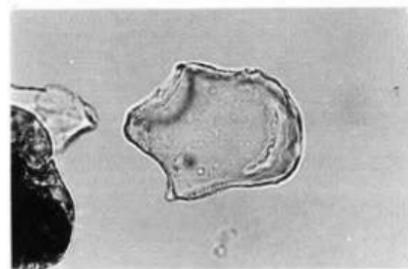
3 イネ No158 ×400



4 キビ蕨(ヒエ属)No172 ×400



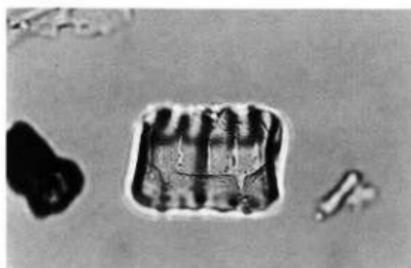
5 キビ蕨(ヒエ属) No172 ×400



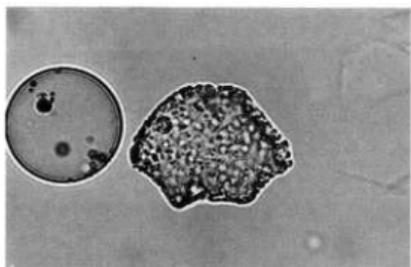
6 ヨシ属 No172 ×400



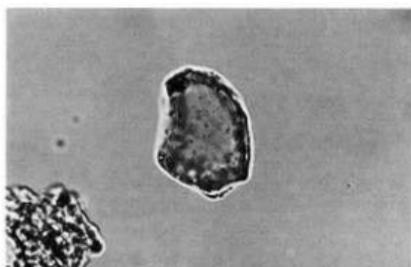
7 タケ亜科(ネゼヤ節) No.172 ×400



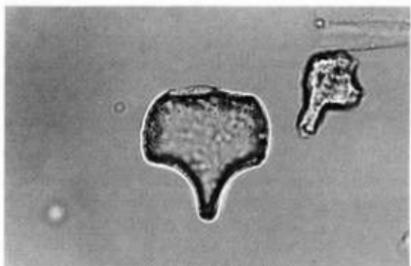
8 タケ亜科(ネゼヤ節) 低血No.72 ×400



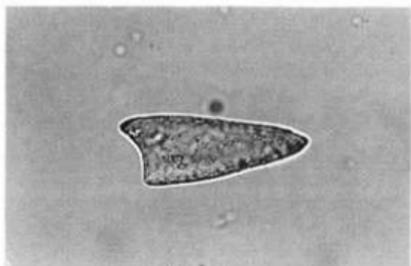
9 タケ亜科(クマガヤ節) No.142 ×400



10 タケ亜科(クマガヤ節) No.142 ×400

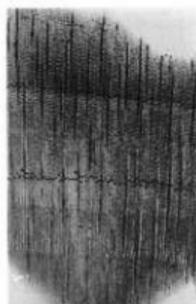


11 不明 No.158 ×400

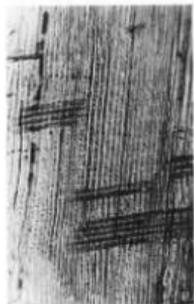


12 不明(表皮毛起源) No.172 ×400

写真112 プラント・オバールの顕微鏡写真(2)



木口 ×40



径目 ×100

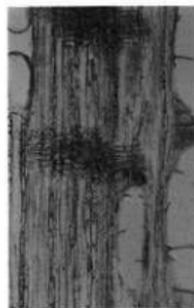


板目 ×100

Cephalotaxus harringtonia No.11



木口 ×40

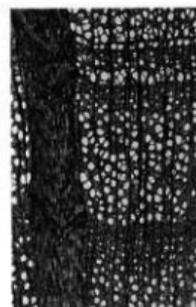


径目 ×100

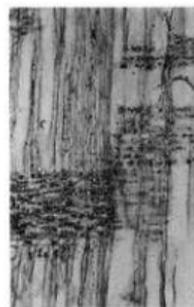


板目 ×100

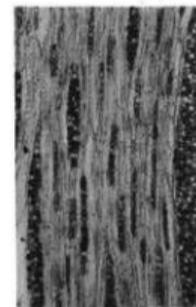
Juglans ailantifolia No.26



木口 ×40



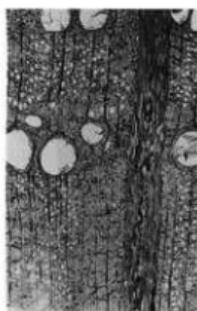
径目 ×100



板目 ×100

Fagus sp. No.19

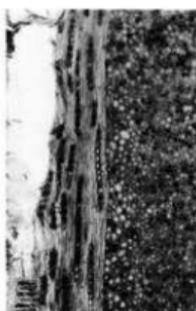
写真113 樹種顕微鏡写真(1)



木口 ×40



柎目 ×100



板目 ×100

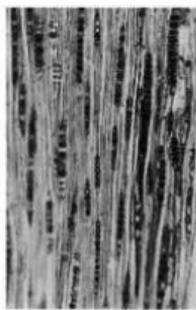
Quercus (subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) sp. No. 22



木口 ×40

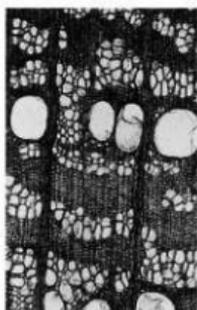


柎目 ×100



板目 ×100

Castanea crenata No. 9



木口 ×40



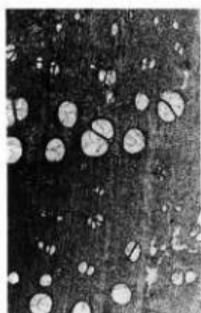
柎目 ×100



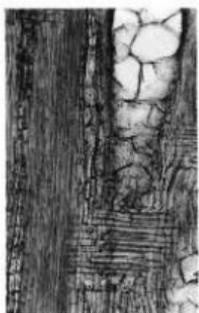
板目 ×100

Zelkova serrata No. 17

写真114 樹種顕微鏡写真(2)



木口 ×40

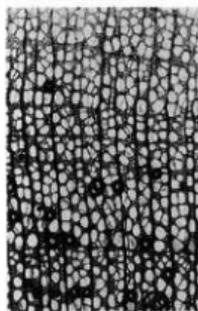


柢目 ×100



板目 ×100

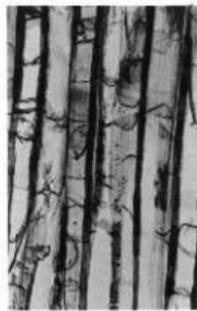
Morus bombycis No.24



木口 ×40

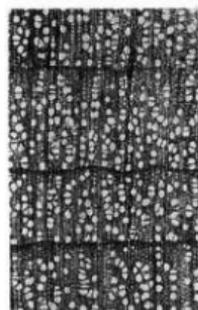


柢目 ×100



板目 ×100

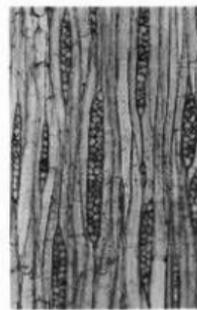
Cercidiphyllum japonicum No.12



木口 ×40



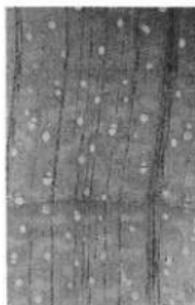
柢目 ×100



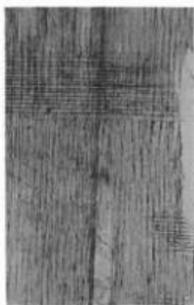
板目 ×100

Magnolia sp. No.16

写真115 樹種顕微鏡写真(3)

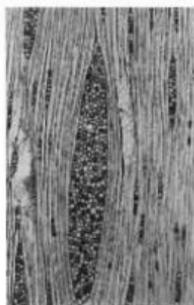


木口 ×40

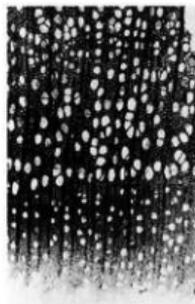


柁目 ×100

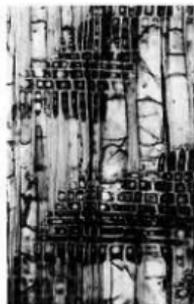
Acer sp. No. 23



板目 ×100



木口 ×40



柁目 ×100

Camellia japonica No. 7



板目 ×100

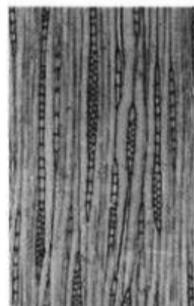


木口 ×40



柁目 ×100

Styraz sp. No. 20



板目 ×100

写真116 樹種顕微鏡写真(4)

仙台市文化財調査報告書第139集

赤生津遺跡

—仙台市赤生津遺跡発掘調査報告書—

平成2年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町 3-7-1

仙台市教育委員会文化財課

印刷 (株) 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24 TEL 263-1166
